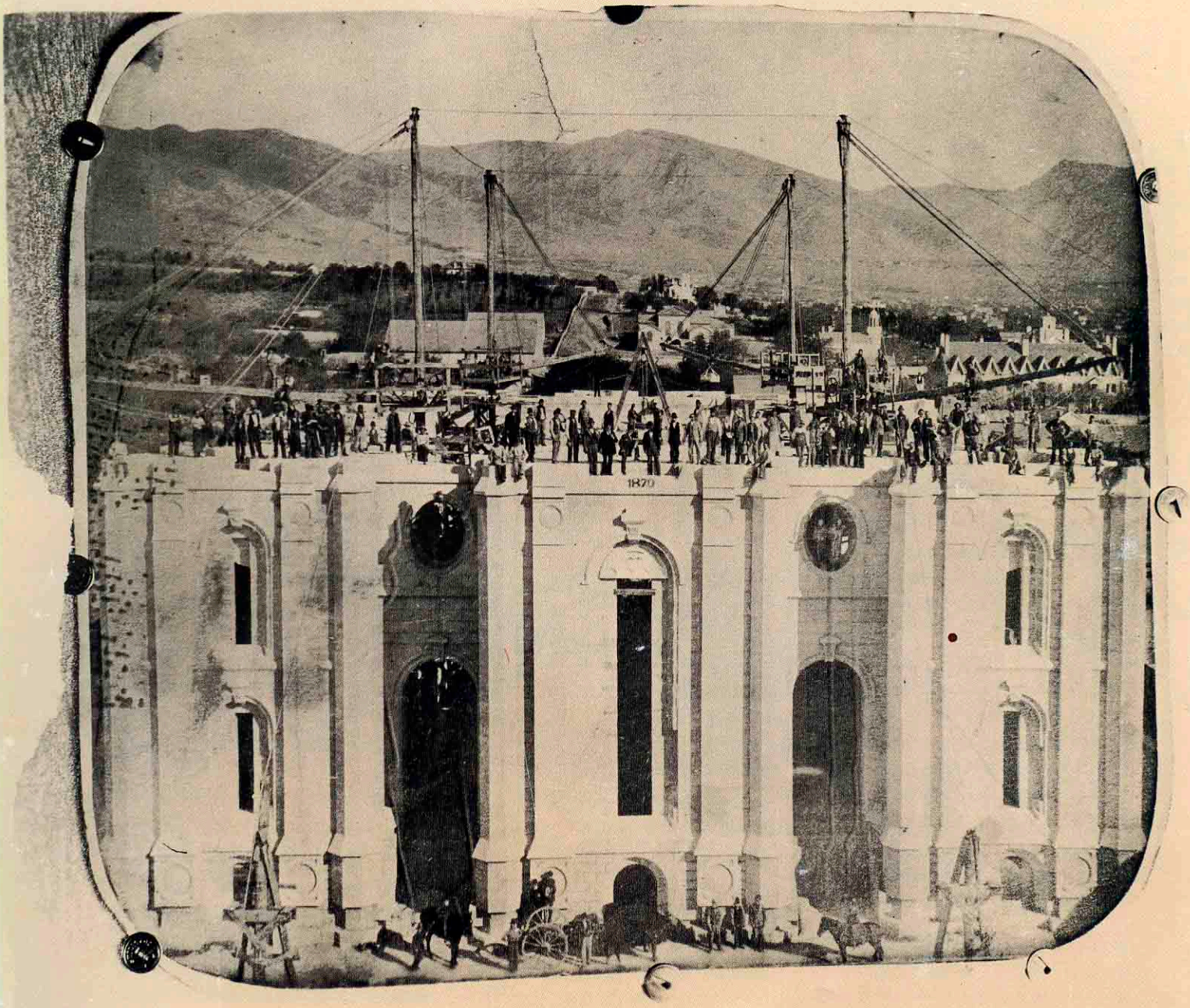
聖徒の道　1977年10月20日発行（毎月1回20日発行）　第21巻第10号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

10 1977



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプレー
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト

諮問委員会

ゴードン・B・ヒンクレー
マービン・J・アシュトン
L・トム・ペリー
マリオン・D・ハンクス
ジェームズ・A・カリモア
ロバート・D・ヘイルズ

教会誌編集主幹

ディーン・L・ラーセン

国際機関誌

ラリー・ヒラー（編集主幹）
キャロル・ラーセン（編集副主幹）
ロジャー・ギリング（デザイナー）

「聖徒の道」

八木沼　修一（翻訳部長）

聖徒の道10月号

発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5—8—10
印刷所　株式会社　精興社
配　送　東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4—9—19
定　価　年間予約1,700円　1部300円
海外予約1,700円
INTERNATIONAL MAGAZINE Printed in Japan
郵便振替口座番号　東京0—41512
口座名　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

1977年10月号　もくじ

主は聖徒に戒めに従うことを期待しておられる……スペンサー・W・キンボール……430
私たちは主の栄光を見た……デビッド・B・ヘイト……433
教会財政委員会報告……ウィルフォード・G・エドリング……436
教会役員の支持……N・エルドン・タナー……437
来りて，主イエスを知れ……ブルース・R・マッコンキー……439
誠実……N・エルドン・タナー……442
1976年度統計記録……フランシス・M・キボンズ……446
宣教師として歩みを速める……フランクリン・D・リチャーズ……447
真の教会を作るもの……デルバート・L・ステイプレー……449
聖餐に思うこと……ハワード・W・ハンター……452
生けるキリスト……バーナード・P・ブロックバンク……454
神秘でもなく，隠されたものでもない……セオドア・M・バートン……456
心が内に燃えたではないか……ローレン・C・ダン……458
祈り……エズラ・タフト・ベンソン……460
生ける予言者に従いなさい……ビクター・L・ブラウン……465
今，伝道の備えをしなさい……J・トーマス・ファイアンズ……468
福音の確実性……G・ホーマー・ダラム……470
無数の証……ジェームズ・M・パラモア……472
キリストの光……マリオン・G・ロムニー……473
最大の兄弟愛……N・エルドン・タナー……476
私たちの大きな可能性……スペンサー・W・キンボール……480
希望の光……マリオン・G・ロムニー……483
仲保者……ボイド・K・パッカー……486
八福の教えと私たちの完成……ロイデン・G・デリック……489
そして御言を行う人になりなさい……L・トム・ペリー……492
神は不思議な方法で奇しきみ業を行なわれる……リグランド・リチャーズ……495
聖見者ジョセフ……ゴードン・B・ヒンクレー……497
明瞭さの力……マービン・J・アシュトン……499
毎日の愛……H・バーク・ピーターソン……502
感謝……リチャード・G・スコット……504
あなたが歩むエリコへの道……トーマス・S・モンソン……505
その通り他人にせよ……マーク・E・ピーターセン……508
啓示—主が予言者に伝えるみ言葉……スペンサー・W・キンボール……511
主の方法によって援助する……ビクター・L・ブラウン……514
主の倉庫制度によって人々の必要を満たす……エズラ・タフト・ベンソン……517
末日聖徒社会福祉……J・リチャード・クラーク……520
福祉活動におけるステーキ部監督評議会の役割……L・トム・ペリー……524
行動の呼びかけ……バーバラ・B・スミス……527
教会福祉活動の目的……マリオン・G・ロムニー……529
ニュースその他……536

写真説明

（表紙）：2階まで建築の進んだ1879年のソルトレーク神殿。全体の完成までは，さらに14年の歳月を要した。右後方のたくさんの切妻屋根を持つ建物はライオンハウス。さらにその後方に，ビーハイブハウスの屋根が見える。また，丸屋根のブリガム・ヤングの校舎や，半円型窓を持った子羊小屋が見える。そのほか，ブリガム・ヤングのふたつの納屋がある。

（裏表紙）右：1892年，笠石を据える式典の行なわれているソルトレーク神殿。9人の人々が什分の一管理事務所の屋根の上からこの式典の模様を眺めている。天使モロナイが立っている東中央の塔の球状の石がソルトレーク神殿の笠石である。左：1913年10月1日，マホンライ・M・ヤング製作のカモメの記念碑の除幕式。この記念碑は，現在もテンプルスクェアを訪れる人々の目を楽しませている。

末日聖徒イエス・キリスト教会
第147回年次総大会報告

今回の年次総大会から，総大会の日程が従来3日間であったものが，2日間に変更になった。(1831年の第一回大会は2日間であった。)

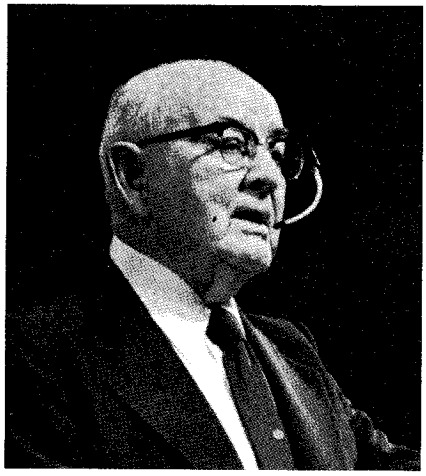
大会は4月2日（土），3日（日）の両日にわたって，すべてがスペンサー・W・キンボール大管長の管理の下に催された。司会は大管長会のスペンサー・W・キンボール大管長，N・エルドン・タナー第一副管長，マリオン・G・ロムニー第二副管長が行なった。また説教は，大管長会と十二使徒評議員会の全員を含めて，27名の教会幹部が行なった。

世界各地からこの大会に出席した指導者と教会員は，「全会一致の律法」の下に，大管長会の一連の教会の運営に対して挙手の支持を行なった。支持された事項は以下の通りである。

1. 七十人第一定員会の新会員3名の支持。ソルトレーク・シティーのG・ホーマー・ダラム長老とジェームズ・M・パラモア長老。ならびにメリーランドのリチャード・G・スコット長老（略歴についてはp.536～p.539を参照）。この結果，七十人第一定員会は41名，教会幹部総人数は60名となった。
2. アロン神権の年齢の少年のための若い男性の会長会の召しの支持。（役員の支持に関してはp.437を参照）
3. 初等協会中央管理会副会長の異動に関する支持。コリン・B・レモン姉妹が第二副会長から第一副会長に，ドロシア・クリスチャンセン・マードック姉妹が第二副会長にそれぞれ支持された。（役員の支持に関してはp.437，略歴についてはp.540を参照）

大会はテンプルスクェアのタバナクルで行なわれたが，アセンブリーホールと近くのソルトパレスにも会場が設けられた。大会は4月2日（土）午前7時（福祉集会），午前10時，午後2時，午後7時（神権会：世界各地にケーブルによって中継された）；4月3日（日）午前10時，午後2時の各時間帯に行なわれた。このほか，4月1日（金）には十二使徒会地区代表セミナーが催された（この報告についてはp.541を参照）。

大会の模様は，合衆国とカナダの252に及ぶテレビ局，フィリピンのテレビ局1局，合衆国のラジオ局63局，メキシコおよび中南米79局（内ブラジルのラジオ局11），オーストラリア42局から放送された。また，ラテンアメリカとアフリカ，ヨーロッパでは，3つのセッションの模様が短波放送された。さらに，合衆国とカナダの118ヵ所，ヨーロッパの111ヵ所でケーブルによる中継放送が行なわれた。そのほか，合衆国本土，ハワイ，カナダ，メキシコ，プエルトリコの1,153ヵ所，ならびにニュージーランド，オーストラリア，フィリピン，香港，日本，韓国の37ヵ国で神権会の中継放送が行なわれた。



主は聖徒に，戒めに従うことを期待しておられる

大管長
スペンサー・W・キンボール

安息日を聖く守り，個人の歴史を書き，系図を作成する

愛する兄弟姉妹の皆さん，主のみ業と，その進歩と発展について皆さんにお話できるきょうは，喜びの日である。

昨年の10月大会以来，6ヵ月間に数多くの出来事があった。

私たちははるか南の地に住む愛する人々を訪れ，そこで大会を催し，その栄えある長旅から戻ってきた。その間の旅程は約3万7千キロにのぼる。私たちは南端の国，チリの火山帯を通り，平原や森を抜け，アンデスの山々を旅した。

その間，私たちは多くの人々に会い，地域大会で約15万人の会員に証を述べてきた。彼らは進歩成長し，幸福な生活を送っている。私たちがその民，その活動と態度の中に，あるいは信仰や証の中に見たものを，天父は必ずや喜んでおられると思う。

今年の初め，西部ではかんばつが，そして東部では厳しい寒波が襲来し，世界的に天候が異常であった。そこで私たちは教会員に，共に断食と祈りをし，水飢饉の地方に水を与えて下さるよう，あるいは困難な状況を取り去って下さるよう，主にお願いをした。

私たちはこのような大きな祝福を求めるのにふさわしくなかったかもしれない。しかし，私たちはむやみやたらに行動しているのではない。まず主に注意を向けていただき，その後，私たちの生活を主のみこころに添うものとするよう全力を尽くすのである。

ある予言者はこう言っている。

「もし彼らがあなたに罪を犯したために，天が閉ざされて雨がなく，あなたが彼らを苦しめられる時，彼らがこの所に向かって祈り，あなたの名をあがめ，その罪を離れるならば，あなたは天で聞き，あなたのしもべ，あなたの民イスラエルの罪をゆるし，彼らに歩むべき良い道を教えて，あなたが，あなたの民に嗣業として与えられた地に雨を降らせてください。」（列王上8：35—36）

主は時々天候を使って，主の律法を犯したことに対してその民を懲らしめたもう。主はイスラエルの民に次のように言っておられる。

「もしあなたがたがわたしの定めに歩み，わたしの戒めを守って，これを行うならば，

わたしはその季節季節に，雨をあなたがたに与えるであろう。地は産物を出し，畑の木々は実を結ぶであろう。

あなたがたの麦打ちは，ぶどうの取入れの時まで続き，ぶどうの取入れは，種まきの時まで続くであろう。あなたがたは飽きるほどパンを食べ，またあなたがたの地に安らかに住むであろう。

わたしが国に平和を与えるから，あなたがたは安らかに寝ることができ，あなたがたを恐れさすものはないであろう。……つるぎがあなたがたの国を行き巡ることはないであろう。」（レビ26：3—6）

東部の非常な苦難と，ここ西部やその他の地におけるかんばつの脅威を考え，私たちは教会員に，神聖な祈りの輪に加わって，必要な地への水を求めて下さるようお願いした。すると間もなくして私たちの祈りは答えられた。私たちはそのことに言葉に尽くせない感謝を覚えた。しかしなお，このことについて引き続き祈り，主に答えていただくことが必要であり，またそう希望している。

私たちのもとには全世界から，この申し出を応諾するとの手紙が届いている。オーストラリアのブリスベーンから，次のような手紙をいただいた。

「断食と祈りの日に全世界の聖徒たちと共にそれを行なうようにとの，ブリスベーンの聖徒宛ての電信を受けました。私たちも天父のすべての子供たちに対するあなた方の愛と関心に喜んで加わりたいと思います。」

今こそ，私たち自身を秤にかけ，私たちが主に祝福を求めるにふさわしいかどうか，また戒めを破って祝福を受ける資格を失ってはいないかどうかを評価してみる時なのかもしれない。

主は次のように厳格な戒めを与えておられる。「あなたがたはわたしの安息日を守り，わたしの聖所を敬わなければならない。わたしは主である。」（レビ19：30）

私たちは何度もこの言葉を引用し，安息日を汚すことのないように人々に告げてきた。しかし，安息日におびただしい数の車が商店の前に列をなし，娯楽場に人が群がっている。まことに嘆かわしいことである。

私たちは次の言葉も度々引用してきた。

「安息日を覚えて，これを聖とせよ。

6日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。

7日目はあなたの神，主の安息であるから，なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ，娘，しもべ，はしため，家畜，またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。」（出エジプト20：8—10）

ところが今日，この地の人々の多くは，安息日に仕事をし，海辺で過ごし，娯楽場や映画館に入り，買い物をしている。主はこの戒めを守る人に次のような約束を与えておられる。

「わたしはその季節季節に，雨をあなたがたに与えるであろう。地は産物を出し，畑の木々は実を結ぶであろう。」（レビ26：4）

神は約束を果たされる。しかし私たちの多くは安息日を汚し続けている。主はさらにこう続けておられる。

「あなたがたの麦打ちは，ぶどうの取入れの時まで続き，ぶどうの取入れは，種まきの時まで続くであろう。あなたがたは飽きるほどパンを食べ，またあなたがたの地に安らかに住むであろう。」（レビ26：5）

これらの約束は必ず果たされる。主はさらに次のように言っておられる。

「わたしはあなたがたのうちに歩み，あなたがたの神となり，あなたがたはわたしの民となるであろう。

わたしはあなたがたの神，主であって，……わたしはあなたがたのくびきの横木を砕いて，まっすぐに立って歩けるようにしたのである。」（レビ26：12—13）

そして主は言葉を換えてこう警告された。

「しかし，あなたがたがもしわたしに聞き従わず，またこのすべての戒めを守らず，

わたしの定めを軽んじ，心にわたしのおきてを忌みきらって，わたしのすべての戒めを守らず，わたしの契約を破るならば，

わたしはあなたがたにこのようにするであろう。すなわち，あなたがたの上に恐怖を臨ませ，肺病と熱病をもって，あなたがたの目を見えなくし，命をやせ衰えさせるであろう。あなたがたが種をまいてもむだである。敵がそれを食べるであろう。

わたしは顔をあなたがたにむけて攻め，あなたがたは敵の前に撃ちひしがれるであろう。またあなたがたの憎む者があなたがたを治めるであろう。あなたがたは追う者もないのに逃げるであろう。……

わたしはあなたがたの誇とする力を砕き，あなたがたの天を鉄のようにし，あなたがたの地を青銅のようにするであろう。

あなたがたの力は，むだに費されるであろう。すなわち，地は産物をいださず，国のうちの木々は実を結ばないであろう。」（レビ26：14—17，19—20）

また次のようにも言われた。

「わたしはまた……家畜を滅ぼし，あなたがたの数を少なくするであろう。あなたがたの大路は荒れ果てるであろう。」（レビ26：22）

大路が荒れ果てるとはどういうことであろうか。燃料や電力が制限され，枯渇し，人々が乗物でなく徒歩で旅をするようになったらどうであろうか。

愛する皆さん，平和は主のみ手の内にあるということを考えてみたことがおありだろうか。

「わたしはあなたがたの上につるぎを臨ませ……」（レビ26：25）と主は述べておられる。

そんなことが簡単にできるはずがないとお思いだろうか。皆さんは新聞をお読みになっているはずである。世の中にどれほど憎しみが横溢しているかお気づきだろうか。あなたは永遠の平和に対しどんな保証をお持ちだろうか。

「あなたがたは敵の手にわたされるであろう。」（レビ26：25）

私たちを苦しめ悩ます敵がいることについて考えたことがおありだろうか。

「わたしはまたあなたがたの町々を荒れ地とし，あなたがたの聖所を荒らすであろう。……

こうしてその地が荒れ果てて，あなたがたは敵の国にある間，地は安息を楽しむであろう。すなわち，その時，地は休みを得て，安息を楽しむであろう。

それは荒れ果てている日の間，休むであろう。あなたがたがそこに住んでいる間，あなたがたの安息のときに休みを得なかったものである。」（レビ26：31，34—35）

そこには困難と非常に深刻な出来事がある。しかしそれは起こり得る。

そして主は次のように結んでおられる。

「これらは主が，シナイ山で，自分とイスラエルの人々との間に，モーセによって立てられた定めと，おきてと，律法である。」（レビ26：46）

これは皆さんにも私にも言えることである。

今は，これらの事柄について深く考えるのに良い時ではないだろうか。自分の家庭，家族，子供たちのもとに立ち帰る時ではないだろうか。什分の一と捧げ物を思い起こし，堕胎や離婚を止め，安息日を聖とし，聖日を娯楽の日としないようにすべき時ではないだろうか。

今は，罪や不道徳な行為，悪魔の教えを悔い改める時ではないだろうか。

私たちのすべてが私たちの結婚を聖とし，喜びと幸福に満ちた生活を送り，家族を正義の内に育てる時ではないだろうか。

私たちの多くは，知っていながら行なおうとしない。今は，姦淫や同性愛の行為を離れ，信仰とふさわしい生活に立ち返る時ではないだろうか。またポルノグラフィーを止める時ではないだろうか。

今は，不潔で不敵な行為，偶像崇拝，不品行などに毅然たる態度で立ち向かう時ではないだろうか。

今こそ，新しい生活を始める時である。そう明な思索家，使徒パウロは次のように言っている。

「だから，地上の肢体，すなわち，不品行，汚れ，情欲，悪欲，また貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝にほかならない。

これらのことのために，不従順な子らに神の怒りが下るのである。」（欽定訳コロサイ3：5—6）

今こそ，「肉の働き」を止める格好の時ではないだろうか。「肉の働きは明白である。すなわち，不品行，汚れ，好

色，偶像礼拝，まじない，敵意，争い，そねみ，怒り，党派心，分裂，分派，ねたみ，泥酔，宴楽，および，そのたぐいである。……このようなことを行う者は，神の国をつぐことがない。」（ガラテヤ5：19—21）

「わたしを主よ，主よ，と呼びながら，なぜわたしの言うことを行わないのか」（ルカ6：46）と，主は言っておられる。

「わたしにむかって『主よ，主よ』と言う者が，みな天国にはいるのではなく，ただ，天にいますわが父の御旨を行う者だけが，はいるのである。」（マタイ7：21）

教会の神殿の業は進んでいる。私たちは聖徒たちが神殿に参入し，奉仕をしていることを誇りに感じている。しかし，それだけが奉仕のすべてであろうか。神殿に入るだけでは十分でないことは，先日の集会でお話した通りである。私たちは儀式を施すために多くの人々の名前を入手しなければならない。

現在16の神殿があり，なお4つが計画中である。しかし，神殿への距離の遠近を問わず，行なうことのできる仕事がほかにもあるのではないだろうか。この業を推し進めるのに，神殿地区内に住む必要はない。系図の資料をたくさん集め，家族の記録を作成するならば，神殿で行なわれる業の準備をすることができる。これほど素晴らしい活動がほかにあるだろうか。

従って私たちはすべての人々に，個人の記録と伝記と，系図を書き，神殿が建てられ，使用される日のために備えるよう勧めるものである。これは長年教会員が進めてきたプログラムであり，今日，カトリックやプロテスタント，ユダヤ人，その他大勢の友人たちが私たちの系図保管庫を訪れ，彼らの家族の絆を結ぶ備えをしている。

ローデシアでマイクロフィルムの撮影許可が得られたと聞いている。また南アフリカや，その他世界の多くの国々でも現在マイクロフィルムの撮影が行なわれている。

来週私たちは，西部で初めて献堂されたセントジョージ神殿の献堂百周年を祝う。

「ルーツ」熱が現在合衆国内で異常に高まっており，大勢の人々が系図プログラムへの関心を増している。また，当教会の系図図書館が世界各地に設けられ，人々は記録の作成に携われるようになっている。これは，マラキの語ったように，子供たちの心を父に向けさせようとするものである。これらは国の内外を問わず，マスコミの注目を浴び，映画やテレビにも報道されている。また，その記事により何百万ものアメリカ人が感化を受け，私たちが強調している家族の大切さを神学の面からも知るに至っている。

これは私たちの教会の教えの中で確固とした，前向きの，重要な要素を持つものである。

「見よ，わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。」（マラキ3：1）

「見よ，主の大いなる恐るべき日が来る前に，わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。

彼は父の心をその子供たちに向けさせ，子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て，のろいをもって地を撃つことのないようにするためである。」（欽定訳マラキ4：5—6）

これはまことに恐るべき予告である。

過去1世紀の間，系図と記録の収集に多大の努力を払った結果，出生や死亡等の記録が非常にたくさん集められた。しかし記録もなく，主のみ業が地上で行なわれていなかった時代，すなわち神殿もなく，また予言者もいなかった時代にこの世に住んでいた人々は数多く，今日でもまた無数の人々が残されている。

「モーセはきて，主のすべての言葉と，すべてのおきてとを民に告げた。民はみな同音に答えて言った，『わたしたちは主の仰せられた言葉を皆，行います。』

そして契約の書を取って，これを民に読み聞かせた。すると，彼らは答えて言った，『わたしたちは主が仰せられたことを皆，従順に行います』。」（出エジプト24：3，7）

ここでもう一度，家庭菜園のことについて申し上げたい。この生産計画に携わっている全世界の教会員から手紙が寄せられている。また，手押し車にいっぱいキャベツやトマト，豆やメロン，その他いろいろな作物を積み込んだ少年たちとその父親の写真もお送りいただいた。

偉大な首都サンパウロの中央部にもソンヤの菜園が設けられた。菜園についてある人々はこう言っている。「これは友だちや隣近所の人々と親しくなるのによい方法です。」

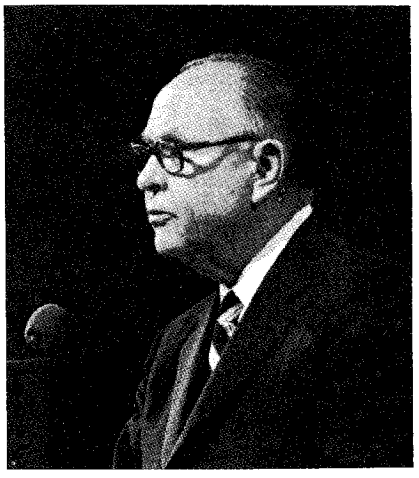
「私たちは家庭で菜園のことを話題にしてよく話をします。これは家族を一致させてくれます。」

あるホームティーチャーは次のように報じている。「私は5つの家族を訪問していますが，どこにも家庭菜園があります。これは私の誇りです。どの家族も目下来年の種まきの計画中です。」

兄弟姉妹の皆さん，これは主のみ業である。私たちの携わっている多くの事柄は，霊にかかわりがないように思われるかもしれない。しかし主にあっては，すべての事柄が霊に属するものである。主は私たちに，戒めに耳を傾け，従い，守ることを期待しておられる。私は皆さんに，すべての方々にお願いしたい。教会の大会でその時々に応じて，教会幹部の兄弟たちによって語られる主の戒めに従って生活するように。また戒めのすべては神より出たものであることを，イエス・キリストのみ名によって証申し上げる。アーメン。

☆　　☆

私たちは主の栄光を見た



十二使徒評議員会会員
デビッド・B・ヘイト

ペテロ，ヤコブ，ヨハネ，モーセ，エライヤス，エライジャが訪れて，み業を行なう権能を与えて下さったことを宣べ伝えよう

ただ今私たちにお話し下さったスペンサー・W・キンボール大管長は，全世界の人々に対する神の予言者である。多くの人々の考えているように，天は閉じられていない。そればかりか，生ける予言者は，耳を傾けるすべての人々に訓戒と助言を与え，大きな力を得させている。まことに全人類の従うべき，神の油注がれた者である。

主の祝福があって，今の私の心の思いを皆さんに十分お伝えできればと願っている。

次の日曜日は復活祭である。この数時間，キリストを信じる者，信じない者を問わず，世の多くの人々が絵や物語，また報道機関や教会の説教台から語られるメッセージによってキリストを思い起こすであろう。私たちの主の死と復活で極みに達した数々の出来事に，人々は思いを馳せるであろう。

救い主が大きな愛を持っておられたことは，断片的ながら，その短期間のみ業の記録を見れば十分にそれを伺い知ることができる。主はいつでも私たちを助けたいと思っておられる。そして，私たちに受け入れる備えさえあれば，一人一人にみたまを存分に注いで下さるのである。主の目的を理解する手だてとして与えられているキリストの教えを読み，思い巡らし，また主のみ業の発展に伴って今日起こっている奇跡的な出来事を目にする時，私は心の底に喜びを覚える。そして，永遠の真理に対して証を増すのである。

救い主に対する裏切りとそれに続く出来事に先立って，現在変貌として知られているひとつの出来事が起こった。これは，直接にそれを目撃した人々ばかりでなく，私たちの霊の高揚にも大きな意味を持つ出来事である。

新約聖書の記者の告げるところによれば，救い主は使徒たちの中で最も愛する，また最も理解の明かるい3人を伴って，高い山に登られた。〔ルカは単に「山」（ルカ9：28）とだけ述べている。〕そして，ひざまずいて祈り，間もなく起こる出来事に備えることのできる，人目につかない場所に引きこもりたもうた。

救い主がこれら3人の証人を伴って山に登られた時は，夕方の早い時間であったにちがいない。この3人は，「雷の子」として知られているヤコブとヨハネ，それに「岩」と呼ばれたペテロである。多分イエスは，この上ない安らぎを覚えられたと思う。これは天父との交わりによってしか得られないものであった。それ以上に，この世外からの助けによって今後も支えを得られるであろうという気持ちを抱かれたことだろう。イエスは太陽や月や星の光でない，ある光に照らされていた。イエスは来るべき死に備えるため登って行かれた。その時に3人の使徒を伴われたが，イエスは彼らに，主の栄光，すなわち御父の生みたもう独り子の栄光を見たら彼らは強められるだろうという信頼を寄せておられた。また，彼らの信仰は強められ，やがて加えられる屈辱に耐える備えができることを信じておられた。

また私たちは記録から，救い主が引きこもる場所を見つけてひざまずき，祈られたことを知っている。御父に祈ることにより，主は御自分を拒む世の疑念と邪悪をはるかに超越して高められたのであった。そして，祈りを捧げた主は身を変えられたのである。主のみ顔は太陽のように輝き，その衣は雪のように白くなった。そして，きらきら輝く光に包まれた。主はこのような神々しい光を身に受けられたのであった。この妙なる光景をたとえる言葉として福音書記者が用いたものは，太陽の光あるいは雪の白さという言葉であった。この時，ふたりの御方が主の傍らに現われた。それはモーセとエライジャであった。祈りを終え，来るべき試練が確かに受け入れると，完き栄光が天から主の上に下り，イエスが神の御子であり，力を持ちたもう御方であるとの証の言葉があった。

ルカの記録では，3人の使徒はこの奇しき変貌の始めを見ていない。後のゲッセマネの時もそうであるが，この3人の使徒は非常な眠けを催したと記されている。しかし彼らは突然に目を覚ました。そして彼らは事の成り行きを見，また聞いた。夜の闇の中に，使徒たちは強烈な光を見，栄光に包まれた主の姿を目撃した。またその傍らには，同じく栄光に包まれたふたりの姿があった。そこで彼らはそのふたりがモーセとエライジャであることを知り，あるいは聞かされた。ふたりがイエスと，エルサレムでの主の死について語り合ったことは確かである。

記録によると，示現が閉じ始めた時，

ペテロは心に思いついた事柄をすぐさま口にした。それは天からの訪問者の出立を遅くしてほしいと思ったからであった。「先生，わたしたちがここにいるのは，すばらしいことです。それで，わたしたちは小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのために，一つはモーセのために，一つはエリヤのために。」（ルカ9：33）

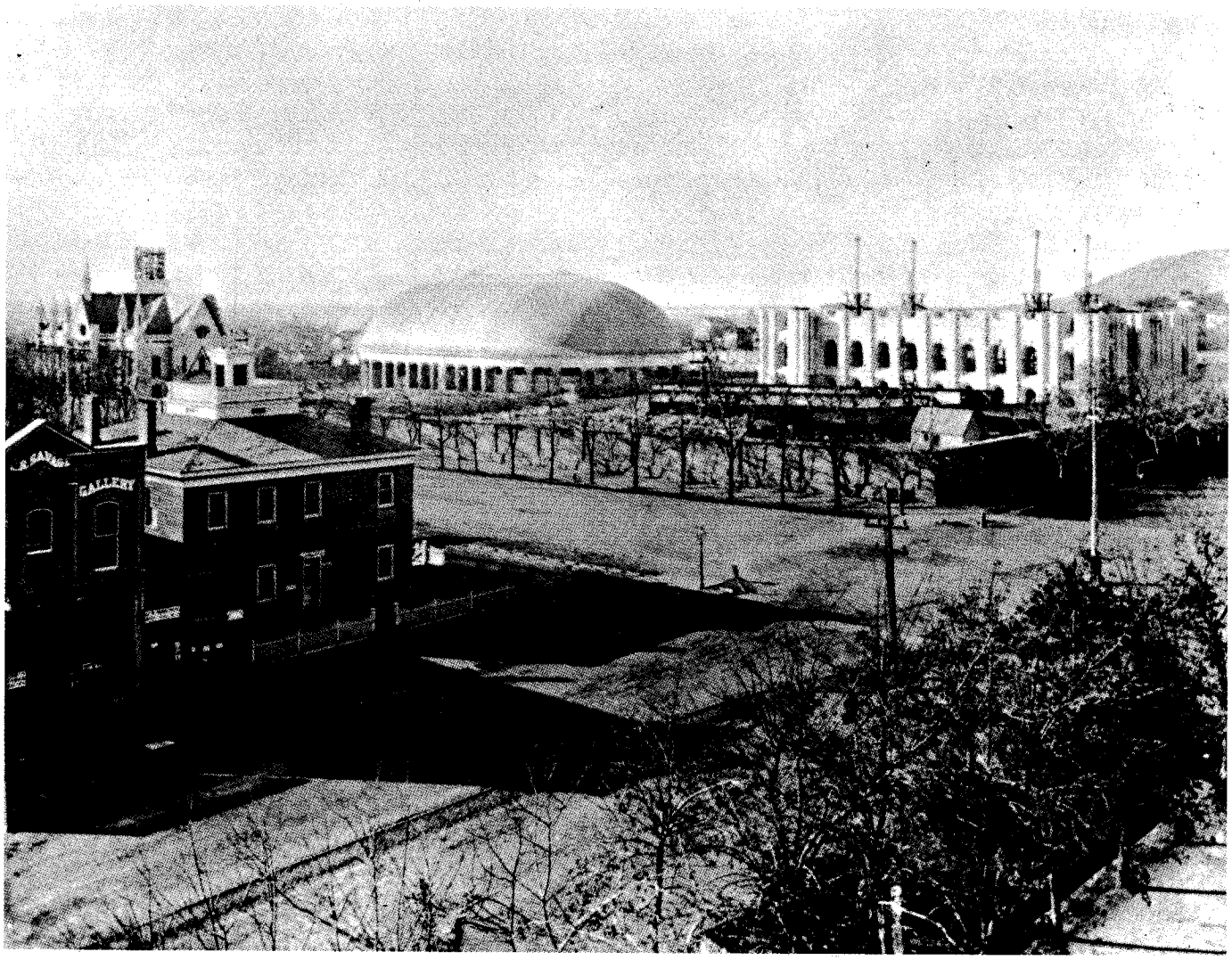
この3人の御方は，その夜の出来事の意味を理解したと思われる熱心なペテロの突然の申し出に驚かれたことであろう。しかしペテロが語っている間に，輝く雲がイエスと天からの訪問者，モーセとエライジャ，それに3人の使徒をも覆い始めた。すると声が聞こえてきた。「これはわたしの愛する子である。彼に聞け。」（欽定訳ルカ9：35）

そこで3人の使徒はひれ伏し，顔を隠した。イエスが彼らのところに来て，手で触れたもうたのは，それからどの位たってのことであるか，記録からは明らかでない。しかし，彼らが顔を上げた時，すべては終わっていた。もうそこに輝く雲はなく，光もなく，み顔の輝きも消えていた。そして，そこにいるのは彼らとイエスだけであった。そしてただ星の光だけが山肌を照らしていた。

このような経験をした後，使徒たちは起き上がることをちゅうちょしていたのかもしれない。しかし，ひざまずいて，祈る前と同じ姿に戻っていたイエスは，手を彼らにおいて言われた。「起きなさい，恐れることはない。」（マタイ17：7）イエスは彼らの愛する友であった。

4人が山を下る頃，多分空が白み始めていたことだろう。イエスは彼らに，御自分が死からよみがえるまで，だれにもこのことを話さないようにと告げた。この示現は彼らのためのものである。従って，彼ら自身，心の中で深く思い巡らす必要があったのである。彼らは他の使徒にさえ話すことができなかった。彼らはこうしてキリストの指示を守ったが，完全な意味は理解できなかった。彼らは互いに尋ね合ったかもしれない。あるいはひとりで，この死からの復活が何を意味するのかと，考えあぐねたことだろう。しかし，彼らの主がまことにキリストであり，神の御子であることについてこれまで以上の確信を得たことも事実である。

開拓時代の写真家C・R・サベージの撮影したソルトレーク神殿。1881年。



私たちにとって，なかなか理解することができないことかもしれないが，イエス御自身，モーセとエライジャによって力づけられ，支えられて，全人類の限りない永遠の贖いをなすため，これから受ける苦痛と苦悩の備えをされたのであった。また，イエスがゲッセマネの園で血の汗を流される時にも，天使のひとりがイエスを力づけている。

3人の選ばれた使徒たちは，来るべき主の死と復活について教えられた。この教えは，その後の重大な数日間に彼ら一人一人への力づけとなったことだろう。

後にヨハネはこう証している。「わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって，めぐみとまこととに満ちていた。」（ヨハネ1：14）また，使徒ペテロはこの時の体験を次のように記している。「わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを，あなたがたに知らせた時，わたしたちは，巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが，そのご威光の目撃者なのだからである。

イエスは父なる神からほまれと栄光とをお受けになったが，その時，おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである，『これはわたしの愛する子，わたしの心にかなう者である』。

わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて，天から出たこの声を聞いたのである。」（IIペテロ1：16—18）

ペテロ，ヤコブ，それにヨハネ，この3人は変貌したイエスの栄光と威光を見た。そして，まさしく王国の鍵を受けたのであった。さらにこの3人は，ゲッセマネの園に連れて行かれ，イエスが世の罪を自らの身に受けて苦しんでおられるさまを見たのであった。主はこうして私たちをアダムの堕落から贖い，また復活によって，御自分が御父の生みたもう肉における独り子であることと，世の贖い主であることを示されたのであった。

これら山上における3人の証し人，すなわちキリストの先任使徒であったペテロと，それにヤコブとヨハネは，1829年にジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現われ，ふたりにメルケゼデク神権を授け，王国の鍵と使徒職を与えた。また，カートランド神殿においてジョセフとオリバーにキリストが現われ，続いてモーセとエライヤス，さらにエライジャが訪れて，権能を授け，この神権時代に欠かせない諸々の鍵を付与した。この出来事を予言者は次のように記録している。

「その日の午後，余は十二使徒会より聖餐を受けて教会員に長たる他の者が主の聖餐をくばる手助けを為したり。この十二使徒会は，この日聖卓に着きてその職を執行する特権を有ちし者なり，余は兄弟たちにこの勤めをなし終えし後教壇へ退きしに，仕切の幕下されて余はオリヴァ・カウドリと共にひざまずき厳粛なる沈黙の祈りを捧げたり。この祈りを終えて立上りしに，以下の如き示現われら二人に開かれたり。

われらの心より覆い取り去られて覚りの眼開かれたり。

われらは，われらに面して教壇の胸欄に立ちたもう主を見たり。而して，主の脚下にはこはくの如き色したる純金の床ありき。……

われは始めなり終りなり。われは生ける者なり殺されたる者なり。父と汝らの間の仲保者なり……

この示現閉ぢらるるや，天再びわれらに開けてモーセわれらの前に現われ，……イスラエル人の集合……の鍵をわれらに委せり。

この後よりエライヤス現われ，アブラハムの福音の神権の時代を委して言えるよう，われらとわれらの子孫によりてすべてわれらの後の代の人々祝福を受くべし，と。

この示現閉ぢらるるや，また別の雄大にして栄光ある示現突如開かれたり。すなわち，死を味わうことなく天に上げられし予言者エライジャわれらの前に立ちて曰く……

この故に，この末日の神権の時代の鍵を汝の手に委す。これによりて汝らは，主の大いなるおそるべき日のすでに近づきて正に門口にあるを知るを得ん。」（教義と聖約110：前書き，1—2，4，11—13，16）

こうして神聖な鍵と権威，権能が，この時満ちたる神権時代に天使たちからジョセフ・スミスに授けられたのであった。これらの鍵は，かの山上でペテロとヤコブとヨハネに授けられた同じ鍵であり，私たちはこれによって，あらゆる国民に福音を宣べ伝え，私たちの主イエス・キリストの力と栄光と威光を宣言し，また主の来臨の日が近いことを告げているのである。今朝，私たちがこの耳を傾けた神の予言者は，今日これらの鍵と権能を保有しておられる。従って私たちは，あらゆる地に住む人々に，私たちが全人類に携え行くこの神のメッセージを聞くように呼びかけるものである。

私はこれらの事柄が事実であることを私たちが救い主，贖い主として敬い，拝し，愛するイエス・キリストのみ名により，心から証する。これらのことを主の聖きみ名によって申し上げる。アーメン。

大会の放送をモニターする技師

末日聖徒イエス・キリスト教会
大管長会への

教会財務委員会報告

委員長
ウィルフォード・G・エドリング

私たちは1976年12月31日を期末日とする教会の年次財政報告書，ならびに1975年9月1日から1975年12月31日までの業務状況を検査致しました。1975年に教会の会計年度の期末日が8月31日から12月31日に変更されました。当委員会は，教会の中央基金およびその他関連組織の基金，教会財務部の保持する報告書等，すべての財政報告書と運用状況を検査致しました。また，予算編成，会計，監査の諸手続き，ならびに基金の受領方法と支払いの処理方法についても調べました。その結果，教会の中央基金の歳出が大管長会の承認の下に，予算手続きを踏んで行なわれていると判断致しました。予算編成は，大管長会ならびに十二使徒評議員会，管理監督会より構成された什分の一配分評議会で承認されています。そして，支出承認委員会が毎週開かれる会合において，その予算の下で基金の支出を管理運営しています。

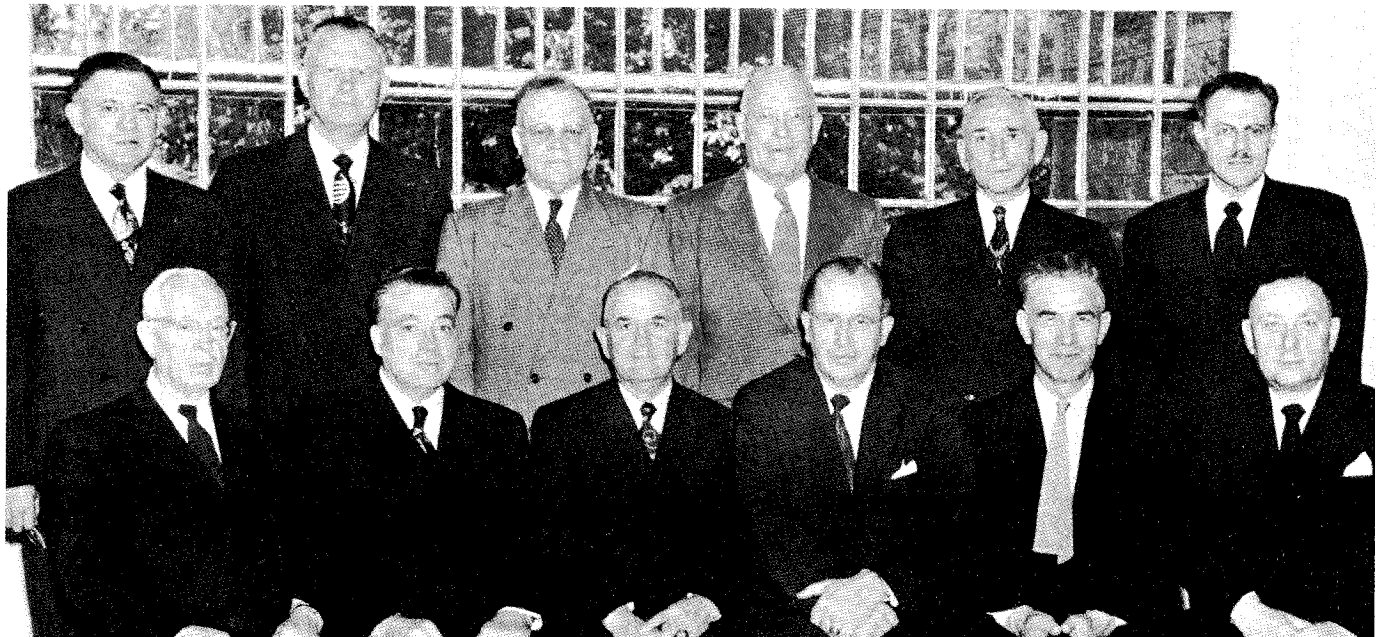
現在，教会の急速な発展に立ち遅れることのないよう，財務部やその他の部門に最新の会計技術と設備を導入して，資料の処理を適格に行なっています。また財務部と法務部は，連邦政府ならびに州政府，諸外国の政府による課税問題を共同で適切に処理しています。

他のあらゆる部門とは独立した監査部は，伝道部をも含み，上述の組織の監査を定期的に実施しています。また，教会の発展と活動の拡大に並行して，教会の資産を保護する運営規模も大きくなっています。ワード部とステーキ部の基金の監査は，ステーキ部監査員に割り当てられています。また，教会が所有あるいは管理している法人組織の事業については，財務部はその報告書を保管しないので，公認の会計検査人が監査を行なっています。

当委員会は，年次財政報告書，その他の会計資料，ならびに財政業務の管理の基となる会計および監査方法を検討し，さらに財務部，監査部，法務部の職員と会合を持って調べました。その結果，1975年9月1日から1976年12月31日まで，延べ16ヵ月間の教会中央基金の歳入歳出は適切に会計処理されていました。

教会財務委員会
ウィルフォード・G・エドリング
ハロルド・H・ベネット
ウェストン・E・ハミルトン
デビッド・M・ケネディー
ウォーレン・E・ピュー

十二使徒評議員会，1953年10月。前列左より，ジョセフ・フィールディング・スミス会長，ハロルド・B・リー，スペンサー・W・キンボール，エズラ・タフト・ベンソン，マーク・E・ピーターセン，マシュー・カウリー。後列左より，ヘンリー・D・モイル，デルバート・L・ステイプレー，マリオン・G・ロムニー，リグランド・リチャーズ，アダム・S・ベニオン，リチャード・L・エバンズの各長老



教会役員の支持

第一副管長
N・エルドン・タナー

先日，ブラジルのサンパウロ神殿の初代神殿長としてフィン・B・ポールセン兄弟，ならびに介添人（メイトロン）としてその妻メリッサ・ブローベント・ポールセン姉妹の任命されたことが発表されました。ポールセン姉妹はこれまで中央初等協会会長会の第一副会長としてその責任をよく果たしてこられました。私たちは彼女のこれまでの働きに心から感謝し，彼女を初等協会会長会から解任したいと思います。ポールセン姉妹の解任にあたって感謝の気持ちを示して下さる方は，いつもの方法をもってその意を表わして下さい。

私たちは予言者，聖見者，啓示を受ける者，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールを支持して下さるよう提議致します。この提議に賛成の方は右手を挙げてその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

大管長会第一副管長としてナサン・エルドン・タナーを，第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒定員会会員として，エズラ・タフト・ベンソン，マーク・E・ピーターセン，デルバート・L・ステイプレー，リグランド・リチャーズ，ハワード・W・ハンター，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，ブルース・R・マッコンキー，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイトを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

教会の大祝福師としてエルドレッド・G・スミスを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば，その意を表わして下さい。

大管長会副管長，十二使徒，大祝福師を予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

私たちはスペンサー・W・キンボールを末日聖徒イエス・キリスト教会信託管理人として支持するよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

七十人第一定員会会長会ならびに七十人第一定員会会員として，フランクリン・D・リチャーズ，ジェームズ・E・ファウスト，J・トーマス・ファイアンズ，A・セオドア・タトル，ニール・A・マックスウェル，マリオン・D・ハンクス，ポール・H・ダンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

その他の第一定員会会員として以下の方々を支持して下さるよう提議致します。アルマ・ソニ，スターリング・W・シル，ヘンリー・D・テイラー，セオドア・M・バートン，バーナード・P・ブロックバンク，ジェームズ・A・カリモア，ジョセフ・アンダーソン，ウイリアム・H・ベネット，ジョン・H・バンデンバーグ，ロバート・L・シンプソン，O・レスリー・ストーン，ウイリアム・グラント・バンガーター，ロバート・D・ヘイルズ，アドニー・Y・小松，ジョセフ・B・ワースリン，S・デルワース・ヤング，ハートマン・レクター・ジュニア，ローレン・C・ダン，レックス・D・ピネガー，ジーン・R・クック，チャールズ・A・ディディエ，ウイリアム・R・ブラッドフォード，ジョージ・P・リー，カーロス・E・エイシー，M・ラッセル・バラード・ジュニア，ジョン・H・グローバーグ，ジェイコブ・ディエガー，ボーン・J・フェザーストーン，ディーン・L・ラーセン，ロイデン・G・デリック，ロバート・E・ウエルズ，G・ホーマー・ダラム，ジェームズ・M・パラモア，リチャード・G・スコット。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

管理監督会の管理監督としてビクター・L・ブラウンを，第一副監督としてH・バーク・ピーターソンを，第二副監督としてJ・リチャード・クラークを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

十二使徒会地区代表として，全十二使徒会地区代表を現状のままで支持して下さるように。

若い男性会長会を現状のままで支持して下さるように。

扶助協会。会長としてバーバラ・ブラッドショー・スミスを，第一副会長としてジャニス・ラッセル・キャノンを，第二副会長としてマリアン・リチャーズ・ボイヤーを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

日曜学校。会長としてラッセル・M・ネルソンを，第一副会長としてB・ロイド・ポールマンを，第二副会長としてジョー・J・クリスチャンセンを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

若い女性。会長としてルース・ハーディー・ファンクを，第一副会長としてホーテンス・H・チャイルドを，第二副会長としてアーデス・G・カップを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように，

初等協会。会長としてナオミ・マックスフィールド・シャムウェイを，第一副会長としてコリーン・ブッシュマン・レモンを，第二副会長としてドロシア・ルー・クリスチャンセン・マードックを，その他管理会員を現状のままで支持して下さるように。

教会教育委員会。委員としてスペンサー・W・キンボール，N・エルドン・タナー，マリオン・G・ロムニー，エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，ブルース・R・マッコンキー，マリオン・D・ハンクス，ポール・H・ダン，ビクター・L・ブラウン，バーバラ・B・スミスを支持して下さるように。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

教会財務委員会。委員としてウィルフォード・G・エドリング，ハロルド・H・ベネット，ウエストン・E・ハミルトン，デビッド・M・ケネディー，ウォーレン・E・ピューを支持して下さるように。

タバナクル合唱団。団長としてオークレー・S・エバンズを，指揮者としてジェラルド・D・オタリーを，准指揮者としてドナルド・H・リプリンガーを，主任オルガニストとしてアレクサンダー・シュライナーを，オルガニストとしてロバート・カンディック，ロイ・M・ダーリーを支持して下さるように。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方があれば，同じようにその意を表わして下さい。

キンボール大管長，以上の役員および教会幹部に対して全会一致の支持が得られたようです。

キンボール大管長の指示により，ただ今新たに支持されたホーマー・グラム兄弟，ジェームズ・パラモア兄弟，ならびにリチャード・スコット兄弟は壇上に着席して下さい。

七十人最高評議会，1941年10月—1945年3月。前列左より，アンソン・R・アイビンズ，リーバイ・エドガー・ヤング(会長)，ラフス・K・ハーディー。後列左より，サミュエル・O・ベニオン，ジョン・H・テイラー，リチャード・L・エバンズ，オスカー・A・カーカムの各長老

来りて，主イエスを知れ

十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

天の神々と私たちの関係。私たちは何を望まれているのか

今日，至る所で人々は聞慣れない声を耳にしている。それは，破滅へ通じる禁制のわき道へと人々を誘い招く声であり，世の救い主のことを様々に語る不調和な声である。

「見よ，ここにキリストがいる」と呼ぶ声もあれば，「見よ，あそこだ」という声もある。多数の説教者が「キリストを信じなさい。この方法によれば救われます」，また「あの方法によれば救われます」と語っている。

コーランはイエスをアブラハムやモーセと同じような予言者であると主張し，神の御子であるという考えをわきへ押しやっている。そしてこう言う。アラーの神は人を贖う息子を必要としてはいない。ただそのみむねを告げるだけである。それで事は成就される，と。

ある宗教の声は十字架を振り返りながら言う。「私たちは2000年前に救われている。だから，それを今，どうこうして私たちにできることは何ひとつない」

また別の声は宣言する。「バプテスマは大して重要ではない。信仰だけだ。主を信じると告白しなさい。それ以上のことは不要だ。必要なことはすべてイエスが行なって下さった。」

良き行ないの必要性を無視する別の派は，すべての人間は最終的に神とひとつになる，つまりすべての者は救われると断言する。

また，ある宗教では，告白，ざんげ，浄罪，聖職階級組織の儀式などを大声で主張している。イエスは偉大な道徳の教師であり，それ以上の何者でもないと唱える派もある。そして，ほかにも多くの宗派が，処女生誕説は奇跡物語を作り上げた無学な弟子たちの宗教にかこつけた作り話であると信じている。

このように，あらゆる宗教，団体，教派が各自の異なった神学的特質に合わせてキリストを作りあげ，そしてそれをキリストとして認めているのである。御存知のように，救いはキリストを通して，この方法によって来る，あの方法によって来ると相争って主張するそのさざめきこそが，時のしるしなのである。

イエスは，私たちの時代に，にせキリストやにせ予言者が現われると予言しておられる。イエスの名を語る偽りの宗教が起こり，イエスの名のもとに偽りの教義と偽りの宗教が広まり，そして偽りの教義と偽りの教師が至る所で見られるようになると予言されたのである。

その中で，私たちのあげる一声（いっせい）はひときわ高く，主のみこころとみむねとみ声を響きわたらせるものである。私たちの声は，生ける真のキリストを証し，また主が御自身と福音を再びこの時代に現わされたことを告げる。そしてこの声は，カルバリで死なれたかの御方のみもとに来るよう，また近代の予言者に与えられた主の律法に従って生きるようすべての人に呼びかけるのである。

ここで，私は真の救い主を知った者として，主は確かに神の御子であることを証したい。また，主の聖いみ名を通してのみ救いはもたらされ，ほかに道はないことを聖霊の力によって証申し上げる。

きょう私は，天の神々について，神神と私たちの関係について，また神々が私たちに何を望んでいらっしゃるかについてお話したいと思う。最初に，これから私が述べる教義と証は心を開き，聖きみたまの力によって照らされる人にのみ，真実であることがわかるであろう。

私たちは聖霊の力により，御子のみ名を通して天父を礼拝する。

御父の名はエロヒム，
エホバはその御子。
すべての神々を従えた御二方は至高の御座に立ち，
万物を治める。

エホバは聖なる人
エホバによりて贖いは来たれり。
エホバの言葉はこの世に命を与え，
エホバは世の生ける主となりぬ。

聖きみたまは証したもう，
われらはみたまの声を受く，
御父，御子，聖霊は人類の永遠の神であると。

天にいます神は永遠の御方である。神はあらゆる権能と力とを持ち，すべてを支配しておられる。神はすべての力を有し，すべての真理を御存知である。すべての善なる事柄は，その永遠の完きをもって各個独立して神の内に

大管長会，1898—1901。ロレンゾ・スノー大管長（中央），ジョージ・Q・キャノン第一副管長（左），ジョセフ・F・スミス第二副管長（右）（ユタ州歴史協会提供）

ある。神は万物の創造主，支え主，保護主である。神のみ名はエロヒムと言い，私たちの天の御父である。すべての人の霊の文字通りの御父である。神は人間の体と同じように触知し得る骨肉の体を持っておられる。そして，事実神は復活し，栄光を受けられた御方である。神の有する生命こそが永遠の生命であり，永遠の生命は永遠の家族単位で生活し，天父の持つすべての栄光と権能を有することにより得られる，と定義される。

私たちが証する主イエスは，御父の長子であり，すべての創造物に先立って生まれた。イエスは創世の初めから神に愛され，選ばれた御方であった。

永遠の御父は救いの計画を立て，定められた時，すなわち大いなるエロヒムは霊の子供たちに進歩成長して御自身のようになるためのひとつの方法を示された時，換言すれば私たちの御父は私たちに永遠の生命を約束された時，その計画を実施する者を募られた。

天の万軍に神の福音を教えた後，死すべき世に多くの危険と試練があることを教えた後，栄光の宮廷で贖い主の必要性を説いた後，御父は天の万軍に尋ねたもうた。

「だれを私の息子として使わそうか。だれが私の計画している一つ一つの事柄を行なってくれるだろうか。すべての者に不死不滅をもたらし，信じて従う者に永遠の生命への復活をもたらす永遠の贖いを成し遂げてくれるのはだれだろうか。」

すると，愛子であり長子であるイエスが答えて言われた。

「父よ，私をお遣わし下さい。私があなたの息子となりましょう。父よ，私があなたの御計画を行ないます。そして悔い改めるすべての人々の罪を，この身に負いましょう。そして父よ，誉れと栄光が永遠にあなたにありますように。」

そして，天父の下（もと）で無数の世界を創造されたこの愛子は，世の初めから選ばれ，予任され，ほふられた小羊となられた。

それから，大いなるエホバは生まれて死に，再び墓から栄えある不死不滅の体によみがえって，文字通り神に似た者になると宣言された。

こうして，霊の中の長子が，肉体にあって神の生みたもう独り子となるよう選ばれたのである。

明けの星は相共に歌い，神の子たちはみな喜び呼ばわった。不死不滅と永遠の生命は今や夢ではない，と。

次に，肉体の死と霊の死を伴う人類の堕落がアダムとイブによって生じ，

その結果，人類を贖う救い主の約束が果たされることになった。主なるエホバの福音が啓示され，人は主のみ名によって天父を礼拝することができるようになった。また，この地球で永遠の生命の言葉を享受し，やがて日の光栄の状態となるこの地球上で永遠の生命を受け継ぐことができるようになった。

アダムとイブは，子孫がキリストを信じ，罪を悔い改めてバプテスマを受け，聖霊の賜を受けて義の業に励むよう，子孫にすべてのことを教えた。

キリストとキリストの律法について，すべての聖なる予言者たちに啓示が下された。ペテロは次のように語っている「預言者たちもみな，イエスを信じる者はことごとく，その名によって罪のゆるしが受けられると，あかしをしています。」（使徒10：43）

アブラハムの神，イサクの神，ヤコブの神，とはイスラエルの神，聖なる者，全能の主とはキリストのことである。主は，約束されたメシヤ，救い主，贖い主，ダビデの子であった。

主は定められた時に，約束通りユダヤのベツレヘムで処女より生まれたもうた。

主は母マリヤから死すべき肉体を授かり，これによって肉体につけるすべての誘惑と病気そして死を免れ得ない者となられた。しかし同時に，不死不滅の状態にある父なる神から不死不滅の性質を受け継ぎ，永遠に生きる力，すなわち自らの意志によって死に身をまかせその後再びよみがえって栄光あふれる不死不滅の体を持つ力を備えておられた。

主は，アダムの堕落によってもたらされた肉体の死と霊の死から人間を贖うためにこの世に下りたもうた。主は下り来て，神の正義の要求を満たし，悔い改める者に慈悲を施された。仲保者として，主は主を信じるすべての者のためにとりなしをして下さったのである。

主はすべての人に無償の賜として不死不滅をもたらすことになった。また，主の福音の律法と儀式に従うすべての者が永遠の生命を得られるように道を開かれた。主は希望と喜びと，平和と救いを携えてこの世に来りたもうた。

まさしく主のみ名は，天の下で救いをもたらすただひとつのみ名である。

私たちの主，主なるエホバ，主イエスは私たちの希望であり，救いである。福音を通して生命と不死不滅に光を投じたもうたのは主である。主は私たちを死と地獄と悪魔と限りない苦しみから解き放って下さった。

復活後，主はいと高き所に上り，御父の右に座された。そして私たちの時代に御父と共に姿を現わされた。天父は仰せられた。「こはわが愛子なり，彼に聞け」（ジョセフ・スミス2：17）と。

これまで主は，この世の友と交わるため，幾度となく地を訪れたもうた。また近い将来，主は大勢の天使と共に，御父の王国に属けるすべての栄えを携えて再びこの地球に来られるであろう。その時に主は，御自ら正義と平和をもって世を治められるであろう。主の来る日，悪人は滅ぼされ，世の人々は裁きを受け，すべての死滅すべきものは主の栄光によって滅ぼし去られるのである。

主は私たちの友であり，立法者であり，王であり，主である。私たちは主のみ顔を求め，主のみもとに帰りたいと願っている。私たちは主の民であり，主の羊の群れの羊である。

私たちの願いは，贖い主の血により「神との一致を得」ることであり，「それは人が最善をつくしてはじめて，神のめぐみにより救われることを知っているからである。」古代の聖徒が，「キリストのことを話し，キリストのことを喜び，キリストのことを説教し，キリストのことを予言し」たのは，ほかでもないすべての人に「どこに罪の赦しを求めるかを知らせるため」であった。（ニーファイ25：23，26）

それ故，定められた儀式に従い，神より課せられた義務を果たそうではないか。私は，主が神の御子であることを証する。私たちは主の血によって救われているのである。主は確かに全能なる神の御子であり，主により私たちは今も永遠にも平安を得られるのである。

主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

大管長会，1901—10。ジョセフ・F・スミス大管長（左），ジョン・R・ワインダー第一副管長（中央），アンソン・H・ルンド第二副管長（右）（ユタ州歴史協会提供）

誠　実

第一副管長
N・エルドン・タナー

人を「不安と苦悩」のかせから解き放つこの「古めかしい」美徳の回復

霊感あふれる話と素晴らしいコーラスを聞いて，この会に主のみたまがあることを感じている。私もこのように皆さんの前に立ちながら，主のみたまが共にあるよう心から祈っている。

先日，私がある友人と話をしていると，そこに彼の部下が通りかかった。すると友人は言った。「彼は本当に誠実な人でしてね。私の会社で働いて30年になりますが，今まで一度だって不正直な態度や行動をみせたことがないんです。ああいう人が私の会社にいると思うと鼻が高いですよ。」

その日から私は**誠実**ということについて深く考えてきた。そして，宗教，科学，経済，地方あるいは国の政治，そのほかあらゆる分野で一緒に仕事をする人々と常に誠実で信頼できる交際ができたらというのが今の私の望みである。特に，地域社会やその他における生活は家庭の延長である。従って，誠実さは家庭で教え，習慣づけるべきものである。

この『古めかしい』美徳の回復が必要であると感じた私は，このことをテーマに話をすることにした。誠実，不誠実は私たちの人生のほとんどあらゆる面，例えば話す事柄，考え，望みなどに大きな影響を与える。

この説教台に立った現代の最も立派な宗教指導者から，正直，信頼，正義，真実，親切，公正，慈愛，愛，忠実，そのほか多くの正しい生活の原則について説教と，訓戒が与えられてきた。

人がこれらすべての特質を完全に備える時，これらの特質が人の思考，行動，望みの原動力となる時，人は完全な者，道徳に添う者，正直でまっすぐな者と呼ばれるようになるであろう。

それでは，完全な者と呼ばれる人について考えてみよう。このような人は，何かを追求する時，何かを決心する時，決して迷わない。絶えず一貫した目的を持っているからである。それはだれかの言うように，「きょうは教会，明日は仕事，そして次はレクリエーション，家庭，旅行」といった散漫なものではない。次のエドワード・サンフォード・マーチンの詩の一節を見てみよう。このことが良く表現されている。

見よ，世の宮居に群がる人々，
ある心は慎み深く，ある心は高ぶる。
罪に泣く心あれば
それをあざ笑う心あり，
人を愛する心あれば
名誉と金を求める心あり，
ああ，ここから逃れることができたらよいものを，
ああ，自分を探し当てることができたらよいものを。
（*My name is Legion*『群（むれ）』）

これと逆に，揺るぎない性格を備え，揺るぎない人生を送った「誠実」の理想ともいうべき方がいる。救い主イエス・キリストである。イエスは，人は二心を持って生活することはできないと言われた。すなわち，人は神と富とに，またふたりの主人に兼ね仕えることはできないと教えられた。この教えは，目的の単一性を示すばかりでなく，イエス御自身の生涯が誠実に代表されることも物語っている。そしてこの美徳こそが，現在一番必要とされているものなのである。

政治に関してもそうである。有力な人々にへつらった主張や決意を掲げることなく徳高き目的をもって専心努力する人々によって政治は行なわれるべきである。私たちは汚れない精神の持ち主，道徳的に潔く隠し立てのない生活をする人，迷わず，利己的でなく意志の強い人を選び，支持すべきである。また，この世は勇気ある，正しい確信を持った男女を必要としている。すなわち，常に誠実であり，便宜主義でなく金や権力を願わず，徳高い議員を支持し認める人々を必要としているのである。

イギリスに伝わるおもしろい話がある。ある日，農夫が畑に出て仕事をしていると，きつね狩りの一団が来た。畑を馬に踏み荒らされるのを恐れた農夫は，ひとりの使用人を呼んで言った。「行って畑の入口を締めて来なさい。そしてだれにも開けさせないように見張っていなさい。」使用人がそこに着くと，狩りの一団が入口の前に勢ぞろいしていた。ひとりが入口をあけるよう命じた。使用人は主人から受けた命令を告げて断わった。男たちが馬から降りて次々に使用人を脅かしたり，買収しようとしたが，彼は断固として断わり続けた。

その時，馬上からその様子を見ていたひとりが近づいてきて言った。「少年よ，私を知っているか。私の名はウエリントン公爵と言って，だれでも私の名を聞けばすぐに服従するのだ。さあ，

入口を早く開けなさい。私と私の友が通るのだから。」

少年は帽子を脱ぎ，イギリス全国民が誇るウエリントン公爵の前に敬意を表して静かに答えた。「ウエリントン公爵ならば，私が命令に背くことをお許しにならないはずでしょう。私は死んでもこの入口を開けることはできません。またお通しするわけにもいきません。これは私の主人から言いつかった命令なのです。」

これを聞いた公爵は非常に感動し，自分の帽子を脱いで言った。「買収や脅迫にもひるまず正義を貫く男よ，私は本当に感謝するぞ。私の兵隊がみんなこのようであれば，フランスどころか，全世界をも征服することもできるだろうに。」（*The Boy who kept out Wellington*『ウエリントンを締め出した少年』より）

ウエリントン公爵が語ったように，誠実な人間は必ず相手に尊敬の念を起こさせるものである。私は，国を代表する一人一人が互いに尊敬し合い，完全な公平無私の態度で問題に対処するならば，国際間の争いや不和は解決されると確信している。

実業界において誠実はどのように評価されるのであろうか。実業界，経済界をリードする人々は誠実を形容する人々であって然るべきである。しかし事実はどうであろうか。多額のわいろ，詐欺，ごまかし，欺まん，ぼう大な経済界の利得調節を企てる力など隠れた事実を知らされ，各団体が他と交渉する際公正な取り引きをし，他を不当に利用しないというような法律が必要になっている現実を考えれば，誠実の存在がいかに薄いかがわかる。逆の状態であれば，取り引きはより円滑に行なわれ，人々はもっと正直になり，生産品も良質になるはずである。しかし，合衆国政府は詐欺的行為，質の悪い商品の犠牲から消費者を守るため，さらに新しい対策を練っているのが現状である。

誠実を第一として労働組合幹部あるいは組合の交渉と決定が行なわれたとすれば，今のような不当な支配権の行使は，絶対になくなるであろう。すべての人が他人の利益，助けを考えて働くようになり，どん欲，抑圧，貧困，そしてそれらが招く人類の悲劇をこの世から除くことができるであろう。

教育界に関しても検討してみないわけにはいかない。家庭を除くと，誠実の原則を教え，身につけさせる最良の場所は学校である。誠実と教育には否定できない相互関係がある。イギリスの著名な作家サミュエル・ジョンソンは，このことをよく理解した人であった。次の言葉にそれがよく表現されている。「知識を持たない誠実はもろく無益である。しかし誠実を持たない知識は危険で恐ろしい。」

科学，医学などの分野においては特にそうである。もしもそこに誠実が全く存在していないとすればどうだろう。恐怖に満ちた世界が想像できると思う。しかし，人類の幸福を唯一の目的とすべきであるにもかかわらず，そうでない人もいるのが現状である。これらの分野における教育者と学生は完全に公正な態度を維持し，かつこの目的をはっきりと認識していなければならない。

犯罪の少ない世に住んでいると想像してみよう。不可能なことではないと思う。私たちは多くの苦悩と悲嘆と災難とをわが身に招いている。しかしそれらは，あらゆる分野の仕事，活動へと忍び寄る不道徳と不正直がもたらした結果にすぎない。およそ300年前，フランスの有名な戯曲家，ジャン・バプティスト・モリエールは，次のように記している。「もし何事も正直ずくめで，だれも彼も率直で公明正大で柔順だったら，美徳というものは，大部分無用なものになってしまう。なぜといって，こちらが正しい場合，他人の不正を気持よく堪え忍ぶのが美徳の美徳たるゆえんだからだ。」（「人間ぎらい」第5幕第一場）

前にも述べたが，誠実の原則を履行しない人生は，多面にわたって障害を引き起こすことが多い。以上のこと以外につけ加えるべきものとして，家族と家庭生活がある。社会を構成する基本的単位である家庭の基盤も，夫婦間の不信や離婚，神聖な結婚の誓約に背く行為によって今や危うくなってきている。誠実さを失った夫婦の姦淫，私通，乱婚の罪によって家庭が崩れ，悲しみや言うに言われない苦悩が生じている。家庭の崩壊は国家の最大の悲惨事のひとつであるが，事実このような家庭が日に日に数を増しているのである。

逆に，家庭生活が完全な誠実によって統治されたらどうであろうか。ちょっと想像していただきたい。完全な家庭ができはしないだろうか。夫は妻に対して誠実になるであろうし，妻もまた夫に対して誠実になるであろう。結婚を否定して不法の関係を結ぶ者は存在しなくなる。愛に満ちた家庭では，子供と両親が互いに尊敬し合い，子供たちはだれよりも偉大な両親という教師に正しくしつけられるのである。

子供たちは正直と誠実を尊重しなければならない。危機に直面した場合にどのように対処するかあらかじめ知っておく必要がある。また，自分たちが神の子供であることを知り，理解する必要がある。そして，永遠の目的，つまりこの世での務めを終えた後，再び神のみもとに帰れるようふさわしい生活を送ることの大切さを理解していなければならない。大人は彼らの成長を妨げることなく，常に彼らを助けて理想と原則に忠実であるよう励ます必要がある。

ゲヤハルトというドイツの羊飼いの少年の話があるが，彼はその模範とも言うべき少年であった。彼の家は非常に貧しかった。ある日少年が羊の番をしていると，森から猟師が出て来て，村へ行く一番近い道を尋ねた。少年が道を教えると，猟師は村へ案内してくれたらたくさんお礼をすると言った。ゲヤハルトは自分のいない間に羊がいなくなることを恐れて，そこから動くことはできないと答えた。すると猟師は言った。「ほう，それがどうしたっていうんだい。あれは君の羊ではないんだろう。それに羊の一匹や二匹，いなくなったって主人は何も言いやしないよ。どうだい，君が1年間働いてもかせげない程のお金をやるよ。」

少年がそれでも断わると，猟師は，「それじゃ，君が村へ行って食べ物と飲み物と案内人を捜してきてくれないか。その間私がここにいて番をしてや

るよ。それだったらいいだろう。」

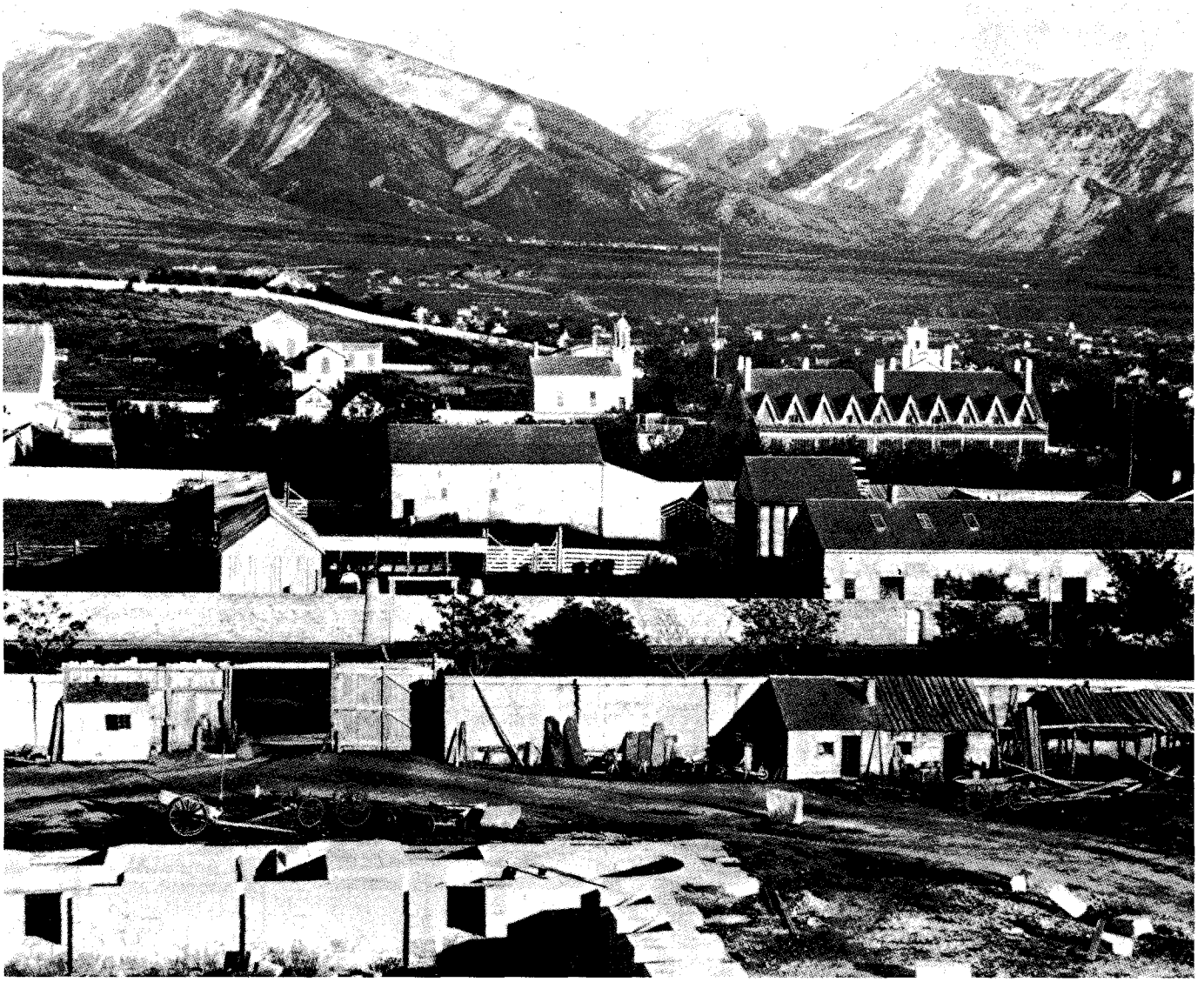
少年は頭を振って言った。「いいえ，羊はあなたの声を知りません。」「君は私が信用できないって言うのか。」猟師は怒ったように言い返した。

ゲヤハルトはかつて自分が主人の命令を破ろうとしたことを思い出して猟師に聞いた。「あなたが約束を守るということが一体どうして私にわかりますか。」

答えに困った猟師は笑って言った。「どうやら君は忠実な良い少年らしいな。君のことは忘れないよ。では，道を教えてくれるかね。ひとりでなんとか行ってみよう。」

後に，その猟師は大公であったことがわかった。大公はゲヤハルトの誠実さをほめて，彼を自分の所に呼んで教育を受けさせた。そしてゲヤハルトは金持ちになり権力を得たが，いつまでも正直で誠実なことは変わらなかった。（*A Faithful Shepherd Boy*『忠実な羊飼いの少年』より）

誠実であることは決してむずかしいことではない。私たちは皆，暗黒と不幸へ導くサタンに従うよりも，救い主の模範に従う方がはるかに容易であることを確信すべきである。罪の内に幸福はない。正義の道を離れる者は，必然的に不幸と苦悩と不自由の待つ世界



タバナクルから眺めた1869年のソルトレーク・シティー。前方の幾つか建物のある場所に現在教会本部ビルが立っている。撮影者はアンドリュー・J・ラッセル（ユタ州歴史協会提供）

へ足を踏み込むのである。

それでは，一体どのようにすれば今話してきた状態を改善することができるであろうか。誠実の原則について一人一人もう一度よく考えていただきたい。皆さんはどのようにそれを守っているだろうか。欠点を認め，正直に自分の思い，生活，望み，目標を評価してみていただきたい。そして正しい方向，つまり誠実とそれに伴う徳の理想を目指して改善するよう真に努めることが必要である。

天父である神の王国における私たちの永遠の救いと昇栄は，この世でどのようにイエス・キリストの福音の原則に従うかにより決定される。イエス・キリストの福音が回復された当時の指導者たちは，ジョセフ・スミスと彼の同僚たちも含めて，誠実に生きることがいかに大切であるかをよく理解していた。彼らは明らかにされた真理を決して曲げなかった。否，曲げることなどできなかったのである。御父と御子の示現を見たと主張したジョセフ・スミスは，多くのあざけりと迫害にあった。しかし彼は，アグリッパ王の前で弁明したパウロに似た気持ちを感じたと語っている。ある人々はパウロを偽り者と言い，またある人々は気違いだと言った。そのように彼はあざけられ，ののしられた。

予言者ジョセフ・スミスもそれと同じ経験をした。彼はこう述べている「私も正にその通りであった。私は実際に光を見た。その光の唯中に二人の御方を見た。そしてその方々は真実私にお言葉をかけたもうた。私が示現を受けたと言うために憎まれまた迫害せられても，なおそれは真実である。そして私がこのように言うために，人々が私を迫害し罵り偽ってあらゆる悪口をあびせている間に，私は自分の胸の中で語るようになった。『何故真実のことを話すから私を迫害するのか。私は本当に示現を受けたのだ，私がどうして神に抗(さか)らえようか。何故世の中の人は，私が本当に見たものを見ないと言わせようと思うのか，私は示現を受けたのであるからそれが事実であるのを身を以って知っている。私は神がそれを知りたもうことを知っている。私はそれを打ち消すことはできなかった。また敢て打ち消そうともしなかった。私は少くとも，本当にあったことを打ち消すならば神の怒りを受けて罪の宣告を受けることを知っている』と。」（ジョセフ・スミス2：25）

ジョセフ・スミスはまた，誠実を具体化した宣言書を私たちに残した。末日聖徒イエス・キリスト教会信仰箇条の第13条に次のように書かれている。

「われらは，正直，真実，貞潔，慈善，高徳なるべきこと，およびすべての人に善を行うべきを信ず。まことにパウロの訓戒に従うというを得べく，われらはすべてのことを信じ，すべてのことを望む。すでに多くのことを堪え忍びたれば，あらゆることを堪え忍び得んことを望む。もし何にても，徳高きこと，好ましきこと，よき聞えあること，あるいは褒むべきことあらば，われらはこれらをたずねもとむるものなり。」

日々の生活の中にこの訓戒を生かそうではないか。

予言者と親しく交流していたある人人は，民を導いて砂漠を横断し，グレートソルトレーク盆地へ渡った。そして民は聖なる予言の言葉通りに，偉大で強大な民となった。もし彼らが原則を曲げていたら，そうはならなかったであろう。

その中のひとりに，ミズーリ州からソルトレーク盆地へ向かって荒野を初めて旅したヒーバー・C・キンボールがいた。彼は今日の予言者であり指導者であるスペンサー・W・キンボール大管長の祖父にあたる。ある時，彼はこのように言った。

「神……は自らの選びと永遠の生命の受け継ぎを確実にしようとする者を必ず救って下さる。そのような人々は勝利を得るであろう。しかし，もし彼らが誠実であることを忘れ，堅く立って義を行なうことを怠ったならば，そして悔い改めなかったならば，彼らは今まで得てきたものまで失い，期待していたもの，約束されていた力さえも失ってしまうのである。」（*Journal of Discourses*「説教集」8：89）

誠実であることの最大の報いは，永遠の御父とその御子イエス・キリストの承認を得ることである。このような正義が何の報いも受けず，顧みられないとは決して思わないでいただきたい。1841年1月，ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示でそれが立証されている。この啓示はジョセフ・スミスと共に1844年にカーセージの牢獄で殺され，殉教者としての死を遂げた信仰篤い兄ハイラムに与えられたものである。

「また，われ誠に汝に告ぐ，わが僕ハイラム・スミスは幸福なるかな。主なるわれは，彼の心実直なる故に彼を愛す。また彼はわれの前に義しきことを愛する故にわれ彼を愛す，と主は言う。」（教義と聖約124：15）この約束は，誠実に人々に接する世界中のすべての人に等しく適用するものである。

旧新約聖書の予言者たち，モルモン経の予言者たちは，誠実な心をもっていたがゆえに聖きみたまとの交わりを賜った人々である。同様に現代の予言者たちも，誠実と完全な献身をもってこの回復された神の王国を管理してきた。また，現在も管理しているのである。世界中の末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は，今日このタバナクルの演壇に座す献身的な教会幹部の揺るぎない信仰を知って，永遠に感謝することであろう。また世界各地に住む大勢の教会の指導者たちも高潔，誠実で，人々から寄せられた信頼に立派に応えている。教会幹部の兄弟たちは非利己的で，救い主のみ旨とみこころによく従い，謙遜である。そして彼らの最大の望みは，聖徒たちと共に救いと昇栄を求めることである。

私は，世の救い主であり神の御子であるイエス・キリストがこの教会の頭であることを証する。また主は予言者スペンサー・W・キンボールを通してすべての教会の活動を導いて下さることを証する。

私は，すべての人々が聖なる光を受け，天父なる神と共に永遠に住む道を用意して下さったイエス・キリストを知り，受け入れ，その教えに従うよう心から祈っている。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。

1976年度 統計記録

大管長会は，1976年12月31日現在の教会員に関する統計記録を以下のように発表しました。

大管長会書記
フランシス・M・ギボンズ

教会ユニット

ステーキ部数…… 798
ワード部数…… 5,481
ステーキ部内の独立支部数…… 1,422
ステーキ部内のワード部，
独立支部の合計…… 6,903
伝道部数…… 148
伝道部内の支部数…… 1,716

教会員数

ステーキ部内…… 3,283,264
伝道部内…… 459,485
合計…… 3,742,749

1976年中の会員数の増加

幼児祝福数……88,522
子供のバプテスマ数……52,281
求道者のバプテスマ数…… 133,959

一般統計

出生率（1,000人当り）…… 29.72
結婚率（1,000人当り）…… 13.34
死亡率（1,000人当り）……4.32

神権

アロン神権者
執事…… 141,341
教師…… 109,396
祭司…… 188,122
アロン神権者合計…… 438,859
メルケゼデク神権者
長老…… 320,876
七十人……26,328
大祭司…… 120,117
メルケゼデク神権者合計…… 467,321
アロン神権者，メルケゼデク
神権者総数…… 906,180
（1976年内に32,387人の増加）

教会組織登録会員数

扶助協会…… 1,129,135
日曜学校…… 3,387,454
アロン神権者（若い男性）……267,352
若い女性…… 249,724
初等協会…… 498,867

福祉計画

被援助者数…… 110,306
雇用者数……29,657
労働奉仕日数累計…… 400,607
福祉操業日数累計…… 8,219

上記以外にアイダホ州で発生したテトン洪水救済に関連して，労働奉仕日数125,000がある。

系図協会

神殿儀式のために
処理した名前の数…… 3,539,340

年度内に35ヵ国において，80台のマイクロフィルムカメラと5人の口頭面接者を用いてマイクロフィルムに収録した系図記録は，100フィートのロールで910,661巻，年度内4.5パーセントの増加となり，これは300頁の本で4,334,559冊分に相当する。

神殿の儀式

16の神殿で執行されたエンダウメント
生者……43,645
死者…… 3,421,793
合計…… 3,465,438

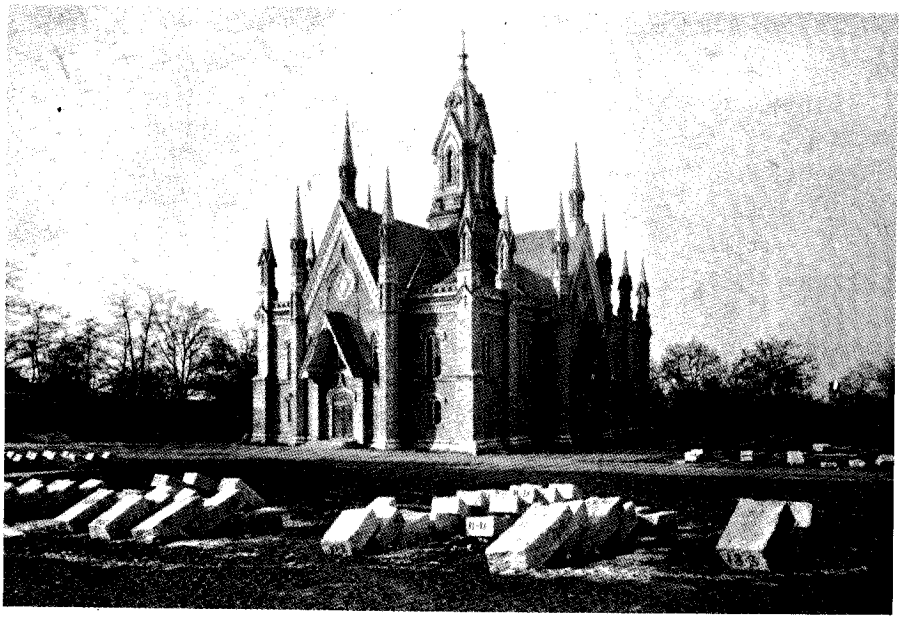
教会の学校

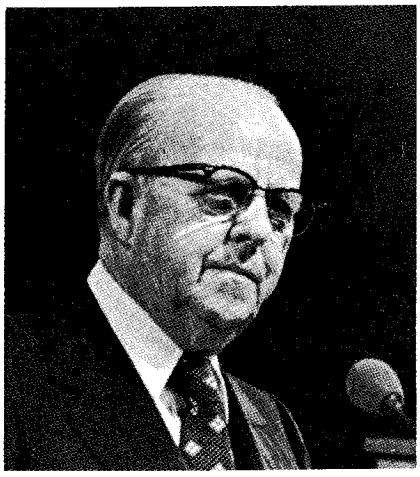
在籍者数（インスティテュート，
セミナリーを含む）…… 322,587

死亡者

七十人第一定員会アルビン・R・ダイヤー長老，故十二使徒評議員会補助エルレイ・L・クリスチャンセン長老未亡人ルエラ・リース・クリスチャンセン姉妹，故七十人最高評議員会会員オスカー・A・カーカム長老未亡人アイダ・ジョセフィン・マードック・カーカム姉妹，ハワイ・ヒロステーキ部アレイ・K・オーナ部長，メキシコ・トレオン伝道部ダニエル・O・トレビノ部長，ユタ・オグデン・リバデールステーキ部ミレン・ダン・アトウッド部長，癌治療研究の草分けリランド・R・コーワン博士，「ドーターズ・オブ・ザ・ユタ・パイオニアーズ」（ユタ開拓者の娘）会長ケイト・B・カーター姉妹

アッセンブリーホール。テンプルスクェア内にある建物で，1877年に建築着工，1880年に完成，1882年に献堂され，現在に至っている。手前の石は神殿の石材で，使用箇所を表示する番号が付されている。（ユタ州歴史協会提供）





宣教師として歩みを速める

七十人第一定員会会長
フランクリン・D・リチャーズ

主は教会員に，福音に関心を持つ人々を捜す責任と，彼らをフェローシップする責任をさらに自覚するよう求めておられる

愛する兄弟姉妹，私は皆様と共に，この大会にあふれるみたまと霊感に満ちた数々の話を喜ぶものである。

救い主が使徒たちに最後に課せられた務めのひとつは，これであった。「全世界に出て行って，すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。

信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし，不信仰の者は罪に定められる。」（マルコ16：15—16）

神の教会は伝道の教会である。私たちは現代の啓示によっても，この回復された福音をあらゆる国民，あらゆる血族，あらゆる国語の民，およびあらゆる世の人々に宣べ伝えよと命じられている。（教義と聖約133：37参照）

啓示にこのように言われている。「この世にはなお欺かんと待伏をする人間の狡猾なる巧智に眼くらみて，真理のある所を知らざるが故にただ真理に遠ざかる者，あらゆる教派，党派，宗派の中に多ければなり。」（教義と聖約123：12）

私たちは，真理とより良い生き方を捜している方々に，是非私たちの語るメッセージを心から研究して下さるようにとお勧めする。「人生の目的は何か」，「私たちはどこから来たのか」，「死後はどうなるのか」これらの疑問に対する答えがこの私たちのメッセージにある。回復された福音は，これを受け入れてその教えに従う人々の生活に，平安と幸福と進歩，成長をもたらす。

キンボール大管長は私たちに，歩みを速めなさいと言われた。伝道活動で歩みを速める方法について，私の考えを若干述べさせていただきたいと思う。

第一に，宣教師は教える相手を捜すのに多くの時間を費やしすぎている。宣教師が教えることにもっと時間をかけられるように，方法を考えなければならない。ひとつの良い方法は，「すべての会員は宣教師である」という考えを徹底して，教会員が宣教師のために教える人々を見いだし，その人々と親しくなることである。

そのために大切なことが3つある。

1. 福音の原則に従って生活する。立派な教会員の生活を見て教会に興味を持ち，教会に加わる人が毎年大勢いる。

2. 友人や隣人に教会のことを知っているかどうか尋ねるのをきっかけに，福音の話を始める。多少とも知っていれば，さらに「もっと知りたいですか」と尋ねることができる。もっと知りたければその人をあなたの家に招いて，宣教師に福音を教えてもらう。招待できなければ，その人の住所と氏名を宣教師に連絡するとよい。このような方法によって教会に興味のある人々を宣教師にもっと紹介することができ，心がけていればいつまでもそれを続けることができる。

3. 友人や隣人を教会の集会や社交活動その他の行事に招く。フェローシップを受けている人は，新しい環境への適応がずっと容易である。

紹介とフェローシッピング・プログラムが効果的に行なわれれば，宣教師は教えることに多くの時間を費やせるようになり，その結果改宗者のバプテスマはふえるであろう。

もうひとつ有望なのは，家族の一部だけが教会員の家庭における伝道である。教会外の人と結婚している教会員は大勢いる。教会員でないこれらの人人をフェローシップし，彼らとその家族に伝道レッスンを教え，証を受け入れた時に水のバプテスマによって教会に導くことが，私たちの目標である。

長老見込み会員も大勢非教会員と結婚している。教会員でない彼らの家族に教えることで，これら長老見込み会員の多くがメルケゼデク神権を受ける備えをすることができる。

このような家族はグループで教えるとよい。グループで教えることによって，強い人が弱い人を強め，少ない時間と努力で多くの人々がバプテスマを受けるようになるからである。

もうひとつ注意すべきことは，伝道活動に参加する人の数である。現在，25,000人を越える専任宣教師がいるが，世界各国で伝道部が次々と組織されている今日，青年男女，夫婦ともにもっと大勢の宣教師が必要である。キンボール大管長は海外のステーキ部や伝道部からさらに多くの，準備のよくできた宣教師が召されるようにと語り，これは実現されつつある。それらの宣教師の多くは伝道費用を全額自費負担できないため，神権定員会や教会員が教会伝道基金に献金をして，彼らを援助している。

先日，ある定員会会長が献金に手紙を同封してきた。そこにはこう書かれていた。「教会が発展しているという報

告を受けて非常に喜んでいます。私たちも福音伝道のお役に立てればと願っています。」

カリフォルニア在住のある姉妹から次のような手紙をいただいた。「教会伝道基金に小切手を送らせていただきます。これよりも偉大なみ業はあるでしょうか。私は福音を心から愛しています。福音なしでは生活できません。家族のフェローシッピング・プログラムも本当に素晴らしいものです。主は何軒かの家族や独身の人々と親しくなれるように導いて下さり，先日の日曜日には，数人の人々がそろって教会に来ました。」

これは，私たちが日々に得る数多くの証の一例である。自らの財産をこの偉大な伝道活動に捧げる方々に敬意を表したい。これらの献金の多くはたとえ少額であっても，真実の犠牲である。

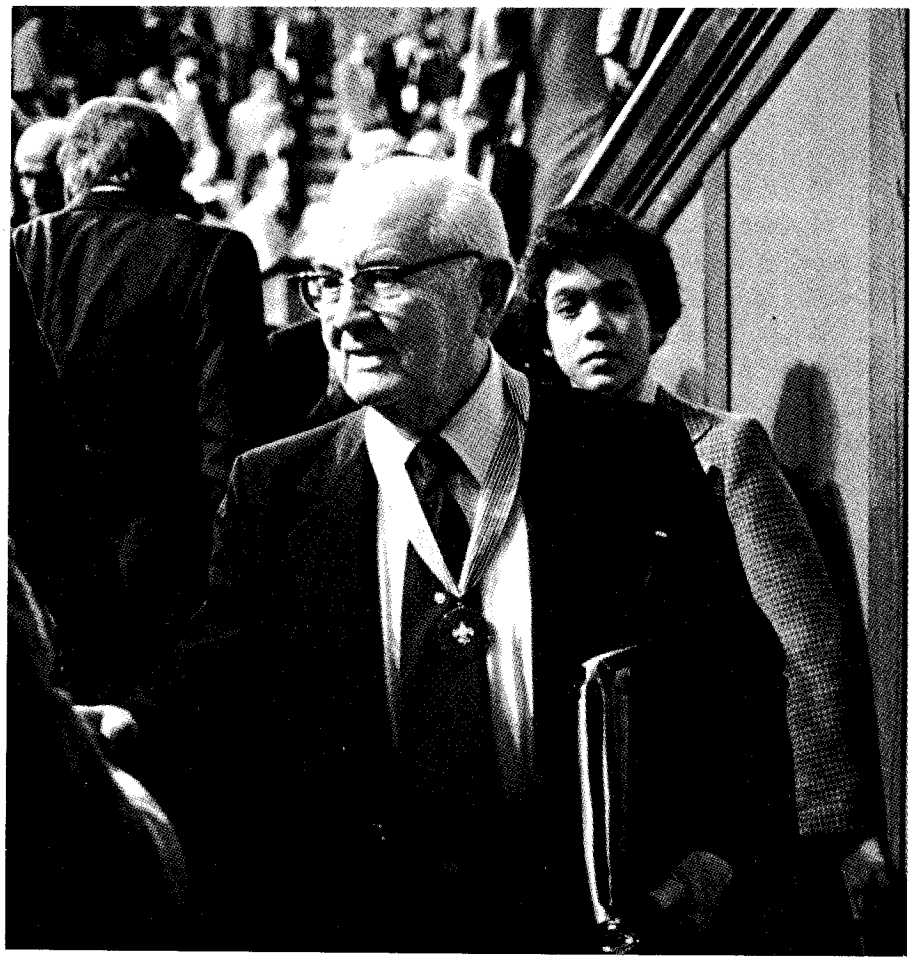
教会には現在大勢のステーキ部宣教師がいるが，もっと大勢の奉仕を期待している。新しい改宗者全員に教会で何らかの役職を与えるようにしていただきたい。そうすれば，その中から大勢の人が立派なステーキ部宣教師になるであろう。

昨年10月のキンボール大管長による七十人第一定員会の改組に伴い，ステーキ部宣教師の活動が新たに強調されてきた。

七十人第一定員会は，ステーキ部の七十人定員会を強化して，ステーキ部伝道部の活動を促進する責任を持つ。私たちは，ステーキ部宣教師の活動と専任宣教師の活動との相互調整を図ることの大切さを特に強調したいと思う。

もうひとつ見過ごしてならないものは，軍隊で働いている教会員男女である。軍関係の仕事に従事している教会員は，なんと2万人もいる。それらの男女は立派な宣教師となり得るし，現に宣教師の働きをしている人々が多い。

彼らが自分の信仰に従って生きる時，仲間は彼らに感心し，尊敬する。彼らも多くの人々を教会へ導き，毎年大勢の人を宣教師に紹介しているのである。

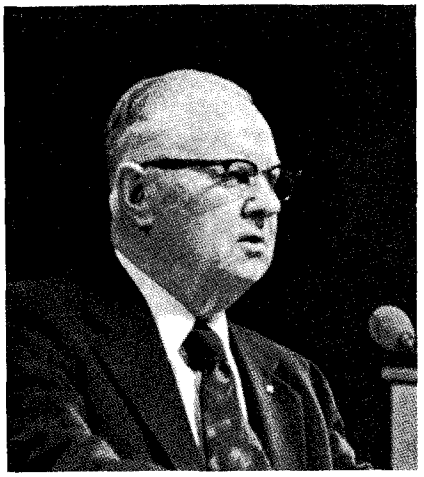


確かに，「すべての会員は宣教師である」というプログラムは霊感によるものである。私が今述べた提案や，そのほかの方法を用いるならば，教会員は宣教師から教えを聞く人々を見つけることができる。そして彼らが教えを学んでいる間，バプテスマの前後を問わず，教会員が彼らをフェローシップすることができる。使徒パウロがエペソ人に書き送った言葉は，実にその通りである。「そこであなたがたは，もはや異国人でも宿り人でもなく，聖徒たちと同じ国籍の者であり，神の家族なのである。」（エペソ2：19）

350万を越える教会員が宣教師として人々を神の王国に導き，伝道活動からもたらされる喜びと幸せを味わっている様子を心に描けるだろうか。真理を尋ね求めているすべての方々に繰り返し申し上げたい。回復された福音を受け入れ，福音を自分の生活に生かす人々には，新しい生き方が待ち受けている。そして，「人生の目的は何か」という疑問に，はっきりした答えを見いだせるのである。私たちは，「モルモニズム」について，末日聖徒イエス・キリスト教会について研究するよう，皆さんにお勧めする。

兄弟姉妹，私たちは神の王国の建設に携わっている。私は証を申し述べたい。父なる神とその御子イエス・キリストは予言者ジョセフ・スミスに姿を現わされた。神は生きておられ，イエスはキリストである。完全な福音が予言者ジョセフ・スミスを仲立ちとして回復された。その福音を人々に分かつことは私たちの特権であり，責任である。ジョセフ・スミスは偉大な予言者であった。そして私たちには今も教会を導く偉大な予言者がいる。愛するスペンサー・W・キンボール大管長がその人である。

神の王国がますます勢いを増して出で行き，天の王国が来るように，私たちは伝道活動に力を注ごうではないか。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。



真の教会を作るもの

十二使徒評議員会会員
デルバート・L・ステイプレー

あなたにとって最も大切な家族のことを考えれば，教会の主張を研究したいという気持ちが強まるであろう

兄弟姉妹ならびに友人の皆様，誠実な善意の人々の口からよく聞く言葉に次のようなものがある。「あなたはあなたの教会に行きなさい。私は私の教会に行きます。でも，同じ道を歩いているのです」と。しかし，キリストの教えの基本的な点で一致できずに，本当に同じ道を歩くことがはたしてできるだろうか。キリスト教のすべての教会が真の福音とその原則を教えており，信者を神の天の王国に導くための救いの儀式を行なう権威を持っているというのだろうか。

イエスはこう教えられた。「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく，その道は広い。そして，そこからはいって行く者が多い。

命にいたる門は狭く，その道は細い。そして，それを見いだす者が少ない。」（マタイ7：13—14）

この救い主のみ言葉は，天国に至る道がたくさんあると教えているだろうか。大勢の人が，「どの道も神に至る」という人間の教えを受け入れているが，それは主の教えと相容れない考えである。

相反する教えや異なった教義がどれも同じ結果をもたらすという主張は，全く道理にかなわない。真理がひとつの源すなわち神から来るとすれば，どうしてそのように様々な教えがあってよいだろうか。

私たちは，あらゆる真理が神から出ており，それゆえに首尾一貫していて不変であることを知っている。従って互いに異質の教えを持ったキリスト教の教会すべてが，完全な真理を伝えることのできるはずはないのである。私が聖典の教えと証とをもって主張したいことは，主はひとり，信仰はひとつ，バプテスマはひとつ，真の教会はひとつという条理である。そこで，もし現在の自分の信念が誤まっていると考える人がいるならば，その人は新たな道を尋ね求める勇気と，キリストが定められた永遠の幸福をもたらす真の道へ方向を転じて従って行く信仰とを持つ必要がある。

イエスはこの世に住んでおられた時，弟子たちにこう告げられた。「わたしは道であり，真理であり，命である。だれでもわたしによらないでは，父のみもとに行くことはできない。」（ヨハネ14：6）イエスは，御自身の教えは御父から与えられたものであると言われた。イエスは誉れを御自分のものとせずに，ただ御父に命じられたことだけを行なわれた。「なぜなら，父は子を愛して，みずからなさることは，すべて子にお示しになるからである。」（ヨハネ5：20）

救い主は，「わたしと父とは一つである」（ヨハネ10：30）と言われた。この言葉は御二方が同一人であるという意味ではなく，イエスと御父は目的においてひとつであるという意味である。

イエスに聞き従うことは御父に聞き従うことである。イエスと御父の教えや目的は一致している。神のすべての子らにとって救いの教義は同じである。イエスは，御自身の説く教えと儀式に従う人々について御父にとりなしの祈りを捧げられた中で，こう言われた。「わたしは，あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは，わたしたちが一つであるように彼らも一つになるためであります。」（ヨハネ17：22）

イエスは御父と御子に関するこの教えを宣言して，地上に御自身の教会を築かれた。現代と同様に，当時も様々な教派が真理をそれぞれに解釈していた。救い主はこの世におられた当時も，この末の時代にも，人間によって建てられた既成の教会を選ばずに，予言者と使徒を備え，救いと昇栄の福音の計画を備えた御自身の教会を組織された。それがイエス・キリストの教会である。

イエスは，世の様々な宗派には完全な真理がなく，救いの儀式を執行する権能もないことを承知しておられた。大勢の宗教指導者たちがイエスの教えに憤慨した時，イエスはたとえ話を用いて教えを語られた。これらの教えにより，霊的な聞く耳を持った人には，「ついに一つの群れ，ひとりの羊飼となる」（ヨハネ10：16）はずであるということがはっきりと知らされた。

「よくよくあなたがたに言っておく。羊の囲いにはいるのに，門からでなく，ほかの所からのりこえて来る者は，盗人であり，強盗である。

門からはいる者は，羊の羊飼である。

門番は彼のために門を開き，羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出す。

自分の羊をみな出してしまうと，彼

は羊の先頭に立って行く。羊はその声を知っているので，彼について行くのである。

ほかの人には，ついて行かないで逃げ去る。その人の声を知らないからである。」（ヨハネ10：1—5）

しかしこのたとえ話が十分に理解されなかったので，イエスはそれをはっきりと説明された。

「わたしは羊の門である。

わたしをとおってはいる者は救われ，また出入りし，牧草にありつくであろう。

わたしはよい羊飼である。よい羊飼は，羊のために命を捨てる。

羊飼ではなく，羊が自分のものでもない雇人は，おおかみが来るのを見ると，羊をすてて逃げ去る。そして，おおかみは羊を奪い，また追い散らす。」（ヨハネ10：7，9，11—12）

イエスがよい羊飼いであるという証であるがこれは，牧羊地帯のパレスチナに住む人々にはなじみある言い方であった。イエスは，話を聞く人々がイスラエル民族に羊飼いが約束されているという予言を知っていることを，承知しておられた。後年王になった羊飼いの少年ダビデは，「主はわたしの牧者」で始まる美しい詩篇23篇を記している。イザヤは，神が来られる時には，「主は牧者のようにその群れを養い，そのかいなに小羊をいだき」（イザヤ40：11）と予言した。イエスがどのような御方であるかは明らかである。イエスは主であった。約束されたメシヤであった。

イエスは偽りの教師や牧者を盗人や，羊よりも富を大切にする雇われ人にたとえ，ふりを装う人々をはっきりと拒まれた。これより厳しい叱咤が考えられるだろうか。イエスはさらに，だれも誤解することのないようにはっきりとこう述べられた。「そして，ついに一つの群れ，ひとりの羊飼となるであろう。」（ヨハネ10：16）

イエスはその当時も，またそれ以後今日に至るまで，群れや羊飼いが幾つもまた何人もいてよいとは認めておられない。

昔，イエスから教会の責任を与えられた使徒たちは，同じひとつの教えを説き，イエスから授けられた同じ儀式を行なった。これらの使徒たちは自選のしもべではなかった。イエスが次のように言われた通りである。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んで聖任したのである。」（欽定訳ヨハネ15：16）

彼らは，福音の救いの儀式を教えて執行するように召された，権威ある聖職者たちであった。イエスは彼らに神権の権能を授けられた。従って，彼らがこの世にいてイエスから受けた権能を行使していた間は，一致した教えと同一の儀式が保たれていた。全世界に携えて行くように命じられた福音の教えは，世界中どこでも，だれにとっても同じであった。人々はいろいろな違った福音を教わってその中から選択したのではない。万人にただひとつの計画があるだけであった。

救いの条件が万人に共通であるところから，使徒パウロは，「主は一つ，信仰は一つ，バプテスマは一つ」（エペソ4：4—5）と書いている。また，パウロは別の折にこう記している。「しかし，たといわたしたちであろうと，天からの御使であろうと，わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら，その人はのろわるべきである。」（ガラテヤ1：8）

ひとつの教会，ひとりの権威ある聖職者，ひとつの正統な福音の教義，そしてひとりの聖霊が，当時のイエス・キリストの教会の姿であった。そのため，イエス・キリストの教会の指導者に寄せられる神の啓示は，首尾一貫しており不変であった。

従って啓示が止んだのはキリストの使徒たちが死んだ後のことである。そしてキリストの教えた純粋な教義は世の哲学によって色あせ，教会の儀式に卑俗な制度が現われてきた。さらには，かつて明瞭でわかりやすかったことがまるで神話のように混乱してしまった。混乱は，サタンが人をあざむいて迷わせる格好の手段である。そして，イエスと使徒たちが「背教」を予言した通り（IIテサロニケ2：1—4），それは実際に起きて，キリスト教世界は長い夜の闇へ突入したのであった。

現在，多くの教会や教義があって，どれもが同じひとつの出所を主張している。しかしそのような主張は当然，道理に合わず，イエス・キリストが定められた教えや方式に反している。真理を真剣に求める人は，「いろいろなキリスト教の教派の中で，どれが正しいのだろうか」と問わずにはいられない。使徒ヤコブはそれに関連して，次のように勧めている。「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，その人は，とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に，願い求めるがよい。そうすれば，与えられるであろう。」（ヤコブ1：5）光と真理を求めて真心からこの約束を試すならば，あなたは必ずや報われるであろう。

モルモン経の予言者モロナイは，キリストの福音が確かなことを知るための簡単な方法を告げている。彼はこう説いた。「またこの記録を受ける時，それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば，神は聖霊の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る。」（モロナイ10：4—5）

イエスが御父とひとつであり，ひとつの群れ，すなわちひとつの教会だけを受け入れられることは明らかである。従って，真理を求める人は，真の教会のしるしを見分けることが大切である。どの時代にもイエス・キリストの教会はそれとわかる特徴を持っている。

イエス・キリストの真の教会には，主イエス・キリストまで直接にさかのぼる神権の系譜を持った指導者がいる。

イエス・キリストの教会には，同じ役職を持って働く人々，すなわち予言者，使徒，監督，七十人，長老，祭司，教師，執事がいる。その教会は地上にあって神の予言者により導かれる。

この教会の主要な務めは，「すべての国民を弟子として，父と子と聖霊との名によって，彼らにバプテスマを施す」（マタイ28：19）ことである。

イエスの時代の教会に見られたみた

まの賜が現在も存在する。啓示，癒し，奇跡，予言，その他数々の賜があるが，これらはコリント人への第一の手紙12章，教義と聖約46章，モルモン経モロナイ書10章に見られる通りである。愛，すなわちキリストの純粋な愛はイエスキリストの教会に顕著なものとなるであろう。

イエスが使徒たちに与えられた「あなたがたが地上でつなぐことは，天でも皆つながれ，あなたがたが地上で解くことは，天でもみな解かれるであろう」（マタイ18：18）という同じ力が，現在も真の教会に存在する。権能を持つ聖職者から教会員に授けられる儀式と祝福もある。そしてこれらの誓約を交わし，義務を受け入れ，これに従うならば，この世だけでなく永遠にその効力が続くのである。

主の教会の人々はみな聖霊を通じて個人の啓示を受け，教会は真であるという確かな知識を授けられる。個々の教会員に与えられる啓示こそが，いつの時代にあってもイエス・キリストの教会の力なのである。

私たちは真理をしっかり学ばなければならない。正しいだろうと考えるだけではだめである。知ることは私たちの責任である。聖典と聖霊の助けによって，私たちは疑いなくはっきりと知ることができる。

よく祈り聖典を学ぶ人は必ず，昇栄に至る道はただひとつであるという知識と証を得るであろう。聖典はその道を非常に明瞭に指摘している。それは神の道であって，人の道ではない。「わが思いは，あなたがたの思いとは異なり，わが道は，あなたがたの道とは異なっている」（イザヤ55：8）と神は言っておられる。

私は，権能を授かったイエス・キリストの特別な証し人のひとりとして，イエス・キリストの教会が今地上に存在することを慎んで証する。この教会は，私がこれまでに述べた真の教会のしるしをすべて備えている。イエス・キリストの指示の下に，生ける予言者がいる。その名前はスペンサー・W・キンボール，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長である。

私たちはイエス・キリストの教会がこの時代に回復されたことを宣言するものである。昔のキリストの教会は，背教によって地上から失われた。この近代の神権時代に神から召された予言者ジョセフ・スミスを通じて神から新たな啓示が下され，昔のイエス・キリストの教会にあった教義と儀式が回復されたのである。

七十人第一定員会の新しい会員。G・ホーマー・ダラム，ジェームズ・M・パラモア，リチャード・G・スコットの各長老

伝道が許されるすべての国に回復のメッセージを携え行くため，長老たちや若い女性がおよそ25,000人，女性は1年半，男性は2年間，自ら望んで奉仕の業に召されている。

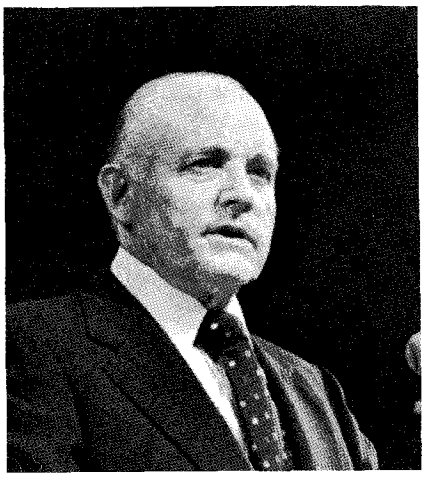
教会の大管長，スペンサー・W・キンボールが言われるように，私たちの目的はこの福音を全世界に宣べ伝えることである。「私たちはあらゆる人に，末日聖徒の宣教師のメッセージに耳を傾けるよう勧めるものである。この世においても来世においても，人生にこれより良い影響をもたらすメッセージはほかにないであろう。

真理を求める誠実な方々にとって，その報いは値の知れないほどに，貴重である。」（*Ensign*「エンサイン」1976年5月号 p.7）

あなたにとって最も大切な家族のことを考えれば，末日聖徒イエス・キリスト教会の主張を研究したいという気持ちが強まるであろう。私たちはあなたに，神の聖なる神殿で行なわれる特別な儀式に従うならば，愛する家族は永遠に結ばれることをお約束する。私たちの主張を調べれば，その祝福がどのようにして得られるかがおわかりになるであろう。

神の律法と戒めを守らない人には，神が約束された祝福は保証されない。日の光栄の王国を受け継ぐには，その律法と戒めを学び，真心から従わなければならないのである。

私は厳粛に証する。真の羊飼い，私たちの主イエス・キリストは御一人であり，信仰もひとつ，バプテスマもひとつ，キリストの教会もひとつである。私はよい羊飼いの声に耳を傾けるすべての方々に，今日主の教会のメッセージを研究し，それが真であるという証を自分自身で得るようにとお勧めする。これらのことが真実であることをへりくだって証し，皆様もこの証を御自分で得て下さるように願うしだいである。これらをイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



聖餐に思うこと

十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター

聖餐式中の厳粛な黙想の時間は，私たちの生活を変え，祝福を得るのに大きな意義がある

最近のことであるが，私はそれほど遠くない地域のステーキ部大会に出席した。その後，急いだお陰で，日曜日の午後早くに帰宅して自分のワード部の聖餐会に出席することができた。全世界の教会で，非常に多くの家族が安息日のこの主の日に聖餐会に集っている。しかも大半の家族は，神の戒めを守るように導く責任を負った家庭の神権者に率いられて集っている。主は，「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様，祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし」(教義と聖約59：9)と言われた。

私は教会堂に入って行く人々を見た。通りを歩いて来る人々，車で来て駐車場に入る人々。いろいろな所から集まって来た。男性が，女性が，青年が，子供が。家族で来る人々が多かった。

家族には父親と母親がいるのが普通だが，そうでない場合もある。母親がいないことも，父親がいないことも，あるいは子供がいないこともある。ひとりの場合もある。私の家族は一時期多かったが，今はふたりだけである。

私たちが教会堂に入ると，ソールズベリー監督がいつものように優しく，温かい握手で歓迎して下さった。通路を歩いて行くと，ホームティーチャーのドクシー兄弟が会釈で歓迎し，私たちも会釈で応えた。離れていたので，握手の気持ちでした温かな挨拶であった。以前にホームティーチャーであったジェンセン兄弟が奥さんや子供たちと一緒に着席していた。扶助協会の家庭訪問教師として，私たちの家庭に霊的な光を運んでハンター姉妹を元気づけて下さるニールセン姉妹とホイットニー姉妹の姿も見えた。ある夫婦が席を詰めて隣りに私たちを座らせて下さり，後列の人が私たちの肩を抱いてよく来て下さいましたとささやいた。周囲の人全員が友人であった。いや，私たちにとって友人以上の存在，兄弟，姉妹たちであった。オルガンが静かに響き，礼拝堂の時計が聖なる時間の始まりを告げるまで，数分の黙想の時間があった。

副監督が親しげな態度の中にも威厳をもって壇上に立ち，歓迎の言葉を述べて，これから歌う讃美歌を発表した。

祭司たちは静かに聖餐台についていた。全員みだしなみが良く，まじめで，敬虔であった。同年齢の大勢の少年たちがこの日を娯楽やスポーツに費やしているというのに，彼らは主の家に来ているのである。その祭司たちの正面の席が執事の席である。彼らも身づくろいを正して，アロン神権の最初の役職につける責任をまじめに果たしていた。

私はその祭司や執事たちを見ていて，彼らが親から愛され主の戒めを守ることを教わっている良い家庭の子供たちだと実感した。それから，彼らに心を寄せるもっと別の人々のことを考えた。監督と副監督，ホームティーチャー，神権指導者と教師，日曜学校や若い男性の組織で彼らを助ける人々，スカウト活動やエクスプローラー活動の指導者，それに自分の時間を捧げ，努力を払って若い彼らを教え励ます大勢の人々。

私は，これらの祭司や執事が伝道に出て，教会の忠実なすべての長老たちに与えられた次の戒めを成就する日はそう遠くないと思った。「汝ら全世界に出で行き，一切の生くる者に福音を説き，わが汝らに与えたる権威を以て働き，御父と，子と，聖霊の名によりてバプテスマを施すべし。」(教義と聖約68：8)

開会の讃美歌と祈りの後，祭司たちが聖餐を準備している間，私たちは歌った。

父なる神よ　祈りききたまえ
主の愛の上に　われらはやすむ
(讃美歌21番)

祭司が，裂いたパンを前にして祈った。「御子のからだの記念にこれをいただくよう，また喜びて御子の御名を受け，御子を常に忘れず，またその下したまえる誡命を守ることを永遠の父なる神の御前に証明し……」(教義と聖約20：77)執事が裂かれたパンのトレイを持って礼拝堂に散った。ひとりが私たちの列に来て銀のトレイを差し出し，私はパンをいただいた。それから私がトレイを受け取ってハンター姉妹がパンをいただき，次に彼女がトレイを持って隣りの人に差し出した。そのようにしてトレイが列の全員に次々と受け渡しされた。

私は，2千年ほど前のイエスが裏切られた晩の出来事を考えていた。イエスはその夜に先立って，過越の祭の用意をさせるためにペテロとヨハネをエルサレムに遣わされた。それには，当

時の習慣として小羊のいけにえも含まれていた。いけにえの律法は父祖アダムの時代に始まり，救い主が十字架の死で自らの血を流して人類のために偉大な犠牲となられた時に至るまで引き続いて行なわれていた。

主と十二使徒が過越の食事を終えたあと，「イエスはパンを取り，祝福してこれをさき，弟子たちに与えて言われた，『取れ,これはわたしのからだである』。

また杯を取り，感謝して彼らに与えられると，一同はその杯から飲んだ。

イエスはまた言われた，『これは，多くの人のために流すわたしの契約の血である。』」（マルコ14：22—24）

これが，いけにえに代わって，これにあずかる人々に主が犠牲となられたことを思い出させ，また最後まで忠実に主に従い，戒めを守るという誓約をも思い起こさせるための，主の晩餐の聖餐であった。

そのことを考えながら，私の胸中にはコリントの教会に宛てたパウロの手紙の言葉が浮かんできた。「だから，ふさわしくないままでパンを食し主の杯を飲む者は，主のからだと血とを犯すのである。

だれでもまず自分を吟味し，それからパンを食べ杯を飲むべきである。

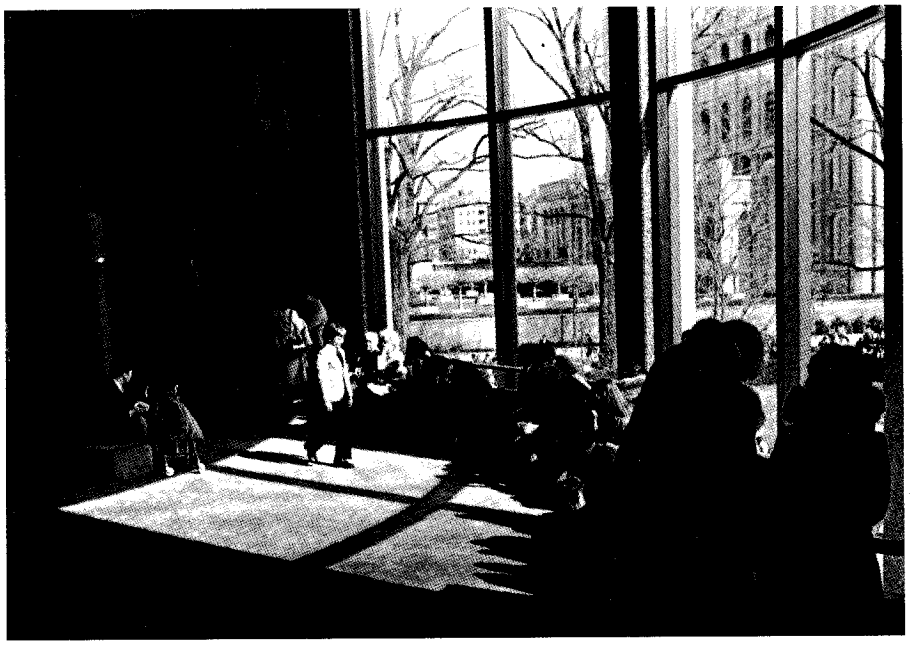
主のからだをわきまえないで飲み食いする者は，その飲み食いによって自分にさばきを招くからである。」（Ｉコリント11：27—29）

私は心配になった。そして自問してみた。「私はすべての事柄よりも神の事柄を優先し，主の戒めをみな守っているだろうか。」自分を反省し，そして決心した。常に主の戒めを守りますと主と誓約することは重大な責任であり，聖餐にあずかってその誓約を新たにすることもまた重要である。聖餐式の間の厳粛な黙想は大きな意義がある。それは自省，内省，自己を認識する時間，反省と決心の時間である。

やがてもうひとりの祭司が聖餐台にひざまずき，水にあずかるすべての人々が「かれらの為に流したまいし御子の血の記念にこれをいただくよう，また御子を常に忘れぬことを……証明し，かくして御子の『みたま』一同と共にましますよう……」（教義と聖約20：79）と祈った。

静かな黙想の時間であった。静寂を破ったのは小さな赤ちゃんの声だけであった。しかし，母親はすぐにその子をしっかりと抱いた。この聖なる儀式の間，静けさを乱すものは場違いである。しかし幼ない子供の声は主の不興を買わないであろう。主もまた，ベツレヘムに始まってカルバリの丘に終わったこの世の生活の幼年時代を，愛情深い母親によって養われたのであった。

少年たちは聖餐の儀式を終えた。続いて励ましと教えに富んだ話を聞き，閉会の讃美歌と祈りがあり，「世のわずらいを離れた」聖なる時間は終了した。私たちは帰宅途中に，通りで野球に興じる少年たちや山で週末を過ごして帰る家族の車に出会った。その時，私はこう考えた。もしもみんながバプテスマの目的を理解して，それを喜んで受け入れ，その儀式において交わす，主に仕えて主の戒めに従うという誓約を守りたいと考え，安息日には聖餐を受けて，主に仕えて終わりまで忠実に生きるという誓約を新たにしたいと思ったならば，どんなに素晴らしいことであろうか。



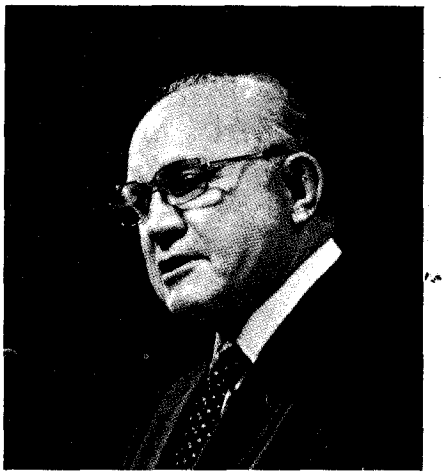
かつてある大管長が，聖餐にあずかる時に交わす誓約について話した中で，こう語ったことがある。「この誓約に伴う責任の大きさをだれが計ることができるだろうか。いかに高く，いかに広いことか。それは人の世の生活や不敬，俗悪，怠惰，敵意，ねたみ，酩酊，不正，憎悪，利己心などの諸悪を排除している。それは人に謹厳と勤勉と親切と，教会や国における義務をまっとうする責任を課している。また，隣人を敬い，神権を尊び，什分の一と献金を納め，人類への奉仕に生涯を捧げる義務を課している。」（デビッド・Ｏ・マッケイ *Millennial Star*「ミレニアル・スター」85：778）

聖餐会に出席して聖餐にあずかり，その日はさらに意義深くなった。私は，主が次のように言われた理由をさらに良く理解できた思いがした。「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様，祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。

それは誠にこの聖日は，汝命ぜられて働きを休み，いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり。」（教義と聖約59：9—10）

私はイエスがキリストであり，現在も生きておられることを知っている。また主は贖いの犠牲としてひと度死なれた後，全人類が再び命を受けて永遠の生命を得られるように復活されたことを，確かに知っている。私たちが忠実に主に従えるように，イエス・キリストのみ名により祈るしだいである。アーメン。

生けるキリスト



七十人第一定員会会員
バーナード・P・ブロックバンク

従来のキリスト教とイエス・キリストの真の教会との基本的な違いは，救い主に関する宣言の相違にある

英国諸島とアイルランドで7年以上もの間主のしもべとして過ごしてこられたのは，素晴らしい特権であり，祝福である。

先祖の住んでいたこれらの国々は美しく，私は故郷に帰った思いであった。私はこれらの地に住む人々を愛している。

キンボール大管長，英国諸島とアイルランド，ローデシア，南アフリカの末日聖徒はあなたを主の生ける予言者として愛し，支持し，また主の生ける使徒たちをも同様に愛し，支持している。

主の教会は，生ける予言者と，生ける12人の使徒の定員会を持つよう求められている唯一の教会である。

ローデシアと南アフリカの末日聖徒は人種差別の問題を抱え，主のみこころが祖国と自分たちの上に実現されることを願っている。主の立派な聖徒たちはこれらの国々にもいる。

現代は世界的に危険と不安に満ちた，変化の多い時代であり，英国諸島もその例にもれない。多くのキリスト教会が，支持者を失って教会の建物を閉鎖している。そのような中で，末日聖徒イエス・キリスト教会は発展を続け，教会活動への参加者数は増加の一途をたどっている。ここで，英国諸島における救い主の教会の成長発展について，統計を少々かいつまんでご紹介したい。

1960年にイギリス，スコットランド，ウェールズ，アイルランドで5,500万の人口に対してひとつの伝道部があり，約180名の専任宣教師がいた。

1960年前半にはステーキ部は全くなかった。それが現在では，完全に組織されたステーキ部が27と，ステーキ部設立が考慮されている地域が5つある。また，ステーキ部になる準備段階の地方部が12ある。1960年の11,000名の教会員が，現在は10万人を越える。1960年にはワード部の活動を行なうにふさわしい教会の建物はひとつもなかったが，今は美しい教会堂が175と，さらに建築中および着工待ちの教会堂が47ある。現在英国諸島には伝道部，ステーキ部，地方部，ワード部，支部その他の教会プログラムで合計376の教会ユニットが存在する。

英国諸島には主の誓約の民が大勢おり，主の宣教師や末日聖徒が訪れて，聖典に記された通りにイエス・キリストの回復された福音の聖なる原則と儀式を教えてくれるのを待っている。私たちが現在行なっていることは，これら諸国でなすべき事柄のほんの一部にすぎない。

ところが，英国諸島キリスト教会の多くが，未だに末日聖徒イエス・キリスト教会をキリスト教会と認めていない。

ロンドン・タイムズに次のような記事が載ったことがある。

「モルモンはキリスト教徒だろうか。彼らはキリストの弟子と自称し，そのため他のキリスト教宗派と肩を並べているのは間違いない……

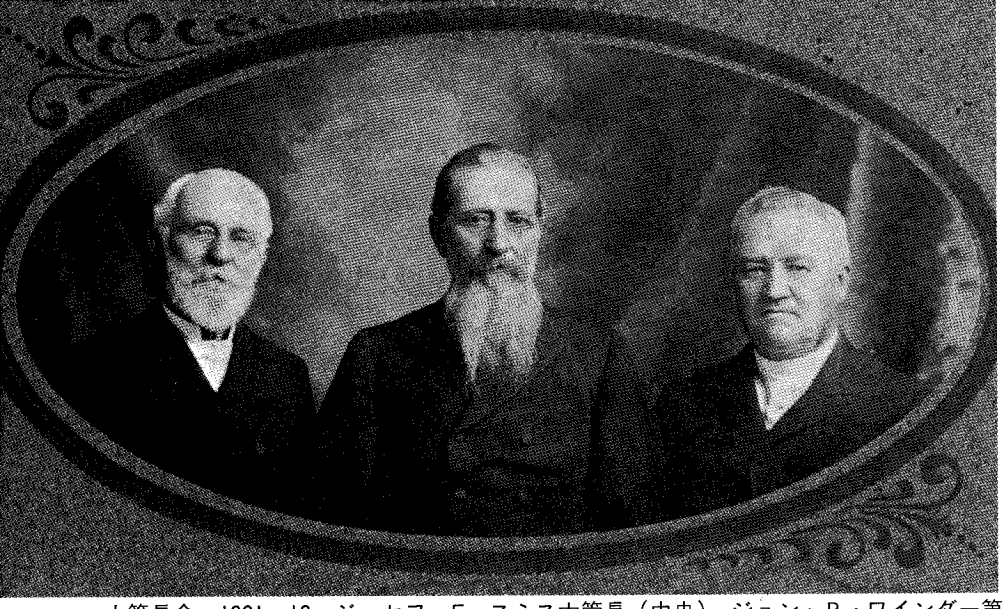
彼らを既成のキリスト教とは違った新しい宗教とみなす大きな根拠がある。彼らの従うキリストは，新約聖書のキリストなるメシヤと，昔地上の召しを終えてから新世界を訪れた復活したキリストの両方である。従来のキリスト教，つまりローマカトリックやプロテスタント等は，復活後に地上を訪れた後者のキリストの存在そのものを否定しており，モルモンが従うキリストは従来のキリスト教徒が従うキリストとは違うのである。」(『禁酒，禁茶，禁煙』*The London Times*「ザ・ロンドン・タイムズ」1976年6月18日，モルモンをテーマの増補面)

多くのキリスト教会が，モルモンすなわち末日聖徒イエス・キリスト教会の礼拝するイエス・キリストとは違ったイエス・キリストを礼拝しているのは事実である。例えば，英国教会の信仰箇条の第1条には，「体なく器官なく感情のない永遠の唯一なる生ける神がまします」とある。

末日聖徒イエス・キリスト教会は体があり，器官があり，感情がある神とイエス・キリストを礼拝している。また私たちは，神会が永遠の父なる神と，神の御子であり私たちの救い主であるイエス・キリストと，聖霊という別々の御三方から構成されていることを信じている。神会とその属性に関するこれらふたつの概念は，全く相反している。

聖書のイエス・キリストは，復活の前も後も骨肉の体と感情とを備えておられる。

救い主は復活後，使徒たちのところを訪れ，彼らにこう言われた。「わたしの手や足を見なさい。まさしくわたし



大管長会，1901—10。ジョセフ・F・スミス大管長（中央），ジョン・R・ワインダー第一副管長（右），アンソン・H・ルンド第二副管長（左）（ユタ州歴史協会提供）

なのだ。さわって見なさい。霊には肉や骨はないが，あなたがたが見るとおり，わたしにはあるのだ。

〔こう言って，手と足とをお見せになった。〕（ルカ24：39—40）

イエスは弟子たちに次のように言って，にせキリストに気をつけるよう警告された。「人に惑わされないように気をつけなさい。

多くの者がわたしの名を名のって現れ，自分がキリストだと言って，多くの人を惑わすであろう。……

にせキリストたちや，にせ預言者たちが起って，大いなるしるしと奇跡とを行い，できれば，選民をも惑わそうとするであろう。」（マタイ24：4—5，24）

主は十戒の最初の戒めの中で，聖典に記されている生ける神を礼拝しなさい，人の想像による神を創り出したり拝んだりしてはならないと命じられた。「あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない。

あなたは自分のために，刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの，下は地にあるもの，また地の下の水のなかにあるものの，どんな形をも造ってはならない。

それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。」（出エジプト20：3—5）しかし大勢の人々が，人の造った像にひれ伏している。

救い主はこの世におられた時，予言者や聖典を信じると言いながら生けるイエス・キリストを受け入れない強大なパリサイ人の宗教を非難された。パリサイ人は信者たちに天国に救われると約束しながら，骨肉の体と感情を持った生けるキリストを受け入れようとしなかったため，イエスから次のような非難を受けた。「偽善な律法学者，パリサイ人たちよ。あなたがたは，わざわいである。あなたがたは，天国を閉ざして人々をはいらせない。自分もはいらないし，はいろうとする人をはいらせもしない。」（マタイ23：13）

主は末日の啓示の中でも，神の権威なしに人間や権力によって作られて，信者に天国への救いを約束する宗教には惑わされないようにと，再び警告しておられる。

主はこのように言われた。「われは主なる汝の神なり。われこの誡命を汝に与う。すなわち人はわれに由らずまたわが律法なるわが言によらずして父に来るべからず，と主は言う。

主なる汝らの神言う。この世にあるあらゆるものは，たとえ人により王により公によりまたはそのほか権力によりまたは名義上のことにより，何にてもあれわれに由らずまたはわが言によらずして定めたることは，崩れ去りて人の死にたる後復活に於てもその以後に於ても遺ることなかるべし。

およそ遺るところのものはわれに由るなり。われに由らざるものは何にても振棄てられて滅ぶべきなり。」（教義と聖約132：12—14）

人が神の王国に救われて永遠の生命を得られるように，主が定められた道はただひとつである。それは感情，感覚，体を有する生けるイエス・キリストを通じ，イエス・キリストによる。イエス・キリストの戒めを知って，それを守ることによる。

私たちはにせキリストを拝んでも，人間の教えや戒めに従っても，救いと永遠の生命を得ることはできない。

人が作った教えや慣習を守っていたパリサイ人は，救い主から再度叱責された。主は彼らにこう言われた。「この民は，口さきではわたしを敬うが，その心はわたしから遠く離れている。

人間のいましめを教として教え，無意味にわたしを拝んでいる。」（マタイ15：8—9）

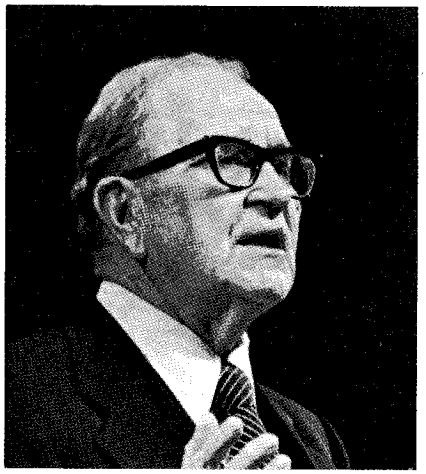
神が体も器官も感情もないという考えはイエス・キリストの教えでもなければ聖典の教えでもなく，人間の教えであって，そのような神を拝むことは無意味である。

主が御自身の姿かたちに似せて人間を造られて以来，人間は金の子牛や刻んだ像など，礼拝の対象として偽りの神々を造ってきた。そしてこれまでに選民をも含めておびただしい数の人々があざむかれ，惑わされてきた。

永遠の生命を得るためには，唯一の真の神とイエス・キリストを知らなければならない。イエスは言われた。「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）

末日聖徒イエス・キリスト教会が世の民に告げるメッセージは，永遠の父なる神とイエス・キリストが生きておられ，御二方とも不死不滅の骨肉の体と感情を備えた御方であり全人類は神の子供で，神の姿かたちにかたどって創造されたこと，キリストは予言者ジョセフ・スミスを通じてキリストの教えと戒めと儀式を主のすべての聖典に記された通りに備えた御自身の教会を回復されたということである。

私は，イエス・キリストが生きておられ，やがて威光と栄光に包まれてこの地上に再臨されることを証する。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



神秘でもなく，隠されたものでもない

七十人第一定員会会員
セオドア・M・バートン

復活後の救い主の大いなる教えを世は理解していない。しかし，私たちにはそれがある。死者のための業がその教えの中心である

兄弟姉妹ならびに友人の皆様，ブロックバンク長老が今話されたことは確かである。私はそのことを知っており，皆様もそれを御存知と思う。私はブロックバンク長老に引き続いて話を進めたい。

私は使徒行伝1章の初めの3節を読みながら，ひとつの思いが心に浮かんできた。ルカがこのように記した箇所である。

「イエスが行い，また教えはじめてから，お選びになった使徒たちに，聖霊によって命じたのち，天に上げられた日までのことを，ことごとくしるした。

イエスは苦難を受けたのち，自分の生きていることを数々の確かな証拠によって示し，40日にわたってたびたび彼らに現れて，神の国のことを語られた。」

イエスは復活後，この世にいた間に経験し理解したよりもはるかに多くの力と知識を，神からお受けになったに違いない。しかし私たちは，イエスが復活してから弟子たちに教えを説かれた40日間のことを，実際にはほとんど知らないのである。イエスは弟子たちに何を教えられたのだろうか。

イエスがこの世で導きと恵みを施された3年間の教えはたくさん残っている。しかし，復活されたキリストの教えは，不思議なほど，ほとんど知られていない。けれどもその教えは，復活前に教えられたこと以上に大切であったことは確かである。

しかしながら，もしもその40日間にイエスが教えられたことは皆目わからないという印象を与えたとすれば，それは私の間違いである。その教えは，使徒たちが聖徒に宛てて書いた手紙の中に，間接的な形で示されているからである。だれもがその言葉の意味を理解したわけではないだろうが，手紙を受け取った人々は，確かにその意味を理解したはずである。一例はヨハネの第一の手紙の2章20節である。

「しかし，あなたがたは聖なる者に油を注がれているので，あなたがたすべてが，そのことを知っている。」

さらに27節で説明されている通り，油を注いで教会員にすべてのことを教えるということを，現在どこの教会が理解し，また実行しているだろうか。

「あなたがたのうちには，キリストからいただいた油がとどまっているので，だれにも教えてもらう必要はない。この油が，すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって，偽りではないから，その油が教えたように，あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい。」

その意味が現今のキリスト教世界に知られていないこの聖句は，ヨハネから手紙を受け取った人々にとっては大切な意味を持っていたに違いない。私たちの教会の熱心な会員は，当時のキリスト教徒と同じようにこの教えを理解することであろう。

もうひとつの例は，コリント人への第二の手紙1章21節から22節のパウロの教えである。

「あなたがたと共にわたしたちを，キリストのうちに堅くささえ，油をそそいで下さったのは，神である。

神はまた，わたしたちに証印をおし，その保証として，わたしたちの心に御霊を賜わったのである。」

パウロがここで述べている結び固めの力は，変貌の山でペテロ，ヤコブ，ヨハネに授けられている。予言者エライジャによって回復されたその力が，イエスによって使徒たち全員に与えられたことは，マタイによる福音書18章18節に記録されている通りである。

「よく言っておく。あなたがたが地上でつなぐことは，天でも皆つながれ，あなたがたが地上で解くことは，天でもみな解かれるであろう。」

十字架につけられた後のイエスの教えは，非常に神聖なため，書き物に残されなかった。しかし，キリスト教徒の義務にもっと忠実になるように教会員を励ますために，初期の教会の忠実な教会員たちに与えられた使徒の言葉の中にその一部がうかがえる。

イエスは死後，復活されるまでの間に何をされただろうか。イエスがすぐに天父のみもとへ帰られなかったことは知る通りである。ヨハネによる福音書の20章17節に，復活されたイエスがマグダラのマリヤに語られた言葉が記録されている。

「わたしにさわってはいけない。わたしは，まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ，わたしの兄弟たちの所に行って，『わたしは，わたしの父またあなたがたの父であって，わたしの神またあなたがたの神であられるか

たのみもとへ上って行く』と，彼らに伝えなさい。」

イエスがこの間天で御父と一緒でなかったとすれば，どこで，何をしておられたのだろうか。

死んでから復活されるまでの間，イエスは十字架の上で強盗たちに約束した通りに，霊界へ下って行かれた。そこでイエスは獄にいる霊たちに福音の伝道の道を開かれた。ペテロは第一の手紙3章18節と19節にこう記している。

「キリストも，あなたがたを神に近づけようとして，自らは義なるかたであるのに，不義なる人々のために，ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし，肉においては殺されたが，霊においては生かされたのである。

こうして，彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き，宣べ伝えることをされた。」

ジョセフ・F・スミス大管長はこの素晴らしい出来事を，高価なる真珠の29節，30節に記している。

「こうして不思議に思っていると，私の眼が開かれ，理解力が強められた。そして私は，主が真理を受け入れなかった邪悪な者，不従順な者たちの間へ自ら行って教えられたのではないことを知った。

見よ。主は義人の中から軍勢を組織し，使者を任命して権威と権能とを与え，闇の中にいる者たち，さらにはすべての人の霊のもとに福音の光を携えて行くよう命じられた。このようにして死者に福音が宣べ伝えられた。」

「神は人をかたよりみないかた」(使徒10：34）であるので，この世にいた間に福音を聞く機会がなかった人をとがめるのを良しとされない。救いのメッセージを聞くことのできない時代や場所に生まれた人々もいる。生前に福音を受け入れる機会のなかった人を罪ありとするのは不公平である。死者の救いは，イエスが復活後の40日間に説かれた教えのひとつである。

ペテロは，イエスが獄にいる霊たちのところへ行かれたわけを，福音を宣べ伝えるためと説明した。第一の手紙4章6節に次のように記されている。

「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは，彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが，霊においては神に従って生きるようになるためである。」すなわち，地上で執行された代理の儀式を，霊界で受け入れることによって救いを得るということである。

この全人類のための救いの原則は，あらゆる子供たちに対して神が抱いておられる慈悲と親切と愛を反映している。このように気高く重要な原則が，現今のキリスト教世界から忘れ去られているとは，不思議なことではないだろうか。

この儀式は初期のキリスト教会でごく普通に行なわれていた。死者のための救いの儀式は一般的な慣習であり，それはパウロが，万人にもたらされる復活の証明として引合いに出したほどである。パウロはコリント人への第一の手紙15章29節にこう書いている。

「そうでないとすれば，死者のためにバプテスマを受ける人々は，なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらないとすれば，なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」

初期のキリスト教徒たちが死者のための代理の儀式を行なっていたことは，疑いのない事実である。

現在のキリスト教にこの知識が欠けていることが，私にとっては，真理からの背教があったことの証拠である。イザヤは24章5節にこう記している。

「地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき，儀式を変え，とこしえの契約を破ったからだ。」（欽定訳イザヤ）

この教義と儀式を回復する必要があった。宗教改革の時代を経ても，賢人さえこれらを回復することができなかった。これらの教義は，福音の回復によって天からもたらされたのである。ジョセフ・スミスでさえ，これらの教義を考え出すことはできなかった。それは，人手によらずに山から切り出されて全地に満ちる石の一部であった。（ダニエル2：34—35，44—45参照）

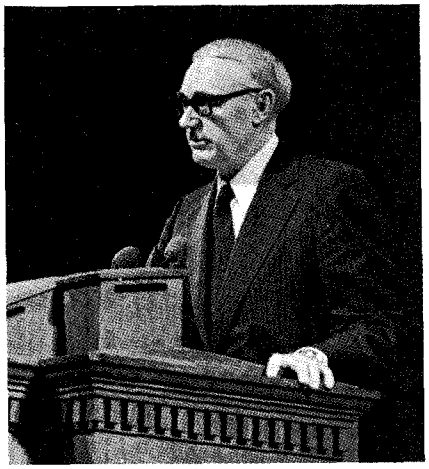
この王国は今や全地に広がりつつある。そして地上には，かつてイエスが復活後の40日間に啓示されたと同じ神聖な原則を教えてくれる予言者がいるのである。この事実を理解することは，全教会員にとって，祝福を受けられるようにふさわしく正しい生活をしなさいと勧める力強い警告である。その祝福は，これを信じて行なう正しい人々に啓示されるであろう。

今，世界に急激な高まりを見せる系図への関心に，この業の急速な進展を見ることができる。それがごく自然なために，そこに主のみ手があるのを認める人は少ないが，み手は確かにある。系図に関心を持つ人々は，必ずや「なぜ？」と問うであろう。彼らはその答えを研究しさえするならば，回復された福音を見いだし，天から力を受けることであろう。丁度昔のイエス・キリストの教会員たちと同じように。

教会の神殿建設は速度を増し，死者の救いの儀式も活発になっている。それは，この業にもっと真剣に取り組むようにという，教会員に対する警告である。死者の救いの業は伝道活動の続きであり，完成である。実際，それは伝道の重要な一部分である。この責任をないがしろにすることは，自分の救いをも危うくすることである。

この業が急を要するものであることを感じることができる。またそこに主のみ手を見ることができる。この業は継続しなければならない。この知識は，主を知り，主を愛する人々にとって神秘ではないし，隠されたものでもない。私は教会員であると非教会員であるとを問わず，出会うすべての人々にこの知識を求めるよう教えなければならないと感じている。これは私の証である。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

☆　　☆



心が内に燃えたではないか

七十人第一定員会会員
ローレン・C・ダン

研究し，祈る熱心な探究者に，聖霊は福音の真理を告げ知らせる

愛する兄弟姉妹，この大会に出席できて光栄である。またオーストラリアで伝道する機会にあづかっていることを光栄に思っている。

オーストラリアに福音が伝えられて今年で126年になる。

オーストラリアに福音を紹介したのはジョン・マードックとチャールズ・ウォンデルというふたりの宣教師で，1851年10月30日に彼らはシドニーに到着した。当時マードック兄弟は59歳で，教会初期の忠実な教会員のひとりであった。彼はジョセフ・スミスが初めて大祭司に聖任した人々の内のひとりであり，教義と聖約の啓示にふたつの召しが言われている（教義と聖約52：8，99：1参照）。彼は生後半年の双子を残して，妻に先立たれた。予言者ジョセフ・スミスが家に引き取って育てたのがその子供たちである。彼は一時期ジョセフ・スミスの家に寄宿していたが，次のような出来事を記している。「ジョセフ兄弟の家に身を寄せていた冬季間……私たちは何度も，予言者の部屋で祈り会を持った。……そのようなある会で，予言者は私たちにこう語った。『私たちが神のみ前にへりくだるならば，主のみ顔を拝するに違いない。』真昼時，私の心の眼が開かれ，悟りの目に光が注がれて，私はひとりの御方の姿を見た。この上なく慈愛に満ちた，その御方のみ顔の様子は太陽のようであった。髪は明かるい銀髪で，巻き毛は風格があった。目は射抜くような青色で，首すじは白く透き通るようで，首から足までゆったりとした真白な衣をつけていた。あれほどに白い衣は見たことがない。表情は心の奥を見通すようだが，しかし愛があふれていた。私が頭の先から足もとまでしっかり見定めようとしているうちに，示現は閉じられた。その後何ヵ月間もその時経験した強烈な愛の印象が頭に残っていた。」（ジョン・マードック *An Abridged Record of the Life of John Murdock*「ジョン・マードックの生涯の抄録」p. 26）

この神権時代にオーストラリアでイエス・キリストの福音のみ業を始めたのはこのような人物であった。オーストラリアの教会の初期の時代には，大勢の人が教会に加わり，カナダや合衆国へ移住した。1955年になると，デビッド・O・マッケイ大管長が来訪して，聖徒たちに自国にとどまってそこにシオンを築くようにと勧めた。

オーストラリアを訪れた2人目の予言者は，スペンサー・W・キンボール大管長である。それは1976年2月，第1回の地域大会が開かれた時のことである。キンボール大管長のメッセージは，「発展！」であった。現在，オーストラリアの教会は，世界の他の地方と同様に発展の途上にある。

その発展をもたらしたのは，教会を研究し，教えを調べる人々の心の状態にある。それはこのように説明できるであろう。マタイ伝の16章にあるように，救い主は弟子たちに尋ねられた。「『人々は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った，『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし，ほかの人たちは，エリヤだと言い，また，エレミヤあるいは預言者のひとりだ，と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた，『それでは，あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った，『あなたこそ，生ける神の子キリストです』。

すると，イエスは彼にむかって言われた，『バルヨナ・シモン，あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは，血肉ではなく，天にいますわたしの父である。』（13—17節）

ペテロは救い主と行動を共にし，語り合い，多くの奇跡を目にしたが，それでもペテロが「あなたこそ，生ける神の子キリストです」と言った時に，救い主は，そのことをペテロに啓示したのは血肉ではなく天におられる御父であると告げられた。

このことは，物事を知るのに実際に目で見るよりももっと確かな方法があることを教えている。それは，イエス・キリストを見ても神の御子であるとわからなかった人が大勢いたことからも明らかである。イエスをキリストと知った人は，天の御父によってそのことを啓示されたためである。

このみたまの示しは，ルカ伝24章に述べられている。ふたりの弟子がエマオの村に通じる道を歩いていた。そこへ救い主御自身がやってきて，彼らに同行して話をされたが，弟子たちは「イエスを認めることができなかった。」やがて最後になってから彼らの目が開かれてイエスであることを知ったのであ

る。32節にはこうある。「彼らは互に言った,『道々お話しになったとき，また聖書を説き明してくださったとき，お互の心が内に燃えたではないか。」

福音が真実であるという証は，論理や外見と共に，みたまの証によって知らされる。

「心が内に燃えたではないか」という言葉は，キリストの時代やジョン・マードックの時代と同様，現代にも，イエス・キリストの福音を求める人にあてはまる言葉である。

主は近代の啓示の中で，みたまによって真理を見きわめる方法を教えておられる。

教義と聖約9章で，主は簡潔にこう述べられた。「されど見よ，われ汝に告ぐ，汝心の中によく思い計り，その後願うこともし正しからば汝願わざるべからず。願うこと正しからば，その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感ぜしむ。」（8節）

「汝にその正しきを感ぜしむ」という言葉は，温かい平安な気持ち，胸を打つ気持ちを言う。真理の研究者は，宣教師から教えを聞いた時にこの気持ちを感じ始める。また，宣教師が帰って行った後にこの気持ちを感じることもあろう。聖徒たちの集まりで感じることもあろう。教えについて読んだり，

勉強したり，祈ったりした時に感じることもあろう。その気持ちはイエス・キリストから来る，独特な平安と喜びである。それは，骨肉によるよりももっと大きな知識と確かな証をもたらす感情である。

最近オーストラリアのキャンベラで改宗した人がこのような話をした。「私は宗教を大切にする家庭に生まれ，クリスチャンらしく厳格に育てられました。でも，20歳頃に家を離れて教育大学に通うようになってから，教会に行かなくなりました。

その時から，何とはなく目的のなさを感じて，毎年目新しい宗教の教えを捜しては研究するようになりました。ヨガを研究して瞑想したり，ヒンズー教や仏教や禅や，プロテスタントのほとんどとユダヤ教について本を読みました。でもどういうわけか，どこにも自分が求めていたものはありませんでした。それで私は求めるのをやめました。長老たちが家に来て下さったのは，それらがごっちゃになって混乱した状態の時のことでした。私はもう無駄な勉強はしたくない気持ちでした。しかし，聞くだけ聞いてみて，決めるのはそれからでもよいと考えました。最初の数回は，それまでに聞いてきたこととさして変わった点があるようには思えませんでした。しかし，長老たちが忍耐して下さったお陰で，それからだんだんに彼らの言っていることは本当に確かであるという気持ちを感じ始めました。長老たちによく祈るように勧められて祈りました。でもまだ確信がありませんでした。長老たちは，聖霊が胸に宿ると心に暖かい喜びを感じると説明してくれましたが，私にはちょっと想像できませんでした。でも長老たちの言葉は信じました。

ある晩，長老たちから次の土曜日にバプテスマを受けてはいかがですかと言われました。私は驚いて，準備もできていないと思いましたが，自分で考えたり祈ったりする時間としてあと1週間延ばしてもらってバプテスマを受けることに同意しました。その時，ハード長老がネルソン長老に証を述べて下さいと頼みました。ネルソン長老は心から証を述べました。途中でネルソン長老から私の心に暖かいものが引火したような感じがして，話を聞く間に心にある小さな雲のようなものが大きく強くなってきました。

ネルソン長老の証が終わると，ふたりの長老は聖霊の存在を感じましたとはっきり言いました。しかし，私が自分の感じたことをふたりに話したのは，数日後のことでした。胸がいっぱいで，とても話せなかったのです。長老たちは，今晩寝る前にモルモン経のニーファイ第三書の11章から26章を読んで下さいと言って帰って行きました。彼らが帰るとすぐ，私は夢中でその箇所を読みました。読んでいると，暖かい気持ちをまた感じました。もうそれ以上の説得は必要ありませんでした。」

すべての人がこのような経験をするわけではない。しかし多かれ少なかれ，真理を知りたいと願う人々の人生に同じみたまがやってくるのである。すべての教会員と，研究し，祈り，教会に出席して，真剣に教えを学ぶすべての人々は，自分で答えを受けるであろう。

それはこの通り，明快である。血肉が啓示するのではなく，天の御父が啓示されるのである。研究している間にいつか，この確認のみたまが胸に宿るのである。その結果は真実である。今，この話を耳にしている人で教会を研究してみよう，教えを調べてみようと考える人がいるならば，そうすることを是非お勧めしたい。複雑ではなく，むずかしいことでもない。ただ，真理を知りたいと望む人，自分の読み聞きしていることについて心を込めて主に尋ねることのできる人であれば，それでよいのである。

私も，そのみたまを感じたことがある。私も，神が生きておられ，イエス・キリストが神の御子であることを知っている。これは私の哲学ではない。私の信念ではない。みたまによる知識である。この教会は真実である。ジョセフ・スミスは神の予言者であり，スペンサー・W・キンボールは現代の神の予言者である。私たちの携わる業は主のみ業である。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

祈り

十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン

聖典の中で祈りが非常に強調されているのは，祈りが一人一人にとって最も確かな援助の源だからである

愛する兄弟姉妹の皆さん，本日2度目の話を前に，私は今謙遜な気持ちでこの場に立っている。私はこの特権に感謝している。そして，これから個人の祈りの力についてお話するに当たり，主のみたまが共にあって，私たちが天父との交わりを深められるようにと願っている。

これまでの人生を通じて，祈りに頼りなさいという勧告は，私が受けたどの助言よりも貴重であった。祈りは私にとって欠くことのできないものであり，頼みの綱であり，絶えざる力の源であり，また聖なる事柄に対する知識の基礎となるものである。

祈りに関する聖典の勧告

「どんなことをする時も，どこにいても，決してひとりではないことを覚えておきなさい。」これは私が少年の頃，父からよく聞いた忠告である。「天のお父様はいつも近くにおられる。だから，お祈りをして手を伸ばせば，天のお父様の助けが得られるんだよ。」父のこの勧告は正しかった。私たちは，最善を尽くして目に見えない力が得られることを神に感謝するものである。

聖典には祈りの大切さを確信させる勧告や印象的な祈りの例，効果的な祈りの仕方についての勧告が数多く記されている。

イエスはこの地上でみ業に携わっておられた時，失望せずに常に祈るべきことと，誘惑に陥らないように目をさまして祈ることを教えられた(ルカ18：1；マタイ26：41参照)。主はまたこの神権時代に次のように言われた。「汝らかの悪魔に征服せられて，今居る所より立ちのかされざる様常に祈るべし。」(教義と聖約93：49)

また，ジョセフ・スミスを通じて次のような警告が与えられている。「およそ人何事にも神を怒らせずまたは何事にも神の怒り燃ゆることなし，ただすべての事の中に神の御手のあることを告白せず，その誡命に従わざる者に神の怒りあり。」(教義と聖約59：21)

私たちにはさらに次のような教えが与えられている。復活した主は西半球のニーファイ人を訪れたもうた時，民に向かってこう言われた。

「汝らは悪魔に誘いまどわされてそのとりことならぬよう，たえず目を覚して祈らざるべからず。

汝らは誘惑に負けざるよう，たえず目を覚して祈らざるべからず。そはサタンが汝らを支配して麦のごとくにふるわんと欲すればなり。

されば汝らはわが名によりてたえず御父に祈らざるべからず。

而して，汝らが必ず受くと信じて，わが名によりて御父に乞い求むるものは，その正当なるものなる限り，すべて汝らに与えらる。」(Ⅲニーファイ18：15，18—20)

天父との交わりを深める方法

さて，ここで天父との交わりを深めるにはどうすればよいか，その方法を幾つか提案したいと思う。

1．しばしば祈る。聖典に「朝も昼も晩も」(アルマ34：21)とあるように，毎日少なくとも2，3回は天父と交わるひとりだけの時間を持つべきである。私たちは常に祈るように命じられている(Ⅱニーファイ32：9；教義と聖約88：126参照)。これは，「絶えず心の中で主に祈れ」(アルマ34：27)ということである。

2．黙想し祈ることのできる適当な場所を捜す。私たちは，「一人で部屋に居るときも，秘密の所に居るときも，また野に居るときも」(アルマ34：26)そのようにするよう勧告されている。これは，気を散らさないで「ひそかに」祈るということである。(Ⅲニーファイ13：5—6参照)。

3．祈る用意をする。祈りたくなければ，祈りたくなるまで祈る。謙遜になる(教義と聖約112：10参照)。赦しと憐れみを求める(アルマ34：17—18参照)。快く思っていない相手を赦す(マルコ11：25参照)。しかしこれだけでは十分ではない。聖典には，もし私たちが「貧しい者や着る物のない者の願いをことわり，病んでいる者，あるいは悩んでいる者を見舞わず，持物がありながらその幾分を貧しい者に施さない」(アルマ34：28)ならば，私たちの祈りは空しいものになると警告されている。

4．祈りは目的をもった適切なものでなければならない。決まりきった祈りをしない。もし友人が毎日同じことを言い，日常の雑仕事のような決まりきった話をし，そして話し終えた途端に待ち切れないようにテレビをつけ，私たちに目もくれないとしたら，私た

ちは平静な気持でいられるだろうか。

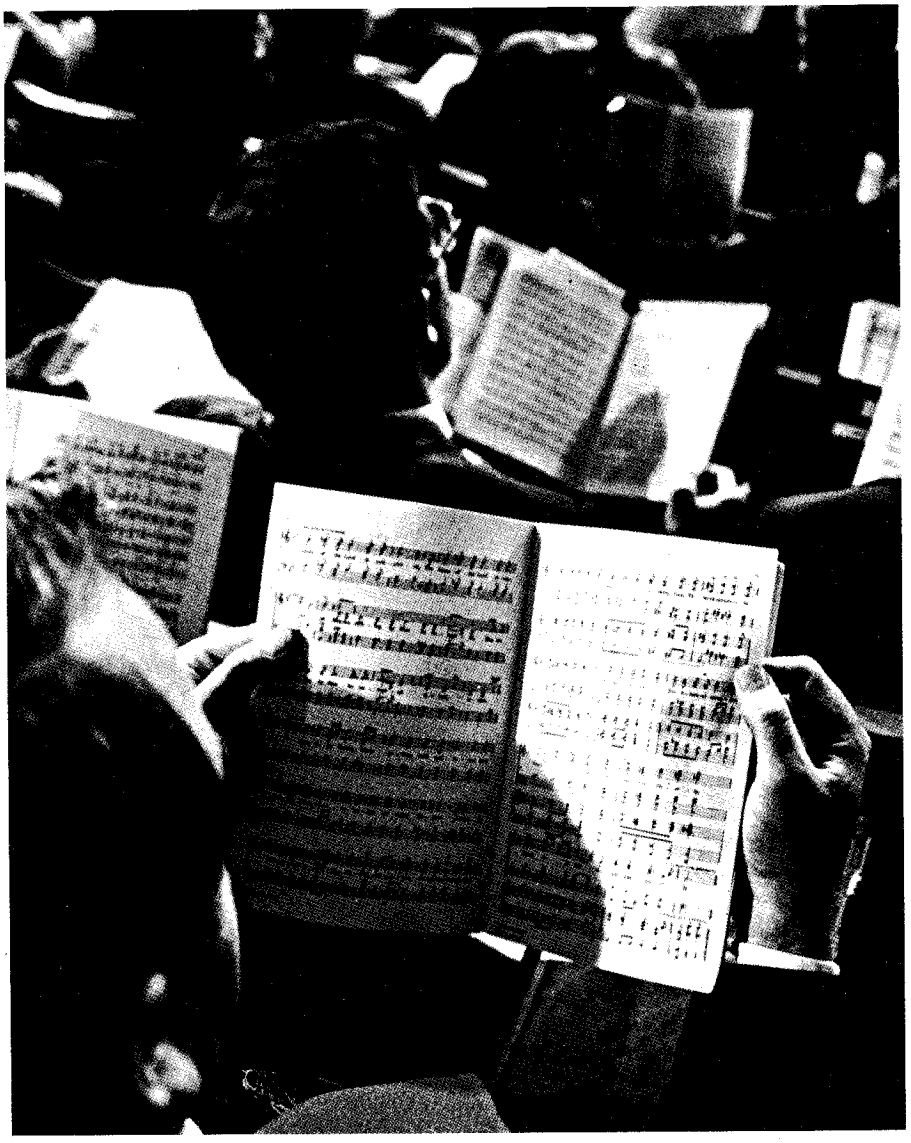
では，何のために祈る必要があるのだろうか。私たちは自分の仕事について，また私たちに敵対するものや悪魔の力を防ぐことができるように祈る必要がある。さらに，自分のためと自分の周囲の人々のためを思って祈るべきである（アルマ34：20，22—25，27参照）。私たちは，自分の行なうすべての働きと決定について主のみこころを伺うべきである（アルマ37：36—37参照）。また，自分に与えられたすべてのものについて感謝の気持ちを胸に満たし，すべての事の中に神のみ手のあることを告白すべきである。（教義と聖約59 21参照）感謝しないことは，大きな罪のひとつだからである。

主は近代の啓示の中で，次のように語っておられる。「およそすべてを感謝して受くる者には栄光を与えられん。而して，この世のものもまた彼に加えらるることすなわち百倍よりも多からん。」（教義と聖約78：19）

私たちは自分に必要なものを願い求めるべきであり，自分にとって害となるものを求めないようにしなければならない（ヤコブ4：3参照）。私たちは諸々の問題を克服できるように力を求める必要がある（アルマ31：31—33参照）。私たちはまた，大管長や教会幹部，ステーキ部長，監督，定員会会長，ホームティーチャー，家族の一人一人，社会の指導者に霊感が与えられるよう，また彼らが幸福であるように祈らなければならない。ほかにも祈ることはいろいろある。私たちは聖霊の助けによって，どう祈ったらよいかを知ることができる（ローマ8：26参照）。

5．祈り願ったならば，次にその願いがかなえられるように努めなければならない。私たちは耳を傾けなければならない。私たちがひざまずいている間に，主は私たちに助言を与えたいと望んでおられると思う。

「真心から祈るということは，どのような徳や祝福を願い求める時でも，その祝福を受けるために努力し，またその徳を養わなければならないということである。」（デビッド・O・マッケイ，*True to the Faith*「信仰に忠実に」p. 208）



合唱団

祈りの力

私は自分自身の経験から祈りの効力というものを知っている。1922年，私は宣教師として北部イングランドで伝道に従事していたが，当時この教会に対する反対は非常に激しかった。そして妨害が激しさを増し，極めて険悪な状態になったため，伝道部長は私たちに一切の街頭伝道をやめ，場合によってはチラシ配りもやめるように指示した。

同僚と私はサウスシールズに行って，そこの聖餐会で話をするように招かれていた。手紙には次のように書かれていた。「小さな礼拝堂ではありますが，私たちはこの礼拝堂を一杯にできると確信しております。この会堂に集う人人の多くは，私たちについての虚偽の印刷物を信じていません。あなた方がおいで下さるならば，きっと素晴らしい集会になると思います。」私たちはその招待に応じることにした。

同僚と私は断食し，心からの祈りを捧げて集会に出かけた。私の同僚は福音の第一原則について話す予定であった。一方，私は背教について話すため十分に勉強し備えた。集会は素晴らしい雰囲気に包まれていた。まず同僚が福音の第一原則について話し，みたまに満ちたメッセージを述べた。次いで私は自由について話した。このような経験は初めてであった。私は話し終え

て席に着くと，背教についての話をしなかったことに気づいた。私は，予言者ジョセフ・スミスについて話し，彼の聖なる使命とモルモン経が真実であることを証したのであった。集会が終わると，数人の人々が私たちのところにやってきて（その中の何人かは教会員ではなかった），こう言った。「今夜私たちはおふたりが教えておられる通り，福音が真実であるという証を受けました。もうバプテスマを受ける準備はできています。

この言葉は，私たちの断食と祈りに対する答えであった。なぜなら，私たちは友人や求道者の心に触れることだけを話せるように祈っていたからである。

1946年，私はジョージ・アルバート・スミス大管長から戦争で荒廃したヨーロッパへ行くように告げられた。私の任務は，ノルウェーから南アフリカにかけてこの教会の伝道部を再設し，福祉物資の配給プログラムを設立することであった。

私たちはロンドンに本部を設置し，それから大陸に駐留している軍隊と予備協定を結んだ。私が一番先にお会いしたかったのは，ヨーロッパ駐屯の米軍の司令官だった。彼はドイツのフランクフルトに駐屯していた。

同僚と私はフランクフルトに到着すると司令官との面会の約束を取りつけようと司令部を訪ねた。ところが，係の者の返事はこうだった。「将軍にはあと少なくとも3日間はお会いになれません。将軍は多忙を極め，スケジュールは面会の約束で一杯ですから。」

私は，私たちが彼に会うことは非常に重要なことであること，明日はベルリンに行くことになっているのでそんなに待てないことを話した。

しかし，残念ながら要望には応えられないという返事だった。

私たちは建物を出て外の車に戻った。そして帽子を脱ぎ，ふたりで一緒に祈りを捧げた。それから再び建物の中に戻って行くと，今度は別の人が先の職務についていた。そして15分もしないうちに私たちは将軍に面会することができたのである。私たちは将軍に会って，彼の心を動かすことができるようにと祈っていたのであった。どこから寄贈されるものであろうと，救済物資はすべて軍に託して配給するように命じられていたからである。私たちは将軍に，私たちの目的は自分たちの手で集めた物質を自分たちの手で自分たちの民に配給することであると説明した。

私たちは福祉プログラムとその運営方法について説明した。すると将軍はこう言った。「いいでしょう。行ってあなた方の物資を集めなさい。救済物資が集まるまでには，方針が変わっているかもしれません。」そこで私たちは言った。「将軍，私たちの救済物資はすでに集まっています。いつでも集まっているのです。ソルトレーク・シティーの教会の大管長会に電報を打てば，24時間以内に物資を積んだ貨車がドイツに向けて出発することでしょう。私たちには日用品を一杯に貯えた倉庫がたくさんあるのです。」

そう話すと，将軍は「そのような見通しをもった人々がいるとは初耳だ」と言った。将軍は，私たちの祈りの通り心を動かされたのである。私たちは，自分たちの手で自分たちの民に配給してもよいという許可証を得て，将軍の事務所を出た。

神は私たちのことを心にかけておられ，私たちが神に寄り頼んで正義を行なうならばいつでも応えて下さる。喜ばしいことに私たちはそのことを知っている。全能の神を信頼し，へりくだって祈ることにより神の導きを求めることをいとわない人には何の恐れもない。たとえ迫害が起こり，災難が来ようとも，私たちは祈ることによって安心感を得ることができる。神が私たちの心に平安を下さるからである。この平安，つまり平静な心は人生における最高の祝福である。

私がまだアロン神権者であった頃，祈りについて歌った詩を教わったことがある。それは今でも私の心に残っている。

どんな方法でかわかりませんが，
神は必ず祈りに答えて下さいます。
祈りをいつも聞いている
いつか必ず答えると，
神はそう言われました。
だから，私は祈り，静かに待ちます。
願いが望み通りに答えられなくても，
私は神にゆだねます。
みこころには及ばないので。
神は私の願いをかなえて下さいます。
お願い以上の祝福を与えて下さることもあるのです。
（エライザ・M・ヒコック「祈り」より）

祈りに関する証

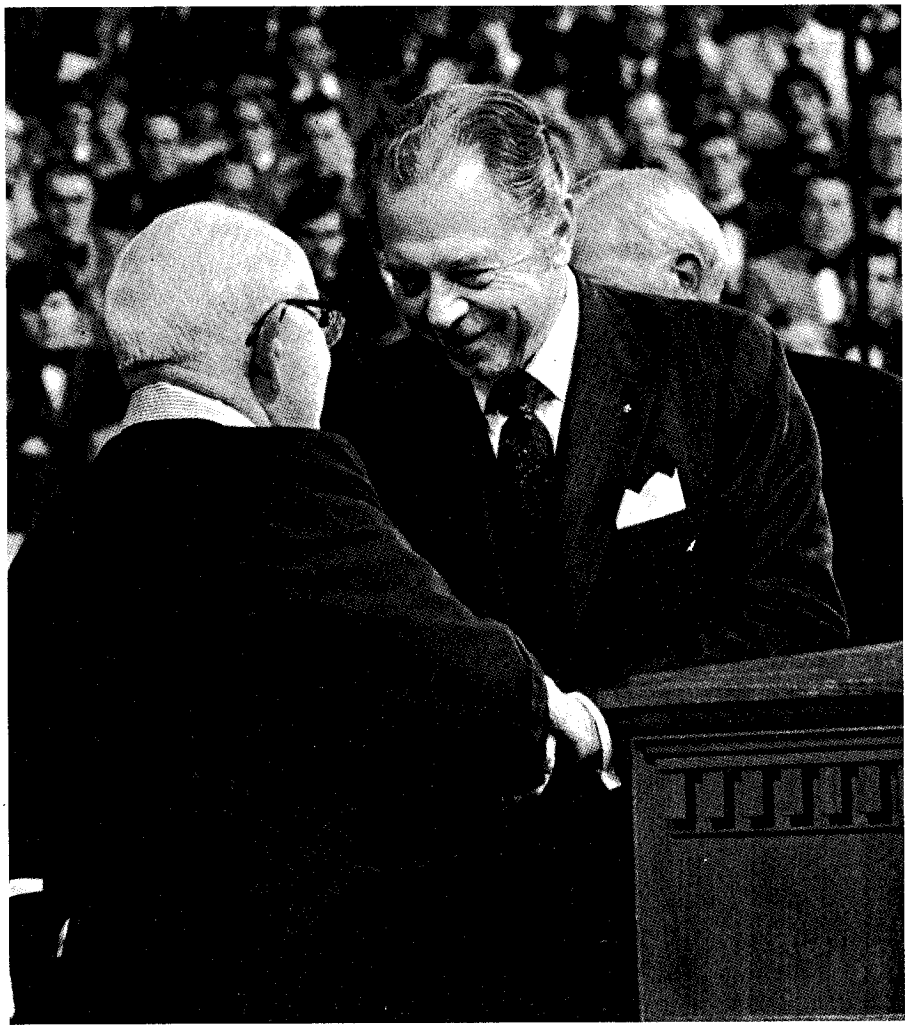
愛する兄弟姉妹の皆さん，私は皆さんに神が生きておられることを証申し上げる。神は死んだ神ではない。父なる神とその愛子，すなわち私たちの救い主である贖い主が，ジョセフ・スミスの前に実際に姿を現わされたことを証する。私は自分が生きていることを知っていると同じように，父なる神と御子が姿を現わされたことを知っている。私たちの祈りを聞き，その祈りに答えて下さる神が天におられることを証する。私はこれが真実であることを知っている。私はへりくだって，教会員にも教会員でない方にも，私の声の及ぶ範囲にいるすべての方々に，祈りを通して天の御父と親しく交わるようお勧めする。この福音の神権時代ほど祈りが必要とされている時はない。絶えず天父に寄り頼み，天父との交わりの改善に心から努めることができるように，イエス・キリストのみ名により願うものである。アーメン。

スカウト大章の贈呈

キンボール大管長，ボーイスカウティングが教会の少年向け公式プログラムのひとつであることを強調する

アーク・マンソン総長： 末日聖徒イエス・キリスト教会のキンボール大管長，来賓の皆様，そしてスカウトとその指導者の皆様，この記念すべき時にあたり，この有名な，いわば霊性の中心地ともいうべき会場にいられることは，私にとって大いなる特権であり，栄誉であります。ボーイスカウト・アメリカ連盟の総長として，連盟の役員会を代表してあいさつ申し上げ，また末日聖徒イエス・キリスト教会のこの素晴らしい集会に参加できることを，心から喜んでいます。

アメリカボーイスカウト協会のアーク・マンソン会長から，国際スカウティングの最高の栄誉であるシルバーワールド賞を受けるキンボール大管長。この賞は，スイス，ジュネーブの世界スカウティング事務局から贈られたものであり，昨年受賞したローマカトリック教会の法王ポール4世に次いで，世界で2人目である。



私は，ここでお会いした機会に，もう一度，ボーイスカウト・アメリカ連盟と貴教会との間の長く，際立った協力関係を思い起こしてみたいと思います。1913年以来，モルモン教会では，スカウティングプログラムを青少年のための極めて重要な活動のひとつとして取り上げています。こうした特別の関係が可能となったのは，スカウティングと貴教会の目的が，極めて類似しているからです。すなわち，性格形成，公民としての訓練，人格育成，霊的成長などがそれです。私たちは，初期の教会指導者に特別な賛辞を呈さなければなりません。彼らは，大いなる知恵をもって，スカウティングプログラムが適正に導入された場合，神と同胞に対し，青少年はもっと緊密で有意義な関係を築き上げることができると，先見したのです。

これこそ，スカウティングプログラムの真価です。このプログラムは，組織の実情に合わせて，例えば，教会，奉仕団体，市民クラブ，学校などの実情に合わせて変更することが可能です。そして，実際，こうした組織によって，青少年に組織の目標を達成させるための一助として利用されているのです。スカウティングには，極めて効果的な

手段が備えられていて，それにより少年たちは，自立，共同作業，神と国家に対する義務，他人の信仰や信念の尊重などを学ぶことができます。これは皆，スカウトの「ちかいとおきて」に同意し，それを守ることによって可能となります。このようにして青少年たちは，倫理道徳や価値観を築き上げ，それを生活の中に取り入れているのです。

教会や組織で他のプログラムと組み合わせて行なうと，スカウティングは，キリスト教徒の生活と深い関係を持つようになります。私は，スカウティングのことで世界各地を旅しましたが，いつもその効果に心打たれるのは，モルモン教会が，スカウトの様々な部門とよく協力してスカウティングプログラムを利用している点です。スカウティングは，世界的な兄弟愛と理解を深めるという点で，極めて重要な役割を果たしています。また，世界的にみても，スカウティングは，貴教会がその目標を達成する上で，助けになっていることと思います。

話を続ける前に，私の総長としての仕事を助けて下さっている，エズラ・タフト・ベンソン会長，トーマス・モンソン長老，マリオン・ハンクス長老の優れた指導力に対し，心から感謝の意を表したいと思います。また，この長い協力関係を通じ，全国のスカウティングプログラムを助けて下さっているその外の多くの方々にも，同様に感謝したいと思います。

ボーイスカウト・アメリカ連盟の渉外部長を務めるウィリアム・ジャクソン氏と，ボーイスカウト・アメリカ連盟の国際部局長を務めるジェームズ・サンズ氏のおふたりに，私と一緒にこの演壇の所に立っていただきたいと思います。前へおいでいただけないでしょうか。

今日，私たちは，皆様の尊敬する大管長に賛辞を呈したいと思います。大管長がスカウティングプログラムに寄せる援助と信頼があればこそ，今なお，現在のような素晴らしい関係が続いているのです。キンボール大管長，前へどうぞおいで下さい。世界的宗教指導者であり，著述家であり，人道主義者であり，スカウティングの友であるスペンサー・ウーリー・キンボール殿，ボーイスカウト・アメリカ連盟は，あなたに敬意を表し，全世界の青少年のための優れた奉仕活動に対して贈られる最高の栄誉である「銀の世界大章」を贈呈します。あなたは，世界113ヵ国以上に及ぶ青少年の中にあって，一致と兄弟愛の精神を培う上で優れた貢献をした人物として，世界で最も功績ある人物のひとりと認められたものです。私たちは，この大章の贈呈を心から誇りに思っています。

スペンサー・W・キンボール大管長：

どうもありがとうございます。会場のスカウトの皆さんは全員お立ち下さい。（会衆のほとんどが立つ）どうもありがとう。

私は，ボーイスカウト・アメリカ連盟がこのように認め，特別な配慮をして下さったことに深く感謝申し上げます。私はスカウティングとの，長く好意ある関係を楽しく過ごしてきました。私は，スカウティングの中には，若人たちに，効果的かつ高潔な生活を送らせようとする力と，そうした若人が立派な成人となる備えをさせる力とがあると信じています。ここである詩を紹介したいと思います。少年について私の抱いている気持ちを代弁してくれる詩です。

だれも少年にどんな価値があるのか知らない。
待ってみなければわからない。
だが，今気高い地位にある人も皆，
かつては少年であったのだ。

末日聖徒イエス・キリスト教会の責任は，いつも変わりません。教会は，青少年に対し，彼らの属する家族に対し，また，やがて彼ら自身が作り上げる家族に対し，そして青少年を育成し，強め，豊かにし，気高くするあらゆる活動と努力に対し，責任を負っています。末日聖徒イエス・キリスト教会は，1913年以来，ボーイスカウト・アメリカ連盟を後援してきました。当時，私たちは，合衆国で最初のスカウト後援団体となったのです。私たちは今なお，この少年のための一大運動を，またその中心にある「ちかいとおきて」をしっかりと支援しています。少年が最善を尽くして，神に対し，国家に対し，同胞に対し，真理の原則に対し，そして自分自身に対し，その義務を果たすようになれば，おのずと将来の見通しも定まり，方向づけもできるようになるのです。これは，生涯でも極めて大切なものとなるはずです。スカウトのおきての偉大な原則を理解し，それに完全に従う青少年は，幸福で建設的な生涯に通じる道に，その足をしっかりとおろしたことになるのです。自分自身を大切にすることができるようになり，他の人々と健全な関係をいともたやすく築き上げ，やがて立派な家族を作り上げるようになるのです。スカウトの原則に忠実でいれば，天父と密接な関係を築く上で助けとなり，それはやがて，人生における他のあらゆる関係や見方を強くしてくれるはずです。私たちは，スカウティングが今なおその中心にこうした義務と原則をしっかりとおき，また現在の指導者たちがそれを一層強めていく決意をしていると理解し，信じています。これが真実であれば，末日聖徒イエス・キリスト教会は，一層積極的にスカウティングの支援を推し進めると共に，少年たちがその家族や教会と親しむための助けができるように，指導者を提供したいと思います。それが，スカウティングで言われているように，少年たちの市民としての品位を高め，性格と人格とを高めてくれるからです。

重ねて，この受賞を心から感謝申し上げます。

☆　　☆

生ける予言者に従いなさい

管理監督
ビクター・L・ブラウン

私たちは生ける予言者の指示と態度を模範とすべきである

前回の総大会の神権会で説教して以来，管理監督会の責任で，極めて根本的な変更が加えられたものがある。大管長会の発表により，青少年関係のプログラムの責任はすべて，十二使徒定員会に託されることになり，管理監督会には，教会の俗事的な責任の大部分が与えられることになった。私たちは，管理監督会として，世界中の青少年たちと，またアロン神権や若い女性の中央管理会の役員たちと，強い連帯感で結ばれてきた。だから，こうした変更が行なわれたからといって，青少年に対して抱いている私たちの関心や愛が少なくなることはない。私たちは，今も，現代の青少年は偉大な将来を担う素晴らしい人々であると感じているし，また世界中の青少年が幸福と成功を手中に収めて下さるよう祈っている。

私たちは，王国の俗事的な事柄に関する限り，なおアロン神権の業を続けて行なう。ここ6週間に，私は，副監督を伴い，合衆国とカナダ以外の国々で，地域担当教会幹部が管理している地域をくまなく訪れた。数多くの国々で教会が急速な発展を遂げており，その結果，教会の事務を処理する組織と物資の供給面で，非常な努力が払われているのを自分の目ではっきりと確かめた。そのことから，私たちは，なぜ主がここ数ヵ月間に，主の予言者に，組織の変更をするよう霊感を与えられたのか，よく理解できるのである。

この出来事には，私たちが当然知っておかなければならない，大切で根本的な原則が含まれている。そして，この教えは，救い主の教えなのである。マタイ伝16：13—18には，次のように記録されている。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき，弟子たちに尋ねて言われた，『人々は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った，『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし，ほかの人たちは，エリヤだと言い，また，エレミヤあるいは預言者のひとりだ，と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた，『それでは，あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った，『あなたこそ，生ける神の子キリストです』。

すると，イエスは彼にむかって言われた，『バルヨナ・シモン，あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは，血肉ではなく，天にいますわたしの父である。

そこで，わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして，わたしはこの岩（啓示の岩）の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。』」

現在，私たちが持つ神権は，そして私たちの所属する教会は，初期の神権や教会と同じものである。予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示によって回復され，現代の予言者スペンサー・W・キンボール大管長によって保たれている神権であり，教会である。私はこれが真実であることを知っている。そして，このことを知っていることを深く感謝している。

キンボール大管長の時代に行なわれた変更はすべて，啓示のなせる業である。これは，救い主が，御自分の教会の礎石であると言われた，その啓示と同一のものである。私は，副監督と共に，心の底から，キンボール大管長を神の予言者として受け入れ，予言者の指示されることをことごとく喜んで，いやそれどころか熱烈に受け入れる所存である。そして，信仰深い教会員全員に，同じような決意を持って下さるよう強く勧めるものである。

リー大管長は，生ける予言者に従うということに関して，度々，賢明な勧告を与えられた。ブリガム・ヤング大学で行なわれたリー大管長の宗教講話の中から，そのひとつを引用してみたいと思う。

「私は，これから個人的な，ある話をしようと思うが，できるだけ個人の名前は出さずにお話するつもりである。この話は，ある高名な家系の美しい若妻の話である。彼女はその頃，すでに故郷を離れて東部で生活していた。彼女は夫と共に移り住んだ地域で，特殊な集団の人々と顔をつき合わせて暮らした。そして，彼女は私に非常に興味深い手紙を書いてきた。その一節を紹介しよう。『明日，主人は長い見事なあごひげをそり落とします。ステーキ部長の要請と，神権会報の中のあなたの指示とによって，私の主人が，もし神殿推薦状の発行を希望するなら，不潔な，あるいは反抗的な身なりをしてはならないというのです。私は苦しみの

大会説教を聴く父子

涙を流しました。モーセやヤコブの顔にはひげがありました。私は古代の予言者たちの知恵や霊性を私の主人の霊的な顔に見ていたのです。そのひげをそることは，私にとって，私の世代が教えられてきた，よいものの象徴を失うようなものです。』その後，手紙は私に対する次のようなチャレンジで終わっていた。『私たちは，青少年と同様，明確で，詳細で，強硬な指示を喜んで受けたいと思っています。中途半端であいまいな指示は，ここではよく聞かれていません。私たちは，あなたが率直に指示して下さるよう望んでいます。』

私は，率直に指示してくれるようにと書いた彼女が，自分で要請していることが一体何なのかわかっていたかどうか知らない。ただ，私は次のように返事を書き送った。『あなたは手紙の中で私のことを「親愛なるリー大管長」と書いておられますし，最初の文でも，私のことを主の予言者と言っています。さて，お手紙によると，あなたは御主人がひげをそり，髪を刈ったので，悲しい気持ちになったということです。さらに，長いひげや髪のために御主人は予言者モーセやヤコブのように見えたのに，もう今ではその共通点もすっかりなくなってしまったそうですね。私は，あなたがなぜもっと賢明になって，現代の予言者の身なりを模範としたいとは思わないのだろうかと，不思議に思います。デビッド・O・マッケイ大管長は，ひげをたくわえていませんでしたし，長髪でもありませんでした。ジョセフ・フィールデング・スミス大管長もそうでした。そして，あなたが主の予言者と認めて下さったこの小さな僕も，やはりそうです。

論理に矛盾の見られるあなたの手紙を読んで，私は，自分の伝道中のある出来事を思い出しまいた。私たち数人の宣教師は，伝道部長と一緒にカーセージの牢獄を訪問しました。予言者ジョセフとその兄ハイラムが殉教した場所です。その集会で，ふたりの殉教に至るまでの出来事を思い起こしました。それから伝道部長は，とても大切なことを話してくれました。「予言者ジョセフ・スミスが死んだ時，多くの人々がジョセフと共に霊的に死んだ」と言うのです。同じように，ブリガム・ヤングの死と共に霊的に死んだ人々もたくさんいました。また，その後の大管長の死去の時も同じです。これは，彼らが，すでに過去のものとなった人物に従おうとしたからです。主の指示により教会を導く責任が委ねられたその後継者に従って行くべきだったのです。』それから，私は彼女にこう尋ねた。『あなたは，何百年も昔の予言者に従おうというのですか。現在教会を管理している人々を模範とせずに，教会員として，本当の意味で信仰を持っているといえるでしょうか。なぜ，御主人にモーセやヤコブのような身なりをしていて欲しいと思うのでしょうか。むしろ，あなたが信頼を置いていると言っておられる，現代の予言者たちの身なりにならうべきではないのでしょうか。あなたがこのことを冷静に考えて下されば，あなたの涙も乾き，何かしら新しい考え方も生まれてくることでしょう。』」（*"Be Loyal to the Royal Within You" Speeches of the Year*「心の中にある気高いものを大切に」 年度講話 1974，pp. 97—98）

他にも，生ける予言者の指示に従うことに関して，重要な教えがある。列王記下の第5章を見てみよう。スリヤ王の軍勢の長ナアマンの話である。彼はらい病をわずらっていた。彼はイスラエルの王のもとへ遣わされ，さらに王から予言者エリシャを紹介された。9節から14節まで読んでみよう。

「そこでナアマンは馬と車とを従えてきて，エリシャの家の入口に立った。

するとエリシャは彼に使者をつかわして言った，『あなたはヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい。そうすれば，あなたの肉はもとにかえって清くなるでしょう』。

しかしナアマンは怒って去り，そして言った，『わたしは，彼がきっとわたしのもとに出てきて立ち，その神，主の名を呼んで，その箇所の上に手を動かして，らい病をいやすのだろうと思った。

ダマスコの川アバナとパルパルはイスラエルのすべての川水にまさるではないか。わたしはこれらの川に身を洗って清まることができないのであろうか』。こうして彼は身をめぐらし，怒って去った。

その時，しもべたちは彼に近よって言った，『わが父よ，預言者があなたに，何か大きな事をせよと命じても，あなたはそれをなさらなかったでしょうか。まして彼はあなたに「身を洗って清くなれ」と言うだけではありませんか』。

そこでナアマンは下って行って，神の人の言葉のように七たびヨルダンに身を浸すと，その肉がもとにかえって幼な子の肉のようになり，清くなった。」

ロムニー副管長は，生ける予言者に従うことについて，次のように興味深い体験談を話して下さっている。

「グラント大管長が存命中のある日，私は総大会の後，通りを隔てた私の事務所で仕事をしていた。するとひとりの男が私に会いにやって来た。年配の男である。彼は，この総大会の説教のうち，数人の教会幹部の話が非常に不満だと言うのである。私の話についても同じであった。私は，彼のなまりから，彼がどこか他の国からアメリカへ渡って来たことがわかった。私は，彼が話を聞く気分になるまで彼の気持ちを静めてから，こう尋ねた。『あなたはなぜアメリカへ渡って来たのですか。』

『私がアメリカへ来たのは，神の予言者にそうするよう言われたからです。』

『その予言者というのはだれですか。』

『ウィルフォード・ウッドラフです。』

『ウィルフォード・ウッドラフが神の予言者だったということは信じているのですね。』

『はい。』

『その後継者のロレンゾ・スノー大管長が神の予言者だったということは信じているのですか。』

『はい。』

『ジョセフ・F・スミス大管長が神の予言者だっということは信じていますか。』

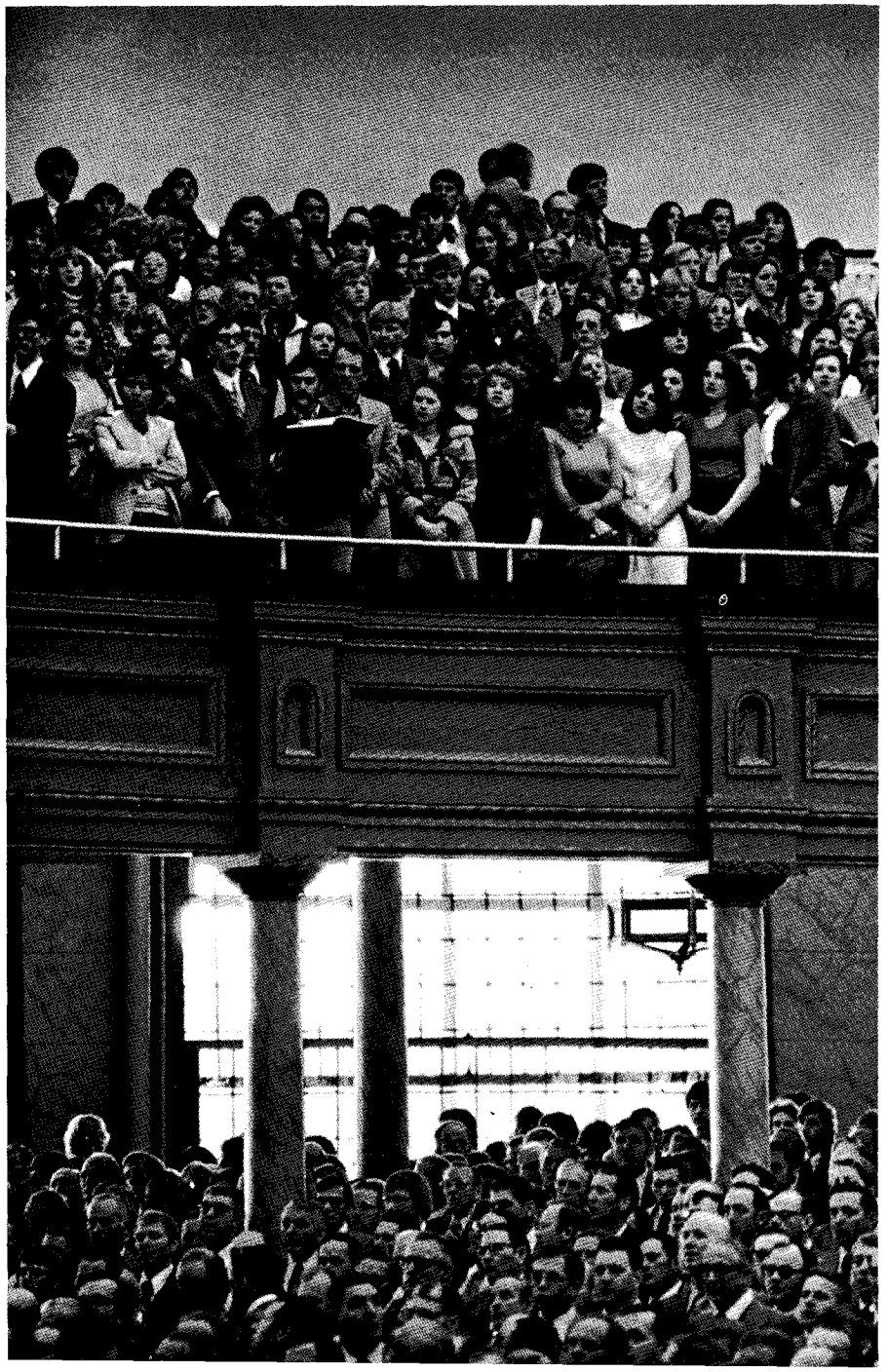
『はい。』

次に切り札の質問が出た。『ヒーバー・J・グラントが神の予言者だと信じていますか。』

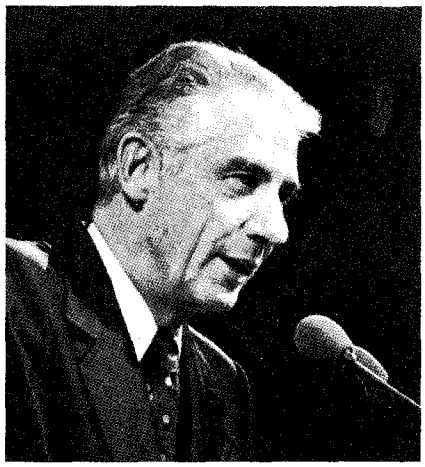
彼の答えはこうであった。『彼は老人の援助にあまり口を出さない方がいいと思いますがね。』」(*Conference Report*「大会報告」1953年4月6日，p.125)

この世に住み，生ける神の予言者からの指示を聞くための耳があるということは，なんと大きな祝福であろうか。この指示は，大きな混乱と苦難の時に，心に平安をもたらすものである。私たちが皆，キンボール大管長の話に耳を傾け，それに従うよう，心から祈っている。私は，キンボール大管長こそ，現在の人類に主のみ言葉を伝える代弁者であると証する。イエス・キリストのみ名により，アーメン。

タバナクル内の会衆



☆　　☆



今，伝道の備えをしなさい

七十人第一定員会会長
J・トーマス・ファイアンズ

若人の伝道の備えのために，若人，父親，ホームティーチャーは，どのような方法がとれるか

若人諸君，私は，永遠の進歩ということについて皆さんにお話したいと思う。この世の生涯における最大の機会のひとつは，心洗われるよう影響を受ける機会である。そうした影響は，主の神聖な召しを受けて宣教師として働く時に人々の心を揺り動かせるよう，備えをする時に感じるものである。ここでそのために6つのことを提案したい。

1．1日最低2回は，天の御父に向かって熱烈な祈りを捧げる。多分最良の時は，一日の始めと終りであろう。そうすれば，御父と特別に親密な関係を生み出すことができる。「証明」という，次の詩に耳を傾けていただきたい。

か細い電波の指が美しい旋律を拾い上げる。
夜の闇から拾い，海山を越えてまた送り出す。
花のように美しいバイオリンの調べが山を越え，町のざわめきを越えて鳴り響く。
澄みわたった空から，真紅のバラを摘むように，歌声を摘みとる。
ならば，人はなぜ，神が祈りを聞かれることに疑いを抱くのか。
（*Ethel Romig Fuller "Proof" in Masterpieces of Religious Verse*,「宗教詩傑作選」よりエセル・ロミッグ・フラー作「証明」1948，p.407）

2．自分自身の聖典を持つ。若人諸君，自分の聖典を手に入れるために，最善の努力を尽くしてくれないだろうか。

3．その聖典をすり切れる程利用し，自分の手に気持よくなじむようにする。はきなれた運動ぐつのようになるはずである。毎日聖典を勉強しなさい。この一年で，特にモルモン経を読み終えようと決心するとよい。そのために，1日に最低3ページずつ読めば達成できる。1日に6ページずづ読めば，この1年でモルモン経も教義と聖約も高価なる真珠も新約聖書も読み終えることができる。このような目標を立てることができたら，それは素晴らしい。しかし，この一年間で，少なくともモルモン経だけは読み終えるよう目標を立てて欲しい。

4．伝道資金のための口座を設ける。この提案が，すでに口座を設けていることの確認にすぎなければよいと思っている。しかし，そうでなければ今日始めなさい。たった今，持っているお金の一部を分けてとっておきなさい。少しでもよい。それが伝道資金の第一歩である。

5．教会に活発に集う。これは，日曜学校，神権会，聖餐会，スカウティング，年齢に応じてセミナリーやインスティテュートに参加することをいう。

6．家庭の夕べに参加する。永遠の計画によって，皆さんは，この霊の特別の組織の一員となっているのである。この家族という組織の中で立派に自分の役割を果たしなさい。ただ受けるだけではいけない。適切な祈りを捧げ，聖典中の予言者の生活や経験に精通すれば，家庭の夕べの中でも特別な役割を果たすための基盤を作ることができる。

次に父親である皆様に申し上げる。父親の態度というものは，いわば息子のための学校である。皆様は，自分の息子に影響を与えて，是非予言者の召しに応えて欲しいと思っておられることであろう。息子に伝道の備えをさせるために，6つのことを提案したいと思う。

1．謙遜に祈ると，天から大きな強さが授けられることを息子に教える。祈りの原則を教えなさい。今日の午後お話下さったエズラ・タフト・ベンソン会長の素晴らしい説教をもとにして教えることができる。

2．息子が自分の聖典を持てるよう，最善の努力を払ったとみとめた暁には，少し援助を与える。

3．毎日霊的な糧が得られるよう，個人的な聖典の学習計画を立てさせる。

4．貯金の方法を教え，自分で貯蓄の計画を立てるよう励ます。そうすれば，将来，自分の時間をこの極めて神聖な目的のために捧げる時，自分自身で犠牲を払って資金をためたという思いを持てるからである。

5．模範によって，教会活動への積極的参加を促す。つまり，神権会，スカウティング，セミナリー，インスティテュート，その他補助組織の集会を，十分に利用するということである。また，信仰，バプテスマ，悔い改め，それに聖霊の賜の祝福といった真理を教えなさい。

6．定期的に，つまり毎週月曜日に，家庭の夕べを開く。そこで，意義深い感動的な経験をさせなさい。

父親とホームティーチャーのために大切なことを述べておこう。

まず，ホームティーチャに対してである。皆さんは，今申し上げたような仕事を父親が成し遂げようとする時，その援助をする。では，どうしたらそれが可能であろうか。シニア・ホームティーチャーに申し上げる。ひとつの方法は，成長途上にあるあなたの若い同僚を招いて，あなたの敬虔な指導の下に，今申し上げたステップについて勉強することである。そして，父親の許可を得た後，訪問先の家庭でこれらの原則と過程を教える責任をその同僚に与える。(若人諸君，皆さんはこの責任をすぐにも受けることになろう。だから，よく聞いていて欲しい。)

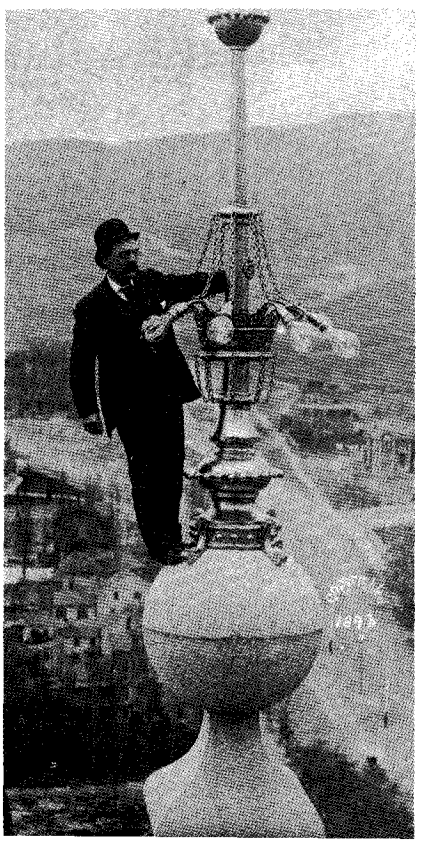
成長途上にある若い同僚の責任は，次の通りである。

1. 祈りを通じて天の御父に近づくことにより，これまでどれ程恵まれた生活を送ることができたかを証する。

2. 担当家族を訪問する時には，必ず自分の聖典を携えて行く。

3. 聖典から引用して話し，簡単な索引を作るために聖典にしるしをつける方法を教える。

ソルトレーク神殿の北東の塔（高さ56メートル）の頂に立つ電気技師E・G・ホールデン。銅製の頂華の電球は全部で8,100燭光である。(写真撮影・M・ファルドモ，1893年)



4. 預金通帳を見せる。あるいは，その他の方法を使って自分も伝道資金を準備していることを示す。

5. 教会活動に参加することによって得た，素晴らしい喜びについて話す。証を述べたり，聞いたりすることによって，霊感に満ちた時間を過ごすことのできた，何か具体的な例を話す。また，青少年が一緒になって意気盛んな活動を楽しんだ時の喜びについても話すとよい。

6. 訪問先の家庭で，自分の家で毎週開かれている家庭の夕べに参加することにより，本当の意味で成長する機会にどれ程多く恵まれたかを話す。

ここで最初に戻ろう。若人諸君，私は皆さん一人一人にお話したい。1823年9月のあの晩の出来事を覚えているだろうか。モロナイは予言者ジョセフに，3度にわたって指示を与えた。翌日，ジョセフは畑に出かけたが，仕事ができない程疲れていた。そこで父親は「家へ帰って休みなさい」と言った。ジョセフは垣根を越えようとして，皆さん御存知の通り，地に倒れた。そして4度目の指示が，ここで繰り返されたのである。ジョセフ・スミスは，ここで，あの世界を揺るがすようなメッセージの重みを理解したことと思う。

この短い時間にどんなことが起こったか，おわかりだろうか。自分が，まんじりともしない夜を過ごし，今申し上げた宣教師の6原則があなたの心を3度にわたって貫き通した場面を想像していただきたい。比喩的に申し上げるなら，あなたは畑へ出かけて行って，この経験について父親に話をする。父親は，家へ帰ってそのことについて心の中で深く考えるよう勧める。あなたは垣根を越えようとして，地に倒れる。そして次のような確信が心をよぎる。4度目のことである。そう，私は伝道に出よう。そして，その備えとして，

1. 1日に最低2回は祈ろう。

2. 自分の聖典を持とう。

3. それがすり切れる程使い，その教えが自分の血となり肉となる程親しもう。

4. 自分の能力の限度一杯まで，自分の手で資金をためよう。そしてそれを少しでも増やそう。

5. 日曜学校，スカウティング，アロン神権，セミナリー，インスティテュート，その他の集会に年齢に応じて出席，いや，本当の意味で参加しよう。

6. 家庭の夕べから受ける祝福に感謝しよう。

さて，若人諸君，垣根のわきの楽な場所から立ち上がり，動き出して欲しい。その結果はどうなるであろうか。そう，あなたはまた一層秀れた宣教師になるのである。私たちの予言者であり指導者であるスペンサー・W・キンボール大管長が，「青年は皆伝道に」と言われる時，大管長は，はるかに先の伝道中のことに目を向けておられるのである。伝道が終わって帰れば，一層立派な監督となり，ステーキ部長となり，夫となり，父親となり，さらにこの世にあっても，来たるべき世にあっても，立派な人となれるのである。

あなたが決意する時に，是非今申し上げたことを思い出していただきたい。主は生きておられ，イエスはキリストである。私たちが携わっているこの業は，主のみ業である。様々なことを考慮した末，最後に決断を下すのはあなたである。この決断は，あなたの性格と従順さの試しとなろう。快く決意し，雄々しく備えをなし，そして立派に仕えようとする皆さんを主が祝福して下さるように，主イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。

☆　　☆

福音の確実性

七十人第一定員会会員
G・ホーマー・ダラム

「最善の努力を払って信任に答える」と約束する新しい教会幹部

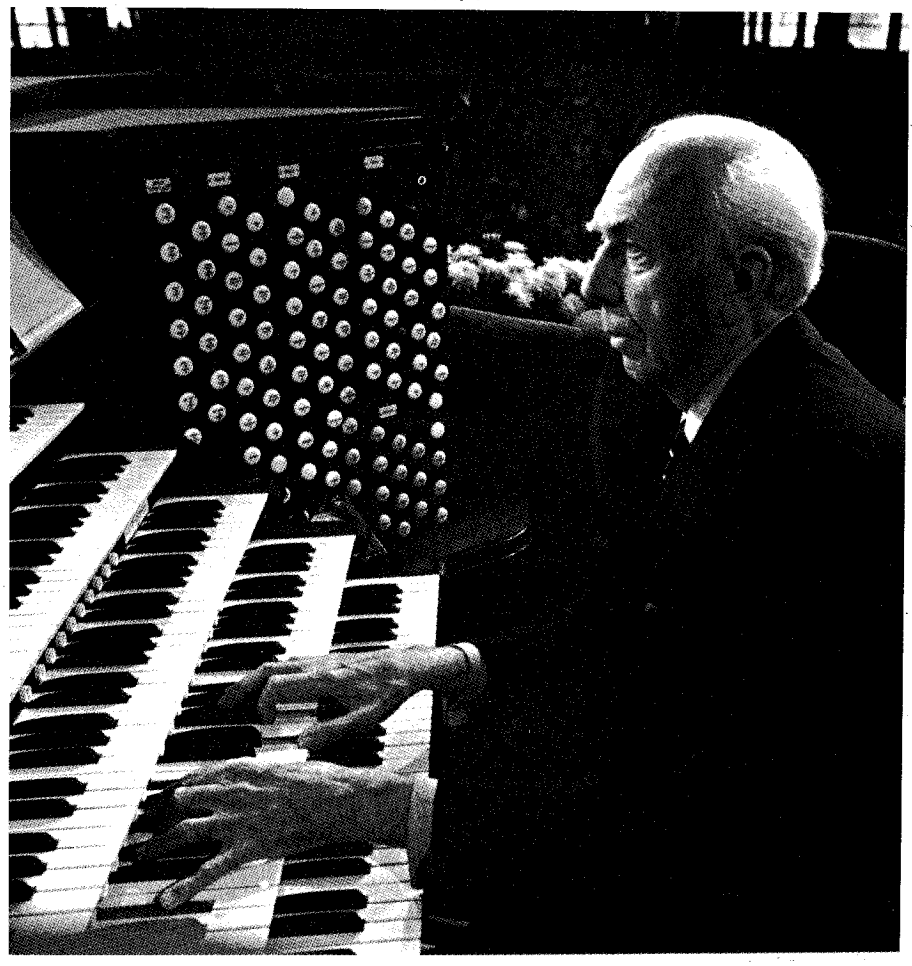
神権を持つ兄弟の皆様，私は心からへりくだって，この七十人第一定員会の一員として働くようにとの召しを受け入れていることを知っていただきたい。私は，主に対し，教会幹部の兄弟たちに対し，そして皆様に対し，私の生涯と働きと持てる才能のすべてをこの業のために捧げると約束する。そして，私の愛する妻ユードラも，私と一緒にこの約束をする。私たちは，愛と支持に心から感謝している。兄弟の皆様から，私たちの家族から，そして愛する人々から，その愛と支持とを感じる。私は，この偉大なみ業に着手するにあたり，妻がその生涯をずっと私の同僚として過ごしてくれたことに感謝している。

皆様と同様，私も，今宵，スカウトとして立ったひとりである。私は，スカウトは信頼に足るものであると教えられていたことに感謝している。しかしながら，今宵は，私の心のうちにあることをそのままお話したいと思う。このスカウトでいることで，今宵は本当に敬虔な気持ちでいる。そして，皆様に証申し上げたいことは，私たちの主，救い主のみ名によって同胞のために働くこと以上に大きな特権は，大きな喜びは，そして大きな機会はないということである。神権を持つ兄弟の皆様に証申し上げる。私たちが恵まれて今持っている職は，永遠の価値があるものである。また，これらの職は，その範囲において，職を果たしている私たちよりはるかに大きいものである。そしてまた，私たちは，主の模範にならって，暖かい思いやりと知性と奉仕とを深めて行くよう，時々刻々チャレンジが与えられているのである。

私は，モーサヤ書に書かれているベンジャミン王の言葉を愛読している。「ごらん，私がこれらのことを言うのはお前たちに知識を与えるためであって，またお前たちが同胞のために努めるのは，ただお前たちの神のために務めるのであることを悟らせるためである。」（モーサヤ2：17）

世の人々は，この言葉を心に留める必要があり，またこの言葉が「神の愛」から出た言葉であることを知る必要がある。「神の愛」は，ニーファイの言葉によれば，「人の心をあまねくうるおす

オルガン演奏するアレクサンダー・シュライナー



ものである。」（Ｉニーファイ11：22）また，私たちは皆，自分の心の中にその愛が存在していることに気付く必要がある。そして，それが私たちの大きな使命のひとつである。

ニーファイは，この神の愛は「どんなものよりも好いものである」と言い，さらに天使は，あの偉大な示現の中でニーファイの言葉を確認して，「そうである。それは心にとって最も喜ばしいものである」（Ｉニーファイ11：23）と言った。世の人々は，この喜びについて知る必要がある。そして，そのように努めて世の人々に祝福をもたらすことが，私たち神権者の大きな責任なのである。まず私たちは，それを自分の家庭から始めるとよいだろう。

私は家族に感謝している。また私にこれらの原則を教えてくれた両親に感謝している。また，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることに感謝している。この教会では，そのような知識は他の人々の奉仕のために使わなければならないと教えているからである。またこの教会では，神の本当の属性と性格を教え，そして，英知の最高の表現として，純粋の愛を育む責任を私たちに与えてくれるからである。この英知こそ神の栄光である。

私は，御父が慈しみ深い御方であることを皆様に証申し上げたい。私は，その愛子イエス・キリストが送られてきたことを天父に感謝している。イエスは生きておられ，実在の御方である。そしてイエスは，その選ばれた予言者スペンサー・W・キンボール大管長を通じて，現在この教会を導いておられる。私はへりくだって，ある例をもって，どれ程深くこの福音の証が真実であると感じているか，お話したいと思う。この例を，私自身の経験から引き，謙遜に話を進めよう。

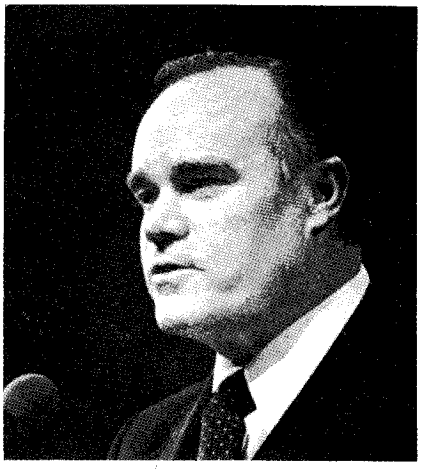
現在，全世界で約87,000枚の卒業証書が，その学位に応じて発行されている。皆様の多くが持っているように，その分野は，医師，哲学者，法律家，技師，そして修士，学士と，専攻も芸術，科学，工学と多岐にわたる。その証書には，修得単位を証明した上で，他の人々の名前と共に，証書発行責任者のひとりとして，私の名前も書かれている。もし私がそれを妥当であると信じていなかったり，私の勤務したユタ州内外の10の大学で確かに修得した学位であると信じていなかったら，私の名前が証書の上に出ることはないであろう。しかし，私の知る限り，証書を受け取った人で，証書に署名するという私のささやかな権能に疑いをさしはさんだ人はいなかったようである。この権能は，政府の承認した過程を踏んだ上で，認可機関から与えられたものである。私は，こうした卒業生に向かい，今ここで皆様に申し上げているように，へりくだって，自分は永遠の福音の価値とその真実なことを何よりも深く確信していると証したものである。私はその中の一部の人でも，いつか卒業証書に書かれている私の小さな名前を思い出した時，私の述べた証も一緒に思い出してくれたら，と願っている。私は，神が生きておられることを証する。また，神が全人類の愛する御父であられること，御子イエス・キリストの福音には，人がいかなる境遇にあろうとも，祝福を受けるための根本的な力があることを証する。

この福音には，救いの原則がある。そしてこの原則こそ，世の病弊を取り除く力となるのである。私は，この原則がそうした目的のために，予言者ジョセフ・スミスを通じて回復されたことを証する。私はジョセフを誇りにしている。罪の赦しのための鍵と，人類の救いの鍵は，今なお，真実の生ける予言者の指示の下にこの教会に存在する。このことを，へりくだって皆様に証申し上げ，最善の努力を払ってこの召しを果たし，その信任に答えることをお約束する。主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

大会に出席した少年たち

無数の証

七十人第一定員会会員
ジェームズ・M・パラモア



感謝と公約の証

兄弟姉妹の皆様，確かに私はあがっている。しかし，今夜私の話に耳を傾けている姉妹が少なくともふたりはいる。サンディーにいる私の伴侶と母親のふたりである。私は今，言葉に言い尽くせない程，感謝の気持ちで一杯であると皆様に申し上げる。今宵ここに皆様と共に集っているということは，何と大きな感謝であり，栄誉であろうか。

私は予言者を愛している。大部分の皆様とは異なり，私は，自分の生涯のうち4年間を，予言者の傍らで過ごした。また他に3年間をベンソン会長と共に過ごした。また，毎週木曜日には，神殿で十二使徒評議員会と共に過ごした。今宵，私が皆様に証申し上げたいことは，私たちの天父がこのみ業を導いておられるということである。

天使のような私の母に，賛辞をおくりたい。母は長年にわたって，父が活発に教会に集うように，また彼が神と親子の関係にあることを理解できるように，そして彼が神権を受け入れるように，と祈っていたのである。少年の頃，私は母の励ましの手に支えられて教会に通ったものである。そして，父が聖霊の力によって証を得るのを目にした。今宵，私は父を誇りに思う。また父を愛し，尊敬している。父はずっと私の友である。いつも私に秘密を打ち明けてくれるからである。父は私に，どう働いたらよいのか，どう愛したらよいのか，そして，人を裁かないためにはどうしたらよいのか，教えてくれた。私は，父と母に心から感謝している。

そして，私は妻にも感謝している。ここで短い話をしたいと思う。私は，ここ25年の間に，3，4千回位，会合に出席してきたと思う。そしてその度ごとに，妻は私を支えてくれたのである。ただ，1回だけはちがった。ある晩，私が日曜学校の会合に出席した時のことである。「今晩は早く帰って来て下さる？」と聞かれたので「10時半には戻るよ」と答えておいた。11時になり，11時半になったが，私はまだ帰宅しなかった。ようやく家に戻った私は，玄関の所まで歩いて行って，いつものように中へ入ろうとした。ところが鍵がかかっていたのである。私は呼鈴を鳴らした。何の答えもなかった。そこで私はドアをノックした。すると，やっと妻が出て来た。「中へ入れるわけにはいかないわ。」

「頼むよ。」

「一度だけじゃないのよ。」

当時，私の家では，前の座席を後ろに倒すとベッドになるタイプの自動車を持っていた。（だが，ちょうど真冬時である。）そこで私はオーバーを取って来て車の中へ入り，座席を倒して，そこで眠ることにした。

しばらくすると，入口のドアが開く音が聞こえ，妻が車の所までやって来て，私に家の中へ入るように言った。私は，入るつもりはないと答えた。しかし，非常に寒かったので，結局は家に入った。

兄弟の皆様，私の妻はこのように素晴らしい女性である。結婚して以来ずっと，妻は私を支えてくれた。私は，神権者として，人を指導する職務にある限り，この小さな経験を思い出し，妻を思い出したいものだと思っている。

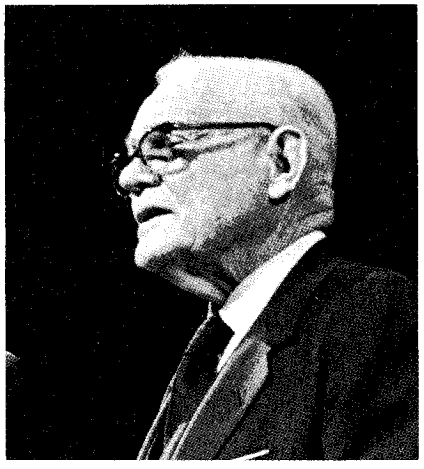
私はイエス・キリストの福音を心から感謝している。私は，宣教師たちや私の家族と過ごした全生涯を通じ，無数の証を聞いてきた。ある晩，娘が耳痛のため苦しんでいた時のことである。妻が私のところへ来て，「あなた，娘に祝福をして下さらない」と言った。私は行って，愛する娘に祝福を与えた。すると，私が言葉を言い終えないうちに，娘は眠ってしまった。

皆様に知っていただきたいことは，私は生涯を神の事に捧げてきたし，これからもそのつもりであるということである。それは，神が生きておられることを知っているからであり，神のみ業が大切であるからであり，福音の原則を愛し，それが真実であることを知っているからである。私は予言者を支持し，十二使徒評議員会を支持し，リチャーズ兄弟や他の会長たちを支持している。使徒パウロがその生涯の終り頃，「ただこの一事を努めている」（ピリピ3：13）と言ったように，自分についてもそう言われるようになりたいと祈っている。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

☆　☆

キリストの光

第二副管長
マリオン・G・ロムニー



(1)すべての人を照らす光，(2)聖霊の賜，(3)ひときわ確かなる予言の言葉

愛する兄弟の皆さん，私の語る間，キリストのみたまが注がれるよう祈っている。また皆さんも一緒に祈っていただきたいと思う。もしもキリストのみたまがなければ，これから私の話す事柄が理解できないであろう。というのは，これから話すテーマが「キリストの光」だからである。キリストの光について，お話したいことが3つある。

その第一は，世に来るすべての人を照らす光である。第2は聖霊の賜であり，第3はひときわ確かなる予言の言葉である。

教義と聖約第88章で，主は次のように言われた。「こはキリストの光なり。この光は，神の前よりさし出でて広大なる宇宙に満ち充てり。」(7，12)

また別の啓示には，この光は「すなわちイエス・キリストの『みたま』なり……世に来るあらゆる人々に光を与え，また『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり」(教義と聖約84：45—46) とある。

このみたまは疑いもなく人間の良心の源を成すものである。良心についてはウェブスターがこのように定義している。「正しいことを行なわせる善悪の認識あるいは感覚」

モルモンは，息子のモロナイに宛てた手紙の中で，このみたまについて次のように言っている。「すべて善い行いに人を誘い導いて善いことをさせ，神を愛させ神に事えさせようとするものは，神のみこころがこもっている。

それであるから，私の愛する兄弟たちよ，慎んで悪いものを神から出たと思ってはならない。

私の兄弟たちよ，あなたたちは善悪を判断する自由と権利を与えられているばかりでなく，その判断の方法は真昼と暗夜とを区別するように，過りなく完全に知れるほど明らかである。

すべての人々はみな善悪の区別を弁えるためにキリストの『みたま』を授かる。」(モロナイ7：13—16)

ジョセフ・F・スミス大管長は，キリストのみたまは「人の子らに働きかけ，(もし人がサタンの誘惑を拒否するならば) 人々が真理の知識を得，より大いなる光と聖霊の証を得るまで，人人に働きかけ続ける」(「福音の教義」第1巻p.87) と述べている。

さて，このスミス大管長の教えから話を次に進めよう。次は聖霊の賜についてである。

聖霊は個性を有する霊であり，神会の第3番目の御方である。また御父と御子を証する使いでもある。聖霊は人人に父なる神と御子イエス・キリストのこと，ならびに福音の真理を証したもう。そして人々の心に真理を植えつけたもう。

「聖霊と聖霊の賜は異なる」と予言者ジョセフ・スミスは語った。「コルネリオはバプテスマを受ける前に聖霊を受けたが，それは福音が真実であることを確信させる神の力であって，バプテスマを受けるまでは聖霊の賜を受けることができなかった。もし彼がバプテスマを受けなかったならば，神の真理を確信させた聖霊は彼から離れたことであろう。」(*Teaching of the Prophet Joseph Smith*「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.199)

これは私の言葉ではなく，予言者ジョセフ・スミスの言葉である。しかし，私は確かにこれが真実であることを知っている。

聖霊の賜は，ふさわしい人に，光と真理を授ける。それには信仰と悔い改めとバプテスマが先立っていなければならない。そして聖霊のみたまと力と導きを維持するためには，義しい生活を送らなければならない。すなわち，福音の律法と儀式に従って絶えず献身的な努力を惜しまないことである。

もう一度繰り返そう。聖霊は神会の第3番目の御方である。聖霊について，予言者ジョセフ・スミスは次のように言っている。「〔神とイエス・キリストが肉体を有するようには〕聖霊は骨肉の体を有ちたまわずして霊の御方なり。」(教義と聖約130：22)

聖霊は御父と御子の偉大な証人であり，使いであり，立証者である。主は，聖霊のことを「真理の御霊」であると言われた。「『けれども真理の御霊が来る時には，あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく，その聞くところを語り，きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。

御霊はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受けて，それをあなたがたに知らせるからである。』」(ヨハネ16：13—14)

聖霊の証と力によって，私たちは神

が御父であり，その愛する御子イエス・キリストが私たちの救い主，贖い主であることを知り，かつ福音が真実であるという個人的な証を得るのである。

しかし，そうした聖霊の賜を得られるにもかかわらず，手を伸ばせば届くところにいながら全くそれを無視している人がなんと多いことだろうか。このような悲しむべき様を，主は次のように言われた。「見よ，われは神の子イエス・キリストなり。われはわが民に来れるにわが民これを受けざりしその者と同じ者なり。われは暗きに輝けるに暗きはこれを悟らざりしその光なり。」（教義と聖約6：21）

共観福音書の3人の著者は，暗闇の中にある者が光を悟ることはいかに困難かを次のような典型的な例をあげて述べている。マタイの記録を読んでみたい。「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき，弟子たちに尋ねて言われた，『人々は人の子をだれと言っているか。』

彼らは言った，『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし，ほかの人たちは，エリヤだと言い，また，エレミヤあるいは預言者のひとりだ，と言っている者もあります』。」（マタイ16：13—14）

さて，イエスを指してそのように言った人々は皆イエスと同時代の人々であった。彼らの言葉は明らかに，イエスの力ある業について何がしかを知っていたことを裏づけている。また疑いもなく，彼らはイエスが御自分を神の子であると主張されるのを聞いていたはずである。しかしながら，彼らの心はイエスの真の姿を証する光を通さなかった。光は彼らのまわりを明るく照らしていたにもかかわらず，彼らはそれを悟らなかったのである。

人々の答えを聞いて，イエスは弟子たちにこう質問された。「それでは，あなたがたはわたしをだれと言うか。」（マタイ16：15）

そこでペテロは皆を代表するように弁明して言った。「あなたこそ，生ける神の子キリストです。」（マタイ16：16）ここでペテロは，彼と仲間の使徒たちが霊的暗黒の中で輝く光を確かに理解していることを立証したのである。

ペテロに答えてイエスは，聖霊の賜と力とによって光を悟る者だけが真理を見いだすことを強調しておられる。イエスの答えはこうである。

「あなたにこの事をあらわしたのは，血肉ではなく，天にいますわたしの父である。……この岩の上に〔つまり，聖霊を通して与えられる啓示の岩の上に〕わたしの教会を建てよう。黄泉（よみ）の力もそれに打ち勝つことはない。」（マタイ16：17—18）

ヨハネは，暗闇の中にある者に光を悟らせたり，光があることを信じさせたりすることがいかにむずかしいかを，次のイエスとニコデモの会話の中で示している。

「パリサイ人のひとりで，その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。

この人が夜イエスのもとにきて言った，『先生，わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら，あなたがなさっておられるようなしるしは，だれにもできはしません』。

イエスは答えて言われた，『よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ，神の国を見ることはできない』。

ニコデモは言った，『人は年をとってから生れることが，どうしてできますか。もう一度，母の胎にはいって生れることができましょうか』。

イエスは答えられた，『よくよくあなたに言っておく。だれでも，水と霊とから生れなければ，神の国にはいることはできない。』（ヨハネ3：1—5。ヨハネ3：6—10をも参照）

人は，聖霊の賜に内在する光と力を実際に受け，経験することによって，新たに生まれ変わるのである。

さて，次に第3の「ひときわ確なる予言の言」（教義と聖約131：5）であるが，これは「召しと選び」（IIペテロ1：10）を確かなものとすることによって得られる。これに関して，予言者ジョセフ・スミスは次のように言っている。

「人がキリストを信じ，自分の罪を悔い改め，罪の赦しを受けるためにバプテスマを受けて，〔按手によって〕聖霊を受けたなら，次に神の前にへりくだり，飢えかわくように義を求め，神の言葉一言一言によって生活させなさい。そうすれば主は間もなくその人に，息子よ，あなたは昇栄するだろう，と言われるであろう。主がその人を完全に試し，その人がどんな困難にあっても主に仕える決心をしていることを知った時，その人は自分の召しと選びが確かなものであることを知らされるであろう。そうすると，聖ヨハネの証にあるように，その人は主が聖徒に約束されたもうひとつの慰め主を受ける特権を得る。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.150）

教義と聖約第88章で，主はオハイオ州の幾人かの聖徒に啓示を与えている。

「この故に，われ今更に別の『慰め主』を正にわが友なる汝らに遣わして汝らの心の中に共に在らしむべし，これすなわち約束の聖き『みたま』なり。この他の『慰め主』とは，すなわちヨハネの証詞の中に誌さるる通りわれがわが弟子たちに約束したると同じものなり。

この『慰め主』は，われが汝らに永遠の生命，すなわち日の栄の王国の栄光に就きて約束するところのものなり。」（教義と聖約88：3—4）

私は，忠実な末日聖徒であればだれでも「このひときわ確かなる予言の言葉を望み，天において結び固められ神の王国で永遠の生命の約束を得たいと願うことだろう」（*History of the Church*「教会歴史」5：388）と考えている。

聖なる記録をひもとく時，私は身と霊にこのひときわ確かなるいかりを下ろし，心に平安を宿したあらゆる神権時代の人々の経験を目にする。

リーハイの孫であったイノスは，心が義に飢えるのを覚えて，「一つの声が聞こえて『イノスよ，汝の罪はすでに許されたれば汝は祝福を受くべし』と仰せに」（イノス5）なるまで大声で主に祈った。そして何年か後に，彼は約束された祝福の本質を明らかにして言った。

「私はやがて安息につく場所へ行く，

そこは私の贖い主の居たもう所である。私は贖い主によって安息を得ることを知っているから，この死んで無くなるはずの肉体も不死不滅となって贖い主の御前に立つ日のあることを思って喜ぶ。その時になると私は贖い主の御顔を仰いで喜び，贖い主は『さいわいなる者よ，われに来れ。わが父の邸には汝のために備えたる場所あり』と仰せになるのである。」（イノス27）

また主はアルマに言われた。「汝はわが僕なり。われは汝に永遠の生命を授くることを誓う。汝はわれに仕えわが名により出で行きてわが羊を集めよ。」（モーサヤ26：20）また，ニーファイ人の十二弟子に向かって言われた。

「『われが御父の所へ昇りて後，汝らはわれに何をせられんことを願うか』……

弟子たちはただ三人の者を除くほかどれもみな『われらが人生相当の年を重ねて死ぬ時がくると汝がその王国にましますところへ早く上れるように，汝がわれらに任命したもうた教会の務めがその時に終ることを願いたてまつる』と答えた。

するとイエスはこれに答えて『汝らはかかることをわれに願うによりてさいわいなり。さらば汝ら七十二才とならば，わが王国のわがもとへ来りて，われと共に安息につけ』と言いたもうた。」（Ⅲニーファイ28：1—3）

モロナイがひとりでジェレド人の記録をまとめる仕事をしていた時，主から次のような慰めに満ちた確信を与えられた。

「汝は忠実なれば汝の衣は清くせらる。また汝は己れの弱点を認むる故に，力を授けられてわが父の邸の中に備えられたる所に座すべし」（イテル12：37）

パウロもまたテモテに宛てた第2の手紙の中でこう記している。

「わたしは，すでに自身を犠牲としてささげている。わたしが世を去るべき時はきた。

わたしは戦いをりっぱに戦いぬき，走るべき行程を走りつくし，信仰を守りとおした。

今や，義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には，公平な審判者である主が，それを授けて下さるであろう。」（Ⅱテモテ4：6—8）

現代の神権時代にも，大勢の人々がそのような確信を授かった。1839年の春，予言者ジョセフ・スミスとその他の兄弟たちがリバティーの牢獄で苦しい日々を送っていた頃，私たちの大管長の祖父であるヒーバー・C・キンボールは聖徒を指導し，牢獄にいる兄弟たちを助け出そうと強敵に立ち向かっていった。4月6日，彼はこう記している。

「家族を離れてから2ヵ月が過ぎた。その間に何の便りも届いていない。私の兄弟たちは牢獄の中におり，私たちの行く先々に死と破壊の影がつきまとっている。悲嘆と寂しさに暮れていた時であった。次の言葉が私の心に浮かび，みたまが私に告げて言われた，「記しなさい」。私はその場で紙を取り出し，ひざの上に置いて書き始めた。

「まことにわれ，汝，わが僕ヒーバーに告ぐ。汝はわが息子にして，喜ばしき者なり。汝はわが言葉に忠実にして，わが律法を破らず，わが僕ジョセフ・スミスにそむかざる故なり。また汝はわが油注がれたる者の言葉を敬うにより幸なり，まことに汝はわが言葉の最も小さき部分より最も大いなる部分に至るまで守りし故なり。次の言葉に心を留めてほしい。「汝の名は天に記され，永遠に取り去らるることなからん。」（オルソン・F・ホイットニー，*Life of Heber C. Kimball*「ヒーバー・C・キンボールの生涯」p.241）

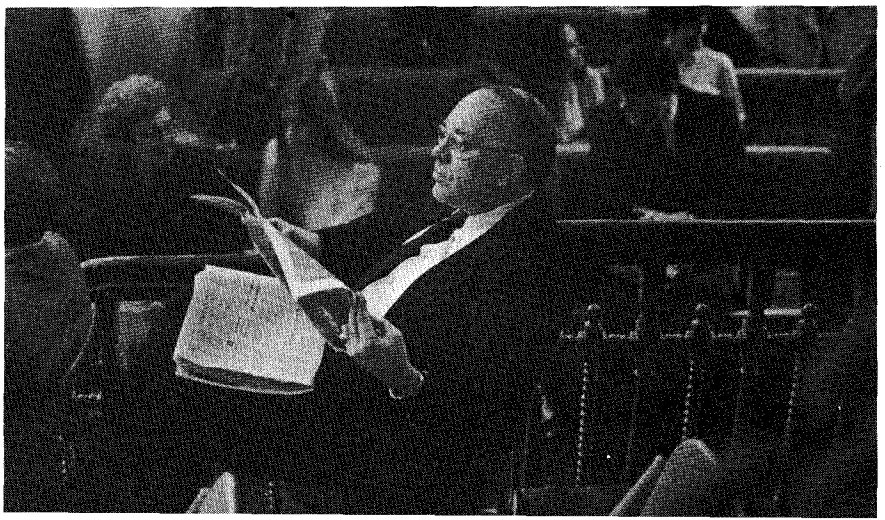
主は予言者ジョセフ・スミスに言われた。「われは主なる汝の神にして，世の終りまでもまた永遠より永遠までも汝と共にあるべし。われは誠に汝が最高の栄に進むを得ることを結び固め，わが父の王国に於て汝の先祖なるアブラハムと共に居るべき一つの王座を汝のために備うべし。」（教義と聖約132：49）

愛する兄弟の皆さん，この話の結論として，私はこれまで述べてきた事柄が確かに真理であることをここで証したい。私は，キリストのみたまは「世に来るあらゆる人々に光を与え，また『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照らす」（教義と聖約84：46）ことを知っている。

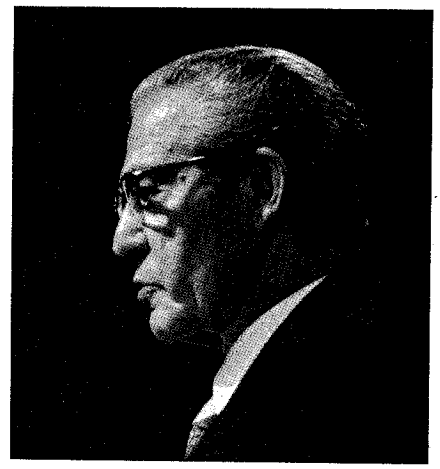
また，誰でもみたまのささやきに従って信仰を育み，バプテスマを受け，権能を持つ者から按手によって聖霊を受ける者は，福音の教えに従うことにより，聖霊の賜と力を受けることを知っている。

さらに証する。このようにここまで到達したすべての人々は，予言者ジョセフ・スミスの勧告に従って「神の前にへりくだり生活し，飢えかわくように義を求め，神の言葉一言一言によって生活」すれば，ひときわ確かなる予言の言葉を得るであろう。（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.150）

私たちがこれらの偉大な真理を理解し，また自分の召しと選びを確かにしてついにキリストの完き光を受けることができるよう，主が私たちすべての神権者を祝福したまわんことを，贖い主イエス・キリストのみ名によってへりくだり祈るものである。アーメン。



最大の兄弟愛



第一副管長
N・エルドン・タナー

私たちは，原則を教え，業を行うことにより互いに愛を表わし合う

最近数年間，私は，「キリスト教—ユダヤ教国民会議」という名の組織と関係して働いている。これは，国内全域の都市に評議会を持つ全国組織であって，それぞれの都市に役員と各種の委員会が置かれている。ソルトレーク・シティーでも，カトリックとプロテスタントとユダヤ教とモルモンが共同して，親睦と兄弟愛の高揚のために働いている。そこで私が常々考えていることは，このような親睦の精神を，あらゆる宗教に，そして全世界の人々に及ぼすことができたら，どんなに素晴らしいか，ということである。

この組織の会長であるデビッド・ハヤット博士は次のように述べている。

「兄弟愛，それは，他人の尊厳と価値に敬意を払う精神であるが，これは私たちの意識活動の一部とならなければならない。ただ単に意味のない美辞麗句を並べたり，あとから理論をつけたりするのでなく……。

兄弟愛とは，民主主義が実行されることである。私たちが自分で欲しいと思っている権利と敬意とを，他人にも認めることだからである。兄弟愛とはかくも単純で，かくも深遠なものなのである。」（*"We Need You to Combat Intergroup Bigotry and Prejudice"*「宗派間のひがみや偏見と戦って欲しい」前記会議パンフレット，1974年12月号，p. 3）

この組織の会員をよく観察し，その人々の持つ目標や理想をよく研究してみると，彼らはその目標達成のために，人々と共に調和と一致の精神で働くことによって目標の実現に努めている。そのような光景を目にして，私はいつも深い感銘を受けるのである。そして，他にも兄弟愛を求めて働いている集団はないか，他にも大きな企画ができないだろうか，などと考える時，私の心はいつも，神の神権者の組織へ戻ってくるのである。この組織こそ，全世界で最大の，しかも最も重要な兄弟愛組織である。その一員である私たちは，何と幸いなことであろうか。

だが，いつもお話していることとは思うが，この組織の一員であるということには，責任と機会が伴う。私たちは，その一員であるということで十分なのではなく，それぞれの定員会内の数に満足しているのでもない。私たちは，全世界の人々を，この兄弟愛の組織の中にまき込みたいと願っている。この組織こそ，全人類に最大の賜である永遠の生命をもたらすべく計画された，唯一の組織だからである。

教会員は，極めて特殊な立場にある。それは，教会員は皆，全人類が文字通り神の霊の子であること，家族単位は永遠であって永遠に進歩し得ること，そしてすべての人がそれを目標にすべきであるということを承知し，理解しているからである。私たちは神が私たちの御父であると承知しているため，ひとつの家族の子供たちのように，互いに兄弟姉妹と呼び合うのであり，また本当の意味での兄弟愛を感じているのである。

なぜ組織された教会が必要なのか，その理由を尋ねる人がいる。そういう人々は，自分ひとりで救いのために働くことができる，そして，教会の集会に出席する必要もなければ，その外の条件を満たす必要もない，ただ正直で徳高い生活をおくり，同胞に対して良いことを行なっていさえすればそれでよいと感じているのである。しかし主は，私たちに教会に所属するようにという指示を与えられた。そして，この主の教会は，イエス・キリスト御自身がこの世におられた時に設立された教会と同一の組織を持っているのである。数数の細かい指示が主から出され，この点をはっきりさせている。また，私たちは互いに励まし合い，助け合う必要があるとも教えられている。

主は言われた。「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様，祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。」（教義と聖約59：9）

また他の箇所でも言われた。「会員はしばしば会合してパンと葡萄液とに与り，主イエスを記念するは必要なり。」（教義と聖約20：75）

さらに言われた。「またわれ汝らに一つの誡命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。」（教義と聖約88：77）

また次のような戒めも与えられた。「あなたが立ち直ったときには，兄弟たちを力づけてやりなさい。」（ルカ22：32）

これらの指示は皆，私たちがこの世の生活を楽しむ助けとなるように，また，天の御父のもとへ帰る備えをすることができるように与えられたもので

ある。その目的のために，地球が創造されたのである。聖典の中にも,私たちのための神の計画について述べた箇所が見られる。

「われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて，これらの者の住まうべき地を造らん。

而して，これによりて彼らを試し，何にてもあれ，主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。」（アブラハム3：24—25）

神の目的を達成し，自らふさわしいことを立証するために，私たちは，主の教会の中で働き，主の認められた僕たちの指示の下に働く必要がある。同じ目標を目指して進んでいる人々と共に働くことから生まれる強さが必要なのである。

それを説明するために，ヘンリー・D・テイラー長老が語った話をもう一度ここでお話してみたいと思う。これは，数年前の総大会で語られた話で，「人は孤立しているのではない」という題がつけられている。

「ある少年が，合衆国北西部に住む木材切出し人夫のおじから，遊びに来るよう招待を受けた。……（彼が到着すると）おじは停留所まで迎えに来てくれていた。そしてふたりは，山小屋へ向かったが，少年はどちらを見ても巨大な木が並んでいるので，ひどく興奮した。見ると，小さな丘の上にたった1本だけ立っている大木があった。不思議に思った少年は大声で叫んだ。『ジョージおじさん，あの大木を見てよ。あの木からは，良い材木がたくさんとれるんでしょう。』

ジョージおじさんは，ゆっくりと首を振って答えた。『いや，いや。あの木からは，良い材木はたくさんとれんよ。材木はたくさんとれるかもしれないが，良い材木はとれんよ。木というものは，外から離れてそれだけで大きくなったら，枝がたくさんつき過ぎるんじゃ。そういう枝というのは，材木にした時，節になるからな。一番いい材木というのは，森の中で一緒に大きくなった木からとれるんじゃ。そういう木は，丈も高くなるし，まっすぐに伸びるからな。』」

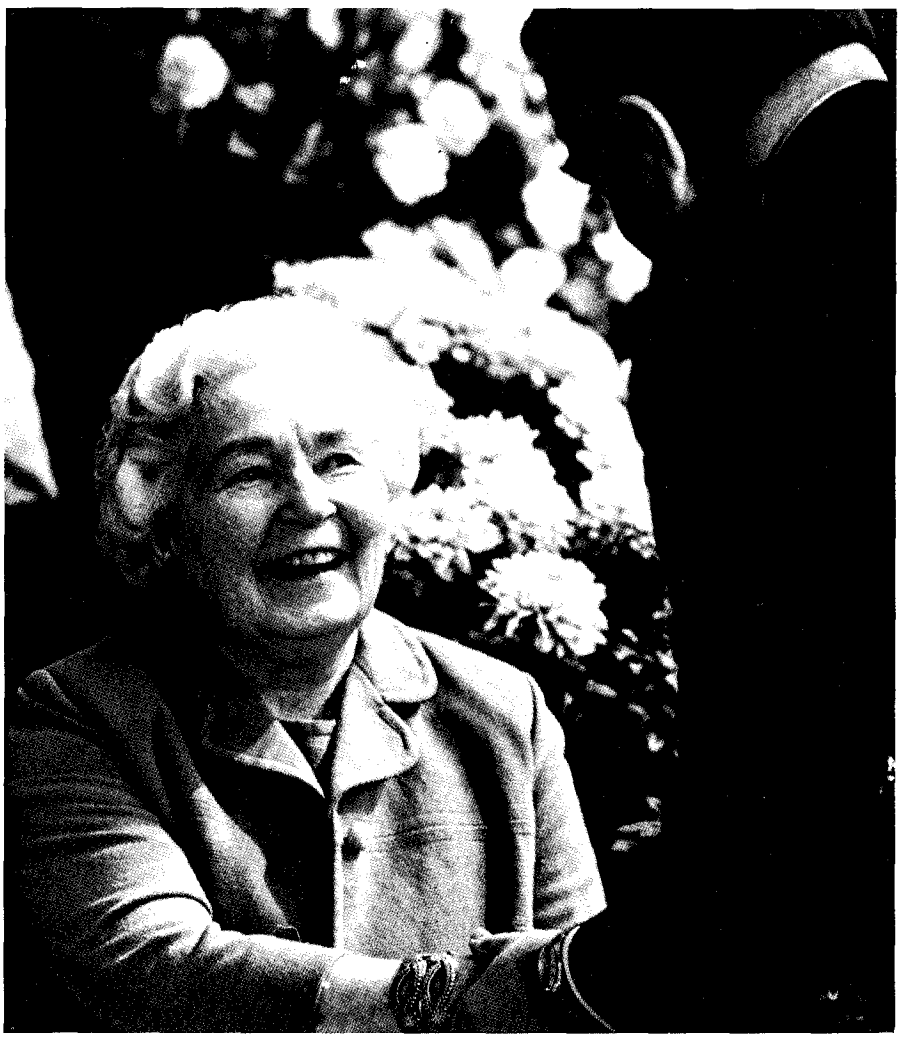
この後，テイラー兄弟は次のように言っている。「人もこれと同じである。私たちがもっと立派な人間になり，もっと役に立つ材木になるためには，ひとりではなく，一緒に成長する必要がある。」（*Conference Report*「大会報告」1965年4月，pp.54—55）

スターリング・W・シル長老は，「行進する人類」という記事の中で，次のように書いている。

「人類最大の発明は，2500年前，ギリシヤのプラテアで起こったと言われている。ある無名のギリシヤ人が，足並みをそろえて行進する方法を完成させたのである。動機も性格も異なる大勢の人々の力が，組織化され，統一されて，ひとつのものとして機能を果たせることがわかったその日，文明が始まったのである。」（*"Leadership"*「リーダーシップ」1：222—29）

教会の神権者が皆，神の軍隊として足並をそろえて義務を果たし，互いに助け合い，教会の諸事を執り行ない，全人類に手を差し伸べるという大行進をするその日，私たちは神の計画を実現し，教会設立の際に主が私たちに望まれたことを実行していることになると言っておこう。

教会は福祉計画を樹立した。そして私たちはその計画に従って，組織化された中で，困窮している人々を援助するために働くことができる。男性も女性も，限りなく時間を費やして，福祉事業のために力を合わせて働いている。これは，自分のためというよりも，むしろ他人が必要とする時に備えるためである。全教会を通じ，物資の生産と分配のための設備を持ち，それが倉庫に貯えられていて，いざという時には，



カミラ・アイリング・キンボール姉妹

私たちの間で困窮している人々にいつでも配送できるということは，本当に素晴らしいことである。

これこそ現実に行なわれている真の兄弟愛である。会ったことも，聞いたこともない人のために働き，財政的に援助しているのである。自分の家族のために，あるいは愛する人々のために仕事をするということは，むずかしいことではない。しかし，見知らぬ人が困窮している時，自分の物を分け与えるということは，私たちが同胞をどれ程愛しているかという，本当の試しである。

また他の分野でも，私たちは，見知らぬ人々の益と祝福のために働いている。神殿事業と系図の分野がそれである。私たちは，天の王国で進歩するために必要な事柄を自ら行なう機会を持たずに死んでいった人々のために，何万何千という儀式を執り行なっている。

教会活動のこうしたふたつの分野で，大勢の男女が，だれかのためになにかをしようという素晴らしい精神をもって，手に手を取り合って働いている光景は，見ていて心が励まされる。これらの事業により，共に働いている人々は，互いに個人的な関係を強め，福音は真実であるとの証を築き上げるのである。福音は，私たちが兄弟の守り手であると教え，「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわち，わたしにしたのである」（マタイ25：40）と教えている。

また，不活発な兄弟たちに，このような事業に参加してもらうこともできる。そういう人々がみ業の精神に触れた時，彼らは，定員会集会で兄弟たちと共に仲良く働きたいと思うようになるであろう。デビッド・O・マッケイ大管長は，かつて次のように語った。

「これらの無関心な長老を活発にするためには，彼らに特別むずかしいことをさせなくとも，方法はたくさんある。祈るのがきらいな人もいるだろう。人前で説教するのをためらう人もいるだろう。また，日曜日に教会に出席するよりも，魚つりに行ったり，ゴルフをしたりしたいという人もあろう。しかし，これらの無関心な長老たちがひとりとして招待を断らないものがある。例えば，町の人や定員会の会員やその伴侶の葬儀への参列を依頼する時がそうである。もし定員会として参列し，定員会として共に席をとったら，それはフェローシップの一手段となる。大祭司たちは，70人や長老に比べて，そのようなことを多くしている。

私も幾度となく葬儀に参列したが，式場には，死去した兄弟を悼んで大祭司用の指定席を備えているところもあった。集団でフェローシップする方法もあるのである。」（*Conference Report*「大会報告」1951年10月，p.179）

同じような内容の話であるが，マッケイ大管長は，別の機会に，神権者たちに向かい次のように説教した。

「伝道部，ステーキ部，ワード部，定員会で，同じ業に働く管理役員の皆様，兄弟愛や奉仕の精神を育む際に，定員会をもっと効果的に使っていただきたい。定員会というのは，神権者を神聖な絆によって結び付け，互いに助け合うことによって一致を高めるはずの組織である。

特に成人のアロン神権者に申し上げる。皆さんは実業界で成功を収めた方であり，また自分の職業の成功のために時間を充分活用した専門家であり，その結果，成功して，公の場でも政治の場でも人々を指導している方々である。是非とも，定員会にもっと積極的に参加し，……互いに助け合っていただきたい。もし仲間のひとりが病気になったら，皆さんが2人あるいは3人で一緒に訪問することもできる。

長老の皆さん，皆さんの定員会には病気になって，その上収穫の時期になり困っている人もいるであろう。一緒に出かけていって，収穫してあげなさい。息子が伝道に出かけて，資金が底をつきそうになった親がいたら，何か助けることはないか尋ねてあげなさい。そうした思いやりが忘れられることは決してない。こうした行為は，救い主が『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは，すなわち，わたしにしたのである』（マタイ25：40参照）と言われた時，心に描いておられたことなのである。」（*Conference Report*「大会報告」1955年10月，p.129）

私たちはこの兄弟愛の精神を全世界に及ぼすために，救い主の命令に従って，何万何千という宣教師を送り出している。主は言われた。「それゆえに，あなたがたは行って，すべての国民を弟子として，父と子と聖霊との名によって，彼らにバプテスマを施し，あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ，わたしは世の終りまで，いつもあなたがたと共にいるのである。」（マタイ28：19—20）

帰還宣教師からはいつも興味深い話を聞くことができる。彼らはどの伝道部で働こうと，自分は世界で一番素晴らしい伝道部で働いたと言う。これは彼らが伝道活動の真髄に触れ，人は皆兄弟で神の子供であるということを確信したからにほかならない。福音を教えるうちに，自分が伝道している人々に対して以前持っていた偏見が，愛にとって変わるのである。主のみたまの働きには，驚くばかりである。

私たちは毎日，現在宣教師に門戸を閉ざしている国々の政府がその門戸を解放して，福音を教えることが可能となるように祈っている。この福音以外神が父であることと，人類が兄弟であることを完全に理解させてくれるものはない。私たちは，そのような国々の人々にも，どのようにすれば御父である神のみもとに帰って共に生活することができるか，また家族と再び一緒になることができるか，そしてまた最終的には，ひとつの大家族として永遠に暮らすことができるか，などといったことを説明したいと思っている。

私たちは偏見を抱いていると責められてはいるが，世界中どこを捜しても，末日聖徒程，人間性というものに関心を示し，また強い愛情を示している人々はほかにいない。私たちは，原則を教えることと行ないによって，兄弟愛を抱いていることを表現する。これまで，死者のための神殿事業，福祉活動，伝道計画についてお話してきた。さらにまた，私たちは，神権組織のホームティーチャーと扶助協会の家庭訪問教師を通じて，私たちの仲間にも関心を

抱いていると申し添えておきたい。こうした訪問が，指示されるままに行なわれるなら，教会員たちは，自分が大きな兄弟愛の輪の中に入っていると感じるはずである。

私が今申し上げたことをはっきりさせるために，ふたつの話をしたいと思う。私たちの教会員である人が，ニューヨーク・シティーへ転勤になり，あるラジオ局の主任として働くことになった。彼はそれまで一度もニューヨークへは行ったことがなかったが，教会の近くの家に住み，初めての日曜日に集会に出席した。彼は兄弟として，神権定員会の歓迎を受け，妻と子供たちも同じように歓迎を受けて，すぐにうちとけることができた。

これと対照的に，同じ頃，この人の知っている青年が，会社の命を受けて他の局の仕事のために派遣されてきた。青年は，私たちの教会の数倍も会員がいる教会の会員であったが，一度としてうちとけた気分になることもできず，以前いた局へ再び転勤させてくれるよう申請した。これは，青年の側に非があるのかもしれない。あるいは，教会の側に非があるのかもしれない。しかしながら，私たちの教会では，会員一人一人や定員会が，当然果たすはずの役割を果たしさえすれば，教会員は皆，どこへ行っても幸せを感じ，必要とされていると感じ，受け入れられていると感じるのである。

もうひとつの話は，最近ある神権者が私に話して聞かせてくれたものである。その話をしよう。

「私は，妻と，十代の息子と娘を乗せた車で，大きな事故を起こしました。妻と娘と息子は，特別大きな傷も負わずに車から抜け出しました。車は完全に壊れていました。私は，つぶれた車の中から引き出された時，ショックのために体が麻痺し，意識も完全ではありませんでした。救助してくれた人たちも，私たちがどうして死なずにすんだのか不思議だったそうです。

人々が事故現場にやってきた時，ひとりの男の人が，麻痺を起こすおそれがあるから私を動かしてはならないと命令しました。この人は，現場へ最初に来てくれた人でした。彼は私の体を調べると，私が神殿のガーメントを着ていることに気付きました。彼はモルモンだったのです。私を無事救急車に送り込んだあと，隣りの町へ行く途中で，彼は監督会に連絡をとってくれました。私が病院に到着すると，兄弟たちがそこで待っていてくれ，私に祝福を施してくれました。病院の担当医師はステーキ部長でした。

1週間，私は危篤状態でした。副監督のひとりは，妻と子供たちを自分の家へ連れて行き，食事と眠る場所を提供してくれました。3，4日後，妻と子供たちは，フェニックスにある家へ帰りました。すると，ここでもワード部の会員たちが私の家族の所へやってきて，できることはなんでもすると言ってくれました。ひとりの善良な兄弟は，私を家まで運ぶのに，彼の自家用飛行機でも移動住宅式バスでもどちらでも使ってよいと申し出てくれました。私たちは，移動住宅式バスを使わせてもらうことにしました。そこには，担架をそのまま入れることができたからです。

私が家に着いた時，友人がたくさん出迎えてくれました。そして，私の友人であり，神権定員会の会員でもある優秀な医師が，私の面倒を見てくれたのです。私は，様々な形で援助を申し出てくれた人々に，感謝の言葉もありません。しかし，確かに，私たちは神権が実際に活用されているのをこの目で見たのです。そして，私たちは，このような兄弟愛を培う末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることに，終生，感謝し続けることでしょう。」

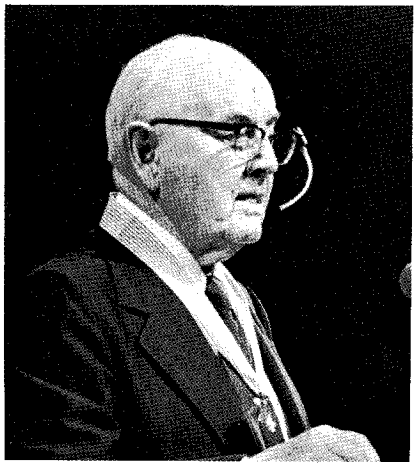
以前に大管長会で副管長を務めたスティーブン・L・リチャーズ長老は，次のように言っている。

「私は，自分なりに次のような結論を下した。それは，人が知的にどれ程高くなろうとも，またどれ程広大で遠大な奉仕をしようとも，聖なる神権を授からない限り，主が意図されたように，神との関係や人の本当の使命について完全に理解することはできないということである。兄弟たち，私はこのことがわかってからというもの，私に与えられたこの大いなる祝福に対し，生涯，主に感謝を捧げてきた。この祝福は，私の先祖たちが受けてきた祝福であり，また，何にも増して，私の息子や孫やひ孫たちに，私の遺産として受け継いで欲しい祝福である。」（*Conference Report*「大会報告」1955年10月，p. 88）

兄弟たち，私はこれまで，私たち全員が，自分の義務を一層深く理解するための助けとなるように話を進めてきた。これは，私たちが「良い忠実な僕よ，よくやった」（マタイ25：21）と言っていただくためなのである。私たちが，予言者スペンサー・W・キンボール大管長を助け，全人類に恵みと祝福をもたらしたいという，大管長の切なる望みを実現することができるように。大管長の第一の，そして最も重要な目標は，あらゆる国家，民族，国語の民に福音を携えて行くことであり，また，信仰深い義人のために備えられたそれらの祝福を，天においても地においても結び固めるために神殿を建設することである。

心をつくし，思いをつくし，体力をつくして，主の再臨に備え，主の望まれることを一生懸命果たすことができるように。私は，主が降臨の暁には，その栄光に満ちたみ業の完成を助けるために，だれよりも先に，神権を持つ忠実な兄弟たちを呼び集められることを固く信じている。私は主が生きておられることを知っている。主は必ず再び来られる。私たちが，主を迎え，主のみ業を助けるのにふさわしい者となれるよう，心から祈っている。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

☆　　☆



私たちの大きな可能性

大管長
スペンサー・W・キンボール

義人には，「遂には神の如き者となり，それにつける祝福を受ける」ことができるという約束が与えられている

この神権時代の2代目の大管長であったブリガム・ヤングは，次のように語った。「主の民である私たちは，生命と救い，昇栄のためのあらゆる儀式を授けられており，しかもそれを執行していると考える。しかしそうではない。私たちが授けられているのは，肉において執行することのできるすべての儀式なのであって，次の世で執行されなければならない儀式は与えられていないのである。それにはどのようなものがあるか尋ねたいことと思う。そのひとつを話したい。それは復活の儀式とその鍵である。」（*Journal of Discourses*「説教集」15：137）

私たちには復活の鍵があるだろうか。皆さんは，二度と死なない体となって，この地上に戻ってくることができるだろうか。皆さんの両親，祖父母，先祖はどうだろうか。

私は11歳の時に母を亡くし，20代の前半に父を亡くした。私は今でも両親のことを非常になつかしく思っている。もし私に，世の救い主のように，復活させる力があったら，その力を使って両親をもっと生き長らえさせていたかもしれない。

私はこれまで幾度となく依頼を受けて葬儀で話をしてきた。私のよく知っている人々もいれば，私の愛した人々もいた。また私の祝福により，しばらく命をとりとめた人々もいた。しかし，私たちは，イエス・キリストが数人の人々をよみがえらせたもうたように，死者をよみがえらせることのできる人を知らない。

その鍵は，「この現世というステージを終えて，再び肉体を得た人々に与えられるであろう。……彼らは復活の鍵を持つ者により聖任を受けて，聖徒たちを復活させることであろう。それはあたかも，私たちがバプテスマを受けた後，他の人々に罪の赦しを受けるためのバプテスマを施す権能の鍵を受けるのと同じである。これがこの地上で受けることのできない儀式のひとつであり，このようなものはほかにも多くある。」（「説教集」15：137）

主イエスが舟の後部でまくらをして眠っておられた場面を覚えているだろう。その時，弟子たちはイエスを起こして，「先生，わたしどもがおぼれ死んでも，おかまいにならないのですか」と言った。

「イエスは起きあがって風をしかり，海にむかって，『静まれ，黙れ』と言われると，風はやんで，大なぎになった。……

彼らは……互いに言った，『いったい，この方はだれだろう。風も海も従わせるとは』。」（マルコ4：38—39，41）

恐らく，将来，私たちが肉体と霊とを完成させていく過程で学んでいくことが，外にもあるのであろう。それにしても，私たちは，何と頼りない存在であろうか。私たちにはごく限られた力しかなく，風も波も嵐も，ほとんど従わせることができないのである。私たちは聖典の言葉を数多く知っているが，その中で前の予言者ロレンゾ・スノーの言葉を引用してみよう。短い一文に凝縮された言葉である。「人が現在あるごとくに神はかつてあり，神が現在あるごとくに人はなり得るのである。」これはつまり，私たちが完成に近づき，経験を積んで，自然界の物質を創造し，組織し，支配する力を得るようになれば，それに従って新たな力も与えられるということである。私たちは何と限られた存在であろうか。私たちには，草を生えさせる力も，植物を生み出す力も，種を発芽させる力もない。

再びブリガム・ヤングの言葉である。「このような儀式はこの世で行なわれない。私たちは，この現世の人間に適応した組織を作る。元素を組み合わせ，種をまくことにより，私たちは，野菜や木や穀物などを育成する。」しかし私たちは生命を吹き込むのではない。「私たちは，現世の人のために用意された主の計画に従って，この世で王国を組織している。復活した人々のために組織しているのではない。しかし，似たような組織であることは確かである。」（「説教集」15：137）

何百万という人類が，これまで霊の創造と成長に貢献してきた。しかし「この芽を，神は私たちの内におかれた。だから，私たちの霊が肉体を受け，信仰深い生活を通して私たちが冠を受けるにふさわしい者となる時，霊と肉体を生み出す権能が与えられるであろう。しかし，これらの鍵をこの地上で受けることはできない。」（「説説集」15：137）これもまた，天の権能である。

ここで，アブラハムなる人物を紹介しよう。人として生まれ，モーセの先祖となり，「一人の人の別の人に語る如

く主と顔と顔とを合せて」（アブラハム3：11）語った人物である。

主は言われた。「わが子よ，……われ汝にこれらのすべてを示さん。……われ主の御手に成る工（わざ）を見たるところ……そはわが眼の前に殖え増してその極を見る能わざりき。」 アブラハム3：12）

主はアブラハムに，諸々の星座と世界とを示されたが，それは海の砂のように数限りなかった。そして，主は言われた。「アブラハムよ，われ汝がすべてこれらの言を宣べんため，汝がエジプトに入るに先だちこれらのものを見するなり。」（ ブラハム3：15）それから，諸々の創造物と星と世界が，数限りなく次々と示された。

主はこれに先立って天使を送り，祭壇上のアブラハムの命を奪おうとした暗殺者の手からアブラハムを救い出しておられた。そして主はアブラハムに彼の知らなかったことを示された。それは,「われは上は諸天を支配し,下は地を支配し，あらゆる智恵に於て思慮に於て汝の太初より見たるところのすべての英智たちに勝ればなり，われは太初に，汝の見たるすべての英智たちの中に降り来れり。」（アブラハム3：21）

それから主は，新しい世界を予言者アブラハムの前に展開するのである。主はアブラハムに，「この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまいたりき。而して，これらすべてのものの中には，高貴にして偉大なるもの多くありたり。

神，これらの霊を善しと見たまい，これらの霊の中に立ちて言いたまえり，これらの者をわが統治者となさん。神，霊なりしこれらの者の中に立ちて，これを善しと見たまいたればなり。而して，神われに言いたまいけるは，アブラハムよ，汝はこれらの者の一人なり。汝は生れざる前に選ばれたり，と。

これらの者の中に，神の如き者一人立ちて共に在りし者たちに言いけるは，われら降り行かん。かしこに空間あればなり。而してこれらの材料をとりて，これらの者の住まうべき地を造らん。」

そして次のような約束が続いて与えられた。「而して,これによりて彼らを試し，何にてもあれ，主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。

而して，最初の位（つまり，霊としての生活）を保つ者は更に附け加えられ，最初の位を保たざる者は，最初の位を保つ者と同じ王国にて栄を得ることなからん。而して，第二の位（これが現世の生活である）を保つ者は，とこしえに栄光をその頭に附け加えられん。」（アブラハム3：22—26）これにはすべて条件がつけられている。彼らがその位を保ち，戒めを守り，主なる神の命じられたすべてのことを行なうという条件である。

神は，これらの英知たちを選んで霊

讃美歌を歌う大管長会

体を与え，さらに指導と訓練を施された。また，彼らのためにひとつの世界を創造し，霊である彼らに肉体を得させるために，そこへ送り込まれた。そのために備えられた世界だからである。主は，彼らを地上に置いた後，どのように成長に努めればよいのか，どのように生活を整えて完全な者となればよいのかということについて，彼らに教えられた。彼らが成長を遂げて，天の御父のみもとへ帰れるようにするためである。そしてついに，霊体が地上に送られて，肉体を与えることを許された両親の下に生まれる時がやって来た。しかし，いまだかつて，この地上で，霊体の親となった者はいない。私たちは，まだ完全からはほど遠い状態だからである。少し前に私の言った言葉を思い出していただきたい。「人が現在あるごとくに神はかつてあり，神が現在あるごとくに人はなり得るのである。」霊たちは，自分が神のような者となったら天父のもとに戻ることができ，大いなる進歩と成長を続けることができるということを完全に理解した上で，この地上に来たのである。

皆さんは，霊を生み出すことができるであろうか。皆さんの知っている人で，霊を生み出した人がいるであろうか。これも現世の人間には与えられない力である。だから，私たちには，学ばなければならないことがまだまだたくさんあるのである。

「私たちはまだ，霊体を創造したり，生み出したりする力は持っていない。（世界中の専門家の自慢の知識を総動員しても，この力はまだ得られていない）しかし，私たちは（神の助けを借りて，私たちの子供のために）この世での肉体を生み出す力は持っている。この芽を，神は私たちの内におかれた。……だから，兄弟たちよ，私たちは，この地上にいる間に仕事をなし終えることはないし，完成させることもできないことが，理解できるであろう。イエスでさえ，この地上にいる間に，み業を終えることがなかったのである。」（「説教集」15：137）

もうひとつのことをお話しよう。私たちがこの地上で肉体を持っている間は，「王国を作ったり，物質を組織したりすることはできない。それは，私たちの能力や召しを越えたものであり，この世ではできないことだからである。復活の際，この世であらゆることに忠実で勤勉であった人々，すなわち，第一の位と第二の位とを保ち，神たる冠を受ける，つまり神の息子となるにふさわしい人々は，聖任されて，物質を組織することになる。この地球と，目に見える星との間に，どれほどの物質があるかおわかりだろうか。この地球と同じようなものを幾百万となく作れるだけの物質がある。ただ，今のところ，それが拡散していて，汚れもなく純粋だから，私たちはそれを通して星を見ているのである。それでも物質はそこに存在する。この概念がおわかりだろうか。物質がどれ程微細なものか，おわかりになるだろうか。」（「説教集」15：137）

私たちの知っていることがいかにわずかか，少しでも理解できただろうか。パウロが言ったように，「目がまだ見ず耳がまだ聞かず，人の心に思い浮びもしなかったことを，神は，ご自分を愛する者たちのために備えられた」のである。（Ｉコリント2：9）

私たちは，完全な福音について話をする。しかし，私たちが準備するにつれ，生活を完全なものにするにつれ，そしてもっと神のような者となるにつれ，まだ多くのことが与えられることも承知している。私たちはそれに対する備えができているだろうか。教義と聖約の中には，アブラハムはすでに神の如き者となったと書かれている。疑いなく，彼は数々の力を授かっているに違いない。私たちも，そのような力を授かりたいものであるし，また，信仰深い，完全な生活を続けてゆく限り，必ず私たちにも授けられるはずである。

今日の話を，「高きに栄えて」の歌で終りにしたいと思う。

高きに栄えて　　住めるわが父
いつ，かえり行きて　　み顔を見るや
わが霊かつては　　みそばに住みて
幼きそのとき　　育てられしか
深きみむねにて　　われ世に降だし
友と生れとの　　思い出とめぬ
「汝は旅人」と　　ささやきありて
さらに高き世に　　在りしをさとる

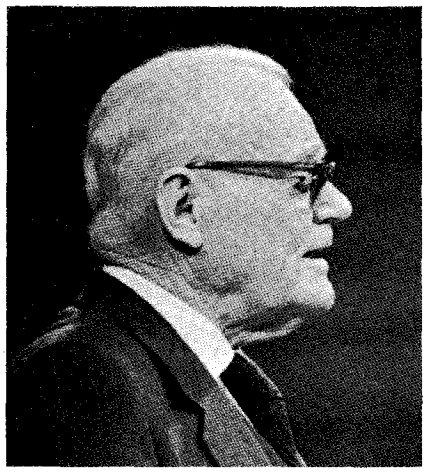
み父と呼ぶべく　　みたまにならう
智の鍵受くまで　　理を知らざりし
み親は一人か　　深く思えば
永遠の真理は告ぐ　　天に母ありと

この身を横たえ　　世を去るときに
父母と高きにて　　われは会えるや
仰せのみわざみな　　成しとげしとき
受入れみそばに　　住まわせたまえ
（讃美歌140番）

兄弟たち，私たちが完全に向かって生活を向上させて行く時，神の祝福があるように。それは，約束された祝福にあずかるためであり，ついには神の如き者となって，それにつける祝福を受けるためである。

私は，私たちが家庭に戻って，子供たちを訓練し，彼らに永遠の福音の原則を教える時，主から祝福をいただけるよう，主に願い求める。子供たちは，幼い内から生活を整えることができる。そうすれば，やがて永遠の将来に主から認められる完成を目ざすであろう。こうした祝福を授かるよう願い求めると共に，私たちの祝福を皆さんに残したい。また，この教会が真実であること，神が生きておられること，イエスがキリストであることを証する。皆さんもそれを知っているし，私も知っている。私たちはそのことを身をもって生活に示さなければならないのである。この証をイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

☆　☆



希望の光

第二副管長
マリオン・G・ロムニー

主の戒めに従うならば平安を得，罪ある状態に止まっているなら災いが下されるであろう

私は今日の話のテーマとして，万事に悲観的な世であった1918年に，陸軍でよく歌われていた歌の一節を選んだ。その歌は次のような言葉で始まる。

雲間に漏れる銀色の光がある
（レナ・ギルバート・フォード）

私がこのテーマに決めたのは，やがて困難な時代の来ることを告げる兆が今見えているが，その裏には必ず「銀色の光」があり，「私たちの知らない薄暗がりの向こうで神は絶えず私たちを見守っておられる」ということを信じているからである（*The Present Crisis*「現代の危機」ジェームズ・ラッセル・ローエル）。

現在，世界が関心を抱いている事柄は，国連事務総長の次の言葉に最もよく表わされている。

「私は，今日世界を取り巻いている情勢を深く憂慮すると共に，このことを各国の責任ある地位にある方々に是非とも認識していただきたいと思う次第である。現在の混乱した発展がこのまま続けばどうなるかということに関しては，世界中の人々が懸念するところであり，また私たちが完全に理解できず成り行きに任せている諸現象を非常に心配する声がある。未来についてあらゆる推測がなされているが，その大半は先行きの暗いことを示している。その中で，私の心を非常な不安に陥れているのは，なすすべがないという宿命論である。しかしこれは何も新しい現象ではない。人間社会に変化の時期が到来する徴候が見えると，しばしば悲惨な予言が発せられるからである。ただ新しいことと言えば，こうした懸念を引き起こす問題がこれまでになく大きいということである。

今日，そうした問題に直面している文明は人類の一部にとどまらず，人類全体に及んでいる。」（クルト・ワルトハイム，1974年8月30日）

深まる暮色を予示する今ひとつのしるしは，*The End of Affluence*（「繁栄の片隅で」）と題する新刊書について取り上げた最近の新聞記事の中に見ることができる。この書物は，「とどまるところを知らない食糧難のどん底であえいでいる人類を描いたものである。」（ポール・エルリッヒ夫妻，スタンフォード大学ニュース，1974年12月17日付）

世の人々はこのような前兆に狼狽の色を見せているが，末日聖徒は決してこれに驚かない。私たち末日聖徒は，主が150年程前に，地の民がその行ないを改めなければ災いが下されるであろうと言われたことを知っているからである。主はその災いがなぜ，いつ下されるのか，また災いを避けるにはどうすればよいかについて言明された。

主は，今にも起ころうとしている災いの原因を説明して，次のように言われた。「そは彼ら（この世に住む人々）わが儀式より離れ去り，わが永遠の誓約を破りたればなり。

彼らは主の義を打建てんために主を求めずして，あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども……

されば，主なるわれ，この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば，わが僕ジョセフ・スミス（二代目）を呼び天より語りて彼に誡命を下せり。

また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶる様誡命を与えたれど……」（教義と聖約1：15—18）

主はここで，父なる神と御子イエス・キリストがジョセフ・スミスに親しくみ姿を現わされてから11年の間に御自身とジョセフ・スミスの間にあった交わりを指して言っておられる。こうした交わり，すなわち啓示を通して，神は全人類が文字通り神の霊の子供であることを断言された。また，地球は神の霊の息子，娘である私たちの住むべき場所として御父のみこころに従って創造されたこと，そして私たちはこれで試され，父なる神が命じられることを行なうか否かを見られることになったことを説明された。

神は豊かな経験から，災いを被らないようにするには私たちがどう振る舞えばよいかということを知っておられた。災いはこれまでも繰り返し地の民を悲しみに追いやり，荒廃させてきた。

そこで神は，存続し繁栄を続けて行くためにはどういう生き方をすればよいかを，アダムを始めとする最初の世代に，またその後に続くすべての世代に教えられた。神はまた彼らに，主の指示に従うならば祝福されて栄えるであろうと約束され，同時に教えに従わなければ災いと不幸が下るであろうと

警告された。

これらの指示と警告は，執念深い暴君の気まぐれな命令ではない。いつも私たちのことを心にかけておられる愛に満ちた天父の教えであり，勧告であり，願いである。この地上に平和と幸福をもたらす唯一の方法が指示されているのである。世界の平和と発展に欠くことのできない不変の律法であることを宣言するものである。地球自体，地球を創造された神の教えに人類が従うか否かに左右されるのである。

従順とは，「自然の力が平和のうちに相互に利益を与え合いながら作用し合う」ことである。

一方，不従順は，「災いという破壊的現象の形」で現われ得るし，これまでにも繰り返し引き起こされてきた。

ノアの時代の人々の不従順は，「大洪水をもたらしたのであった。」（ジェームズ・E・タルメージ，*Improvement Era*「インプルーブメント・エラ」1921年6月号，p.738）

ここで，もし従順であるならば平和と繁栄がもたらされるであろうという神の基本的な教えについて，少し考えてみよう。

アダムとイブがエデンの園を出た後，ふたりが神から最初に受けた戒めは「主なる汝らの神を礼拝せよ」というものであった（モーセ5：5参照）。この戒めには大きな意義がある。というのは，これが神の他のすべての戒めの土台となるからである。主なる神を礼拝することの大切さを，主が繰り返し強調して言っておられることに注意していただきたい。

「わたしはあなたの神，主であって……あなたはわたしのほかに，なにものをも神としてはならない。

あなたは，あなたの神，主の名を，みだりに唱えてはならない。」（出エジプト20：2—3，7）

「先生，律法の中で，どのいましめがいちばん大切なのですか」と質問した律法学者に，イエスはこう言われた。

「心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ。」（マタイ22：36—37）

主は暗に先の戒めのことを指して，現代の人々について，予言者ジョセフ・スミスに次のように言われた。「彼らは主の義を打建てんために主を求めずして，あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども，その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。」（教義と聖約1：16）

これらの戒めには，それを守る時に祝福が与えられるという約束が伴っている。そのことが，この神権時代の聖徒のためにジョセフ・スミスに与えられた主の戒めの中にはっきりと述べられている。

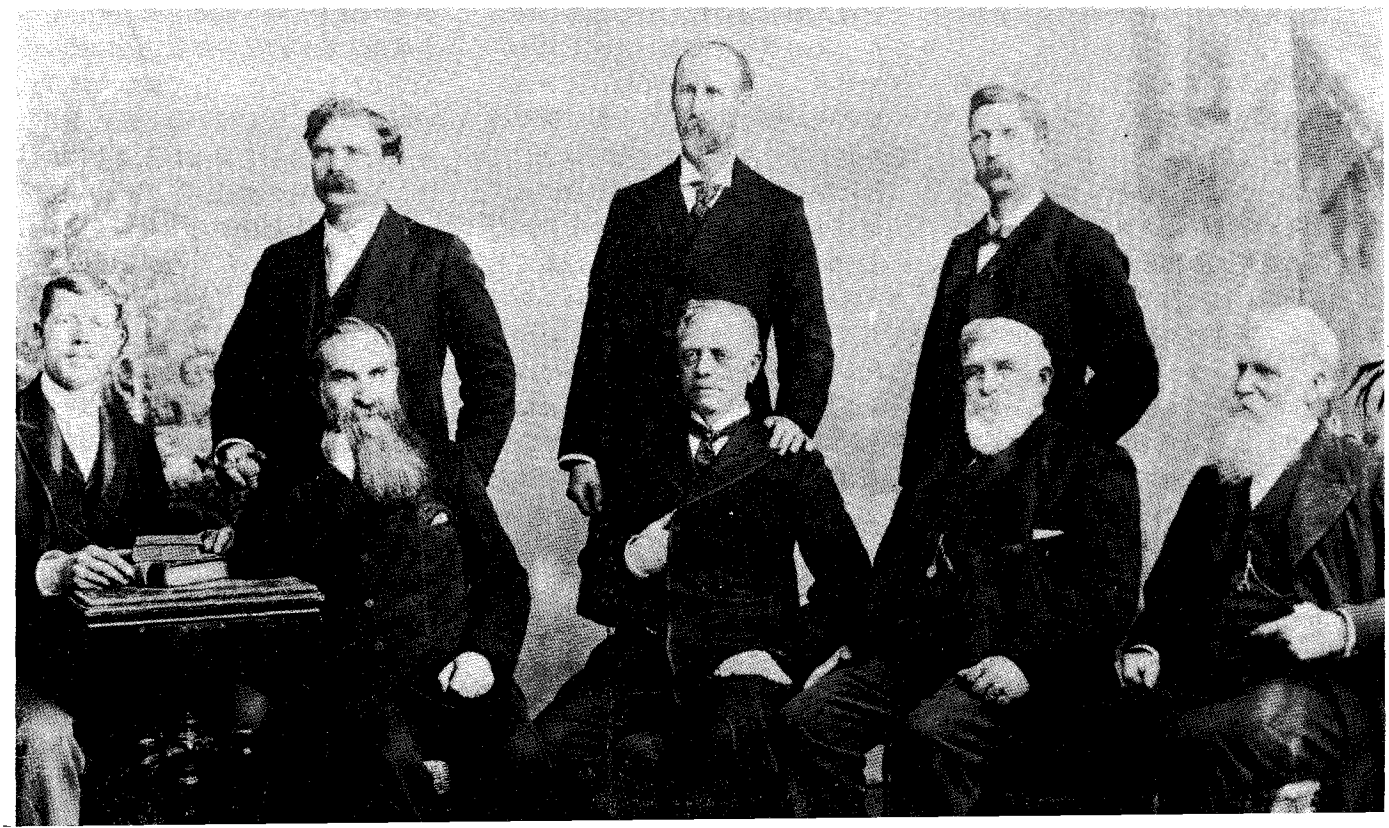
「汝ら偽りを言うなかれ。」（教義と聖約42：21）

「汝心を尽し，勢力と思いと体力とを尽して主なる汝の神を愛すべし。また，イエス・キリストの名によりて神に仕うべし。

汝己れの如く汝の隣りを愛せよ。汝盗むなかれ。また，姦淫を犯すなかれ。また，人を殺すなかれ，また何事にてもこれに類することを為すことなかれ。

すべての事に就きて，主なる汝の神に感謝すべし。……

1896年の七十人最高評議員会。後列左より，ブリガム・H・ロバーツ，ジョナサン・キンボール，ルーロン・W・ウェルズ。前列左より，ジョン・ミルズ・ホイッタカー（書記兼会計係），ジョージ・レイノルズ，セイモア・B・ヤング（会長），クリスチャン・D・フジェルステッド，エドワード・スティーブンソン（ユタ州歴史協会提供）



汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様，祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。……

而して汝ら感謝と愉快なる心と顔容とを以てこれを為さば，……

地に満つるすべてのものは汝らに与えらるべし。……

されど汝知るべし。正しき業を行う者はよき報いを得，すなわちこの世に在りては平和を得，次の世に在りては永遠の生命を得ん。」（教義と聖約59：5—7，9，15—16，23）

現代の人々は，この戒めを守ることによって上記の聖句にあるような報いを得ているだろうか。主は次にあげる聖句の中で，私たちが悔い改めをせず，悪の道に引き続き止まっているならどのような報いを受けるかについて述べておられる。

「そは，無人の境となるほどの懲しめこの世の人々の中に出で来り，世の人々悔い改めずんば度々引きつずき懲しめを蒙りてこの世は空しくなり，世の人々はわが来る時の光輝により焼きつくされてことごとく亡び失するに至ればなり。

見よ，この言はわれまたエルサレムの滅亡に就きて正にその民に告げたる如く語るなり。この事のかつて今までに実証せられし如く，今またわが言は実証せらるべし。」（教義と聖約5：19—20）

教義と聖約88章の中で，主は次のような勧告と予言を与えておられる。「汝らの束縛を解きたる自由を守り，罪に陥ることなくして主の来るまでその手を清浄になし置くべし。

今より日ならずして，地は震いて酔いたる人の如くよろめき，日輪は面をかくして光を与うることを拒み，月輪は血を浴び，諸星激しく怒りていちじくの樹より落つるいちじくの如く落ち下らん。」（教義と聖約88：86—87）

いかなる政府の働き，国家の軍隊，人間の学識と知恵を結集しても，これらの災いを逃れることはできない。災いを避ける唯一の道は，天父なる神によって示された生活を受け入れそれに従うことである。災いは，ある原因がありその結果として起こるのである。従って，「人類が罪を犯し，神に背き続けるならば当然」災いは起こる（タルメージ「インプルーブメント・エラ」1921年6月号，p.739）。

だからと言って，主がこれらの災いを楽しんでおられるとはお考えにならないように。主はそのような御方ではない。主は人々に悔い改めて災いを避けるよう説き勧めるために，罪の結果がどうなるかを写実的な表現で予言しておられるのである。

さて，最後に少し，初めに述べた希望の光について考えてみよう。

主はこれまで度々，主の戒めを破るならば災いが下されるであろうと警告してこられたが，同時に，戒めを守るならば災いは避けられ，祝福がもたらされると約束しておられる。

不従順の結果大洪水が起きたように，従順の結果エノクのシオンは聖別された。

「主はその土地を祝したまいたれば，民は……誠に栄えたり。

主，その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし，精神を一にし，義に住みたればなり。」（モーセ7：17—18）

キリストが十字架にかけられた時，古代アメリカに住む不従順な民は，地震や旋風，火事によって滅ぼされた。その一方義人は生き長らえて繁栄し，民の間には100年以上の間何の不和もなかった。（Ⅳニーファイ2，16参照）

主はマラキを通して約束しておられる。「イスラエルはその忠実さの故に相応の時季を与えられ，慈雨にも恵まれて，倉に納め切れない程の収穫を得るであろう。」（タルメージ「インプルーブメント・エラ」1921年6月号，p.738；マラキ3：8—12参照）この末の日にもこれと同じ保証が与えられている。

ニーファイはこの時代を先見して，次のように語っている。「神が……火をもってその敵を亡ぼさねばならなくとも神はその能力で必ず義人たちを守りたもう。故に義人は恐れるに及ばない」（Ⅰニーファイ22：17）

イエスは現代について，使徒たちに次のように言われた。「……地に溢るる懲しめを見終りて後……世を滅ぼすべき疫病，地を覆うべければなり。

されどわが弟子たちは，聖地に立ちて動くことなかるべし。されど悪しき人々の中には，声を挙げて神をのろい死ぬる者たちあらん。

また地震も至る所に起り多くの荒廃は来らん。されどなお人々はわれに向いてこころを頑固にし，互いに剣を執りて殺し合うべし……

さて主なるわれ，これらのことを弟子たちに語りし時彼らこころを悩ませり。

されば われ彼らに言えり。汝らこころを悩ますことなかれ。そはすべてこれらの事起る時は，汝らに為せる約束の成就するを汝らの知らんが故なり，と。」（教義と聖約45：31—35）

「……われは人々を偏り見る者にあらざれば，すべての人々をしてその日の速に来るを知らしめんと思えばなり。而して地より平和の取り去られ，悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。

されど（ここに希望の最も明るい光がある）主もまたその聖徒らを支配し，その真中にありてこれを統治せん。」（教義と聖約1：35—36）

以上の主の約束を固く信じ，信頼するためには，私たちは戒めを守り，「私たちの知らない薄暗がりの向こうで神は，絶えず私たちを見守っておられる」ということを知って励む必要がある。これが，私の心から望むことである。

さて，私の兄弟姉妹である皆様に，私はこれから述べることが真実であることを証申し上げる。私たちは父なる神の子供である。神は私たちをこの地上に送って下さった。神の簡潔明瞭なみ言葉に従って私たちが何を行なうかによって，これから起こることが決まるのである。悔い改めて主の戒めに従うならば，私たちは世にあって平安を得，罪ある状態に止まっているならば災いが下されることを私は知っている。神が私たちと共におられて，私たちが平安と安全を得ることができるよう，贖い主イエス・キリストのみ名によりお祈り申し上げる。アーメン。

仲　保　者

十二使徒評議員会会員
ボイド・K・パッカー

深く罪を悔いる人々のために，正義の要求に応じ，憐れみを施すことのできる贖い主，仲保者がおられる

今日の私のお話は，皆さんと私のふたりだけであれば私自身もっとよくお話しすることができ，皆さんにも理解していただけると思う。また，私たちがお互いを知っていて，まじめな問題，それも神聖な事柄をも話し合えるような，そのような信頼関係にあればもっとお話しやすいと思う。

もし私たちがそのような親しい関係にあったら，今日の話の内容から言って，私は皆さんの表情に注意を払いながら話を進めていくと思う。そして，もし全く興味がなかったり，心に混乱を来すようであれば，すぐにもっと平凡な事柄に話題を変えるであろう。

しかし私の記憶する限り，私はこれ以上大切なことをお話したことはないと思う。私は今日，私たちの主であるイエス・キリストについて，イエスは実際に何を行なわれたか，またそのことが現在どのような意味を持つのかについてお話するつもりである。

人から次のように尋ねられたとしよう。「救い主が社会にお与えになった影響は別として，あなた自身は救い主からどのような影響を受けていますか。」

この質問に答えるために，まず皆さんに次のことをお尋ねしたい。あなたはこれまで経済的にひどく困った経験がおありだろうか。また思わぬ出費に迫られたり，借金の返済期限が来て，金策がつかずに困ってしまったというような経験をしたことはないだろうか。

このような経験は愉快なものではないが，永遠の計画の中では非常に有益なものとなり得る。もし，これまでそうした経験から何も学んでいなければ，道に迷ったり，試験に失敗した時のようにわかるまで努力しなければならない。そうしてはじめて霊的な成長を遂げることができるのである。

主が次のように言われたのは，そのことを指しているのではないだろうか。

「富んでいる者が神の国にはいるよりは，らくだが針の穴を通る方が，もっとやさしい。」（マタイ19：24）

請け戻し権喪失という問題に直面した経験のある人なら，問題に直面している人がどこか困った様子で，だれかが救いに来てくれるのを待っているように見えることを知っている。

ここで大切な教訓を学ぶことができる。すなわち，私たちには霊の収支計算書があって，たえず残高が記され不足分については必ず清算しなければならないのである。

この霊的な債務を理解するためには，どうしても愛，信仰，憐れみ，正義といった実体のないものについてお話しせざるを得ない。

これらの徳は耳にすることも目にすることもできないものではあるが，これの実在することをここでわざわざ皆さんに説く必要はないと思う。私たちはしばしば，視覚や聴覚以外の感覚によってそれらの徳を知るのである。

私たちは，あまりにも視覚，聴覚，嗅覚，味覚，触覚という五感を通して知覚することに慣れすぎているため，これ以外の方法では知覚できないような人がいる。

しかし，霊的な事柄はそのような感覚では決して知覚できないのである。心で受ける感じは触覚で受ける感じとは異なる。心に触れるような感じを受けるのである。

物事，霊的な事柄は純粋な知識として私たちの心に刻みつけられ，記憶に残るのである。知識とは，「すでに起りたること，今有ること，近く必ず起らんとすること」に関する知識である（教義と聖約88：79，93：24，ヤコブ4：13参照）。

私たちは物質的な事柄について知っている。それと同じように確かに，霊的な事柄についても知ることができる。

私たちはみな例外なく，いつの日か霊的な事柄について清算する。その日，私たちは現世での行ないに対する裁きに臨み，抵当権の行使という問題に直面するであろう。

そのことに関して私にわかっていることは，私たちは公正に扱われるということである。正義すなわち永遠の正義の律法が，私たちが霊に関する清算を行なう際の尺度となるのである。

正義の女神は普通，手にはかりを持ち，偏り見たり同情したりすることのないよう目隠しをした姿で描かれる。正義に同情があってはならない。正義は正義である。現世の生涯は，正義のはかりによって計られるであろう。

予言者アルマは次のように断言している。「正義は人に要求して律法をきびしく行い，律法はこの者に罰を与える。もしそうでなければ，正義の働きは空しくなり，神は神たる資格がなくなるのである。」（アルマ42：22）

私は皆さんに，アルマ書42章をお読みになるようお勧めする。42章には正義の働きが明らかにされており，ひとりの詩人が真理について述べた言葉を確認するものである。「正義だけを押し通すのでは，われわれは誰も救いにはあずかれない。」（シェイクスピア，「ベニスの商人」第4幕，菅　泰男訳）

これから皆さんにひとつのたとえ話をお話したい。

あるものが欲しくて欲しくてたまらない人がいた。彼にとって，それに勝る大切なものはなかったのであろう。彼は，自分の望みをかなえるため多額の借金をした。

借金はしないように，特に貸主には注意するように警告されていたにもかかわらず，自分の思い通りにした。欲しいものをすぐ手に入れることの方が，彼にとっては重要だったのであろう。借金はいずれ返済できると思い込んでいたのである。

彼は契約書に署名をした。借金はそのうちに返せると思っていたので，さして気にもかけなかった。支払期限は遠い先のことのように思われたからである。欲しいものを手に入れることだけが大切に思われたのである。

貸主のことがいつも彼の心の片隅にあり，時々借金の一部を返済した。けれども，決算日のことは全く考えになかった。

そうしている間に契約は満期になったが，借金の返済はまだ全部は終わっていなかった。しかし貸主は彼のところにやって来て，全額支払うように要求した。

その時初めて彼は，貸主に，自分の財産を残らず取りあげ，自分を投獄する力があることに気づいた。

そこで彼は，「お返しすることはできません。私には返済する力がないのです」と言った。

すると，貸主は言った。「それでは契約に従ってもらいましょう。あなたに獄に入ってもらいます。あなたはこの契約に同意しました。あなたがお決めになったのです。そして署名しました。ですから契約に従うのは当然です。」

借主は請い求めた。「支払期限を延ばしていただくか，許していただくわけにはまいりませんでしょうか。お取り計らい下さい。獄入りさせないで下さい。世の中には憐れみもなくてはならないと思います。どうか憐れみをおかけ下さい。」

「憐れみというものはいつでも一方の側だけに働くものです。つまりあなたにだけ働くのです。もし私があなたに憐れみを施せば，あなたは返済をしなくてもよいことになります。しかし，私が要求しているのは正義なのです。あなたは正義を信じますか。」

「はい，契約書に署名した時は信じていました。でもあの時は契約書があるから大丈夫だと思ったのです。あの時，私は憐れみを必要としなかったし，永久に必要ないとも思っていました。私は思ったのです。正義は私たち双方に同じように働くのだと。」

貸主は言った。「正義の要求に応じる方法はふたつです。借金を返済するか罰を受けるかです。これが律法というものです。あなたは律法に同意したのですから，律法には従わなければなりません。憐れみが正義の働きを奪うことはできないのです。」

こうして一方は正義を要求し，一方は憐れみを請うた。しかし，どちらも相手が折れなければ主張を通すことはできない。

借主は嘆願した。「もしあなたが負債をお許し下さらないならば，憐れみはありません。」

すると貸主は言った。「もし私がそうしたならば正義はなくなるでしょう。」

正義も憐れみも共に働くことができないように思われた。どちらの律法も一見相反するような永遠の原則である。正義の要求を満たし，同時に憐れみの働きをも満たす道はないのだろうか。

否，道はある。正義の律法を完全に満たし，かつ憐れみの効力をも完全に及ぼすことのできる道がある。しかし，この方法は仲介者を必要とする。

借主にはひとりの友人がいた。そこで彼が助けにやって来た。その友は借主をよく知っていた。彼は，借主が先の見えない人間であることがわかっていた。こんな苦境に陥ってしまうとは，何と愚かなことだろうと思った。しかしそうは思っても，やはり借主を愛していたので，助けてやりたいと思った。彼はふたりの間に入ると，貸主に向かって次のような申し出をした。

「もしあなたが私の友人の契約を解除して下さるのでしたら，負債は私が肩代わり致します。そうすれば，彼も財産を失わず，獄にも入らずにすみますから。」

貸主が申し出をあれこれ考えていると，仲介者はさらに次のように言った。「あなたは正義を要求されました。しかし私の友は支払うことができませんので，私が代わってお支払いします。これなら公正で異存はないでしょう。ですからあなたはこれ以上彼に請求することはできません。」

貸主は仲介者の申し出に同意した。

すると，仲介者は今度は借主の方に向かって言った。「私があなたの負債を肩代わりしたら，あなたは私を貸主として認めますか。」

「はい，もちろんです。あなたは私を獄から救い，憐れみを施して下さいました。」借主は泣いてそう答えた。

すると，彼の恩人は言った。「それでは私に負債を支払いなさい。条件は私が決めます。条件はやさしくはありません。しかし果たせないほど難しくもありません。方法は私が用意します。あなたはもう獄に入る必要がないのです。」

こうして，貸主は全額支払いを受けた。公正な扱いを受け，契約も破られずに済んだのである。

一方，借主の方は憐れみを受け，また正義も憐れみの律法も共にその働きを全うした。ひとりの仲保者がいればこそ，正義はその一切の要求を満たし，憐れみの計画は完全に成就されたのである。

私たちはみな一種の霊の負債を負って生きている。いつか勘定が打ち切られ，精算をしなければならない日がやって来るだろう。今は気にとめなくともそれでよいかも知れないが，やがて，決算日が来て，抵当権の行使を迫られる。その時私たちは助けてくれた人を泣きながら捜さなければならないのである。

永遠の律法によれば，私たちの負債を負い，その代価を払いかつ私たちの贖いの交渉をしてくれる人がいない限り，憐みは及ぼされない。

もし仲保者がいなければ，また友人がいなかったならば，正義の要求する無情の厳しい重荷はすべて私たちの身に降りかかるのである。しかし，罪の大きさや程度は違っても，私たちがすべての罪に対して完全な償いをするならば，強要されるものは何もない。

栄えある真理は，仲保者の存在を次のように宣言している。

「神は唯一であり，神と人との間の仲保者もただひとりであって，それは人なるキリスト・イエスである。」（Ⅰテモテ2：5）

私たちが永遠の正義の律法を拒まない限り，憐れみが仲保者キリスト・イエスを通して一人一人に完全に及ぶ。

この真理は，キリスト教の教義の根本である。あなたは枝が繁った木のように福音に対する知識は豊富かも知れないが，もし枝葉の部分しか知らず，しかも，それが根に関係のない，真理から離れたものであるならば，そこに生命も実質も贖いもない。

憐れみはだれにでも自動的に及ぶというものではない。主との契約を通して及ぼされるのである。憐れみはすなわち主の条件，主の寛大な条件に従って初めて与えられるのである。そして，その条件として絶対に欠くことのできないのが，罪の赦しを受けるために水に沈められるバプテスマである。

人は皆正義の律法の保護を受けることができる。またそれと同時に憐れみにより罪から贖われ，心の癒しを受けることもできる。

このような正義と憐れみに関する知識は，実際に則したきわめて価値あるものである。その知識は私たちに直接に役立つものであり，一人一人が霊の負債を残らず返済できるように道を開くものである。

多分，あなたもそのような霊的な悩みを抱えたひとりであろう。多くの人は避けて通ろうとすることであるが，自分自身を真正面から見つめた場合，あなたには悩みの種となっている未解決の問題があるだろうか。

何か気にやむことがあるだろうか。また，程度の差はあるが，何か罪を犯した状態にはいないだろうか。

私たちは自分の犯した罪を大したことでないと人に話すことによって，それを解決しようとすることがよくある。しかしどういうわけか，私たちは心の奥底から信じ合ってはいないし，私の口から言うのもどうかと思うが，自分自身も信じていない。私たちは自分のことは自分が一番よく知っている。罪はゆゆしい問題なのである。

犯した罪はすべて私たちの計算書に付け加えられる。私たちがいつかその罪を適切な方法で解決しなければ，バビロンのベルシャザルのように，はかりにかけられて不足を明らかにされるであろう。

深く罪を悔いる人々のために，正義の要求に応じ，憐れみを施すことのできる贖い主，仲保者がおられる。なぜなら，「メシヤは真にへりくだった心と悔いる精神のあるあらゆる人たちのために律法の要求する所に応じようとして，人間の罪を贖うために自分の身を犠牲となしたもうのである。メシヤは上に述べたような人々のほかには誰にも律法の要求する所に応じたまわない」（Ⅱニーファイ2：7）からである。

メシヤはすでに全人類を死より贖われた。復活は無条件ですべての人に与えられる。

メシヤはまた第二の死，すなわち天父のみ前から断ち切られるという霊の死からの贖いを可能にして下さっている。この贖いは清い人々にのみ及ぶ。清くないものは神の王国に入ることができないからである。

もし正義によって私たちが罪のために神の王国に入る資格がないと判断された場合，私たちは憐れみによって猶予期間が与えられる。すなわち，罪を悔い改め，神の王国に入る準備をする機会を与えられるのである。

私は，主イエス・キリストについて証を述べたいという強い望みをもって，この大会に臨んだ。私は主が何をされたか，また主がどういう御方であるかを，できるだけわかりやすい言葉でお話したいと思っている。

言葉だけではとても言い尽くせないことはわかっているが，同時に，そのような気持ちは言葉がなくてもみたまによって通じることが多々あることを知っている。

私は時々，自己の不完全さの故に苦しむことがある。しかしそれでも，私は主が生きておられることを知っているので，最終的には幸福と喜びに立ち返ることができる。

私にはひとつ特に弱点とするところがある。人を決めつけたり，人を傷つけたり，感情を害したことがわかった時，特にそれを感じる。その時，私は苦悶するということがどういうことであるかを知るのである。

そのような時，主が生きておられることを改めて確信し，自分の証を再び認めることはどんなに快いことであろう。私は皆さんに心からお伝えしたい。落胆や罪の負担を主の前に差し出すならば，主の寛大な条件によって一つ一つの事柄に「支払済」という印が押されるのである。

十二使徒の兄弟たちは主の特別な証し人である。私たちの証は真実である。私は主を愛している。また主を遣わして下さった御父をも愛している。

最後に，エライザ・R・スノーが深い霊感を受けて書いた詩を読んで終わりにしたい。

高きに満ちたる　智恵と愛よ
苦しみ死にたもう　主をたまいぬ

とうとき血流し　命すてて
罪なき犠牲にて　罪の世救う

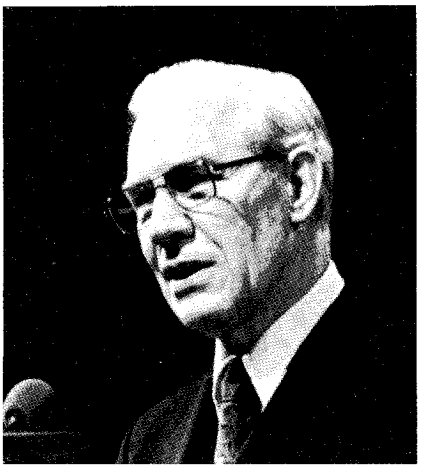
救いの計画　如何にとうとし
あわれみと愛の　神のめぐみ

（讃美歌　72番）

イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

☆　　☆

八福の教えと私たちの完成



七十人第一定員会会員
ロイデン・G・デリック

救い主の八福の教えに従って完全な者になる

1820年初春のよく晴れた日のこと，14歳の少年がひとり森の中にひざまずき，自分の思いと心を一心に神に打ち明けた。これに続く彼の経験は，1800年代に起こった出来事の中で最も重要なものであった。父なる神とその御子イエス・キリストが彼の前にそのみ姿を現わされたのである。

その後，ジョセフ・スミスという名のこの少年を通して，神は，御自身の教会と完全な福音を回復された。

ジョセフ・スミスの経験が重大事として扱われるのは，この回復があるからにほかならない。私は，このことが真実であることを，イエス・キリストのみ名によって証申し上げる。私は，ジョセフ・スミスが神と言葉を交わし福音が回復されたことを知っている。聖霊が私にこのことを証したからである。これを語る私の心には少しのためらいもない。私は回復が確かに行なわれたことを確信している。

すべての教会幹部はこれが真実であることを確かに知っている。教会員の皆さんは是非このことを心に銘記していただきたい。個人の啓示について，救い主はペテロに次のように語っておられる。「そして，わたしはこの岩の上に（すなわち個人の啓示の岩の上に）わたしの教会を建てよう。」（マタイ16：18）

主に仕えるということは，個人の問題ではない。家族の務めである。妻は夫が教会の責任を果たせるように夫を支持する必要がある。また夫は妻がその務めを果たせるように妻を支持し，子供は両親を，両親は子供を，兄弟は姉妹を，そして姉妹は兄弟をそれぞれ支持しなければならない。

こうした態度が，永遠の家族を築き上げるのである。

私は，常に私の良き伴侶であり，素晴らしい母親であり，献身的な妻であり，際立った伝道の同僚である愛する妻に心から感謝している。また義に適った家族を育んできた彼女の両親をはじめ，長年私たちと共に主の業に励んできた子供たち，常に支え手となってくれた高潔な家族，そして救い主の特別な証し人としての私の召しを理解してくれている私の素晴らしい両親や兄弟に感謝している。天国のような彼らの家庭からこのことを確信することができる。伝道の業から受ける報いは大きい。

私たち夫妻は，3年間イギリス北部における伝道活動のお手伝いをさせていただいた。この召しを終えて自宅に戻った私たちは，わずか2日後に，アイルランド共和国に新設された伝道部にできるだけ速やかに着任するように，という召しを受けた。何と栄えあることであろうか。

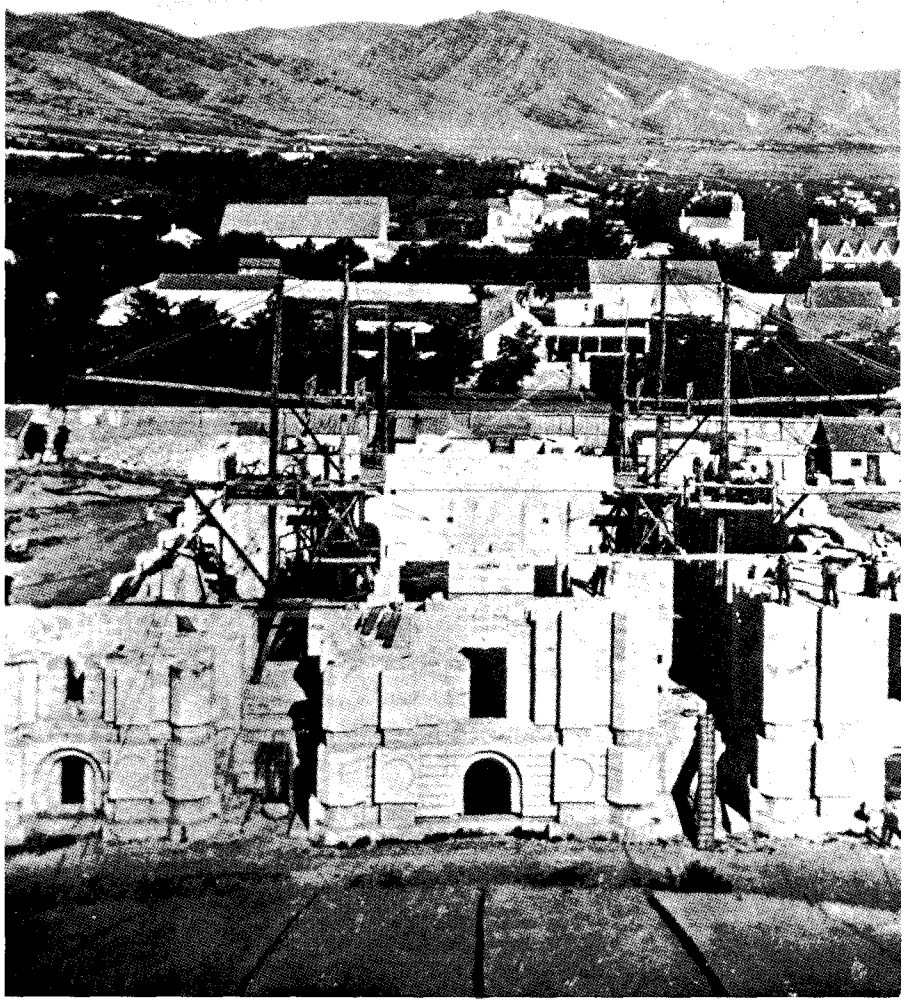
アイルランドにおける社会的圧力は，想像を絶するほど激しく，ある父親は，ほおに涙しながらこう語っていた。「世間の人々は私を愚か者と呼んでいます。私の家族も，友人も私を馬鹿者呼ばわりします。けれども，私はいかに彼らにののしられようと，私を真の教会に導いて下さった救い主に忠実に日々を過ごしていくつもりです。」

かつて非常に懐疑的であったひとりの人が，バプテスマを受けた夜に次のように語っていた。「この教会は真実です。まぎれもなく真実です。真実以外の何ものでもありません。」私たちもこの回復のメッセージを世に宣言しようではないか。

私は回復されたイエス・キリストの福音を説く機会に恵まれれば恵まれるほど，何年も前にひとりの友人の語った八福の教えの概念をますます深く心に感じる。その概念をもっと多くの人人に知っていただきたいと思う。八福の教えには，完全な者となるための秩序立った進歩の過程が具体的に示されている。また，昇栄を得る資格のある者となる方法が説かれている。このことは八福の教えの最後の言葉から明らかである。「それだから，あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい。」（マタイ5：48）

救い主は次のような言葉で八福の教えを説き起こしておられる。「こころの貧しい人たちは，さいわいである，天国は彼らのものである。」（マタイ5：3）救い主はまた，「へりくだりたる心にてわれに来る者たちはその住むべき所天の王国なるが故にさいわいなり」（Ⅲニーファイ12：3）という言葉をもって，古代アメリカの民に同じ教えを与えられた。「われに来る者」という言葉は，この聖句の意味を明確にしている。

私が子供の頃，州議会議事堂の北のエンサイン・プラッツでは馬の群れが走り回っていた。夏になると私たちは，



1877年の建築中のソルトレーク神殿。撮影者は，タバナクルの屋根にカメラを据えて撮影している。

双眼鏡を手に山腹に腰を下ろし，眼下に広がる台地で馬がいななき，草をはむ様子を，目をこらしながら見ていたものである。ほとんどの馬は汚れていたが，一頭だけ優雅で威厳のある，リーダー格の馬がいた。私たちはこの駿馬にロープをかけようと幾度も試みた結果，ある日ついにこの馬を捕えることができた。しかし間もなく，この馬には私たちの手にとても負えない狂暴性があることを知った。いくら試してみても，その馬を乗りこなすことはできなかった。そこで結局私たちはあきらめてその馬を放してやった。私たちの試みは徒労に終わった。

私は最近，アラビア馬を数ヵ月間のうちに訓練するトレーナーの話を読んだ。それによると，訓練期間の終りには，馬に数日間えさも水も一切与えず，ただ遠くからそれを眺めさせるだけとのことである。やがてゲートを開けると，馬は一目散にそのえさの置かれている場所に突進する。ところがえさと水のある所に着く間際に，トレーナーは笛を吹くのである。この時にその笛に応えた馬は，駿馬として選り分けられる。主人の呼びかけに従順であったからである。今や主の命の下に25,000人の青年が，主に従い，聖きみたまのささやきに従順な人々を捜すために，世の人々をふるいにかけている。これに応える人の数は世界的に増加しつつあるが，それでも非常に多くの人々は，自分の欲求を満たすことに心を向け，主の方法とは異なる自分なりの方法で人生を歩んでいる。

しかし主を愛する人は，主の計画に従い，心と勢力と思いと体力を尽くして主に仕えるであろう。これが第一のステップである。私たちは昇栄を得る資格のある者となるために，まずこのステップを踏まなければならない。私たちが悔いる精神を持って歩む時に，変化という奇跡が起こるのである。

次に救い主はこう言っておられる。「悲しんでいる人たちはさいわいである，彼らは慰められるであろう。」（マタイ5：4）これが第2のステップであり，非常に大切である。使徒パウロは，罪に対する，神のみこころに添った悲しみについて次のように語っている。「神のみこころに添うた悲しみは，……救いを得させる悔改めに」導く（IIコリント7：10）。罪の赦しを受け，イエス・キリストの贖いを効果あるものとするために，私たちは自分の罪を悔い改める必要がある。自分の罪を悔い改め，バプテスマの水に入り，神の王国に来る人と共に働けるということは，何と喜ばしいことであろうか。世が理解することのできないこの清めの過程を通過した人々と交わることによって，私たちは愛と一致の絆を強めることができる。

次いで救い主は言っておられる。「柔和な人たちは，さいわいである，彼らは地を受けつぐであろう。」（マタイ5：5）柔和とは，素直という意味である。積極的に耳を傾ける人は，多くの事柄を学ぶことができる。しかし耳を傾けようとしない人は，大いなる祝福を自ら否定しているのである。皆さんは欺かれることを憂える必要はない。予言者モロナイは次のように言っているからである。「聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る。」（モロナイ10：5）皆さんは，真実の教義と偽りの教義とを区別する受信機を内に備えている。八福の教えに示された過程に従うならば，皆さんの受信機は完全に波長が合うであろう。そして答えが得られるように真心から神に祈るならば，受信機が働いて，真理を見分けることができる。これが神の方法である。

さらに救い主は言っておられる。「義

に飢えかわいている人たちは，さいわいである。彼らは飽き足りるようになるであろう。」（マタイ5：6）また，モルモン経には，「すべて義を渇望する者は聖霊に満たさるべき故にさいわいなり」（Ⅲニーファイ12：6）と記されている。これは大切なことである。聖霊は偉大な教師であり，あらゆる事柄について真理を私たちに教えて下さる。神は，聖典の中に救いの計画，すなわち私たちを救うための計画を明らかにしておられる。そのため，「聖典を調べなさい」（欽定訳ヨハネ5：39）と主は命じておられる。救いの計画は複雑ではないが，広範な理解力が必要とされる。従って私たちは，美しく簡潔な福音を絶えず学び続けなくてはならない。主のプログラムに従う者は完全な者となる日まで「規則に規則……誡命にいましめ」（教義と聖約98：12）を学ぶことができる，と主は私たち全員に約束しておられる。

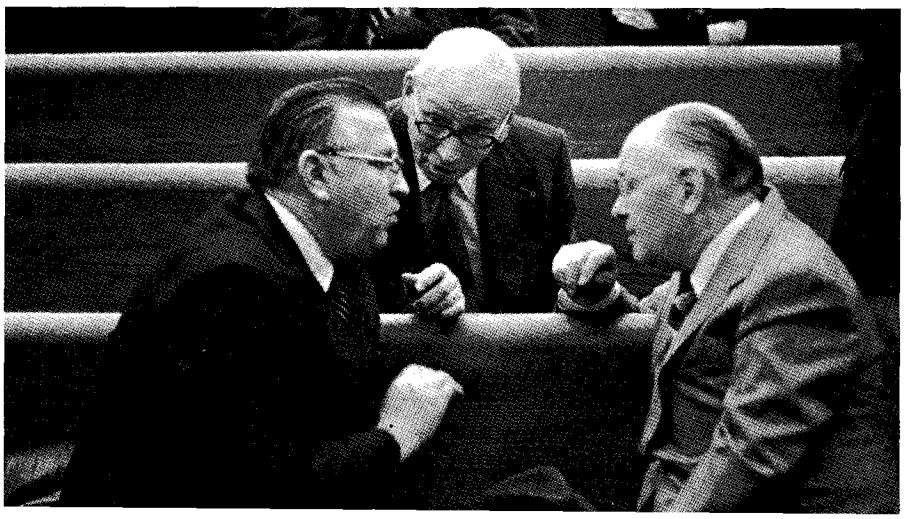
この約束はすべての人々に対するものである。私たちは救いに関わる知識を得るために飽くことなき探求を続けなければならない。主はこう語っておられる。「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）世界の創造主と，私たちのために備えられた主の計画について学ぶこと以上に，重要であり，精神を高揚させるものはない。

私たちは救い主の教えに従い始めると，思いと心を他の人々に向けるようになる。救い主はさらに，「あわれみ深い人たちは，さいわいである，彼らはあわれみを受けるであろう」（マタイ5：7）と教えておられる。幸せは，他の人人を助ける時に副産物として得られるものであり，自分のことばかりを考えている人は決してこれを見いだせないのである。真の幸せは，私たちが自分自身を忘れて他の人々に奉仕する時，すなわち周囲の人々に思いやりを示す時にもたらされるのである。

他の人々に対する思いやりは，心の清さに通じるものである。救い主は「心の清い人たちは，さいわいである，彼らは神を見るであろう」（マタイ5：8）と言っておられる。

清い心を持つ人には，心の平安が祝福される。続いて主は，次のように言っておられる。「平和をつくり出す人たちは，さいわいである，彼らは神の子と呼ばれるであろう。」（マタイ5：9）心に平安を得た人は，家族に，地域社会に，国家に，そして世界に平安がもたらされることを願うのである。

私が最近妻と共にアイルランドのダブリンからリムリックに車を走らせていた時のことである。私たちは，行く先々のへいやバスの停留所に，「イギリス人を締め出し，平安を取り戻そう」という文字がペンキで書かれているのを目にした。しかしそれは，平安を得る方法ではない。平安は個人の内部からもたらされるものである。人々の心と思いの内に平安を築きなさい。そうすれば国家に平安があるだろう。予言者ジョセフ・スミスを通して回復されたイエス・キリストの福音の原則に則って生活するならば，人々の心には平安がもたらされ，ひいては世界の国々に平安がもたらされることを，私たちは世に向かって宣言するものである。



いつの時代においても，救い主の教えを説く者は反対にあってきた。社会の圧力と批判に立ち向かい，主に仕え続ける者について，主は次のように言っておられる。「義のために迫害されてきた人たちは，さいわいである。天国は彼らのものである。

わたしのために人々があなたがたをののしり，また迫害し，あなたがたに対して偽って様々の悪口を言う時には，あなたがたは，さいわいである。

喜び，よろこべ，天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも，同じように迫害されたのである。」（マタイ5：10—12）このように救い主は，イエス・キリストの福音を受け入れる者の人生に変化という奇跡がもたらされることを述べている。実に，イエス・キリストの福音は美しく，奇跡をもたらし，心を満たす神の賜である。

救い主は，八福の教えを結ぶに当たり，これらの教えに従って生活する人人について，次のように語っている。「あなたがたは，地の塩である。……

あなたがたは，世の光である。……

そのように，あなたがたの光を人々の前に輝かし，そして，人々があなたがたのよいおこないを見て，天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」（マタイ5：13—14，16）

また予言者ニーファイは，救い主について次のように語っている。「主は……万人が主の御許へ来て主のめぐみにあずかるように招きたもうている。それであるから，主の御許へくる者は……誰を拒みたもうこともない。」（Ⅱニーファイ26：33）

私たちはすべての方々に，救い主の示された方法でそのみもとに来て，主の恵みにあずかり，「この世に於て」（モーセ6：59）「神のあらゆる賜の中最大なる」（教義と聖約14：7）「永遠の生命の言を受け，来るべき世に於て永遠の生命，まことに不死不滅の栄光を受」（モーセ6：59）けるようにと，繰り返し呼びかけるものである。これらのことをイエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

「そして，御言を行う人になりなさい」

十二使徒評議員会会員
L・トム・ペリー

私たちは，家庭や地域社会で道徳上の標準を守り，絶えず人々にその感化を及ぼさなければならない

「そして，御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて，ただ聞くだけの者となってはいけない。

おおよそ御言を聞くだけで行わない人は，ちょうど，自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。

彼は自分を映して見てそこから立ち去ると，そのとたんに，自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう。

これに反して，完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は，聞いて忘れてしまう人ではなくて，実際に行う人である。こういう人は，その行いによって祝福される。」（ヤコブ1：22—25）

聖典を学んでわかったことであるが，主は度々私たちに，主から様々な祝福が与えられていることを思い起こさせようとしておられる。また，それらの偉大な賜をどのように使うべきかも度度思い起こさせようとしておられる。

地球の創造を終えて，その出来栄えをお調べになった主は，すべてを善しとお認めになった。そして，男と女とを創造し，彼らを祝福された。この最初に創造された子供たちに与えられた第一の教えは，「生めよ，ふえよ，地に満ちよ，地を従わせよ」と言うものであった。この教えは「モルモン経」の中にも見られる。勤勉に働く義人は，地に属けるものに豊かに恵まれ，逆に怠惰な者は，欠乏と不安と悲しみに苦しむのである。

現代の聖典の中で主は再び次のように戒めておられる。「汝怠惰なることなかれ，およそ怠惰なる者は働く者のパンを食することもなく，またその衣服も着るべからざればなり。」（教義と聖約42：42）

また主は私たちに，地に豊かに満ちている原料を利用するよう望んでおられることが聖典にはっきりと記されている。この世で導きと恵みを施しておられた救い主は，模範と勧告とたとえ話によってこの原則を教えられた。特に，タラントのたとえ話の中に，この原則が非常に明確に示されている。（マタイ25：14—30）

ここで救い主は，僕を呼び寄せて各各にタラントを渡してから遠い国に旅立った人について語っておられる。この人は，ひとりの僕に5タラント，もうひとりに2タラント，さらにもうひとりに1タラントと，それぞれの能力に応じてお金を与えて自分は旅に出た。

さて，5タラントと2タラントを受け取った僕たちは勤勉に働いて，各々の持ち分を2倍にしたが，1タラントを与えられた僕は，行って地を掘り，主人の金を隠しておいた。しばらくして戻ってきた主人は，5タラントと2タラントをもうけた僕たちに向かって，それぞれこう言った。「良い忠実な僕よ，よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから，多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」（マタイ25：21）

ところで1タラントを受け取った僕は，地中に隠しておいたその金を持って来て，増やさなかった口実を言った。

すると主人はこの僕に向かって「よくやった」と言わずに，「悪い怠惰な僕よ」（マタイ25：26）と言った。さらに主人はこう言っている。「さあ，そのタラントをこの者から取りあげて，十タラントを持っている者にやりなさい。

おおよそ，持っている人は与えられて，いよいよ豊かになるが，持っていない人は，持っているものまでも取り上げられるであろう。」（マタイ25：28—29）

愛にあふれた思いやり深い父である主は，このたとえ話によって子供である私たちに，物事を達成した時に得られる喜びと満足感，それに報いについて教えられた。

福音の光を受け入れた者として私たちは，特に最善を尽くすようにという他からの励ましを必要としている。そこで，私は皆さんに，主から恵みとして与えられた機会を十分に生かすことができるよう5つの分野で特別な努力を払うようにチャレンジしたい。

まず第一に，夫および妻の立場にある私たちは，この永遠の関係をよく知って，この世におけるこの大切な責任を立派に果たそうと決意しなければならない。

キンボール大管長はこう語っている。「結婚に伴う決断は，あらゆる決断の中で最も大切であると思われる。またこの世の幸せだけでなく，永遠の喜びにも関わることだけに，その影響力は測り知ることができない。結婚は当事者だけでなく，その家族，特に子供たち，孫，さらには子々孫々にまで影響を及ぼすものである。」（スペンサー・W・キンボール，*Marriage and Divorce*

「結婚と離婚」p.10）

ところが今日，この基本的かつ重要な組織の根底を砕こうとする悪魔の計画があまりにも広く行き渡っている。人類を滅ぼそうと狡猾なはかりごとをめぐらす悪魔は，私たちの家庭の神聖な領域にまで侵入してきた。そして不義を魅力的に見せかけ，離婚を当り前のことと思わせ，結婚の誓約に基づかない男女の関係を一般化させようとしている。こうした方法が人間を破滅させることは，数多くの歴史が物語っている。従って私たちは，夫婦間の神聖な一致は永遠のものであるということをしっかりと心に留めた上で，結婚を日の光栄の祝福をあずかるにふさわしいものとするために，全力を尽くして努力しなければならない。

予言者ジョセフ・スミスは，最も素晴らしい方法で，夫婦間の問題を処理している。彼と妻エマ・スミスとの生活上のある出来事について，デビッド・ホイットマーは次のように語っている。

「ある朝，翻訳にとりかかろうとしていたジョセフ・スミスは，何か不都合なことがあり，そのことに心を捕われていた。原因は妻のエマであった。オリバーと私が二階に上がって間もなくすると，ジョセフがやって来て翻訳に取りかかろうとしたが，一文字も訳すことができなかった。そこで彼は階下に降りて森に行き，主に懇願したのである。1時間ほどして戻った彼は，エマに赦しを求めてから，私たちのいる二階に上がってきた。その後翻訳は順調に進んだ。」（B・H・ロバーツ，*Comprehensive History of the Church*「教会概史」1：131）

夫婦間の問題が生じた時に，怒りを静めて理性を取り戻せるように主に助けを求め，主のみ前にひざまずいて，赦しの力を得ることができるように願うならば，私たちはどれほど短時間の内にふたりの問題を解決することができるであろうか。

私は今日皆さんに，各々の結婚生活を特別なものとするようにチャンレジする。聖句に記されている勧告に従って，イエス・キリストに対する信仰を土台とした結婚生活を築き，愛に根ざし愛を基として生活していただきたい。（エペソ3：17）

第2に，永遠の一致に関わる祝福の中で最も大いなるものは，永遠の家族を持つ権利を得ることである。主のみこころに従い，正義に適った結婚生活を営んで子供をもうけるようにすべきである。子供たちには気高い血統を通じてこの世に来る特権があるのである。

教会幹部は1年に30ないし40回，各地のステーキ部を訪問し，ステーキ部長の家庭に迎えられる。これは私たちに与えられた素晴らしい特権のひとつと言えよう。その時に私たちは，世界各地の最も素晴らしい家庭を直接に目にすることができるのである。

あるステーキ部大会に出席した時のことである。そこのステーキ部長は歯科医師であった。その住居や調度品から，仕事が順調であることは明らかであった。子供たちの欲しいものはほとんど何でも与えてやれそうであった。しかし子供たちをこよなく愛する彼は，そのようにせず，彼らに各々が果たすべき責任についてよく教えたのであった。町を出ていなかに移り住んだ彼は，そこで家族に労働の尊さを教えたのである。

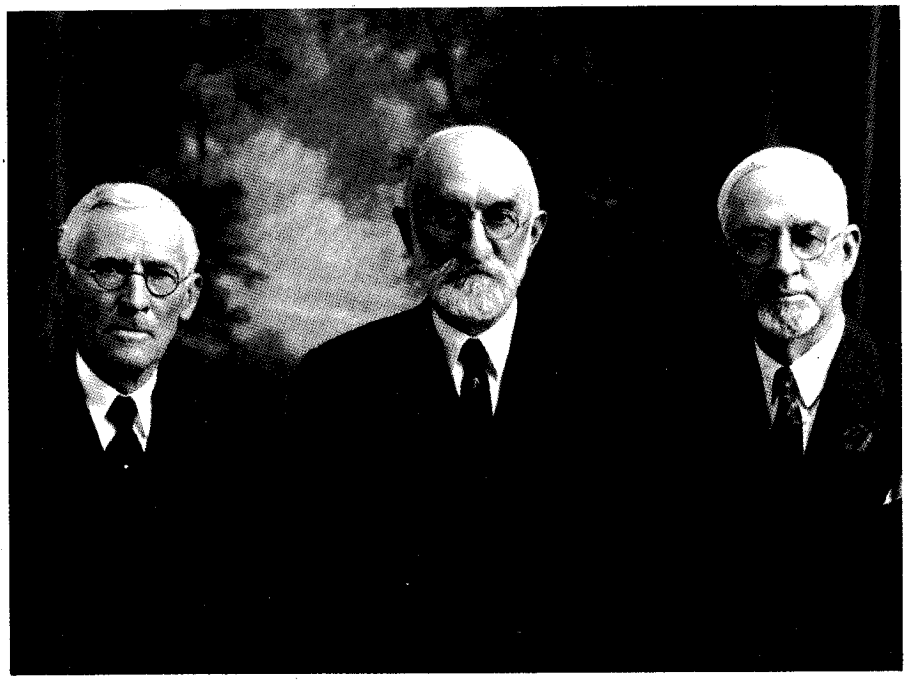
子供たちと腰を下ろした私は，彼らから，各人の分担によってどのような産物を得ているかを聞いた。彼らは，日々鶏が産む卵の個数や，とうもろこしの生長具合いや，農場での家畜の様子などを私に誇らしげに話してくれた。この家族は，「汝ら組織して必要なる物をことごとく調えよ。而して，祈りの家，断食の家，信仰の家，学問の家，栄光の家，秩序の家，神なる一つの家を建つべし」という教義と聖約88章119節を，モットーとしていた。

私は皆さんに，各々の家庭を，神の家とするようにチャレンジする。

第3に，愛と理解と誠実に基づく結婚生活を確立した後に大切なのは，家族の経済的安定である。主は夫と父親に，家族の扶養者としての責任を与えられた。父親は健全な心と強じんな体をもつ限り，その才能を発揮し，成功を重ねるであろう。こういう確信のある家族は成長するであろう。そのためには快適な家庭生活を営めるように，父親は自己の備えに最善を尽くし，功績をあげる必要がある。

父親の皆さんは，仕事の取引きにおいて正直であり，雇用主に誠実であっ

大管長会，1925—31。ヒーバー・J・グラント大管長（中央），アンソニー・W・アイビンズ第一副管長（右），チャールズ・W・ニブレー第二副管長（左）（ユタ州歴史協会提供）



ていただきたい。また各々の選んだ分野で第一人者となるよう決意して，日日に実績を積み重ねることができるように，絶えず全力を尽くしていただきたい。私は皆さんに，各々の職場の指導者となるようチャレンジする。

第4に，私たちはイエス・キリストの福音をいただいている。私たちは進んで自らの手を鋤(すき)の上に置いて，この地上に神の王国を建設する責任を引き受けた。聖典には，「だが，あなたがたは，更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい。そこで，わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう」（Ⅰコリント12：31）と記されている。確かに，教会における各々の責任を果たす場合に私たちの目標とするところは，最も優れた標準に達することをおいてほかにない。私は皆さんに熱意を持って教会の召しを受け入れ，最高の功績をあげるため勤勉に，絶ゆまず努力するようにチャレンジする。

最後に，私たちの子供たちには，清く健全な環境の下で成長する権利がある。私たちは子供たちのためにこの特権を保護する義務と責任がある。

私は以前にひとりの母親から興味ある手紙をいただいた。その手紙には，200年祭の一環として地域社会に奉仕する彼女の様子が書かれてあった。その一部を御紹介しよう。

「新学期の初めにP.T.Aの集会に行った私は，6年生の娘が学校から読書課題を与えられていることを知りました。私はその時に，その本が子供たちに望ましいものであるかどうかを知るために私自身が読む必要がある，と強く感じたので，読んでみました。すると，6年生用としてはひどく不適当であることがわかりました。神に対する冒とくや，暴力，大人特に両親に対する不敬が取り上げられていて，全体的に陰気で重苦しい雰囲気のする本でした。しかも愛，美，善といった事柄はこれっぽちも書かれていないのです。そこで私はその本について校長先生と話し合い，私の考えをお話しました。すると校長先生は，批評する前にその本のシリーズを全部読んではどうですか，とおっしゃったのです。それでも私の気持ちが変わらなければ，手紙を下さいということでした。

そこで私は校長先生の言う通り，他の本も読んでみましたが，読んで行くうちに，やはり子供たちには不適当であることがわかりました。そこで私は最後の本を読むまでもなく，校長先生に手紙を書くことになりました。

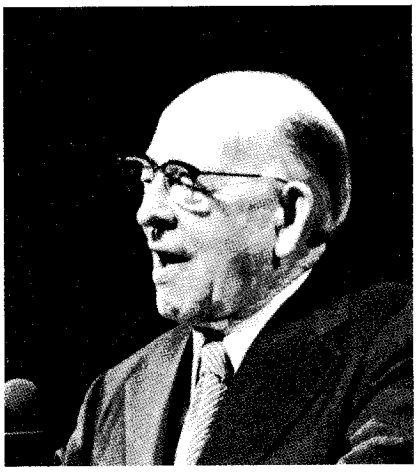
その後，教頭先生から電話があって，学校に来てほしいとのことでした。そこで，喜んで行ってみますと，神を冒とくするような書物を読書課題とすることは，学校側の方針に添わないので，早急にその本を校内から締め出すことにしたとのことでした。また，学校外の人から本の不適格性を指摘されたのは残念であったことと，今後は本を吟味する人にもっと慎重な選択をしてもらう旨を話して下さいました。」

私たちは恵まれて，導きと生活の指針を与えてくれる福音の光をいただいている。また，聖典を学び，理解することによって，私たちはこの世的な事柄を管理するのに必要な主の律法に関する知識を得ることができるのである。しかしこの大いなる祝福を受けると同時に私たちは，自分の属する地域社会の一員としての義務を負うことになる。自分たちの住む村で，町で，都市で，すなわち，世界のあらゆる地において，私たちは道徳上の標準を守り，その影響力を人々に及ぼさなければならない。私は皆さんに，各々の属する地域社会の道徳上の標準を高める力となるようにチャレンジする。

私たちが福音の光を受けて，主から賜った偉大な可能性を見いだすことができるように願っている。正義に適った生活を送る者には力がある。ここで私たちは改めて，み言葉を行なう者，すなわち御父の天のみ国を打ち建てるにふさわしい者となる決意をしようではないか。いま，私たちの人生が達成の喜びで満たされ，いかなる召しにあっても福音の知識をもって最善を尽くすことができるよう，イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

神は不思議な方法で奇しきみ業を行なわれる

十二使徒評議員会会員
リグランド・リチャーズ



理解の眼をもって見る人は，今の時代に予言が成就しているのを認めるであろう

救い主は復活後，エマオに向かうふたりの弟子に同行された。しかし，弟子たちは「彼らの目がさえぎられて，イエスを認めることができなかった」(ルカ24：16)。ふたりの弟子が御自分のことと，その生涯と十字架上の死について話しているのをお聞きになった救い主は，このふたりが教えを理解していないことに気づいてこう言われた。「ああ，愚かで心のにぶいため，預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。」(ルカ24：25)

そしてモーセやそのほかの予言者をはじめ，予言者たちが御自身について証した事柄をすべて説き明かされた。その予言が，十字架にかけられた主の衣がくじ引きにされるといった詳細な事柄にまで及んでいたことは，周知の通りである。(詩篇22：18)

次にルカは，弟子たちが聖書を理解できるように主は彼らの理解の眼を開かれたと語っている。ここで今日ここにお集まりの皆さんにお尋ねしたい。皆さんは予言者の言葉をすべて信じておられるだろうか。信じておられるならば，主は「終りの事を初めから告げ」(イザヤ46：10)られると言ったイザヤの言葉の意味がおわかりだろうか。

救い主は，末日に，王の王，主の主として，聖なる天使をすべて従え，権威と大いなる栄光をもって降臨される。予言者が予言しているように，この時のための備えこそ最も大いなるものである。聖典や世界の歴史上の偉大な出来事はすべて，このことと関わりを持っている。

明らかに私たちは，救い主の降臨に備える必要がある。

私の話を始めるに当たって，「神は不思議な方法で奇しきみ業を行なわれる」というウイリアム・クーパーの歌の一節を御紹介したい。私は今日，予言者たちが予言した，神の独り子の栄えある再臨に備えて，主が過去にまたは現在行なわれている奇しきみ業をいくつか取り上げてみたいと思う。中にはこの大会ですでに話された事柄もあるが，その点は御了承いただきたい。

まずマラキの言葉をみてみよう。主は予言者マラキを通して，主の降臨に先立って道を備える使者を送ること，主は速やかに御自分の宮においでになること，そして金を吹き分ける者の火のように，また布さらしの灰汁のように主が降臨される時に耐え得るのはどのような人かについて明らかにされた。(マラキ3：1—2) この予言がベツレヘムでお生まれになった主の最初の降臨に関するものでないことは明らかである。主は速やかに宮に来られなかったし，この世を清めるために降誕されたのでもなかった。しかし，末日に主が降臨される時には，悪人は岩に向かって「われわれをおおって，……小羊の怒り……から，かくまってくれ」(黙示6：16)と叫ぶ，と言われている。

主は御自分の前に道を備えるために使者を遣わされるとあるが，この使者とはほかでもない予言者を指していることは明らかである。主は時の絶頂に降臨された時に，バプテスマのヨハネをお送りになり，彼こそイスラエルの最も偉大な予言者であると証された。

先程デリック兄弟が，主の予言者として少年ジョセフ・スミスが世に現われ，1820年に天父と御子の訪れを受けたことを話された。この神権時代の幕をあけるために御父と御子の訪れを受けたことによって過去200年の間にこの世が著しく変化したことを，私たちは知っている。それではなぜ500年前，あるいは1,000年前に，この大事が起こらなかったのであろうか。

いずれにせよ，今は備えの時代である。そこで主は，道を備えるために使者を遣わし，その人に，御自身の教会と王国を組織し，キリストの初期の教会にあったと同じ聖なる神権と使徒職の権能を確立するための鍵を授けられた。

さて，ここでパウロの言葉を取り上げてみることにしよう。パウロは，主がみ旨の奥義を示されたことについて次のように言っている。「それは，時の満ちるに及んで実現されるご計画にほかならない。〔現代がその時代である〕それによって，神は天にあるもの地にあるものを，ことごとく，キリストにあって一つに帰せしめようとされたのである。」(エペソ1：10)

主がみ旨の奥義を示されること，また主はすでにその奥義を現代の予言者に示しておられることを知って，少なからず思いめぐらすことがあるであろう。

私たちは，この世の他のいかなる教会も知り得ない真理をいただいている。また地上の神の王国と天の王国のすべてを統合したひとつのプログラムを持

つ唯一の教会に席を置いて，この世と来るべき世のあらゆる王国が偉大な王である世の救い主の管理の下に置かれることに心を向けている。これらは予言のごく一部で，主の再臨に関する予言はほかにも数多くある。

予言者ジョセフがわずか18歳でまだ教会も組織されていない時に，彼のもとを3度訪れたモロナイは，備えの時代に成就するはずのいくつかの予言について語っている。ひとつはイザヤ書11章から引用したもので，この中で主は「再び手を伸べて」，イスラエルの追いやられた者を集め，ユダの散らされた者を集めて，「国々のために旗をあげる」と言っておられる。（イザヤ11：11—12）主は，イスラエルの追いやられた者を集める証として，末日聖徒をロッキー山脈のこの谷間に集められた。また現在ユダヤ人は，2千年に及ぶ放浪と迫害の時代を乗り越えて，故国に戻りつつある。そして今やイスラエルは，独立国としての名乗りを上げている。これらはすべて，末日における救い主の降臨に先立つ予言の成就である。

イザヤは末日について，さらに多くのことを述べている。（イザヤは非常に多くの出来事を見ていることから，彼は過去の人というよりは現代人であるように思える）イザヤは，終りの日に主の家の山が諸々の山の頂（私たちのいるところ）に立ち，すべての国がここに流れて来るのを見た。聖典には次のように記されている。「多くの民は来て言う。『さあ，われわれは主の山に登り，ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる，われわれはその道に歩もう』と。」（イザヤ2:3）

多くの人々が，異国の地からこの美しい神殿のあるこの盆地に自分たちがどのように集められて来たかを証することができる。交通の不便なこの遠隔の地で，何の道具も持たず素手でこのような大建造物の建設に着手した聖徒たちを想像していただきたい。荒涼たるこの盆地に入ったブリガム・ヤング大管長はまず，この神殿用地にステッキをついたのである。イザヤは何千年も前にその全貌を目にしている。また予言者たちは，主の再臨に先立って起こるそのほかの事柄について述べている。

ではここで再び予言者マラキの言葉に戻ろう。マラキは次のように言っている。「主の大いなる恐るべき日が来る前に，わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。〔私たちの生きている現代がその備えの時代である〕

彼は父の心をその子供たちに向けさせ，子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て，のろいをもって地を撃つことのないようにするためである。」（欽定訳マラキ4：5—6）キンボール大管長は，開会の説教の中でこのことについて話された。

ところで私たちは，エライジャの訪れが真実意味することについて理解しているだろうか。この世には，人の思いや心を操る，目に見えない力がある。それは，草木の生長を助け，種子の発芽を促す太陽の光のように実在するものである。エライジャは，1836年4月3日に，カートランド神殿でジョセフスミスとオリヴァ・カウドリの前に姿を現わした。そして，先祖の心をこの地上にいるその子らに，また子らの心を先祖に向けさせる鍵を手渡したのである。このこと自体，有史以来の偉大な奇跡のひとつと言えよう。

エライジャが訪れた結果，どのようなことが起こったか，皆さまはお気づきだろうか。当時世界にはひとつも系図組織なるものは存在しなかったが，現在では世界の各地に設立されている。また先日インディアナポリスで発行された新聞には，紙面いっぱいに系図の収録に関する記事が載っていた。そこには当教会の系図部に関する事柄が取り上げられていたので，バートン兄弟と共に系図部について調べたところ，この部門の職員数は600人にのぼり，その内本国やヨーロッパなどから送られて来る記録をマイクロフィルムに収める作業に携わっている人の数は80人であった。彼らの手を通して製作されたフィルムは，グラナイト山の大記録保管庫に保管されている。このような設備は世界に類を見ない。また図書館には400万巻の系図記録が収められている。これだけそろえるのにどれほど多くの人々の手がかかっているであろうか。このことを心に留めるならば，世界中の人々の上にみたまの力が働いていることに気づかれることだろう。

私が伝道部長として南部に滞留していた時のことである。改宗して間もないある兄弟が系図図書館に行って調べていたところ，一族の名前を見いだしたそうである。その記録の提出者はテキサス州に住む判事夫妻で，序文にはこのような事柄が記されてあったと言う。

「私たち夫婦は多大の労力と時間と金銭を費やして，この本を作成した。私たちにはこのことを行なった理由がわからない。しかし神の摂理によって，いつの日か有益な目的のために役立つものと確信している。」

このようにみたまはこの世の人々に，神殿儀式のための系図を集めるように促している。この種の話はほかにも数多い。

ここで，日々神殿内の活動に携わっておられる何千人もの人々について考えていただきたい。これはまぎれもなく，エライジャがもたらした大いなる奇しきみ業の一部である。

数年前にイスラエルに行った時，3カ所のユダヤ人会堂を訪れた。そのひとつの会堂では，壁の側面にひじかけ椅子がくくり付けてあった。私はそれが何のためのものかを知っていたが，あえてラビに「あの椅子はなぜあそこにあるのですか」と尋ねてみた。

すると彼はこう答えた。「エライジャがお出でになった時に，これを降ろして，ここに座っていただくのです。」

彼らはエライジャがすでにこの世を訪れていることを知らないのである。もし彼らがこの世に起こっていることを知ったらどうであろうか。この世を訪れたエライジャが全世界の人々の心に触れたということは，この世における偉大な出来事のひとつである。ダニエルもこのことについて語っているが，時間の都合でこの辺りで私の話を閉じることにしよう。

私は予言者の言葉を信じている。またこの教会は，救い主の再臨に備えるようにという聖なる予言者たちの言葉に従って備えをしている。主の再臨が早められるように，主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

聖見者ジョセフ

十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

教会は，イエス・キリストの福音の回復者であるジョセフ・スミスの使命をはっきりと証する

兄弟姉妹，私は聖霊の導きを願うしだいである。最近，雑誌やテレビが教会を好意的に報じていたのを喜んだ人は多いと思う。

一例をあげると，先月，広く普及しているある雑誌が，タバコ，アルコール，茶，コーヒーをやめて健康増進をはかるモルモンの生活を高く評価していた。またテレビのネットワークで，教会の膨大な系図事業を紹介していた。教会は福祉計画や家庭の夕べプログラムなど，教会の組織機構に関してほかにも肯定的な評価を聞いている。

しかしこれらの記事に軒なみ欠けているのは，その慣習の起源と理由の説明である。

最近のある出版物では，教会の設立や発展に神のみ手を見ず，それが時代の社会状勢に即した自然の成り行きだという論評まで載せている。

先日，私の知人がこう言った。「あなたの教会は非常に素晴らしいと思います。たったひとつのことがなければ，あとは全部受け入れられると思うのですが，ただジョセフ・スミスのことがね。」それに対して，私は答えた。「それは矛盾です。啓示を受け入れるなら，啓示を受けた人を受け入れなければなりません。」

教会や教会の活動に感心する口振りでいながら，その同じ口で，教会自体や教えや教会の中身の骨格を作った主のしもべであるジョセフ・スミスをさげすむ人がいるというのは，何とも不思議でならない。彼らは木の根を掘りおこしながら，実を成らせて取ろうとするようなものである。癌や心臓病の研究の盛んな現代に広く賞賛されている，いわゆるモルモンの健康法は，そもそも1833年に，主から「智恵の言葉」としてジョセフ・スミスに下された啓示である（教義と聖約89：1）。どう考えてみても，当時の栄養学の文献から出た可能性はないし，それを唱道した人間の頭がひねり出した考えでもない。現在，医学的見地からして，大勢の人を苦痛や尚早に過ぎる死から，救っているこの知恵の言葉は，実に奇跡である。

系図研究はアレックス・ヘイリー氏の「ルーツ」をきっかけに，にわかに趣味として人気が出た。合衆国内外の何千何万という人の熱い視線が，モルモンの系図資料の宝庫に注がれている。しかし，教会のこの大事業は趣味を目的に始まったのではない。これも，モルモンの予言者ジョセフ・スミスの教えの延長である。福音を知らず，そのために福音の求めるところに応えられず，機会さえなかった私たちの先祖なくしては，私たちの救いもないと教えたのはジョセフ・スミスである。

多くの関心を集めている教会の素晴らしい組織は，啓示に導かれて彼が構想したものであり，予言者の述べた啓示を研究せずには模倣も応用もできないのである。

また，一部には近年の発足と見られがちな福祉計画も，教会初期にジョセフ・スミスが宣言した原則に忠実に則って設立，運営されているのである。それは家庭の夕べのプログラムについても同様である。家庭の夕べは，子供たちを「光明と真理」（教義と聖約93：40）の中で育てるという両親の責任に関する初期の啓示に従ったものに過ぎない。

それほど以前のことではないが，飛行機の中で隣りにすわった青年と話をしたことがあった。いろいろと話が出て，宗教のことも話題になった。彼はモルモンについて過去にかなり本を読んだ。モルモンの実践していることは立派なことが多いと思うが，ただ教会の成立にまつわる話や特にジョセフ・スミスについてどうしても偏見を拭えないと語った。彼は別の教会の熱心な信者で，私がモルモンについてどこから知ったのか尋ねてみると，自分の教会の出版物で読んだということであった。彼の会社はどこかと聞くと，彼は誇らしげにIBMのセールスマンですと答えた。そこで私は，あなたのお客にゼロックスのセールスマンからIBMの製品を説明してもらうのはどんなものですかと尋ねた。彼は笑いながら，「いやあ，ご指摘の点はわかりました」と言った。

私はかばんから教義と聖約を出して，ジョセフ・スミスが述べた主の言葉を読んだ。その若い友人がほめていた習慣が，そもそも彼の敬遠している立案者から出ているという箇所を。こうして別れる前に，彼は私が送る本を読んでくれると約束した。私は，よく祈って読むならば，興味のある教えや習慣だけでなく，それらを世に紹介した人物についても真実かどうかがわかると彼に言った。そしてジョセフ・スミスの予言者としての召しについて，確信

していることを証した。

私たちは予言者を礼拝しない。私たちが礼拝するのは永遠の父なる神と，復活された主イエス・キリストである。しかし私たちは，全能者のみ手の内の器として，古代における神の福音の真理を地上に回復し，神の権能を教会の諸事や民を祝福するために役立てる神権を回復したジョセフ・スミスを承認し，公に宣言し，敬い，尊ぶものである。

ジョセフの生涯は，奇跡の生涯である。彼は貧困の中に生まれ，逆境の中で育った。ここかしこで虚偽の非難を受け，不当に投獄されて，追い立てられた。そして，38歳で殉教した。しかし生前の短い20年間に，世人が一生かかっても成し遂げられないことを果たして行った。彼が出版した522ページ〔英文〕のモルモン経は20を越える言語に翻訳されて，数百万の人々に神のみ言葉として読まれている。また，彼が受けた啓示や彼の著わした書物はこれら数百万の人々にとって聖典となっている。書物のページ数を総計すると，ほぼ旧約聖書全体に相当し，それがただひとりの人によってわずか数年で世に出されたのである。

またこれと同時期に彼は教会を設立し，その教会は丸1世紀半にわたり不遇とチャレンジを乗り越え，今や145年前に3,000人であった教会員数は，世界中で350万を越え，依然として発展を続けている。この素晴らしい組織を時代の所産と言い張る懐疑者もいる。しかし，この組織は現代同様過去にも，独特でユニークで非凡であった。これは時代の所産ではなく神からの啓示によって成ったものであった。

人の永遠性に関するジョセフ・スミスのビジョンは，前世の存在から墓のかなたの永遠にまで及んでいる。彼は，救いが万人に及び，全人類は救い主の贖罪によって復活の恵みにあずかると教えた。しかしこの賜にまさるのは，福音の原則に従順に従うことと，それによりこの世の幸福と来世での昇栄が約束されることである。

彼が教えた福音は，同世代の人々や将来の人々だけにあてたものではなかった。天の神に指導されたジョセフ・スミスの精神は，あらゆる時代のあらゆる人間を包含していた。生者も死者も福音の儀式にあずかる機会を持たなければならなかったのである。

古のペテロは言った。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは，彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが，霊においては神に従って生きるようになるためである。」（Ⅰペテロ4：6）死者の場合，彼らが肉において人間として裁きを受けるには代理の業が必要であり，そのためには死者が実在したことを明らかにしなければならない。そのために末日聖徒イエス・キリスト教会の大規模な系図プログラムがある。それは趣味のためではなく，神の永遠の目的を達成するために設立されたのである。

ジョセフ・スミスは死に先立つ20年間で，福音を世界各国に携え行くための事業を開始した。私は彼の思い切った決断に驚く。教会がまだ一人立ちして間もない頃に，しかも逆境の闇の中で，人々が召されて家や家族をあとに残し，海を渡ってイエス・キリストの福音の回復を宣べ伝えに出かけたのである。彼の心，彼のビジョンは全地を包んでいたのであった。

きょうこの会場には，北米，中米，南米，英国諸島，アフリカ，ヨーロッパ諸国，太平洋の島や陸地，豊かな歴史を持つアジア諸国からやってきた人人が着席しておられる。近隣，遠来の皆さん，あなたこそは，神の予言者ジョセフ・スミスのビジョンの結実である。彼は今の時代と，さらにこれから主のみ業が全地に広まる素晴らしい時代を見た偉大な聖見者である。

教会の華々しい開花は，1844年6月のうだるような日に，卑怯な襲撃で無防備の予言者を銃殺した，あの顔を塗りたくった男たちに驚異の目を見張らせることであろう。また，予言者を守ると誓いながら彼を無慈悲な暴徒のなすがままにしたイリノイ州のトーマス・フォード知事を驚かせることであろう。「イリノイ州史」の中で，ジョセフ・スミスは「将来の永遠の成功をめざした政略的な組織の確立に成功しなかった」と結論したのはこのトーマス・フォードである。（トーマス・フォード，*A History of Illinois*「イリノイ州史」，B・H・ロバーツ *Comprehensive History of the Church*「教会概史」2：347に引用）

彼が失敗者と断定した人物がいまだに感謝を込めて記念されている一方で，トーマス・フォードはイリノイ州ポーリアの墓地の奥まった所にひっそりと眠っているのである。

私が12歳の時，父がステーキ部の神権会に連れて行ってくれた。私は後列にすわり，ステーキ部長であった父は壇上にすわった。そのような集会に出席するのは初めてであったが，集会が始まる時会場に集まった数百人の人々は一斉に起立した。人生経験も違い，職業も異なる人々であったが，だれもが心に同じ確信を持ち，その確信を胸に声を合わせてこう歌った。

たたえよ，主の召したまいし
主と語りし予言者を
末の時をはじめたる
わざを世みな崇めよ

（讃美歌144番）

信仰を持って歌う人々の声を聞く私の心に何かが起こった。少年の心に，聖きみたまによって，ジョセフ・スミスが本当に全能者の予言者であるという知識が植えられたのである。それから何年もたち，ジョセフ・スミスの言葉や功績を数々読むうちに，その知識は次第に強く，確かになっていった。この国を岸から岸へ，北の大陸，南の大陸，西や東の大陸に，ジョセフ・スミスが神の予言者，主イエス・キリストのたくましいしもべ，証人であることを証できるのは私の特権である。

神権とみさかえをもて
鍵を永遠に彼持つ
古き予言者とともに
主の王国に入らん

（讃美歌144番）

この証を，私はきょう皆さんに再び申し上げる。また，この大会の管理者が，今話をした予言者の正統の継承者であることを証する。私は確かにそのことを知っている。この証を，ジョセフ・スミスが証し，私も証する。主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

明瞭さの力

十二使徒評議員会会員
マービン・J・アシュトン

「神は，真理がけばけばしい飾りをつけず，明瞭にわかりやすく教えられることを喜ばれる」

先だって私は，大学生の年頃の研究グループから，「聖典や教会歴史に出てくる言葉の中で，霊的に自分を一番発奮させたものは何でしたか」と質問された。そのような状況でそういう質問をされたことが以前にもあったかどうかは覚えていないが，その時はためらいなくはっきりした確信を持って，「教会歴史の中で一番力強い言葉というのは，『ジョセフよ，こはわが愛子なり。彼に聞け』（ジョセフ・スミス2：17参照）だと思います」と答えていた。

私たちはさらに，この神聖な会話の持つ力と，まわりの状況や呼びかけの言葉，紹介の言葉，誘いの言葉の平明さについて話し合った。

木の茂るあの森の中で，14歳の少年の熱心な願いと固い信仰に応えて天上の御二方が姿を現わされた。簡素な美しい森の中で，名もない少年が神から自分の名を呼ばれ，救い主イエス・キリストに紹介され，世に教えられることのうちでも最も重要な事実が理解できるように，わかりやすい簡明な言葉を聞かされたのである。

この示現の生き生きしたさまは，簡明さについてニーファイが語った次の言葉に，新たな意義を加えてくれる。「私の身も心も明瞭なことを喜ぶ。何故ならば主なる神が人間に為したもうことは明瞭であるからである。」（IIニーファイ31：3）「私は明白なことを喜んで誇りとし，真理を喜んで誇りとし，またわがイエスが私の身も霊も地獄から贖いたもうたから，イエスのために喜んで誇りとする。」（IIニーファイ33：6）「まことに私が民に学ばせるために明瞭な言葉で話すのは私の心が楽しみとするところである。」（IIニーファイ25：4）私たちはこの偉大な予言者ニーファイや，その他の指導者や賢明な教師たちから，原則を明瞭に教えたり説明したりすると，よく理解できることを教えられている。ブリガム・ヤングは，もしも聖徒たちの祝福となることがたったひとつ自分にできるとしたら，「物事をありのままに見ることのできる目」（「説教集」3：221）を与えることだと思うと述べた。

明瞭さは，つつましさ，学びやすさ，聡明さ，賢明さ，従順さである。しかし，時々平明な真理は，気取りや粗野，低俗，批判的，議論好き，ごう慢，不正と曲解される。現代は教会歴史上これまでになく，聖徒たちが積極的にイエス・キリストの福音を明瞭な方法によって教える必要に迫られている。神は，真理がけばけばしい飾りをつけず，明瞭にわかりやすく教えられることを喜ばれる。生活や言葉や行動の明瞭なことは永遠の美徳である。キリスト教の教えや生き方の明瞭さが失われた時に，背教や受難が生じる。明白な光が人々の生活から消え去った時，人々は暗闇を歩く。「誰にもわかる非常に貴い多くの部分を子羊の福音から取り去り，また主のなしたもうた多くの誓約を取り去ってしまったからである。かれらがこれをしたのは，主の正しい道を曲げて人の目を暗ませその心をかたくなにするためである。」（Iニーファイ13：26—27）

イエス・キリストの福音の真理は，わかりやすく，尊く，力強い。立派な人々の生活は，わかりやすく，尊く，力強い。私の絶えず感謝するこの明瞭さについて，学んだ教訓を2，3お話したいと思う。幾つか教えられたのは，純粋な信仰をもって受け入れる謙遜な幼な子たちからである。救い主は，天国で最も大きな者となるには幼な子のようにならなければならないと教えられた。そこで，明瞭な祈りの模範についてお話したい。

何週間か前に，「飢饉，病気，寒波，かんばつ（国内，国外，現在，将来にわたって）の災害が緩和されるように」，教会員に週の初めの祈りを大管長会が要請した際，こういう報告があった。その1週間の終り頃に家庭の夕べで8歳の少女が，「いっぱい水がたまって夏に家族みんなで泳ぎに行けますようにもっと雪を降らせて下さい」とお祈りした。8歳の少女の目には，家族で夏に泳ぐための水が一番大事に映ったのである。家族一緒に楽しめるように願った明瞭な子供らしい信仰の祈りは，最も喜ばれたのではないだろうか。

率直なありのままの証の力強さは，いつも私の胸を打つ。ある12歳の少年が証を述べようとして大勢の人々の前に立った。彼は胸がいっぱいなのとあがっているのとで震えながら立ったまま，声が出て来なかった。無言で立ちつくしている彼を，私たちは何とかしてあげたいと思った。張りつめた沈黙の数秒間がゆっくりと過ぎた。私たちは祈る気持ちで，彼が落着いて証を言葉

に出せるようにと願った。そのような場面の少年たち特有の心配や高ぶりを感じた後，彼はうつむいていた頭を上げ，おだやかにこう言った。「兄弟姉妹，ぼくの証はまだ小さいです。」彼は口をつぐみ，着席した。証はそれだった。その時も今も思うのだが，何とふさわしい言葉であったことか。だれの証がまだ小さくはないと言えるだろう。もっと大きくする必要のない証があるだろうか。この一言を聞いて，私は会衆に自分の証もまだ小さいので，機会あるごとにもっと証を大きくしたいと語った。私は明瞭で簡潔な言葉から教えられてきた。

末日聖徒イエス・キリスト教会では，明瞭で簡単な行為によって証が成長し，教えが説かれる。日曜日の朝に，子供日曜学校を卒業したばかりの少女が髪をきれいにとかしてよそゆきの服を着，顔を輝かせて面はゆそうに壇上に向かう。小さな手を伸ばしてマイクを顔の高さに下げ，そっと母親の顔を見て勇気を得たように，聖餐の聖句を読んで一同の聖句復誦をリードする。時間のたつうちにこの単純な行為が踏み台となって，会の落着きと人々の証と聖句の知識が得られるのである。

毎日曜日，世界中で聖餐台を前に，祭司が，さっぱりした服装で身だしなみを整えて，聖餐を祝福する名誉にあずかる。執事は誇りを持って敬虔に，秩序正しくいつもの簡潔な方法で聖餐

のしるしをくばる。このアロン神権者たちは，全教会員がこの神聖な儀式にあずかるように気を配ることを教えられている。その少年たちは，やがて監督会の一員として仕える日に備えて，今，いろいろな形でワード部の全教会員を見守り，世話しているのである。

十代の少女たちは，病人や外出できない人々を見舞い，教会員でない友人をフェローシップするなど，簡単ではあるが，実に大切な奉仕活動に携わりながら，これらを良い踏み台として，やがて目的を持った力強い女性に成長して行くのである。

日々に思いやりの心をもって御父の仕事をする時に，人生最大の教訓の幾つかが体得される。

教会中で大勢の教師たちが，「私は神の子」という言葉の簡潔でうるわしい意味を子供たちに教えようと，家の遠い子供たちを車を都合して学校から初等協会に送っている。また教会に入って間もない改宗者は扶助協会のレッスンや活動の手伝いを頼まれ，人前に立った経験がない人でも，理解ある仲間たちの励ましと支えによって，ひとつのなにげない簡単な責任が果たせるようになる。それを踏み台として，彼女は家庭でも個人的にも，実行したり教えたりする機会を待ちながら成長して行く。

イエス・キリストの福音の定める懲らしめの明瞭さは，その力をとかく見逃しがちだが，後悔して悔い改めた人にとっては大きな祝福である。教会における懲らしめは簡潔で，悔い改めも赦しも次のようなはっきりした段階を経て行なわれる。先頃，ひとりの賢い教会員がワード部の建物のホールで呼び止められて，何々兄弟が教会を破門になったことを聞いているかと，ひそひそ声で尋ねられた。尋ねられた姉妹が知っているという様子をすると，告げ口の主は「すごいことねえ」と言った。

その言葉に，姉妹はこう答えた。「いいえ，私は素晴らしいことだと思うわ。やっと重荷が下りて，これから私たちみんなが愛して，手伝ってあげて，スタートをやりなおしできるのですから。」有害無益な会話を助長する代わりに，簡潔に愛の教えが説かれたのである。

イエス・キリストの生涯は，歩まれた道のひとつひとつの段階が私たち人の教えとなるよう明瞭に記され，教えられている。マタイ伝から簡潔に力強く語られている主の言葉を幾つか思い出してみよう。

「柔和な人たちは，さいわいである，」（マタイ5：5）

「あわれみ深い人たちは，さいわいである，」（マタイ5：7）

「敵を愛し，」（マタイ5：44）

「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」（マタイ22：39）

「自分の命を得ている者はそれを失い，わたしのために自分の命を失っている者は，それを得るであろう。」（マタイ10：39）

「耳のある者は聞くがよい。」（マタイ11：15）

「たとい人が全世界をもうけても，自分の命を損したら，何の得になろうか。」（マタイ16：26）

「この幼な子のように自分を低くする者が，天国でいちばん偉いのである。」（マタイ18：4）

「あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は，僕とならねばならない。」（マタイ20：27）

救い主は，私たちに理解できるようにと簡潔に語っておられる。救い主のみ言葉は，簡潔にして雄弁である。

神秘化された不可思議な言葉は永遠の生命へ導くものではない。ある人々は永遠の生命の賜や救い主に関する知識は飾りたてた神秘な言葉でしか得られないと感じて，福音から得られる大きな報いや喜びを見逃している。主は，言葉を言葉のまま，概念をその概念のまま学び取るようにと私たちに教えられた。指導者の語る簡潔明瞭な方法に従うことによって，わかりやすい平明な真理を私たちが知るように。果たして行くひとつひとつの責任が，学んで行くひとつひとつの教えが，華麗さや儀式や派手な行事よりももっと確実に，人々を日の光栄の王国へ導くのである。神秘を見ようとせずに，毎日の奉仕の業の内にある謙遜さを見なさい。従順を学び，福音の明瞭な真理から理解を

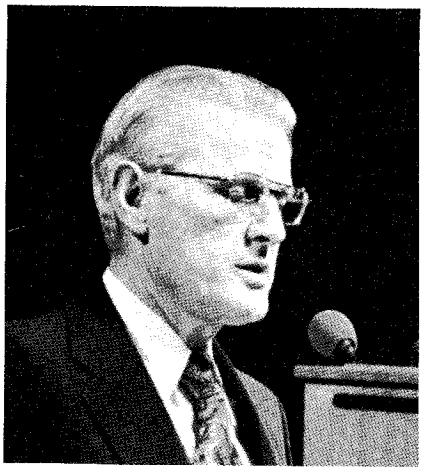
得て，それを率直ではっきりした言葉と行動によって人々に教えなさい。

簡潔で力強い生き方や教えは，天父のみこころやみ旨にかなうものである。ジョセフ・スミスは神の予言者である。このことを簡潔に，へりくだって皆様に申し上げる。恐れを知らない彼のはっきりした真理の言葉は，批判者たちを乗り越えて今も生き，彼を知る人々に力と慰めをもたらしている。

私たちは世の人々に衿を正して率直に，父なる神と御子イエス・キリストはジョセフ・スミスに姿を現わされたと宣言する。「そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい，他のお一人を指して『こはわが愛子なり，彼に聞け』と仰せられた。」（ジョセフ・スミス2：17）

私たちはあらゆる国の人々に，この天からの至上の示しに引き続いて啓示された真理を，祈りをもって研究していただきたいとお願いする。そのため以後予言者ジョセフは大きなあざけりと侮辱を受け，ついには殉教をしたが，それでも彼が勇気をもって間違いの余地がないはっきりした言葉で，「しかしながら，これにも関わらず私が先に示現を受けたことは事実である」（ジョセフ・スミス2：24）と宣言したことを，私はへりくだって神に感謝する。これらの栄光に満ちた，しかし簡潔な言葉が真実であることを，心からの証として皆様に申し上げる。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

テンプルスクェアの訪問者



毎日の愛

管理監督会第一副監督
H・バーク・ピーターソン

健全な子供を育てるには，毎日子供たちに私たちの暖かい愛を伝え，愛ある言葉を語ることである

何年も前に私たちのワード部の断食証会で，若い父親が初めての子供に誇らしげに命名し，祝福を授けた。そのあとで彼は証を述べるために立った。彼はその長男について感謝し，ちょっとまごつき気味に，赤ん坊は何を言ってもわからないようなので，自分なりの交流のしかたから感じ取ってほしいと思うと言った。彼は，「私たちにできることといえば，この子を抱いたり，そっと抱きしめたり，ほおずりをしたり，愛していることを耳もとでささやいたりすることだけです」と言った。

私は集会が終わってから父親になったばかりのその兄弟のところへ行き，あなたは証の中で健全な子供たちを育てる良い方法を教えて下さいましたと話した。彼がそのことをいつまでも覚えているように，子供たちが大きくなってからもその習慣を続けてほしいと思ったものである。

毎日私たちが身のまわりで目にする悲劇は，大勢の子供や大人が毎日の愛の糧を食さないために飢えていることである。私たちの間には，何にかえても人の暖かい愛を感じ，暖かい言葉を聞きたいと思っている人々が大勢いる。人から声をかけられない孤独な，失意の内にある人々はどこにでもいるものである。

数年前のこと，私は他国の伝道部に出かける責任を受けた。そこで宣教師たちと最初の集会を持つ前に，伝道部長に特に注意する必要のある問題があるかどうか尋ねた。すると伝道部長は，途中で帰国しようと決めたひとりの宣教師のことを話してくれた。伝道部長は非常に困っていた。「私でお役に立てるでしょうか」と聞いたが，伝道部長の返事ははっきりしなかった。

集会の前に宣教師たちと握手をしている時に，帰国したがっている宣教師はすぐにわかった。私は伝道部長に，集会のあとで彼と話をしたいがどうでしょうかと尋ねた。集会の間，彼を観察していると，口いっぱいにほおばったガムばかりが気になった。集会が終わると，その背の高い宣教師は壇のところへやってきた。

「お話したいがどうですか」と，私は尋ねた。

彼はどうでもよいといったふうであった。

私と彼は礼拝堂の端の方へ行って，並んですわった。そして私が，宣教師は途中で帰国すべきでないことを一生懸命に話したが，彼は馬耳東風といった状態で窓の外を見続けていた。

それから2日間，私たちは集会で時時一緒になったが，一度などは私が話している間，彼は最前列にすわって新聞を読んでいた。私は当惑し，気落ちしてしまった。彼は帰国する方が良いと，それもできるだけ早いうちに帰国した方が良いと思われた。その2日間に，どうにかして彼と心を割って話せるように祈っていたのだが，何の成果もなかったのである。

集会を終えた最後の晩に，私は礼拝堂の正面で数人の人々と話していた。するとわきの方にあの長老がいるのが目に入った。その瞬間それまで彼に対して感じたことのない気持ちが胸に広がった。私は申しわけなく思い，彼のところへ行って彼の手を取り，目を見つめてこう言った。「長老，あなたと知りあえて本当に良かった。私があなたを愛していることを，是非知っていただきたい。」

別れ際にはそれ以上何も言わなかった。私が教会堂のドアをあけて車に向かう時に，彼はまたそこに立っていた。私はもう一度彼の手を取り，腕をまわして，彼の目を見上げながら言った。「これまであなたにお話したことは，心からの私の気持ちです。あなたを愛しています。私のこともどうか，心にかけていて下さい。」

心と心が通いあった。その時，この青年は目に涙を浮かべ，ただこう言った。「ピーターソン副監督，私は生まれてこのかた『あなたを愛しています』などと言われた覚えがないんです。」

その時私は，彼がなぜ動揺や不安を感じ，伝道をやめたいと思ったか，そのわけがわかった。

ある人々は息子や娘のことで，「私が愛していることは当然わかるはずだ。何でもしてやっている。服を買い与え，暖かい家庭や教育を与えて……」と言うが，思い違いをしてはならない。心の欲求が満たされていると感じないうちは，親としての責任を果たしたとはいえないのである。

私たちは問題のある子供に本当の愛を伝える努力を，もっと払わなければならない。親の子供に対する愛は，子

供の言動に左右されずに注がれるものでなければならない。愛を受けるに足りないと考える子供に，一番愛が必要だという場合が多い。

親たちに対する聖典の勧告を思い出していただきたい。「またお前たちは，自分の子供らを飢えさせたりはだかのまま置いたりはしないであろう。またお前たちは自分の子供らが神の律法に背き互いに争ったり戦ったりして，私たちの先祖が言った悪魔すなわちあらゆる義しさの敵であって罪の頭である悪魔に仕えることを許さず，

お前たちは自分の子供らに真の道を行う事と真面目でなければならぬ事と互いに愛し互いに助けねばならぬ事とを教えるであろう。」（モーサヤ4：14—15）

親の教えは，愛という金の縫い糸でかがられてこそ，熱心によく聞いてもらえることを申し上げたい。親の言葉を覚えていてほしければ，忘れることのできない思いやりのある行為がそこに伴わなければならないのである。

初めの一歩を踏み出して最初の行動を起こすことを，他人に頼って待っている人々が多い。もしあなたが最初の行動を人に期待している親，あるいは子供，あるいは夫や妻であったら，是非聞いていただきたい。

幸福になる最も有効な秘訣のひとつは，ヨハネ第一の手紙の4章19節にある。短い文章だが，よく聞いていただきたい。「わたしたちが愛し合うのは，神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」この言葉の通り，愛は変化をもたらす。

いわんとすることがおわかりだろうか。「神がまずわたしたちを愛して下さったからである。」子供たちはあなたを愛するであろう，兄弟姉妹があなたを愛するであろう，永遠の伴侶があなたを愛するであろう，まずあなたが彼らを愛したならば。それが1日で，あるいは1週間や1年でそうなると言うつもりはない。ただあなたが途中でやめなければ，そうなるのは確かである。

愛を常時表現する習慣のない人は，初めは目薬の1，2滴ほどの小さなことでもよいと思う。気楽に始めなさい。目新しいことを始めたばかりの時には，グラス1杯でも完全に溺れてしまうであろう。耐薬力が大きくなるにつれて，投薬量を増してゆきなさい。

何をするにも，真心から正直に気持ちを表現することである。

人から本当に愛されているという自信を持った人は不可能と思われる山を征服する。刑務所などの施設や，時には私たち自身の家庭にさえ，愛情に飢えている人が大勢いる。

世界やまわりの社会でサタンが人の子らに狂暴な攻撃をしかけている現在，私たちの武器としては純粋無私のキリストのような愛にまさる武器はない。

私たちの背景，文化，習慣は違っていて，ある人々にとっては愛を表現することが簡単ではないだろうとも思うが，あなたにとってむずかしいかどうかの問題は抜きにして，救い主はすべての人にそのことを命じておられる。ある国の少数の人や，また別の国のひと握りの人，この家族，あの家族ではなく，あらゆる地に住む神の子らのすべてに対して，救い主は命じておられる。今，愛を表現しなさい。今，愛を示しなさい。私たちが家族として共に永遠を受け継ぐために。

ヨハネ伝の中で，救い主は私たちにこう言われた。「わたしは，新しいいましめをあなたがたに与える，互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい。

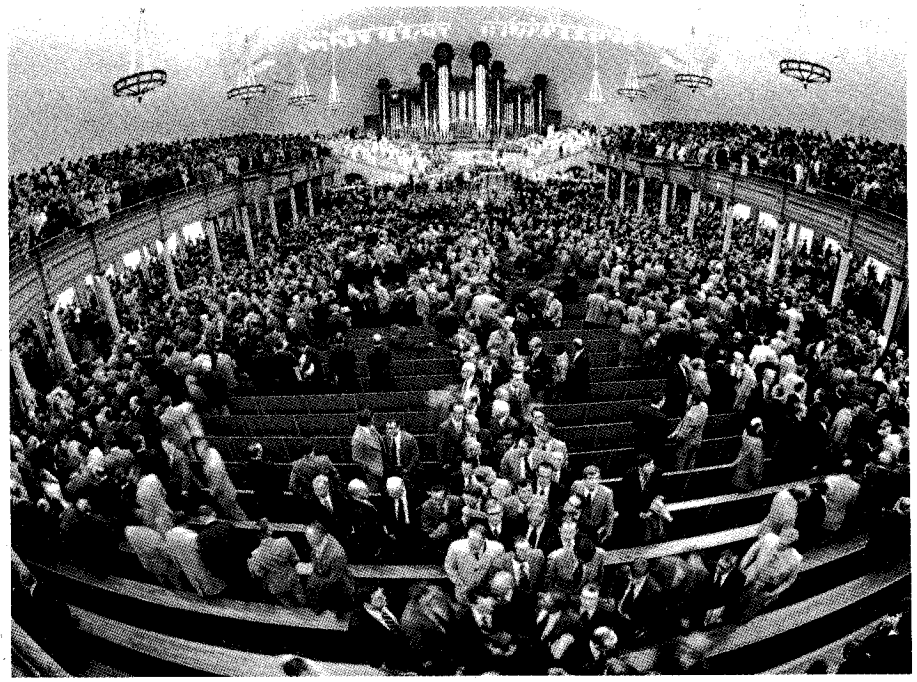
互に愛し合うならば，それによって，あなたがたがわたしの弟子であることを，すべての者が認めるであろう。」（ヨハネ13：34—35）

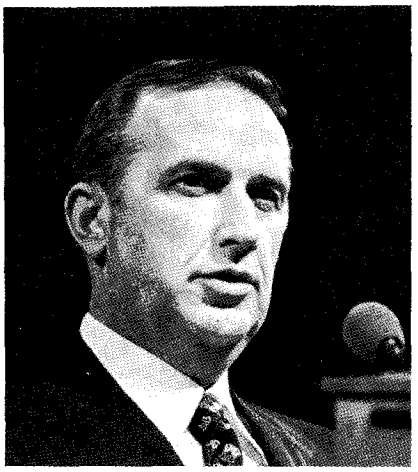
私たちはみな救い主の弟子になることができる。

2週間前，ある集会に急いでいると，キンボール大管長が私を追い越して行かれた。彼は立ち止まって私の手を取り，目を見つめてこう言われた。「忙しいことが多くてすみません。あなたを愛していること，感謝していることを，久しくあなたにお話していなかったと思います。」

私には彼の心が感じられた。彼の言葉が信じられた。私の霊は新たに高められた。

兄弟姉妹，心からの行動であれば，それは受け入れられる。悩める心に平安と幸せをもたらすのである。どうか実行していただきたい。うまずたゆまず，繰り返し，繰り返し。それをせよと教えられた御方は生きておられる。イエス・キリストである。この証を，イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。





感　謝

七十人第一定員会会員
リチャード・G・スコット

教会幹部に支持されて，「主のみ業」に献身する決意

私のこれからの一生をイエス・キリストの証を述べ，イエス・キリストの王国を建設することに捧げる特権を，おそれおおい気持ちと，身にあまる召しという気持ちで受け取めている。私はこれから共に生活する教会幹部の兄弟たちを深く愛し，尊敬しており，彼らの召しの神聖さを強く感じている。私は自分が，丈高く気高い巨大なかしの木の森に芽を出したどんぐりのように感じている。

私は感謝と愛で胸がいっぱいである。

5人の息子に正しい模範という貴重な遺産を残してくれた愛する両親に対する感謝。私の兄弟たちには，それぞれの強さと証に対する感謝。

愛する尊い妻と愛する子供たちへの感謝。ジーニンは純粋な証と愛と献身の手本，私の力のよりどころである。

私の知る立派な若者たち，特に伝道に携わっている若者たちに対する感謝。

その中には，心から愛する私の友だちもいる。

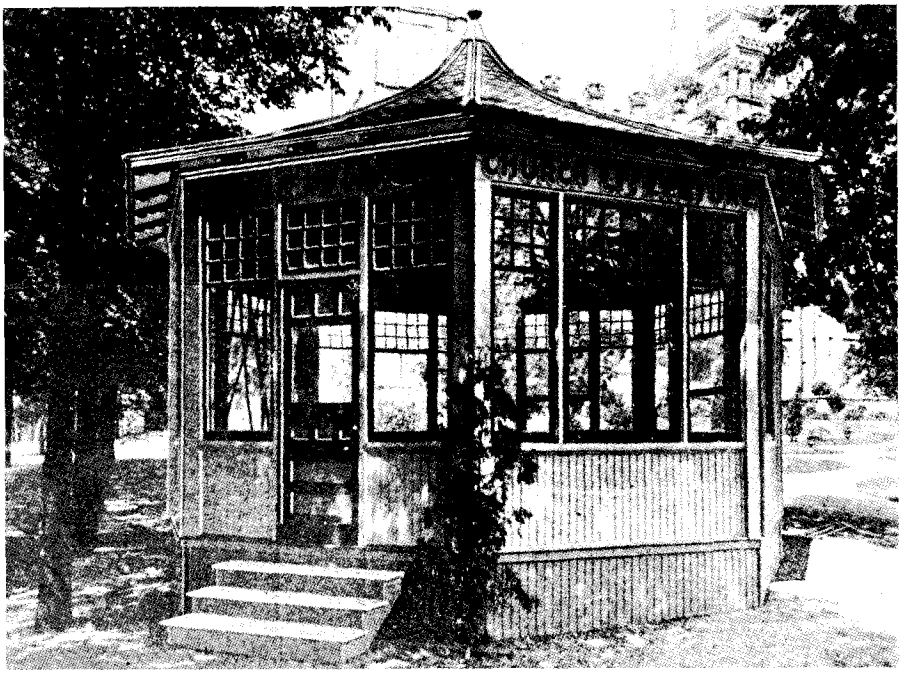
またここにおられる兄弟たちと愛する予言者に対する感謝。彼は地上のあらゆる神の子らのための神の代弁者である。私はキンボール大管長を心から愛している。

身にあまる召しだと感じてはいるが，しかし心は平安である。主がこう言っておられるからである。「もし人われに来らば，われはかれにその弱点を認めさせん。見よ，われは人を謙遜にするために人に弱点を与うれど，すべてわが前にへりくだる者には充分わが恵みを授くるにより，かれらがわが前にへりくだりわれを信ずる時にはその弱きを強きに変えん。」（イテル12：27）

また主はこのようにも言っておられる。「然り，見よ，われ今汝に来りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。」（教義と聖約8：2）

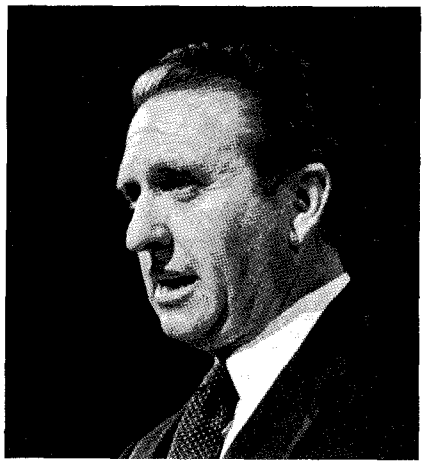
私は聖霊のささやきが現実にあることを知っている。特に必要な場合，熟考した後選び抜いた自分の道を確認してもらうため祈りを捧げると，聖霊のささやきがそれは正しいという安らぎの気持ちを与えてくれる。そうでなく安らぎの感情がない時は，聖霊の力によって勧告や指示や確信が与えられる。また時には，そのまま進んだら危険だという警告が，心にどっと湧き上がる。

私はスペンサー・W・キンボールが神の予言者であることを知っている。イエス・キリストは生きて，私たち一人一人を愛しておられる。永遠の父なる神は，私たちがふさわしければ必ずはっきりと祈りに答えて下さる。私は，自分の生涯と全精力と自分のすべてを主のみ業とみ国の建設のために捧げる決心である。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。



テンプルスクェアの最初の案内所。1897年のヨベルの年の祝いにあたって建てられたものである。

あなたが歩むエリコへの道



十二使徒評議員会会員
トーマス・S・モンソン

人生は数々の経験をもたらす。私たちはエリコへ向かうそれぞれの人生の道に良きサマリヤ人となる機会を見いださなければならない

愛する兄弟姉妹，私はこれからしばしの間話をするにあたって，天父の助けを求めるしだいである。この大会には遠路はるばると集って来た人々が大勢いる。北や南，西や東から，皆さんはソルトレーク・シティーへの道を旅して来た。

道という言葉ははなはだ興味深い。ひと世代前にボブ・ホープ，ビング・クロスビー，ドロシー・ラモーといった人気俳優を主演に「リオの道」，「モロッコへの道」，「ザンジバルへの道」などの映画があった。さらにそれ以前ラドヤード・キプリングが「マンダレーへの道にて」を書いて，また別の道を有名にした。

きょう，私はイエスがたとえに引かれて有名になった一本の道のことを考えている。それはエリコへの道である。ルカによる福音書を開いて，エリコへの道を有名にしたあの印象的な出来事を一緒に思い返してみよう。

ひとりの律法学者が立って，救い主を試みてこう言った。「何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。」

「彼に言われた，『律法にはなんと書いてあるか。あなたはどう読むか』。

彼は答えて言った，『「心をつくし，精神をつくし，力をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ」。また，「自分を愛するように，あなたの隣り人を愛せよ」とあります』。

彼に言われた，『あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば，いのちが得られる』。

すると彼は自分の立場を弁護しようと思って，イエスに言った，『では，わたしの隣り人とはだれのことですか』。

イエスが答えて言われた，『ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中，強盗どもが彼を襲い，その着物をはぎ取り，傷を負わせ，半殺しにしたまま，逃げ去った。

するとたまたま，ひとりの祭司がその道を下ってきたが，この人を見ると，向こう側を通って行った。

同様に，レビ人もこの場所にさしかかってきたが，彼を見ると向こう側を通って行った。

ところが，あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり，彼を見て気の毒に思い，

近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり，自分の家畜に乗せ，宿屋に連れて行って介抱した。

翌日，デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し，「この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら，帰りがけに，わたしが支払います」と言った。この三人のうち，だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか』。

彼が言った，『その人に慈悲深い行いをした人です』。そこでイエスは言われた，『あなたも行って同じようにしなさい』。」（ルカ10：25—37）

私たちはみんな，人生の旅路で自分のエリコへの道を旅するのである。あなたはどんな経験をするだろうか。また，私はどんな経験をするだろうか。私は，強盗に囲まれ，倒れて助けを求めている人に気づかないで通り過ぎるだろうか。あなたはどうだろうか。私は，傷ついているのを見，助けを求める声を聞きながら，それでも向こう側に通るだろうか。あなたはどうだろうか。

私は，それを見て，聞いて，立ち止まって，助けてあげるだろうか。あなたはどうするだろうか。

イエスは私たちのモットーともいうべき大切な言葉を残された。「あなたも行って，同じようにしなさい。」私たちがこの言葉に従う時，永遠の視野に比類ない喜びの展望が開ける。

さて，エリコへの道ははっきりと示されていないかもしれない。傷ついた人がそれとわかるように泣き叫んではいないかもしれない。しかし私たちが良きサマリヤ人の道を歩む時，その道は完全へと通じているのである。

救い主が示された多くの模範に目を留めなさい。ベテスダの池のほとりにいたかたわの男，姦淫をしてつかまった女，ヤコブの井戸にいた女，ヤイロの娘，マリヤとマルタの兄弟ラザロ，みんなエリコへの道で倒れているけが人である。

イエスはベテスダにいたかたわの男に，「起きて，あなたの床を取りあげ，そして歩きなさい」（ヨハネ5：8）と言われた。罪深い女には，「お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」（ヨハネ8：11）と諭された。水を汲みに来た女には，永遠の生命をもたらす水が湧き出る井戸を教えられた。ヤイロの死んだ娘には，「少女よ，さあ，起きなさい」（マルコ5：41）と命じら

れた。葬られたラザロには，「ラザロよ，出てきなさい」（ヨハネ11：43）という忘れがたい言葉をかけられた。

しかし，「これはみんな世の贖い主のことだ。このようなことが私の生活に，私のエリコへの道に起きるだろうか。こんな貴重な経験が」と，鋭い質問をする人もあろう。

それに対して，私は「そうです。起こります」と声高く言いたい。そのような例をふたつ，お話しよう。ひとつは傷ついて助けられた人の話であり，もうひとつはエリコへの道を旅して教訓を得た人の話である。

何年か前に，親切な人柄で人々から深く愛され，世に恵みを加えたひとりの人が永遠の来世に旅立って行った。ルイス・C・ジャコブセン兄弟がその人である。彼は困っている人のために働き，移民の職捜しを手伝い，私の知っている限りでとむらいの説教を一番たくさんした人である。

そのルイス・ジャコブセン兄弟が，ある日なつかしむような面持で，彼の少年時代の話を私にしてくれた。彼の母親はデンマーク人の貧しい未亡人だった。ルイスは背が低く，外見も格好良くはなく，クラス仲間からよく痛烈な冗談の的にされていた。ある安息日の朝，日曜学校で，子供たちがルイスのつぎのあたったズボンとすり切れたシャツを話題にした。泣くことはプライドが許さず，小さなルイスは逃げるように教会を出て，息を切らしながらソルトレーク・シティーのセカンドウェストまで来て立ち止まった。ルイスが腰かけた縁石のわきの溝を，きれいな水が流れていた。彼はポケットから，日曜学校のレッスンをメモした紙切れを取り出し，上手に紙の舟を折って，水の流れに浮かべた。傷ついた少年の胸には，「もう教会に戻るものか」という決意が湧いていた。

すると突然に，涙でぼうっとかすんで見える水面に，みなりのきちんとした大柄な男性の影が映った。ルイスが顔を上げると，日曜学校管理会長のジョージ・バービック兄弟だった。「一緒に腰をおろしていいかい？」とやさしく聞いた。

ルイスはこっくりとうなずいた。溝の縁石に良きサマリヤ人が腰をおろし，本当に助けの必要な少年の力となった。幾つも舟を造り，水に浮かべて会話が続いた。やがて指導者は立ち上がり，少年の手をしっかりと握って，ふたりは日曜学校に向かった。

その後，ルイス自身同じ日曜学校を管理した。彼は長い奉仕の生涯の間，エリコへの道で自分を助けてくれたその旅人のことを決して忘れなかった。

私が初めてその大きな経験のことを知った時，次の言葉を心に思った。

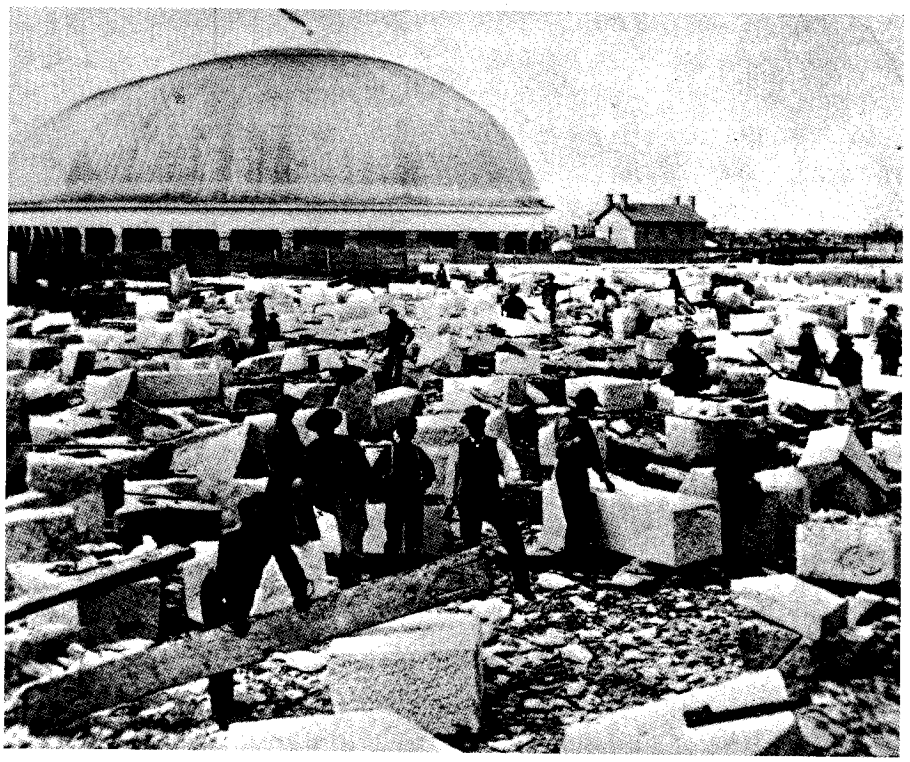
彼，十字路にひとり立つ
顔に陽を受けて。
未知の世界に思いを向けず
ただ雄々しい競争に向かって。
道は東に延び，西に延び，
どの道を行くべきか，それを
知らず。
かくて彼は下る道を選び，
勝者の栄冠を失った。
ついに彼は怒れるわなにかかる
十字路に道を告げる人の
立っていなかったために。

またある日，その同じ場所に
理想をかかげた少年が立った。
彼もまた雄々しい競争に向かって。
彼もまた良きものを求めて。
今は道を知る者が十字路にいた
どの道を行くべきかを告げる人が。
かくて彼は下る道に背を向け
勝者の栄冠を得た。
彼は今，清らかな道を歩む
十字路に立ち，より良い道を
告げた者のゆえに。

私は，自分のエリコへの道を初めて旅した時のことをお話したい。10歳のクリスマスが近づいた頃のことだった。当時の少年の夢は電気じかけの汽車であった。私の夢は，どこにでもある安いぜんまいじかけの汽車ではなく，電気で動く不思議な汽車だった。

ちょうど不況の時代だったが，父母は何とか工面したのだと思う。クリスマスの朝にすてきな電気じかけの汽車をプレゼントしてくれた。私は機関車に車両を引っぱらせて前進させ，後退させ何時間も遊んだ。

やがて母が居間に入ってきて，道の



1871—72年頃のソルトレーク神殿建築現場。石材の加工に精出す聖徒たち。後方はタバナクルで，右の建物はエンダウメントハウス

向こうに住んでいるハンセン未亡人のマークという子供にぜんまいじかけの汽車を買ってきたと教えてくれた。私は見せてほしいと頼んだ。機関車はゴツゴツとしてずんぐりと，私が買ってもらった高価な汽車のようにすべすべとスマートではなかった。

しかし，安い方の汽車についていたオイルタンカーが気に入った。私のにはそのような車両がついておらず，ねたましい気持ちが起こってきた。私はその気持ちを母にぶつけ，母はそれに負けて私にオイルタンカーを渡しながら，「マークよりもあなたの方に要るというなら，使いなさい」と言った。私はオイルタンカーを自分の汽車にくっつけてしてやったりと思った。

母と私は残りの車両と機関車を持って，マーク・ハンセンのところを訪ねた。マークは私より1，2歳年上だった。彼には思いもかけないプレゼントなので，言葉が出ないほど喜んでくれた。彼は早速ぜんまいを巻き，機関車が動いて2台の車両と車掌車がレールを走り出すと，私のように電気じかけではないのに，大喜びした。

母は私に，「トミー，マークの汽車はどう？」と聞いた。

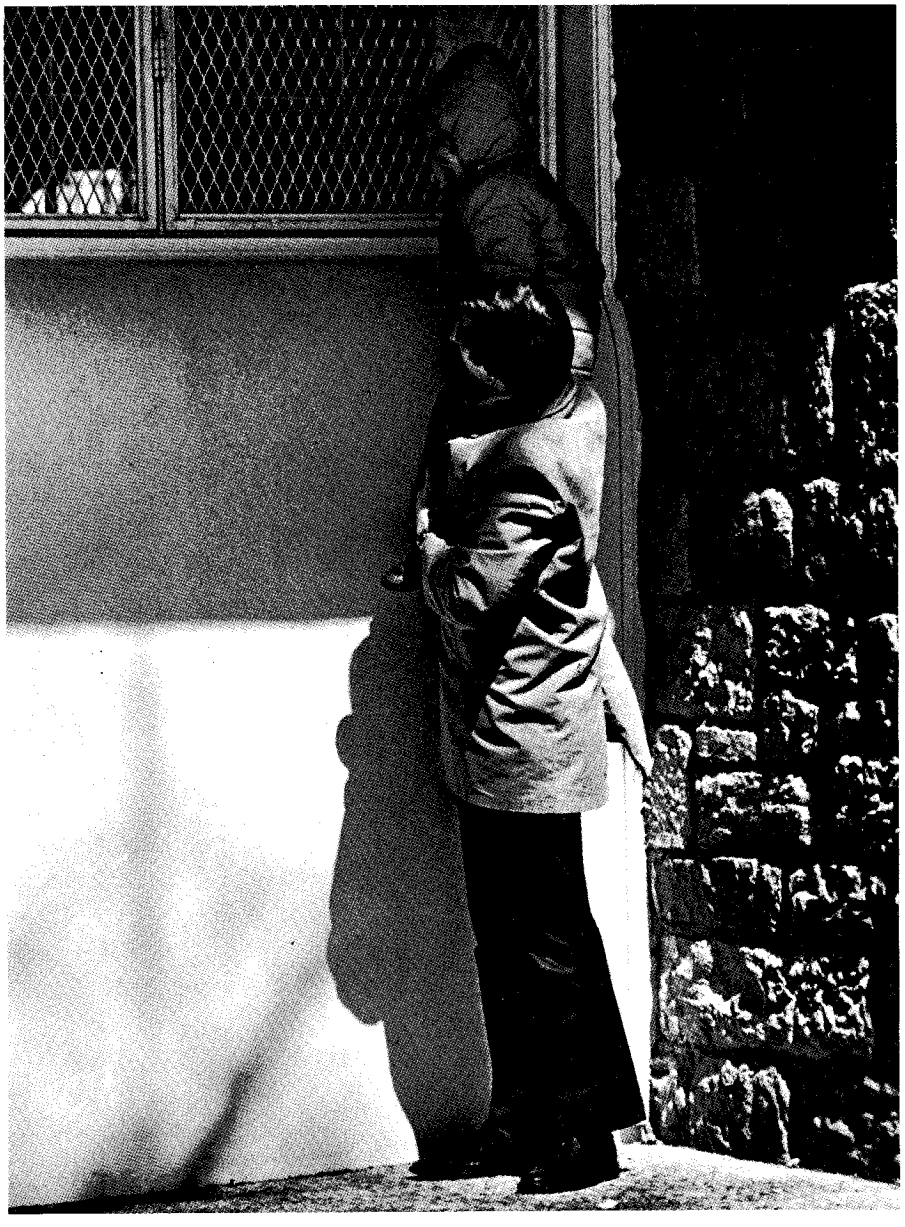
私は罪の意識を鋭く感じ，自分のわがままがよくわかった。私は母に，「ちょっと待っていて，すぐ来るから」と言った。

そして，急いで家に走って帰り，オイルタンカーと自分の車をひとつ持って，ハンセン家に戻った。そしてうれしげに，「君のについていたのがもうふたつあったの，忘れていたんだ」とマークに言った。

マークはもう2台の車両を自分のセットにつけ加えた。機関車が重そうにレールを走るのを見ながら，私は言いようのない決して忘れられない大きな喜びを感じた。

母と私はハンセン家をおいとまし，通りをゆっくり歩いて帰った。母は神のみ手に身を委ねて死の影の谷へ入り，息子の私と共に命の橋を渡り，手を取って私と一緒に自分たちのエリコへの道を家路についたのであった。

子守歌を歌ってくれた母親を覚えている人もあろう。ピアノを弾いてくれた母親，歌を歌ってくれた母親，思いやりを示してくれた母親，話をしてきかせてくれた母親，母親はいろいろな姿で心に残るだろうが，私の心に一番鮮明なのは，その日に良きサマリヤ人のように愛を示す機会を得て，一緒にエリコへの道を歩いた母親の姿である。

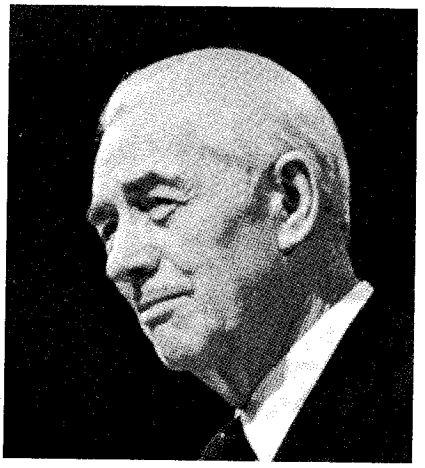


兄弟姉妹，今，励ましを待つ人々がいる。しなければならないことがある。救わなければならない大切な人々がいる。病む人，疲れた人，飢えた人，裸の人，傷ついた人，孤独な人，老いた人，さまよう人，みんな私たちの助けを求めている。

世間の道しるべが旅人を巧妙に誘っている。名声への道，富への道，人気をつかむ道，快楽への道，しかし，道を進む前に，十字路では立ち止まりなさい。「ついて来なさい。こちらがエリコへの道です」とささやく静かな細い声を聞きなさい。

私たちが主に従ってエリコへの道を歩むことができるように，イエス・キリストのみ名によって祈るものである。アーメン。

その通り他人にせよ



十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

救い主は，公平，あわれみ，忠実，愛など人間関係にとってさらに大切なことを説いておられる

モンソン長老と私は，これまでかなりの距離を，それもかなりの年月，一緒に旅してきた。モンソン長老と私とルイス・ジエイコブセン兄弟は，これまで数年間一緒に旅行した。ここで私は，モンソン長老のお許しをいただいて，彼と一緒にエリコへの道をもう少し歩きたいと思う。

昔，イエスはパリサイ人にこうお尋ねになった。「あなたがたはキリストをどう思うか。」（マタイ22：42）

そのパリサイ人たちは間違った考え方をしていたので，「イエスにひと言でも答えうる者はなかった」。（マタイ22：46）この時，もし彼らが答えを知っていたならば，この質問は彼らにとって大きな意味をもつことになったであろう。それは現在の私たちにとっても非常に大切な質問である。

あなたがたはキリストをどう思うか。これを私たちの時代に置きかえて，自分はキリストをどう思うか，考えてみようではないか。

末日聖徒は，すぐさまそれに答えることができる。キリストは，ベツレヘムでマリヤからお生まれになったナザレのイエスである。私たちの贖い主，創造主，聖なる神の御子である。

しかし，キリストがどなたであるかを知った私たちは，キリストに関してどんなことをしたらよいのだろうか。私たちはキリストを完全に受け入れているだろうか。背を向けてはいないだろうか。中途半端な態度で，いろいろな圧力がかかると自分の信念を曲げたりしてはいないだろうか。

誤まった考えに凝り固まったパリサイ人たちは，儀式や慣習を誇りながら，律法のもっと大切な事柄，義しい行ないをもたらす公平，あわれみ，忠実な行ないをないがしろにしていたので，主から非難された。

救い主はそれらのもっと重要な事柄について話された時に，モンソン兄弟が先ほど言われたような人間関係に触れられた。主がそのような人間関係を福音の重要な一部とされたことは大切なことである。私たちが隣人にどう対するかが，天の王国のどこに行くかを大きく左右するということは，注目すべきことである。

それはつまり，私たち自身も昔のパリサイ人のようになるかもしれないということである。私たちは儀式や慣習を大切にしながら，兄弟愛による親切や正直，あわれみ，徳行，誠実などのもっと重要なことを見逃しているかもしれない。それらの大切なことを生活から省いたら，主のみ前に行く資格がないということを忘れないようにしようではないか。

ここで，隣り人を自分を愛するように愛せよという第二の大切な戒めについて考えてみよう（マタイ22：38—39）。どれだけの人がこの戒めを守っているだろうか。この戒めは，心をつくし，精神をつくして神を愛せよという第一の戒めと同じように大切であると主が言っておられることを心に留めていただきたい。

また，自分が人からしてほしいことを人々にするようにという戒めにも，心を留めていただきたい。どれだけの人がこの律法に従っているだろうか。どれだけの人が，エリコへのあの道を歩いているだろうか。

もう一度，良きサマリヤ人のたとえ話（ルカ10：30—37）を読んでいただきたい。特にマタイ伝25章の最後の部分を読み合わせてほしい。

この聖句は，隣り人に正しいことをしなければ，救われるのはむずかしいと教えていないだろうか。主の言葉に注意しよう。

「あなたがたは，わたしが空腹のときに食べさせず，かわいていたときに飲ませず，

旅人であったときに宿を貸さず……また病気のときや，獄にいたときに，わたしを尋ねてくれなかった……』。

『あなたがたによく言っておく。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは，すなわち，わたしにしなかったのである』。」（マタイ25：42—43，45）

主が語られたこれらの事柄を怠る人人は，主の羊の群れに数えられない。主の右に立つことを許されず，左に立って泣き叫び，歯ぎしりするであろう。聖書には，「そして彼らは永遠の刑罰を受ける」（マタイ25：46）と記されている。

ヨハネの第一の手紙には，現に見ている隣り人と良い人間関係を持たないで，目に見えない神を愛することはできないと言われている。（Ｉヨハネ4：20）

私たちは時々，山上の垂訓を読むよ

うにしているだろうか。山上の垂訓の大半は，隣人との人間関係である。語られている原則を，2，3ご紹介しよう。モルモン経からその説教を引用したい。

「故に，汝らがもしわれに来る時，またはわれに来らんと欲する時，その兄弟に汝らを訴うる心のあるを思い出さば，

まず行きてその兄弟と和ぎ，それより真心を以てわれに来れ。さらば，われは汝らを受け容るべし。」（Ⅲニーファイ12：23—24）

このようでない私たちでも主は受け入れて下さると，寸時であろうと考えられるだろうか。

また，こうも言われている。「汝らもし人の罪を赦さば，汝らの天の御父もまた汝らの罪を赦したもうべし。

されど，汝らもし人の罪を赦さずば，汝らの父もまた汝らの罪を赦したまわじ。」（Ⅲニーファイ13：14—15）

何と大切な原則がここに言われているか，この原則が私たち一人一人にどんな影響を及ぼすかを考えていただきたい。

「汝らもし人の罪を赦さば，汝らの天の御父もまた汝らの罪を赦したもうべし。」つかの間歩みを止めて，私たちが赦されない罪を背負ったままで主の王国に入ることができるかどうか考えてみようではないか。

主はこう言われた。「己れがさばかれざるために，ほかの人をさばくことなかれ。

なんとなれば，汝らは人をさばくごとく己れもまたさばかれ，また汝らが人に与うる物をはかると同じ升にて己れの受くるものもはからるべければなり。」（Ⅲニーファイ14：1—2）

教義と聖約の第1章には，

「誠に主来りてあらゆる人にその為せる行為に従いて応報を与え，また彼らがその同胞を計りし秤を以て彼らすべての者を計るべき日」（教義と聖約1：10）と書かれている。

この教えは最も注意を払うべき教えである。裁きの日に，主は私たちが完全に悔い改めない限り，隣人をはかったそのはかりで私たちをはかりたもうからである。これは一瞬たじろぎを覚えるようなことかも知れないが，しかし主の裁きに必須の要素である。私たちはその広い意味を認識しているだろうか。自分のまいたものを刈るということを知っているだろうか。

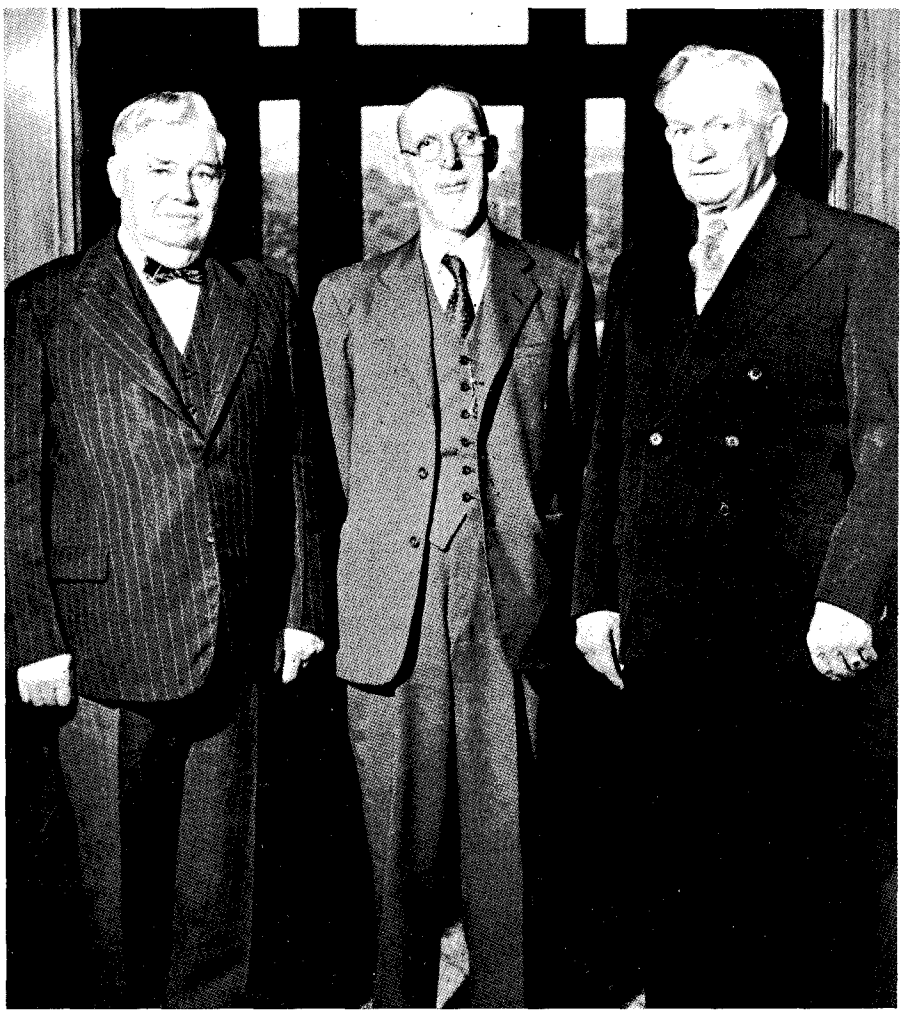
神の裁き方を教えるこの原則は，自分を愛するように隣り人を愛せよという戒めを新たな光で照らし，この律法を真剣に受けとめよと私たちに勧めている。

それはまた，黄金律の深い意味を教えるものでもある。「すべて汝らが他人をして自分に為さしめんと思うことは，汝らまずその通り他人にせよ。」この戒めを強調して，主はさらにこう告げておられる。「これすなわち律法にしてまた予言者の道なり。」（Ⅲニーファイ14：12）これは軽々しく無視できないことである。これによって，マタイ伝25章がもっとよく理解できるのではないだろうか。主が隣り人に不親切な人々をとがめられたその意図がわかる。

これをもっと重大なものにしているのが，山上の垂訓の中のもうひとつの主のみ言葉である。私にとっては恐ろしい言葉である。主はこのように言われた。「まことにわれ汝らに告ぐ，われが今汝らに下したるこの命令を守らずば，決して天の王国に入るを得ず。」（Ⅲニーファイ12：20）

これは大変なことではないだろうか。

この聖句と並んで，私たちはもうひとつの神聖なみ言葉を心に留めなければならない。「そもそも，清からざるものは御父の王国に入ることを得ず。信仰をし，すべての罪を悔い改め，終り



大管長会，1945—51。ジョージ・アルバート・スミス大管長（中央），J・ルーベン・クラーク・ジュニア第一副管長（左），デビッド・O・マッケイ第二副管長（右）（ユタ州歴史協会提供）

まで誠をつくし，以てわが血によりてその衣を洗いし者のほかには御父の安息に入り得る者なし。

終りまで忍ばざる者は，また切り倒されて火の中へ投げこまるべし。その者は御父の正義が要求するによりて，いつまでも火の中より出ることを得ず。」（Ⅲニーファイ27：19，17）

これを聞いてあなたは恐れを感じないだろうか。私たちは主の戒めを真剣に受けとめるべきだと思わないだろうか。

「あなたはキリストをどう思うか」と問う時に，主の王国に入れるように主が定めて下さった生活の高い標準を自分が正しく受け入れているかどうかも反省すべきではないだろうか。それを受け入れることは，主のたとえ話によるならば，ランプに油を満たすことである。

主の王国に入りたいならば，基本的なこれらの戒めを自由裁量の戒めと思ってはならない。主は，「これは道だ，これに歩め」（イザヤ30：21）と言っておられる。

私たちが不親切，不正直，不潔で無慈悲であったなら，また外見は敬虔でありながら心は罪深い偽善者であったならば，真心から悔い改めないかぎり，救いの望みは四方に散って行く。

救い主はニーファイ人に語った中で，「汝らはいかなる人物にてあるべきか」と尋ねておられる。そして，すぐさま，「われと同じ人物ならざるべからず」と自答された。（Ⅲニーファイ27：27）

だれでもこの言葉はよく知っておいでであろう。「われに主よ，主よ，と言う者のことごとくが天国に入り得るにあらず。天にましますわが父のみこころを行う者のみ天国に入り得るなり。」（Ⅲニーファイ14：21）これも私たちを立ち止まらさせる言葉である。「主よ，主よ，われらは汝の名によりて予言をし，汝の名によりて悪鬼を追い出し，汝の名によりてもろもろの不思議なる業をなしたるにあらずや」（Ⅲニーファイ14：22）と言ったところで，単なる信仰をとなえるだけでは王国に入れていただけないからである。

私たちが隣人と正しく接して，もっと重要な律法に従わなかったならば，主はきっと，「われは汝らを少しも知らず。罪悪を行う者よ，わが前を去れ」（Ⅲニーファイ14：23）と言われるであろう。このことから，パウロの次の言葉がよく理解できる。「たといわたしが，人々の言葉や御使たちの言葉を語っても，もし愛がなければ，わたしは，やかましい鐘や騒がしい鐃鉢と同じである。

たといまた，わたしに預言をする力があり，あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても，また，山を移すほどの強い信仰があっても，もし愛がなければ，わたしは無に等しい。

たといまた，わたしが自分の全財産を人に施しても，また，自分のからだを焼かれるために渡しても，もし愛がなければ，いっさいは無益である。」（Ⅰコリント13：1—3）

では，愛とは本当の意味でどんなものなのだろうか。それは私たちが神と隣人を愛するように導く，キリストの純粋な愛である。

アルマ書の中に，こう説明されている。「もし忘れずに慈善を行わないならば，あなたたちは金銀を精製する人たちに（価がないから）棄てられて，人の足で踏まれる鉄かすのような者である。」（アルマ34：29）

主は私たちに，神と富とに兼ね仕えることはできないと教えておられるが（Ⅲニーファイ13：24），何と大勢の人がそれをしようとしていることか。

主はなぜこうも厳格に，細かいことまで従順を要求しておられるのだろうか。それは，私たちに御自分のように完全になることを期待しておられるからである。神の子供である私たちの存在目的は，神のようになることである。だが，清くないものはみ前に入ることができない。そのため，私たちはこの現世に始まって，不完全な方法では完全になり得ないことを心に留めつつ，自分を完成させなければならないのである。

これが，神がかくも厳格であられるわけである。神が罪をいささかも許されないわけである。

私たちのひとつの大きな欠点は，戒めを守るのに腰が重いことである。これについて主は次のように言われた。「われ汝らにすべての事を悉く命ずるは至当ならず。そは，すべての事已むを得ざれば為さざる者は怠惰なり，賢き僕にあらざればなり，これを以て彼は良き報いを受くることなし。

されど命令を受くるまでは何事をもなすことなく，疑いの心を以て命令を受けこれを不精不精に守る者は救われず。」（教義と聖約58：26，29）

予言者アビナダイは，さらにこの重要な原則を次のような言葉で教えている。「主は，主に逆らって罪を改めないままに死ぬような者たちを贖いたまわない。それであるから，あなたらは当然恐れおののかなくてはならない。世の始めからこのかた，わざと神にそむき，神の命令を知りながらこれを守らず，罪のあるままに死ぬ者は第一の復活にあずかることができない。

……なぜならば，あなたらのような者は救われないからである。主はこのような者を贖いたまわないばかりか，このような者を贖いたもうことができない。」（モーサヤ15：26—27）

しかしこのような言葉にもかかわらず，主は，悔い改めて主のもとに来るよう万人を招いておられる。「すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから，わたしのくびきを負うて，わたしに学びなさい。そうすれば，あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく，わたしの荷は軽いからである。」（マタイ11：28—30）

私たちは何をしたらよいのだろうか。「まず神の国と神の義とを追い求める」ことである（Ⅲニーファイ13：33）。私たちは生活の中で自分の宗教を最優先させ，心を尽くして神に仕え，エリコへの道を旅するときに，人からしてほしいと思うことを人々にしなければならない。私たちすべてがそうできるようにというのが，私の心からの切なる祈りである。聖なる主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

啓示——主が予言者に伝えるみ言葉

大管長
スペンサー・W・キンボール

はなばなしいことを期待する人は，現在の教会に下される「絶えざる啓示の流れに十分な注意の足りないことがある」

霊的に高揚された栄えある数日間もいよいよ終りが近づいたが，この間私たちは権能を持つ兄弟たちから霊感と啓示の言葉を聞いた。また，タバナクル合唱団の主を賛美する歌を聞く祝福にあずかった。

私たちは主のみ名によって集まって礼拝し,聖霊の力によって教えを受け,全員が主のみたまが注がれるのを感じた。聖徒たちの集まる場はどこでもこの通りである。モルモン経に次のようなモロナイの言葉がある。

「教会員の集会は教会の責任で『みたま』の導きに従い，また聖霊の力によって行われた。それであるから集会の時かれらは聖霊の力が導くままにあるいは道を説き,あるいはすすめ,あるいは祈りあるいは乞いねがい，あるいは讃美の歌を唱った。」(モロナイ6：9)

私たちは正しい道を勧告され，神の戒めを忠実に守って主と隣人を愛するようにと励まされた。また，わなにはまってサタンの道に落ちないように警告され，謙遜に祈りをもって絶えずみたまのささやきに従い，それによって悪と対抗せよと勧められた。私たちはこの時代に主から大きな約束をいただいている。

「汝ある知識を受くべしと信じて信仰をもて真心より求むる如何なる事の知識をも，これを得んことは汝の神にして汝の贖い主なる主の今生きて在るが如く正に確なり。

然り，見よ，われ今汝に来りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。

そもそも，見よ，これは啓示の『みたま』なり。」(教義と聖約8：1—3)

なかでも私たちが現在最も感謝すべきことは，天が実際に開かれて，イエス・キリストの回復された教会が啓示の岩の上に築かれていることである。絶えざる啓示こそ，生ける主なる救い主イエス・キリストの福音の活力源である。

私たちは世に向かい，信仰箇条としてこう宣言する。「われらは，すべて神のこれまでに啓示したまいしこと，すべて今啓示したもうことを信じ，なお今より後，神の王国につきて多くの偉大にして重要なることを啓示したもうことを信ず。」(信仰箇条第9条)

古代の聖典も高らかにこう告げている。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは，何事をもなされない。」(アモス3：7)

予言者アモスへのこの確かなみ言葉は古から今に伝わり，「イエス・キリストは，きのうも，きょうも，いつまでも変ることがない」(ヘブル13：8)というその主のことを語っている。

主が変わることのない御方であることは，聖典から明らかである。「われらは，正確に翻訳されたる限り，聖書は神の御言葉なりと信ず」(信仰箇条第8条)と主張するその聖書の，アダムからマラキに至る旧約の予言者たちは，主イエス・キリストと天父の神性を証している。イエス・キリストは旧約の神であり，アブラハムやモーセと語った御方である。イザヤやエレミヤに霊感を授けた御方，それらの選ばれた人人を通じて末日の時代までも遠い将来の出来事を予言した御方である。

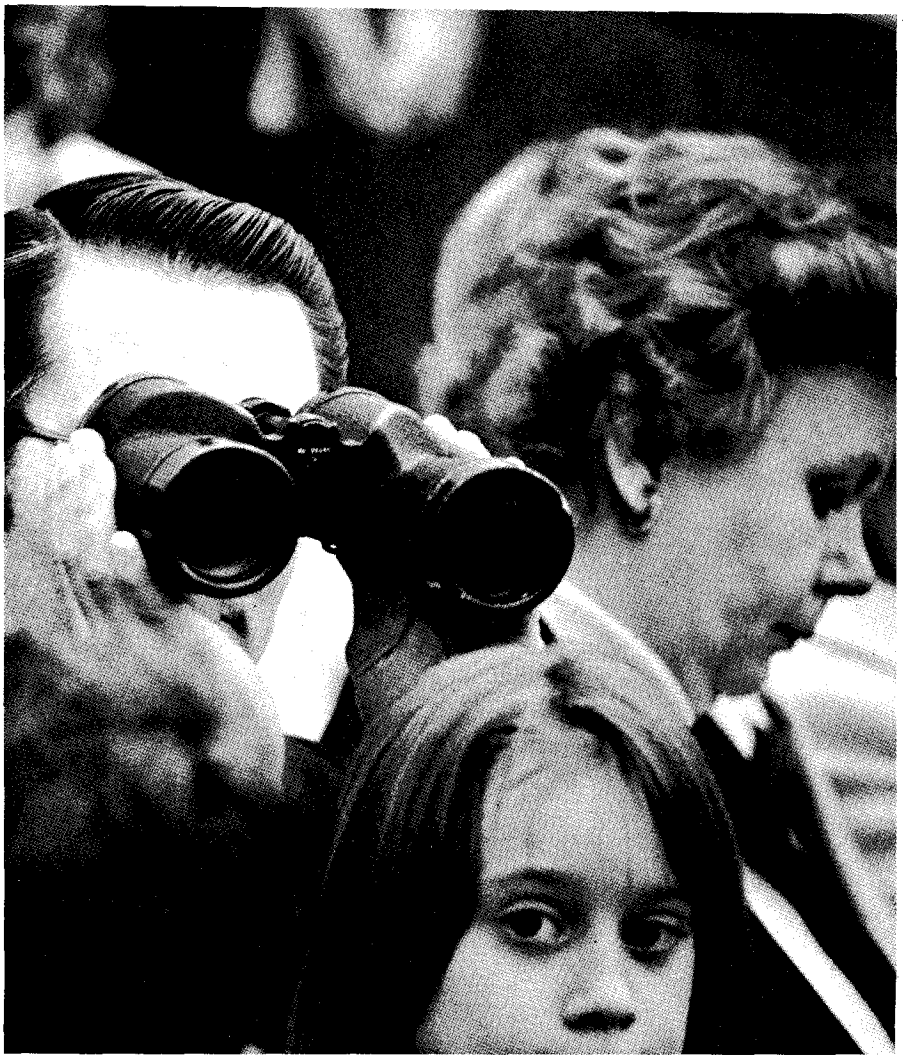
そして新約聖書は，その名の通り，御子なる神と御父なる天父と，み業の神聖なこと，主が教えられた福音に従うことの大切さを，あらためて証する新たに追加された証の書である。

私たちは，旧約聖書に神の予言者の言葉がすべて語られているという，キリスト教のいわゆる教師たちの説を受け入れてはいない。また，新約聖書で啓示が終りだとも信じていない。私たちは，神の啓示は終わっておらず，人人のために今もなお神から啓示が下されていると証する。

私は古のペテロのこの言葉を信じている。「なぜなら，預言は決して人間の意志から出たものではなく，神の聖者が聖霊に感じ，神によって語ったものだからである。」(欽定訳ペテロ1：21)

この混乱した現代に，神からの啓示はいかに必要なことか。戦争や疫病，飢饉，貧困，荒廃，汚職や不正や不道徳がますますはびこる今，世の人々には過去にもまして神よりの啓示が必要である。主がパレスチナのほんの少数の人々と旧約世界にだけ啓示によって貴重な教えを授け，今，それを非常に必要としている私たちには天を閉じられるとあれば，実に不合理である。

しかし，予言者や民の方で手を伸べなければ，よほどのことがない限り主は彼らに対して沈黙を守られるというのが悲しい事実である。人間に自由意志を与えられた天父は，子らを呼び，



勧め，正しく導こうとされるが，それでも人々が手を伸べ，真剣に祈り，真心から熱心に主に近づいて来るのを待っておられる。本来は真昼の太陽の下に出られるものを，民が無頓着であれば，夜の暗闇でもがくままにしておかれるのである。

イスラエルの民が戒めに従わず，主を信じず，主の計画にも背を向けた時，主はこう言われた。「わたしはあなたがたの誇とする力を砕き，あなたがたの天を鉄のようにし，あなたがたの地を青銅のようにするであろう。

あなたがたの力は，むだに費されるであろう。」（レビ26：19—20）

もしも聖書で「予言者たちの終り」となるならば，それは信仰と忠実さの欠けたせいである。天が閉ざされて鉄のようになり，地が青銅のようになった時代があったのもそのためであった。天が封じられる時，霊的な闇の暗さは，ニーファイ人の歴史の中で「ろうそくもたいまつも火をつけることができず，よくよく乾かした薪でも火をつけることができなかった」（Ⅲニーファイ8：21）実際の暗闇と違いはしない。

主は民に無理強いをなさらない。民は信仰がなければ啓示を受け入れないであろう。自分の限りある思慮，判断に頼って満足しているならば，当然，主は彼らを自らの選択にまかせられる。

モルモン経の予言者モロナイは，奇跡と啓示についてこう告げている。

「奇蹟，天使の導きと恵みを与えることなどがすでに無い時は信仰もまた絶えたのであって，世の人は恐ろしい有様，すなわちあたかも贖いがないかのような有様になる。」（モロナイ7：38）

時の絶頂に，世の光である神の御子が降臨して天の幕を上げ，地と天は再び通い合うようになった。

しかし，その光明の世紀が過ぎると，暗い闇に再度見舞われ，天は封じられて「暗黒時代」に突入した。

今日，私は世の人々に証する。今から1世紀半を越える前に，鉄の天井は砕かれて，天が再び開かれて以来，啓示は続いている。

ひとりの人間が心からの願いを込めて神の導きを祈った時に，新しい時代が始まった。人目につかない静かな場所を選び，ひざまずいて心を低くし，願いを告げ，真昼の太陽よりも明かるい光に世界が照らされて。……幕はもはや再び下りることはない。

きょうも数人の兄弟が話をされた不屈の信仰を持つ少年ジョセフ・スミスが，その呪縛を解き，「鉄の天」を砕き，交通を再開したのである。天は地に口づけし，光が闇を散らし，神が再び人に語って，「しもべである預言者にその隠れた事を」（アモス3：7）改めて啓示された。新しい予言者がこの地に誕生し，彼を通して神は王国を築かれた。もはや滅びず，別の民の手に渡ることもなく，永遠に立つ王国を。

この王国を世にもたらした啓示の永続することは，全くの真実である。太陽は決して沈まない。人と造物主との交流を資格なしと打ち消し去ることは決してできず，神はもはや地上の神の子らからみ姿を隠されない。啓示はこの地に続くのである。

新たに確立された神権時代の初期に，主は継承の神聖な律法を定めたもうた。そして予言者は代々続き，これからも終りなく神に任ぜられて引き継がれて行き，主の奥義は際限なく啓示されるであろう。

神の力によって，他の聖典が示された。キリストの教えとキリストの神性を証する古代アメリカの貴重な記録，聖書と並ぶ，また聖書を支持する神聖な聖典であると私たちの宣言するモルモン経がそれである。

1820年のあの記念すべき日から，数多くの重要な啓示が，神から地上の予言者に限りなく下され，聖典に追加されている。その啓示の多くは，「教義と

聖約」と呼ばれるもうひとつの聖典に記録されている。また，私たち末日聖徒の聖典には，古代と近代の予言者たちの啓示，あるいは記録の翻訳が載っている。これが「高価なる真珠」である。

これらの製本された神聖な記録で，「予言者たちは終り」だとする人々がいる。しかし，啓示は続き，時々刻々ともたらされる啓示が教会の保管庫やファイルに収められるということを，私たちはまた世に証する。1830年に末日聖徒イエス・キリスト教会が組織されて以来，過去にも将来にもわたって時が続く限り，神とその民に認められる予言者が絶えることなく主のみ旨とみこころを説き続けることをも，私たちは証する。

さて，これは警告である。昔ながらの過ちを繰り返さないようにしよう。現在は大勢の信徒がアブラハム，モーセ，パウロを信じながら，現代の予言者を否定している。古代の民もそれ以前の予言者たちを受け入れながら，同時代の予言者たちを非難し，呪っていた。

今の時代も昔と同じように，啓示が下る時には，地が震え，怖るべき示しを伴うはずだと考える人々が大勢いる。従って，モーセの時代，あるいはジョセフの時代，あるいは私たちの今の時代に下される数多くの啓示は，多くの人にとって啓示として受け入れがたい。実は，啓示とは予言者たちに抗し得ない深い印象としてやってきて，天より下る露，夜の闇を払う朝日のように予言者の知と情に告げるものなのである。

はなばなしいことを期待する人は，絶えず下される啓示の流れに十分な注意を払っていないと思う。私は深くへりくだり，しかし心に力強い燃える証をもって，回復の予言者からこの現在の予言者まで，天との交流の糸は絶えず，権能は続き，光は鋭く鮮やかに輝き続けていると申し上げる。主のみ声は間断なく奏でる調べ，とどろく力である。1世紀半の間，中断はなかった。一人は孤立を要さない。信仰篤い人はだれでも自分の世界のために霊感を受けることができる。しかし，主は現在はっきりと予言者たちを召し，奥義を彼らに啓示しておられる。昨日も，今日も，そして明日も。それが道である。

午後の部の初めに「感謝を神に捧げん，予言者の導き」と歌った時，以前にお話したことのあるひとつの思いが胸をよぎった。皆様もジョセフ・スミスやブリガム・ヤングやウィルフォード・ウッドラフ，その他の大管長たちのことを思い浮かべたことであろう。デビッド・O・マッケイ大管長やジョセフ・フィールディング・スミス大管長，ハロルド・B・リー大管長など，この責任にあった人々のことを。

彼らは偉大な奉仕をした。地上の民のために大きな仕事をした。彼らは教会を組織し，教会を発展させ，教会は彼らのもとでめざましく成長した。

私たちが常にそのことを覚え，単に現在生きて働いている人々を注目するだけに終わらないようにと願う。なぜなら，神のみ業は広くすべての分野で続いているからである。

話を終える前に，あとふたつのことをお話したい。そのひとつは皆様に教会本部ビルの広場に置かれた4つの美しい彫像を是非ごらんいただきたいということである。これはノーブーの訪問者センターの扶助協会公園に来年建てられる予定の女性をたたえる13の記念像の一部であり，多くの方に鑑賞していただこうと，この一角に置いたしだいである。実に美しい像なので，ソルトレーク滞在中に是非立ち寄っていただきたい。

私はゴードン・B・ヒンクレー長老がジョセフ・スミスについてやさしく暖かく語られるのを聞いて感動し，イリノイ州のカーセージでのあの最後の晩を思い浮かべた。暴徒に周囲を包囲された中で，予言者ジョセフ・スミスは兄弟のひとりに「悩める旅人」を歌ってほしいと頼んだ。

悩める旅人　われの前過ぎて
われの断り得ぬ　助けをもとむ
いずこのものか　その名も聞き得ねど
故知らず　その眼にわが愛惹かる

食べ物少きとき　かれ来たりて
食事を求めぬ　われはみな与う
彼は祝して食べ　われにも分けぬ
すぐそれ食べれば　屑はマナなりき

泉に彼，力なく　伏していぬ
水はただ渇ける　彼をあざける
馳け寄り　飲ませば　三たび飲みほして
汲みかえすを飲めば　長く渇かず

冬のあらしすさび　洪水の夜に
外の声聞きて　彼　家に迎え
あたため慰め　わが床に臥させ
われ地に伏せれば　エデンの夢見ぬ

裸で傷つき　死ぬばかりの彼
道に見つけ　彼の息吹きかえし
薬もて直せば　わがうちにある
傷のいたみ忘れ　心はなごむ

獄舎に謀叛の刑を　受く彼を見ぬ
われは嘲の中　彼をたたう
われは彼のため　死ぬかと問われて
身は弱けれど　霊は「死ぬ」と叫びぬ

この旅人見る間に　姿かわり
救い主となり　わが前に立ちぬ
「恐るな，わがため　恥じずなせしわざ
おぼえらる」とわれ　呼びて言いたまいぬ

（讃美歌149番）

兄弟姉妹，神の祝福があるように。素晴らしい大会であり，皆様と共に集えたことは喜びである。平安が皆様にあるように。主の喜びと平安が引き続き皆様にあるように。このことは真実であると，私たちは知っている。主は生きておられる。主はみ旨とみこころを毎日私たちに啓示しておられる。それによって，私たちはどの道を行くべきか，霊感を受けることができるのである。

私たちは皆様を愛し，これらのことをお願いする。イエス・キリストのみ名により，アーメン。

主の方法によって援助する

管理監督
ビクター・L・ブラウン

教会の福祉制度を構成する6つの要素：監督の倉庫，生産事業，地元での福祉援助，末日聖徒社会福祉，デゼレト産業，教会雇用制度

愛する兄弟姉妹，総大会の福祉事業集会で再び皆様にお会いできることは大きな喜びである。今朝，私は「主の方法によって援助する」というテーマでお話したい。それぞれの監督が会員の必要を満たすために利用できる援助手段をもう一度明らかにし，また従来とは多少異なった面から援助手段を強調することが，今日の話の目的である。

現在得られる援助手段を考える時，私たちは古代から根底に流れている幾つかの基本的な指針を忘れてはならない。予言者アルマは次のように記している。

「各々みなその財産の多い少いに応じて，貧乏な者や病気にかかっている者や苦しんでいる者たちに施しをした。かれらは高価な衣服で身を飾らなかったがその服装は見ても気持が良く小ざっぱりした服装であった。

このようにかれらは教会の万事を整えて，多くの迫害を受けたにもかかわらずまたひきつづき平和を保つようになった。……

そして，このように栄えていたとき，かれらは着る物のない者，飢えている者，渇いている者，病気をしている者，栄養の足らない者などを追い払わず，富に執着をせず，貧乏な者があるなら年よりと若い者，男と女，自由の民と奴隷とを区別せず，教会員であると非教会員であるとの差別なく誰にも同じように惜しまず物を施した。」（アルマ1：27—28，30）

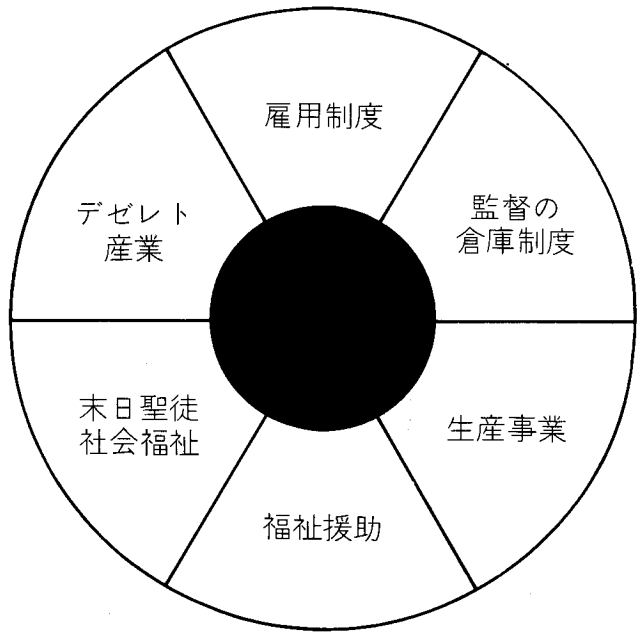
教義と聖約にたびたび説かれているように，監督は貧しい人々を捜し，彼らの必要を満たすように命じられている。これは，物質的に貧しい人々を指すにとどまらず，情緒的な問題をかかえている人々，あるいは日常生活にまつわる数多くの問題をかかえている人々をも含むものである。そのために必要な情報は主に，神権個人面接と，扶助協会役員からの報告によって監督のもとに届く。私たちに与えられている教えによれば，問題を解決する第一の責任は個人にあり，次いで家族にある。そして，彼らがなし得る限りのことを行なった後，教会とその福祉活動組織が援助を与えることになる。

これらの基本原則を踏まえ，今日教会には，主の方法に従って，助けの必要な人々に援助を与える組織が設けられている。この制度は6つの要素から成っている。第1は監督の倉庫制度，第2は生産事業，第3は地元での福祉援助，第4は末日聖徒社会福祉，第5はデゼレト産業，最後に教会雇用制度である。これらの援助手段は，教会の備えと総称されている。

監督の倉庫制度は，物品を支給する施設と，輸送機構から成っている。この制度は，教会員の奉仕によって準備された物品の受理，保管，交換，ならびに支給を行なうものである。

監督の倉庫制度は営利事業ではない。従って，そこに納められている物品は販売するものではなく，ただ監督が指

教会の備え



定した人々にだけ，それも扶助協会会長が記入し，監督の署名がある監督の出荷指示書があって初めて支給されるのである。将来について言うならば,全世界の教会でさらに多くの監督の倉庫が設けられることだろう。教会のワード部，ステーキ部の発展に伴なってますます増加するはずである。しかも計画に従い，秩序立った方法で達成されるはずである。監督の倉庫の典型は，ソルトレーク・シティーのウェルフェアスクェアにある監督の倉庫である。関心のある方は，いつでもこの監督の倉庫を見学していただきたい。

監督の倉庫で働いているのは，この制度で物品の支給を受けている人がほとんどであり，常勤の者は最少限にとどめられている。このプログラムの精神が活動に反映する時にどんな幸せが得られるかを如実に示すひとつの例は，32歳のひとりの兄弟の場合である。彼は監督の倉庫に来たが，字を読むことも，書くことも，また話すことさえできない状態で，精神の安定もなかった。だが，彼と共に働く人々の愛と理解によって訓練され，簡単な仕事をこなすようになった。品物を棚に並べる在庫係となった。彼は字を読めなかったので，仲間が箱に絵を描き，その絵を見て棚にきちんと商品を並べられるようにしてくれた。こうした人々の忍耐と愛によって，この兄弟は棚に正しく品物を並べることができるようになったのである。またその報酬の一部として，彼には両親や他の家族に必要なだけの食料品が支給される。この知恵遅れの青年が家族のもとに持って帰る食料品を受け取るときの喜ぶ様を見るとき，だれもが心を動かされるのである。

物品を扱う監督の倉庫がない所では，金銭で運営される制度が用いられる。この場合，監督は扶助協会会長が作成した指示書に署名をして，あらかじめ取り決めをしている地元の商店にそれを持参させる。これら日用品の購入費用は，必需品生産運営基金から支払われる。

福祉生産事業は，監督の倉庫に置かれている日用品のほとんどを供給している。この生産事業では，穀物や酪農製品，牛肉，蜂蜜，野菜，果物などの生産が行なわれている。また，食料品以外の製造も行なわれている。教会が発展してくると，各ステーキ部は，監督の倉庫に保管され，そこで支給される各種の品物の生産に何らかの方法で参画することになる。この生産事業の取得と運営に関心のある方々は，1976年10月の福祉事業集会におけるH・バーク・ピーターソン副監督の説教を読んでいただきたい。

光熱費や医療費等の支払いには，なにがしかの現金が必要である。この場合の現金は，断食献金からまかなわれる。しかし，これまでたびたび言われてきたように，金銭による前に，まず物品で援助するようにすべきである。またここでもう一度，断食の律法を教えることの重要性を強調したい。そうすれば教会員は現在以上にもっと献金を喜んで納めるようになり，別に2食分と限定する必要もなくなってくるであろう。

福祉援助の中で特筆すべきもののひとつは，福祉活動宣教師プログラムである。このプログラムによって，現在約300名の福祉活動宣教師が39の伝道部で働いている。彼らは専門的な技術をもって神権指導者に技術的な援助を与えるわけであるが，その分野としては，農業，医療，職業訓練，財政管理があげられる。私たちはこれらに直接的あるいは間接的に関連を持つ分野における技術を有する教会員の夫婦，または独身女性に，監督かステーキ部長のもとへ行き，この宣教師活動に従事するようにしていただきたいとお勧めするものである。

さて，末日聖徒社会福祉についてであるが，この組織が設けられたのは，社交性あるいは情緒の面で援助を必要としている会員を神権指導者が助けることのできるようにするためである。これらの機関は主にふたつの面で援助を与える。ひとつは一般的な社会福祉，もうひとつは医療福祉である。この社会福祉の中には法律の規制を受ける，養子縁組，里子，インディアンのための里親プログラムなどが含まれる。他方，医療福祉としてあげられるものには，個人や家族のための専門的な治療を施すことがある。

末日聖徒社会福祉機関のない所では，監督は，同じような福祉を提供でき，かつ教会の標準に従っている，信頼できる専門家の名簿を手もとに備えておくべきである。また，先の福祉に関連して養子縁組や未婚の親，里親等の福祉を取り扱うにあたっては，神権指導者は国の法律によく従わなければならない。

専門的なカウンセリングが行なわれているところでは，監督は，その会員と親しく交わっていつも状態を把握し，他にも問題がないかどうかを見守るようにする。

最近ある母親から，監督と，彼女の家族に援助を与えてきた民生委員に感謝する，心暖まる手紙をいただいた。ここでその手紙を一部お読みしたい。

「今年の夏は，ロザンナとデビッドにとって最良の夏としていつまでも忘れないことでしょう。

このふたりの子供たちには，特別な問題がありました。人との交流を嫌うデビッドと，努力をしながらも反感を買い，友だちのできないロザンナを見るにつけ，私の心はうずくのでした。

ふたりの身体上の問題について助けて下さる方々はいます。息子を活発にし，活発な娘をおとなしくさせる薬物治療を施して下さる方々はいます。しかし，その原因となっている情緒的な問題を理解し，助けて下さる方はどこにいるのでしょうか。

監督から教会のキャンプを勧められた時，私は『これだ！』と思いました。『ふたりにとって楽しい夏になるし，子供の世話をする問題が解決できて，私は働くことができるわ』と考えました。このふたつの利点を考えると，お金を出す価値が十分にあると思いました。けれどもこれは祝福のほんの一部でしかありませんでした。その夏が終わる前に，息子はリーダーになって渓谷にハイキングに出かけるほどになったのです。これまでは，人の後について行くことしか知らなかった息子がです。私はまた，彼がロープを使って建物を伝い降りる姿を見ました。友達と

笑みを交わす時の自信に満ちた顔はいくらお金を出しても買えるものではありません。そしてロザンナまでも，夏の終りには，満たされないことがあれば，それを口に出して言ってくれるようになりました。そして問題があれば，私と話し合って解決することが日一日と多くなってきました。これは私たちにとって初めてのことです。

元気のあり余っている子供を育てるとき，どうしようもない立場に立たされることがあります。友だちは理解しようと努めても理解できませんし，彼女が仲間はずれになっているには何か問題があるからだと普通考えるためです。こうした時に，理解して下さる方方と毎週お会いできることは私にとって大きな心の慰めです。」

デゼレト産業の施設があるのは，大勢の献身的な教会員がいる所に限られている。この施設は，高齢や精神的あるいは肉体的な障害等で就職できない人々に仕事を提供するために設けられたものである。ここでは，倹約の原則のもとに与え，働き，分かち合うという精神が貫かれている。従って献身的な教会員が多くなった時，私たちは神権指導者に，デゼレト産業の施設を設けることができるかどうか，十分な調査を要請することになっている。

そして最後に雇用制度である。雇用は，兄弟については神権定員会に，また姉妹については扶助協会に主にその責任がある。仕事を必要としている人人にその機会が与えられるように，円滑かつ迅速に組織を活動させることが大切である。雇用の問題が際立って大きい地域では，常勤の職員がいる雇用センターが設けられている。しかしこれは，定員会ならびにステーキ部やワード部の福祉活動委員会がその責任を果たせるように援助するものであり，教会本部の承認があって初めて運営されるものである。

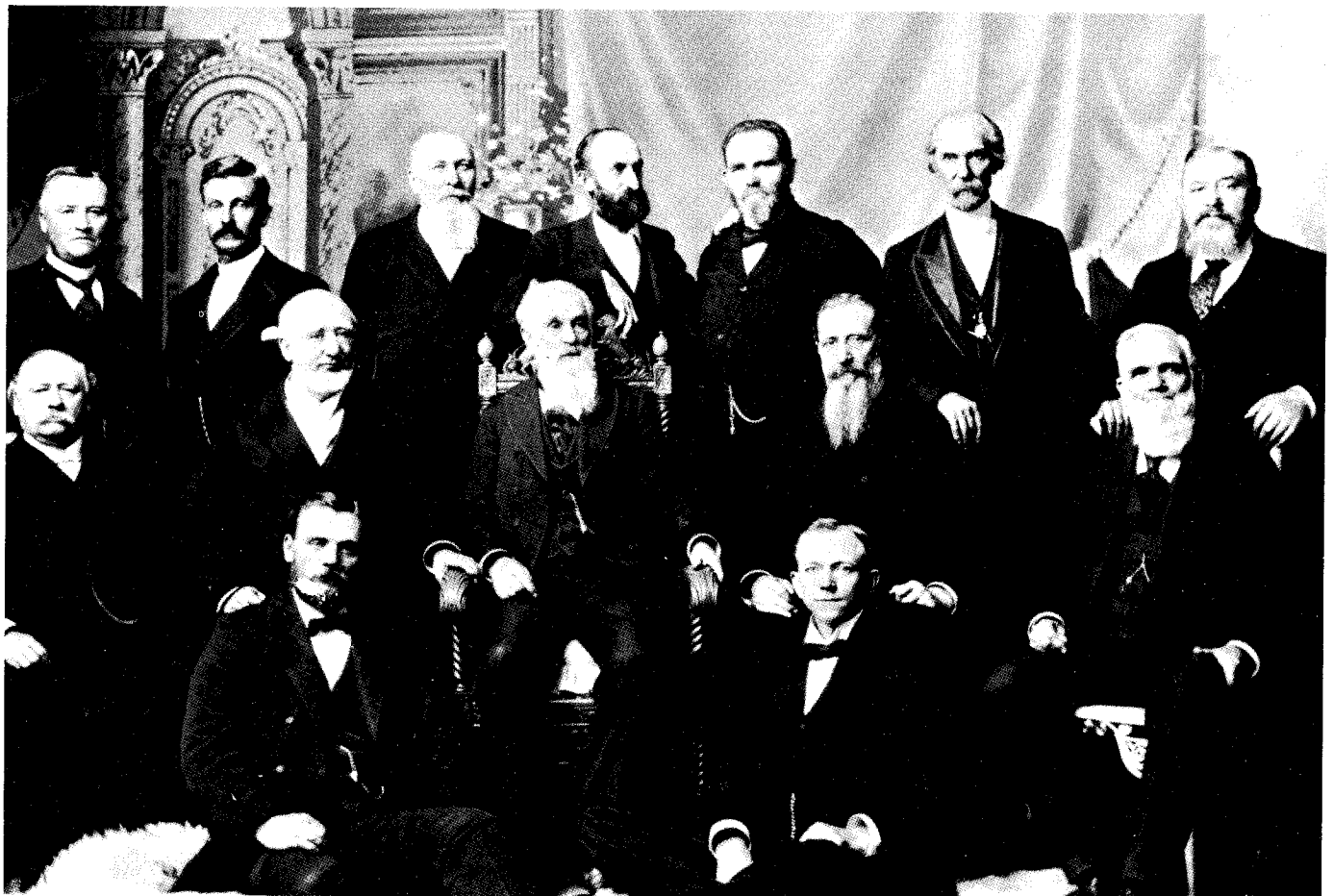
教会の監督は，ワード部福祉活動委員会と共に，これら適切に運営されている援助手段を用いて，貧しい人や困っている人の世話をするという主より託された仕事をなし遂げなければならないのである。これを行なう時，私たちは実際にアルマの勧告に従うことになるのである。

「そして，このように栄えていたとき，かれらは着る物のない者，飢えている者，渇いている者，病気をしている者，栄養の足らない者などを追い払わず，富に執着せず，貧乏な者があるなら年よりと若い者，男と女，自由の民と奴隷とを区別せず，教会員であると非教会員であるとの差別なく誰にも同じように惜しまず物を施した。

このようにして教会員は栄え……」（アルマ1：30—31）

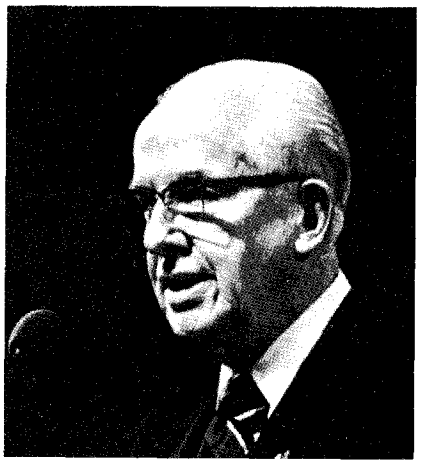
「貧しい者をかえりみる人はさいわいである。」（詩篇41：1）願わくは，詩篇の述べられている幸いが皆さんにも与えられるように。イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。

大管長会と十二使徒評議員会，1898—1901。後列左より，アンソン・H・ルンド，ジョン・W・テイラー，ジョン・ヘンリー・スミス，ヒーバー・J・グラント，フランシス・M・ライマン，ジョージ・ティーズデール，マリナー・W・メリル。中央列左より，ブリガム・ヤング・ジュニア，第一副管長ジョージ・Q・キャノン，大管長ロレンゾ・スノー，第二副管長ジョセフ・F・スミス，フランクリン・D・リチャーズ。前列左より，マシアス・カウリー，A・オーエン・ウッドラフの各長老。ラッジャー・クローソン長老は不在（ユタ州歴史協会提供）



主の倉庫制度によって人々の必要を満たす

十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン



貧しい兄弟，姉妹たちの世話をするために設けられた監督の倉庫の「利用と拡充」

愛する兄弟姉妹，私は大管長会からこの大切な福祉事業集会で話す責任をいただいたことを心から感謝している。

私は「主の倉庫制度によって人々の必要を満たす」というテーマでお話したい。

過去40年以上の間，教会の指導者は教会員に，不測の事態と災害に対して備えをするように勧告を与えてきた。そして大勢の会員がその勧告に従ってきた。しかし中には耳を貸さない人々もいる。けれども時の流れと世の状態を考えると，私たちは，主が1832年3月に予言者ジョセフ・スミスに言われた言葉を繰り返さずにはおれないのである。

「誠に，われ汝らに告ぐ，時来れり，今やその時は近づけり。……わが民の中の貧しき者のために庫の事務を規定し確立して必ずわが民を組織せざるべからず。……

これ，汝らに如何なる艱難下るといえども，わが摂理によりて日の栄の世界の下に在る他の一切の生くる者の上にわが教会員の自立せんがためにして……」（教義と聖約78：3，14）

教会倉庫制度は，物品の保管施設と輸送施設を持つ組織であり，そこでは管理と運営に従事する人々が働いている。この制度は，貧しい人々のために，食料品や食料品以外の日用品を受理し，保管し，輸送し，交換し，支給するために設けられたものである。

教会倉庫制度の基本単位は各地の監督の倉庫である。監督の倉庫は教会所有の施設であり，監督は，独力で生計を立てることのできない貧しい人々のために，ここから食料品や衣類，その他の日用品を支給する。デゼレト産業も，食料品以外の日用品を提供する施設として活用されている。教会の各監督は，教会員の必要を満たすために，教会プログラムで生産された基本物資を地元の倉庫に備えるようにすべきである。

主は啓示によって，倉庫を設立するよう命じておられる。協同制度の下に奉献された資産から得られた余剰すなわち「余り」は，「貧しき人々および乏しき人々に給与」するため，その倉庫に保管するようにというものであった（教義と聖約42：34）。後に主は，管理監督は「この教会に一つの倉庫を指定し，この民の必要以上に余れる金銭糧食は両つながらすべて此所に保存し，監督の手に於てこれを管理すべし」と告げておられる（教義と聖約51：13）。

現在，教会倉庫制度には78の監督の倉庫がある。これらの倉庫は，協同制度の時と，全く同じ目的で利用されている。教会員は，自分の時間と才能と資産を捧げて，貧しい人々の生活に必要な日用品を生産し，加工し，包装し，製造し，購入している。この倉庫のために，世界各地の3,000以上のワード部の会員たちが，野菜や穀物，果物，その他の食料品や食料品以外の物資の生産と加工の仕事に従事している。これらの日用品の中のある物は，運営費をまかなうために一般の市場で売られている。そして残りは倉庫に保管され，倉庫制度を通じて貧しい人々に支給される。1976年度中のこの倉庫からの援助総額は，数百万ドルにも及んでいる。

しかし当教会の監督の倉庫は，教会員全員の必要を満たすに十分な日用品を保管することを意図して設けられたものではない。監督の倉庫は貧しい人，乏しい人の必要を満たすためだけに設けられるものである。この理由で法的に許されるところの教会員はそれぞれ1年分の食糧と衣類，できれば燃料をも貯蔵するように指示されてきたのである。この勧告に従う教会員は，自分と家族の必要を満たす備えができ，実際に必要を満たし，さらに必要な時に他の人々にも貯蔵品を分け与えることができるのである。

監督は貧しい人，乏しい人を扶養するよう主から任命された管理者である。「貧しい教会員を助ける際の決定は，（監督に）委ねられている。……だれに，いつ，どのような方法で，どれだけ，教会基金からワード部の援助としてワード部会員に与えるかを決めるのは，監督の義務であり，しかもそれを決定できるのは監督をおいてほかにいないのである。

これは主御自身から与えられた気高く貴い義務である。監督はこの義務を回避することができないし，後込みすることも許されないのである。また，これを他のだれかに委譲して，安穏としていることもできないのである。どのような手段を講じようと，責任はなお監督にあるのである。」（J・ルーベ

ン・クラーク・ジュニア副管長の未公開の記事から，1941年7月9日）

主は啓示の中で，貧しい人々を積極的に捜すよう監督に指示しておられる（教義と聖約84：112参照）。監督の倉庫は，監督にこの義務を果たさせるために，神の導きにより設けられたものである。

では監督は，どのような手続きを踏んで倉庫の物資を利用すればよいのだろうか。まず，貧しい人々や乏しい人人がワード部内にいたら，具体的に何が必要かを明らかにすべきである。これは神権指導者と扶助協会指導者の協力を得て行なうことができる。次に監督はこれらの必要度を評価し，その人が自分で必要を満たせるように，また家族が互いに援助できるようにする。

倉庫に保管されている日用品は，監督の指示書があってはじめて支給することができる。

倉庫では日用品を決して販売しないし，支給も指示書に監督の署名があってはじめて行なわれる。また日用品の支給量を決めるにあたって，監督は扶助協会会長に協力を求めることができる。

監督の倉庫と倉庫の物資は主のものであり，主の僕である監督が援助の必要な人々の用に供するためのものである。従って，主の所有物を取り扱うにあたっては，細心の注意を払う必要がある。また倉庫の責任者は，日用品や現金が提供された際，所定の受領書を発行しなければならない。生鮮品以外の物品は，常時少なくとも1年分を在庫しておく。また余剰分は，無駄にならないよう適切に処理しなければならない。倉庫の保管係は食物を一つ一つチェックし，季節に合ったものを入荷し，食品の質が低下しないようにする。また在庫品の品質を維持し，無駄が出ないようにするためにも，適宜物品の回転を行なう必要がある。いつも倉庫は整理整頓しておかなければならない。どの倉庫も，能率と整頓，奉仕の模範を主に，示せるようでなければならない。

もう一度繰り返すが，監督の倉庫はすべての監督が利用するものである。現在，中央福祉委員会は，もっと多くの生産事業と加工事業を進め，さらに多くの倉庫を建てるために，拡張計画に着手している。福祉事業部は，地域担当教会幹部と十二使徒会地区代表，地域ならびに地区福祉指導者の指示の下に，地元の人々がこの活動に従事できるよう援助を与えるであろう。この件について不明な点があれば，神権役員へ問い合わせていただきたい。

次に，ステーキ部長と監督の皆さん

1930年の十二使徒定員会。前列左より，ラッジャー・クローソン，リード・スムート，ジョージ・アルバート・スミス会長，ジョージ・F・リチャーズ。中央列左より，オルソン・F・ホイットニー，デビッド・O・マッケイ，ジョセフ・F・スミス，ジェームズ・E・タルメージ。後列左より，スティーブン・L・リチャーズ，リチャード・R・ライマン，メルビン・J・バラード，ジョン・A・ウィッツォーの各長老（ユタ州歴史協会提供）

に申し上げたい。倉庫を設けるための資金獲得活動を始める場合は，あらかじめ相談していただきたい。そして，綿密な計画を立て，目標を設定していただきたい。着手する前に，何を，何のために行なうのかを知ることである。主のみ業においては，重大な過ちがあってはならない。従って，計画を立てる時に最も大切なのは，ひざまずいて祈ることである。倉庫制度を拡張する時，教会のイメージを害うようなことが決してあってはならないのである。

どのような福祉プログラムを進める時も，それを設けるに至った第一の目的を常に忘れないようにしなければならない。その目的とは，「可能な限り，いまわしい怠惰や施しのもたらす悪弊を除去し，自立，勤勉，倹約，自尊心を再び私たちの間に確立する体制を築くことである。教会の目的は，人々の自立を助けることにある。勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければならない。」（ヒーバー・J・グラント。「福祉活動の手引き」1973年版，p.1：）

福祉援助を受けた者は，自己の能力の範囲で物品の援助あるいは断食献金による援助に相応する分を働いて返すべきである。仕事の機会を与えず，また働くよう奨励もしなければ，施しが不当に行なわれることになり，福祉プログラムが設けられた目的が害われることになる。自分でできること，またしなければならないことを代ってあげていては，いつまでも永久にその人を助けることができないのである。これはまだこの世で完全に理解されているとは言えないが,それが天の律法である。

監督が援助を与える時，できれば，当人のお金は現金の出費に当てさせるようにする。そして，監督の倉庫の物資で日用品の必要を満たすようにする。しかしいかなる場合も，援助を受けた人は，自分の能力の及ぶ範囲で，受けた援助に対して返済をしなければならない。そのための仕事の割当ては，担当の副監督あるいは扶助協会副会長が行なう。またできれば,断食献金からの現金の援助ではなく，物資の援助を行なうようにする。断食献金の代りに物資を使うようにすると，福祉制度下の物資の流通がよくなり，生産が促進され，無駄がなくなる。それ以上に大切なことは，この話で私が引用した主の教えに従う時，教会は「日の栄の世界の下に在る他の一切の生くる者の上に」（教義と聖約78：14）自立して立つということである。これこそが私たちの目指すところである。

時折，私たちは教会の援助よりも，政府の援助を受ける方が教会員にとって良いのではないかという質問を受ける。ここで基本原則をもう一度申し上げたい。各人は，できる限り，自分自身で必要を満たすべきである。そして，自分で必要を満たせなければ，家族が援助する。さらに家族ができなければ教会が援助を与える。

末日聖徒は，様々な組織から不労の援助を受けないようにすべきである。神権指導者と扶助協会指導者は，教会員に，教会福祉プログラムに従って，たとえ少なくはあっても，このプログラムを通して自分に必要な食料品やお金の援助を受けるよう奨励すべきである。そうするならば，教会員は霊的に強くなり，自らの威厳と自尊心とを保つことができるであろう。

私たちは全世界の末日聖徒に，不労の援助を受けることのないよう勧める。あなたが受けた分だけ働きなさい。

今日，経済状態と社会状態は全世界的に非常に悪化している。しかし私たちには啓示と予言が指針として与えられている。そこに述べられていることは，まさに私たちの時代のことであると言っても言いすぎではないと思う。従って，私たちには準備をする十分な時間も残されているとは言えないのである。切迫した危機を目前にして私はあえて申し上げる。私たちの霊と物質の備えが極限まで試される時が来るであろう。しかし主は，「もし汝らに備えあらば怖るることなからん」（教義と聖約38：30）と述べておられる。

私たちが貧しい人と乏しい人の世話をする主のプログラムを支持する時，私たち個人にも主の教会にも，豊かな祝福が注がれるのである。私は第2次世界大戦後，苦しみ悩むヨーロッパの教会員への食料品や衣類，寝具等の支給に携わり，このプログラムのもたらす祝福を直接に肌で感じた。私は餓死した人々，衰弱しきった人々，素足でさ迷う人々をこの目で見てきた。実にいたましい光景であった。苦しみ悩む天父の子供たちが哀れで，私の胸は張り裂けんばかりだった。

私は教会の福祉プログラムによる援助物資の第一便がベルリンに届いた時のことを鮮明に記憶している。私は伝道部長代行であったリチャード・ラングラック兄弟と共に，今にも壊れてしまいそうな古い倉庫へ出かけた。そこに，武装した見張りに守られ，貴重な福祉援助物資が保管されていたのである。倉庫の奥の方には，天井まで達するほどに箱が積み上げられていた。

「あれはみな食糧ですか。」リチャードは言った。

「ええ，兄弟。その通りですよ。食糧と衣類と寝具ですよ。医薬品も少しあると思います」と私は答えた。

リチャードと私は箱をひとつ取り出し，ふたを開けた。入っていたものは食料品としてはごくありきたりの，乾燥豆であった。ところがこの兄弟はそれを見ると，両手で何度もすくい上げ，うれしさのあまりまるで子供のように泣き出したではないか。

私たちは別の箱を開けた。それにはひき割り小麦が入っていた。主が作りたもうた，まぎれもない小麦であった。彼はその少しを口にあてた。そして次の瞬間，涙で潤んだ目で私を見た。また私も目に涙していた。それから彼は頭をゆっくり左右に振ると，「ベンソン兄弟，まだ会ったこともない方々がこれほどのことをして下さるなんて，とても考えられません」と言った。

これこそ，主の制度である。兄弟愛と自発的な犠牲による援助，人々の自立を促す援助，そのような援助がなされてはじめて人々の威厳と自尊心が保たれていくのである。願わくは，現在ある倉庫を適切に利用し，これを拡張することによって，生活苦にあえいでいる兄弟姉妹の世話が主の計画に従って賢明に行なえるようイエス・キリストのみ名によって祈るものである。

末日聖徒社会福祉プログラム

管理監督会第二副監督
J・リチャード・クラーク

会員の社会面，情緒面の要求を地元で得られる援助手段を用いて満たす

兄弟姉妹の皆さん，これまでに皆さんは，洪水や地震に見舞われた会員たちに教会が多大の援助を与えたという話に感動したことがおありだと思う。これら援助の必要な人々に私たちは同情を寄せる。しかし，このような自然の災害と同じくらい大きな災厄をもたらすものがほかにもある。それは，社会的，情緒的な要求が満たされていないことである。これらの要求は，トラック一杯の食糧や衣類をもってきても満たすことはできない。今日私はこのことについて少し皆さんにお話したいと思う。

まず初めに，神の戒めの中でも最も神聖な戒めを破るに至った若者の悲惨な心の内を綴った手紙をお読みしたい。

「どうしてこの手紙を書く気持ちになったのかよくわかりませんが，多分，最後の頼みとしてわらをもつかむ心境になったからだと思います。僕には助けが必要です。でもそれが得られるとは思っていません。だからといって，教会が真実であることを疑っているわけではありません。これは僕自身の罪から生じていることなのです。僕は両親を愛していますし，両親をできる限り助けるようにしています。けれども，僕の力は弱くなってきました。ですから，僕に残されている霊的な生活の明滅する光の中で，かろうじてこの手紙を書いている次第です。」

さらにこの若者は続けている。「幼ない頃から，僕は父から愛されていないと思うようになりました。それは，僕がおやすみの挨拶に行った晩に，父から無視されたことに始まります。父はそのことをきっと覚えていないでしょう。父には大したことではなかったのです。でも僕にはショックでした。それまであった心の安定がガラガラと音を立てて崩れていくのを，感じました。

僕はいても立ってもいられず，いわれのない恐れを感じてすぐさま母のところに駆けて行きました。そしてその出来事を小声で母に話しました。ところが母は，そんなことはないと言いました。けれども僕は納得しませんでした。

その晩，僕は明かりの消えた寝室の暗がりに立って，父の様子をうかがいました。父が捜しにくるまでドアを閉めて，口もきくまいと思いました。

しかし父はそんな僕の態度にも気がつきませんでした。また，気がついていたとしても，その理由を問うような父ではありませんでした。言うまでもなく，それからというもの，僕は何かにつけては父に反抗し，父の注意をひこうとしました。そしてそれは次第に父の怒りを買うというかたちの行為へと僕を走らせたのでした。すぐに，僕は同性愛など堕落した行為に陥り，やがて自分で自分を縛り付けるようになってしまったのです。長い間自分は主からも愛されていないのだと思っていました。17歳から23歳にかけて，麻薬もやるようになりました。」

皆さんは彼の生活がその後どうなったか，想像できるものと思う。この若者は次のような言葉をもって手紙を結んでいる。「あなたの時間を割いて下さりありがとうございます。僕を助けて下さいませんか。立ち直る機会を与えて下さいませんか。僕に確信を与えて下さいませんか。僕を助けて下さいませんか。僕はもう一歩も退けないのです。」

この若者にも助けを与える道がある。

私たちは，主が私たちすべてを愛しておられると同じようにこの若者を愛しておられることを知っている。この若者はその後，神権指導者を通じて末日聖徒社会福祉機関を紹介された。やがて，神権指導者と末日聖徒社会福祉機関のケースワーカーは手を取り合って，彼が父のひざで学ばなかったこと，すなわち主が彼を愛しておられ，悔い改めと赦しの福音の計画が万人に与えられていることを彼に指導して下さるに違いない。

もうひとつの例をお話したい。この話に出てくる女性を仮にジャネットと呼ぶことにする。彼女は独身であったが，重大な罪を犯してしまった。彼女が妊娠していることを知った監督は，彼女を末日聖徒社会福祉機関に紹介した。彼女は自分がその職員から責められるのではないかと恐れたが，予期に反して，彼女が受けたものは，悔い改めを起こすに必要な愛と理解とであった。そして彼女は，監督と社会福祉機関の援助の下に，主に赦しを求め始めた。彼女は養父母に紹介され，彼らの家庭に快く迎えられた。それからは定期的に教会に集い，福音を学ぶようになった。さらに，教会の後援する未婚の親のグループが，彼女に自分の犯し

た罪の大きさを自覚させ，新しい生活を始める決意を固めるよう助けを与えた。こうして彼女は自分自身のことと，天父に対する自分の関係をこれまでになくよく理解するようになった。

彼女はこう述懐している。「私はこれまで恐ろしい過ちを犯してきました。けれども，この重荷も私のことを理解して下さる方々と分かち合うことによって，軽くなったように感じました。天父が与えて下さったすべての助けに心から感謝しています。」

最後にもうひとついつも元気はつらつとしたアパッチの少女ベリンダの話をしよう。彼女はインディアン学生里親制度の世話になった後，次のような証を述べていた。

「私が初めてこのプログラムに参加したのは8年前のことです。私は数着の服と，靴箱に入れたわずかな小物だけを持ってバスを降りました。私の家は貧しく，部族も貧乏でした。けれども，皆さんは私に心を開いて下さいました。そのことを感謝しています。今私は，服の入った立派な新しいスーツケースを持って故郷に帰ることができます。けれどもこれは私の宝ではありません。私の宝はこの世の中のどの宝よりも貴重な心の宝です。私には福音の証があります。イエスが生きておられ，神が祈りに答えて下さる実在の御方であることを知っています。今の私には目標があります。努力することのできる何かがあるのです。」

兄弟姉妹の皆さん，これら3つの例は，私たちを取り巻く世界とは好対照をなすものである。今日，私たちは肉体的な公害だけでなく，精神的な公害も被っている。私たちの本質的な価値を害う倒錯行為が「ニュー・モラル」として提唱されている。また，個人や集団の望みを達成する手段として，不正な取引きや暴力行為が受け入れられている。さらに，母親は家庭外に職を求め，父親は多忙を極めて，共に親の責任を放棄している。夫婦はほんのささいな口論から離婚をし，人間本来の愛というものが冷却化しつつある。私が監督であった当時，ある夫婦にこんな事件があった。この夫婦にはまだおむつのとれない子供と，学齢前の子供のふたりの幼ない子供たちがいた。彼らは保護者としての義務を怠っていた。父親も母親も，子供たちを鍵のかかった家の中に残したまま，毎日仕事に出かけたのである。そのことを判事に問われた時，その母親は全く心外だといわんばかりに，夕食の時間まで持つように十分食べ物を与えていたと答えたのであった。皆さんはこのような親の心を想像できるであろうか。

偉大なアメリカの予言者モロナイは，このような「(人間)疎外の時代」を予見し，「地の面に恐ろしい汚れた行いのある時，すなわち人殺し，強盗，虚言，詐偽，みだらな行い，およびさまざまの憎むべき行いがあって」(モルモン8：31)と現代のことを述べている。

ほとんどの場合，このような社会の悲惨事は，イエス・キリストの福音の永遠の原則に従わない結果として生じたものである。

このような社会の傾向は私たちにも影響を及ぼしている。現に多くのステーキ部に，未婚の親がおり，保護観察

道具を手にして神殿の表階段に立つ聖徒たち。1890年頃。当時，神殿の内装が進められていた。

中あるいは拘留中の青少年がいる。また，親から虐待されたり，無視されたりしている子供，麻薬やアルコールの問題，重大な結婚問題，性の逸脱をかかえている人々，また精神病院や刑務所に入っている会員たちがいる。これらの問題は驚くほどである。私たちは皆これらの問題のない世の中を希望する反面，現実に存在するこの問題を決して回避することはできないのである。

神権指導者および扶助協会指導者として，私たちはこれら社会的，情緒的に問題をかかえている会員を助ける責任を負っている。実際に主は，「弱きを扶け，垂れたる腕を挙げ，かよわきひざを強うすべし」（教義と聖約81：5）と言っておられる。教会幹部の兄弟たちはこの責任の重大さを知っており，私たちが主の方法で援助できるように価値ある手段を備えてきた。その手段とは福祉事業の一貫として末日聖徒社会福祉課から提供されるものである。

この大切な仕事について，1970年ハロルド・B・リー大管長は地区代表に次のような指示を与えている。

「当教会の社会福祉プログラムは，すでに教会員に大きな祝福をもたらしている。このプログラムは，豊かな社会の中で私たちの会員を悩ましている多くの問題に応えようとするものである。また今後必ずこのプログラムの価値は増すことだろう。というのは，この機関が取り扱う数多くの問題こそ，現代社会の象徴であるからである。会員には衣服よりもカウンセリングが必要となることだろう。そして，監督を通して社会福祉プログラムの機関に紹介される会員は，神権福祉プログラムを通して援助を要請するのに比べると，はるかに気軽にこの種の援助を求めるようになるにちがいない。」（十二使徒会地区代表セミナー，1970年10月1日）

末日聖徒社会福祉の目的すなわち使命は，教会員に社会的あるいは医療的援助を与えることによって神権指導者を助けることである。これは，福音ならびに教会の秩序にかなった価値や知識，専門技術を備えた，十分な資格を持つ職員およびボランティアによって達成される。末日聖徒社会福祉機関が設立されたのは，監督や定員会指導者が霊感を受けないためだというわけではない。逆に，地元の神権指導者に，社会面，情緒面の要求を満たす手段を与えるよう予言者に霊感が下されたために，この機関が設けられたのである。しかしながら，「福祉活動の手引き」の27ページの記述に注意すべきである。「監督とメルケゼデク神権定員会およびグループの指導者は，主の教会の管理指導者である。彼らはその責任を他の人や機関に代理させることはできない。またしてはならない。社会福祉機関は，教会の指導者が活用するために設けられるものである。監督や定員会，グループの指導者が与える霊感あふれる助言と神権による祝福に代ることのできるものはない。」（「福祉活動の手引き」p.27）

私たちはまた，教会の目的が教会員を自立させることにあるということも覚えなければならない。これを考えずに世話をすることは，害こそあれ益はないと，ロムニー副管長は語っている。またボイド・K・パッカー長老はそのことは物質の施しだけでなく霊的あるいは情緒的な施しについても言えることであると語っている。

「教会指導総合手引き」に記されているように，末日聖徒社会福祉機関は実質的に教会の腕であり，特に法律的に関係する福祉活動を執り行なう。未婚の親への働きかけ，養子縁組，里親の手配，インディアン学生里親制度などがこれに含まれる。

これらの活動に関連して，私たちが心配している幾つかの事柄について申し上げたい。自主的に里子の世話が行なわれているが，法に適っていないことが往々にしてあり，しかもこれらは正式に認可された機関の管理と保護によらずになされている。その結果，様様な問題が生じて，子供たちや実親だけでなく里親や養親に対しても言葉に尽くせぬ悲劇を被らせている。教会員や教会の役員がこのように勝手な手段を講じると，政府関係者その他は，教会がそのような手配をしたものと考えることだろう。その結果，伝道活動やその他の教会プログラムが危害を被ることになる。従って私たちは，教会の機関とは別に里子の手配をしようとしている神権役員全員に，手引きを研究し，大管長の指示に照らして個人の関与の適否を判断するよう勧めたい。「教会が関与する，あるいは関与すべき子供たちの養子縁組と里子の手配に関してはすべて，末日聖徒社会福祉課がそれを取り扱う。」

ふさわしい生活を送っている末日聖徒の家族は，すべての法律に準拠し，末日聖徒社会福祉機関を通して養子を迎えることができる。養子を迎えたい家族のためにはその道が開かれている。社会福祉機関は，ふさわしい家庭に子供たちが送られ，関係者全員が幸福を得られることを目標としているのである。

未婚の親への福祉は，結婚前に妊娠した独身者を援助するために行なわれている。これは地元の神権指導者の指示の下に，公的機関の認可を受ける必要のない範囲内で活動する。カウンセリング，養親の紹介，教育援助，医療の手配等を行ない，特に人々から白い眼で見られたり，疎外されたりすることのないように心を配る。そして，子供を養子に出すことが最善であると生みの親が判断したら，福祉機関はその子供がふさわしい末日聖徒の夫婦の家庭にもらわれるように手配する。しかしいかなる場合もすべての活動は厳密に秘密が守られ，このプログラムへの紹介があらゆるところからなされるようになっている。

また末日聖徒社会福祉課は，インディアン学生里親プログラムによって，地元の神権指導者から紹介を受けた8歳から18歳までのインディアンの子供たちに，教育の機会，霊的，文化的，社会的な成長の機会を与え，インディアンの親たちを援助する。このプログラムの下に置かれた子供たちは，注意深く選ばれた活発な末日聖徒の家庭に，学校に通う期間だけ預けられることになる。

そして認可を受けた里親は，一時親元を離れて暮らすその子供たちに，援助と指導を与えることになる。霊的な教育と専門的な指導の伴うこの経験は，

親にとっても子供たちにとっても，家族の一致をもたらす上で大きな助けとなることだろう。

また社会福祉課は，社会的・情緒的問題の相談，評価，解決等も行なう。神権指導者の要請があれば，専門のカウンセラーがその問題の原因を調べ，解決を図り，会員を援助する。

現在の末日聖徒社会福祉機関数は21にのぼる。しかしまだ社会福祉機関を持たない地域の神権指導者は，その機関の必要性を検討していただきたい。必要性が高く，地区と地域の福祉指導者が機関の必要ありと判断したら，社会福祉機関が設置されるであろう。

新たに機関が設置されたら，専門家が雇用される。そのほか，よく訓練されたボランティアもこのグループに加わる。そのため，ステーキ部長は機関と協力して，ボランティアとして奉仕できる人を見つけ，協力を要請する。

末日聖徒社会福祉機関が設けられていない地域では，神権指導者は，同等の奉仕のできる人々のリストを，教会員であるとなしとを問わず持つようにすべきである。しかし，考慮の対象となる個人と機関は，教会の標準と価値観から外れないものを維持していなければならない。養子縁組，未婚の親の世話，里子の手配等は，必ず法律に準拠して行なわなければならない。

両親がもっと時間をかけて子供たちを教え，育てていれば，これらの問題の多くは当然起こらなかったことであろう。私が冒頭で述べた事例にしても全く同じことが言える。このような事例を850も調べたある研究家は次のように語っていた。『父子の関係が通常通り愛に満たされていれば，同性愛に走ることもなかったであろう」と。正義に従う人々は，このような問題に関係するのを通常は避けるものである。

これまでの私の話はいずれも，神権によって導かれる時の末日聖徒社会福祉課の真価を物語っているものと思う。1973年に，リー大管長は次のように語っている。「今日，私が目にする最大の奇跡は，必ずしも病める肉体の癒しではない。……心に病いを持ち，落胆して取り乱し，正に精神的に挫折する一歩手前にいる人々の癒しである。私たちはそのような人々にもすべて，援助の手を差し伸べている。それは，そのような人々も主の目には大いなる者だからであり，まただれひとりとして，自分は忘れられているのだと感じることがないよう私たちも望んでいるからである。」(「聖徒の道」1974年3月号，p.140)

彼らは忘れられていない。父親と疎遠な若者，妊娠している17歳の少女，美しく輝やく目をもったインディアンの少年，彼らのことを考えて欲しい。兄弟姉妹，彼らは現実に助けを必要としているのである。

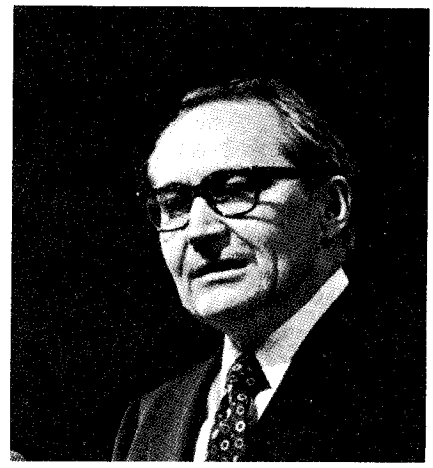
神権指導者として，また扶助協会の指導者として，私たちはこれらの人々に手を差し伸べる責任がある。そしていまその手段が与えられている。医者が体の病気を治すように，末日聖徒社会福祉機関は，神権指導者の霊的な指導の下に，社会的，情緒的必要を満たす助けを与えている。

この機関の利用法を考える時に，暗い寝室から父親をじっと見ている若者のことを考えていただきたい。彼のような若者が何と多いことだろうか。私たちはどのようにしてその入口の扉を開ければよいだろうか。私は神権指導者である私たちが各自の召しを全力を尽くして遂行し，みたまの導きの下に末日聖徒社会福祉機関の利用を十分に行なうことができるよう祈るものである。イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。

開拓時代の写真家C・R・サベージの撮影したソルトレーク神殿。1892年。

福祉活動における
ステーキ部監督評議会の役割

十二使徒評議員会会員
L・トム・ペリー



ステーキ部監督評議会の6つの責任

愛する兄弟姉妹の皆さん，総大会で皆さんにお会いできるということはまことに素晴らしいことである。私は要請に応えて，ステーキ部監督評議会とその議長の役割についてお話したい。この評議会の存在目的は大きい。しかし，私たちは，その意義と力を認識して，王国を築き上げ，その業を推し進めるのにこれを十分活用していないのではないかと思う。

そこでステーキ部監督評議会について正しく理解してもらうために，まず現在，福祉の問題を定期的に扱っているステーキ部の集会を簡単に振り返ってみたいと思う。第一は，多分最も大切であろうが，ステーキ部福祉活動委員会である。この会は普通，ステーキ部役員会の直後に開く。この会の第一の目的は，ステーキ部高等評議員会と扶助協会指導者がワード部に帰って指導を与えられるように彼らに計画を与え，訓練し，さらに，プログラム全体の相互調整を図ることである。

第二は，月例監督会訓練集会である。この会では，監督会が関係するすべてのプログラムの具体的な事項について指導が与えられる。福祉活動の原則や義務，活動が定期的に取り上げられる。

第三は，ステーキ部監督評議会である。この会では主に運営上の事柄が取り扱われる。ほかのことはともあれ，この会は物事の処理を行なう集会である。福祉活動の現状報告と分析が行なわれ，また福祉の原則が主の意図された通りに応用されて，教会員に恵みがもたらされるよう，今後の行動が決定される。

ではこの評議会を詳しく見てみよう。御存知のように，評議会はステーキ部内の監督全員で構成される。そして，ステーキ部長会によって指名されたひとりの監督が議長を務める。通常，議長はアジェンダを準備し，神権個人面接の際に与えられるステーキ部長会の指示の下に，評議会の集会を司会する。また議長は，ワード部監督の全員を代表してステーキ部福祉活動委員会に出席する。具体的に集会の頻度は定められていない。しかし，3ヵ月に1度以上は会合すべきであり，状況が許せば毎月会合を開くとよい。

ステーキ部監督評議会の第一の責任は，主の倉庫が適切に運営されるようにすることである。評議会の会員は，議長を通して，倉庫の管理と運営の状況を定期的に評価し，報告する。また監督は，ステーキ部，地区，あるいは地域の倉庫を利用していると否とを問わず，この評議会を通して，倉庫に関する事柄を発言することができる。さらに監督は，ステーキ部および地区監督評議会を通して，具体的な改善策を提案することができる。また監督は，倉庫に物資が十分な量，品質の良いものが保管され，財政管理が適切に行なわれるよう，さらに倉庫がきれいに整然と保たれるようにする。評議会議長は，監督が倉庫を定期的に訪れ，倉庫の機能に通じるよう手配をする。また，倉庫が物品を供給する神の宮としてふさわしい正しい運営がなされるようにする。

ステーキ部監督評議会にとって非常に大切なのは，監督がステーキ部内の援助を必要としている人々に物品を支給する，その支給方法の均等化を図ることである。

以上のことから，監督には倉庫に対する管理の責任のあることがわかる。あの不況の時代にパイオニア・ステーキ部長であったハロルド・B・リー兄弟は，福祉委員会を組織して，ひとつの倉庫を建てそれを献堂した。この特別集会で，リーステーキ部長は監督たちに倉庫の鍵を渡して次のように言った。「兄弟たち，ここに主の倉庫の鍵があります。そして今，皆さんに倉庫に対する管理の責任が託されたのです。私たちはこうして倉庫を建てることができました。ここに適宜，適切な方法で貧しい人，乏しい人のために良質の日用品を備えるのは，皆さんの責任です。」

この倉庫は主の倉庫である。これは貧しい人々の世話ができるように監督を助けるものである。それが倉庫をもつ目的である。各倉庫は，貧しい人々の世話に努める監督に必須の，神聖な施設である。皆さんの多くは倉庫を利用することがないかもしれない。しかし，監督が物品を支給することのできる倉庫を持つようにというのが，教会の指示である。皆さんは，神権の系統ならびに福祉事業部を通して，皆さんの地域に倉庫を設置するために必要な援助と指示を受けることができるのである。

ステーキ部監督評議会の第二の責任

ステーキ部の福祉関係集会

集　会	目　的
ステーキ部 福祉活動委員会	計画，訓練， 全般的な相互調整
ステーキ部 監督会訓練集会	訓　練
ステーキ部 監督評議会	運営—事務連絡

は，年間の日用品生産目標を伸ばす援助を与え，計画に従って必要な日用品の供給を支援することである。ステーキ部監督評議会は，各ワード部の需要を満たすために必要な日用品を予測して目標を立てる。次いで，福祉事業に従事し，労働を提供するようワード部会員を促す。労働提供の要請は監督会にくる。そして，これについての話合いと割当ては，ワード部福祉活動委員会の集会で行なわれる。定員会は定員会の会員と家族を組織して，事業に対する労働提供を行なう。こうして，貧しい人々のために日用品の生産を行なう。

ステーキ部監督評議会の第三の責任は，生産事業の取得と運営についてステーキ部長会に助言し，提言することである。監督は事業の適否と生産品の質に関して，その事業がワード部の事業であると，ステーキ部あるいは地区の事業であるとを問わず，自分の意見を述べる責任がある。生産事業に関する次の問いに対し，監督はそれぞれ自分の考え方を持つようにすべきである。

1. ワード部会員に，経済的また時間的にどれだけのものを求めることができるか。
2. その事業は会員に容易に受け入れられるか。
3. その事業の規模と種類はワード部会員にとって適当か。

ステーキ部福祉活動委員会の主な責任は，生産事業を地域の計画原案に従って確立することである。しかし監督評議会は，倉庫と各種の生産事業との関係が緊密に保たれるようにする義務を負っている。

ステーキ部監督評議会の第四の責任は，断食献金の収支を検討することである。キンボール大管長は私たちに，惜しみなく断食献金をするように勧めている。議長と評議会，ならびにステーキ部長会は，この神聖な基金の収支の原則のすべてをもう一度検討すべきである。このプログラムが正しく実施されているかどうかを検討するのに，これは理想的な会と言える。監督はその責任上，献金された基金を正しく管理し，また倉庫とデゼレト産業の物質を必ず現金に先立って使用するようにすべきである。

第五は最も大切なことであるが，教会から援助を受けた会員に，能力の及ぶ範囲で働いてもらうということである。イエス・キリストの福音の原則は，人は額に汗して自分の日々の糧を得るべきであるという考え方である。評議会議長は，この主の援助計画を主の方法に従って実施する最善の方法について話し合うよう奨励する。

監督評議会の第六の責任は，福祉活動の具体的事項について監督に訓練を施すことである。これには，監督の指示書の書き方，会員の必要の分析方法，家族の援助力の評価方法，教会の提供する援助の範囲の調べ方，ワード部扶助協会会長会の活用法，および断食献金の利用方法と援助時期がある。できれば，雇用制度，監督の倉庫制度，生産・加工事業，福祉活動宣教師，医療関係の援助提供，末日聖徒社会福祉，およびデゼレト産業に関しても詳しく教える。そうすれば，監督はこれらの援助手段を適正に用いて，必要な人々に助けを与える方法を知ることができるであろう。

ステーキ部長会は，福祉活動の原則を教え，また会員に同じことを教えるよう監督を励ます義務を負っている。愛と奉仕，労働と自立，管理の職と奉献，個人の備えと家族の備えから生み出された慎み深い生活，貧しい人や乏しい人の世話，これらは会員が，星の

光栄の世界で日の光栄の生活を送ろうとする場合に学び，踏み行なわなければならない原則である。また定員会指導者を通しても同じ原則を教えるようにする。

次にステーキ部監督評議会は，ステーキ部と地区の福祉事業の運営と問題点について，監督に話し合う機会を与えることが大切である。この集会において，監督評議会議長は監督たちに，福祉に関する事柄の情報を与え，教え，励ます。

以上6つの責任を心に留めるならば，ステーキ部監督評議会議長は，ステーキ部長の指示の下に，ステーキ部監督評議会の各集会のために有意義なアジェンダを作成することが容易にできるであろう。これら6つの責任をまとめると次の通りである。

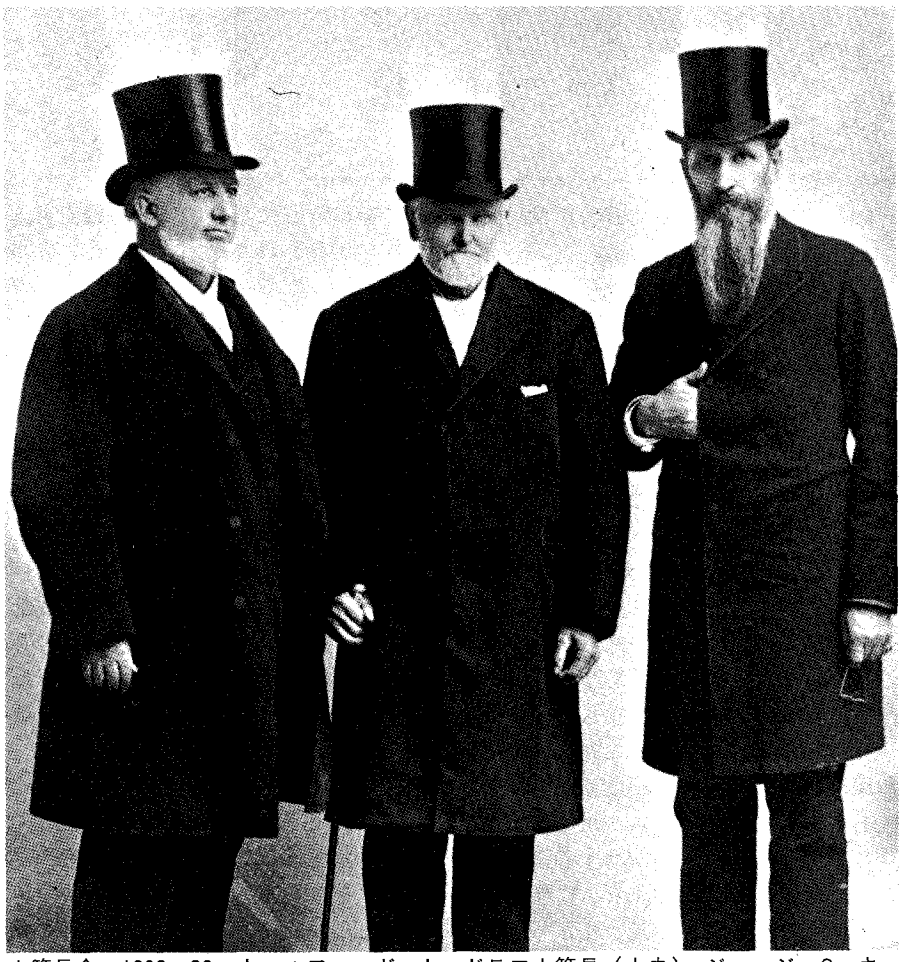
1. 主の倉庫が適切に運営されるようにする。
2. 貧しい人々のために必要な日用品を供給するための，基金を増額するよう支援する。
3. 生産事業の取得と運営についてステーキ部長会に助言し，提言する。
4. 断食の律法をワード部会員に教える方法，ならびに断食献金の適切な取り扱い方についてステーキ部長会から指示を受け，それに従う。
5. 教会から援助を受けた会員に，能力の及ぶ範囲で働いてもらう方法を計画する。
6. 福祉活動の原則とプログラムに関して監督に訓練を施す。

私は福祉計画に携わる時に成長の機会があることをいつも感謝している。この計画が始まった時，私の父は監督であった。父はいつも家族と一緒に教会から割り当てられた仕事に参加した。そして，若く，感化を受けやすい年齢にあった私は，教会の奉仕にたくさんの祝福が伴うことを教わったのであった。

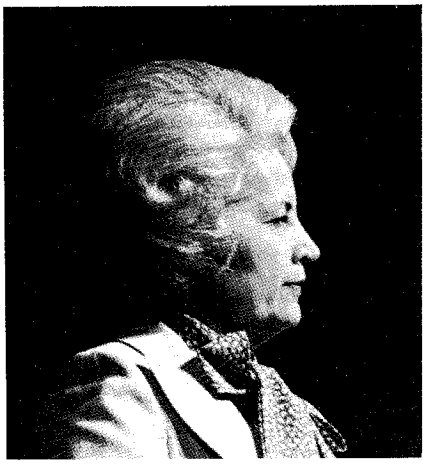
私はいつも，父が貧しい人々に示した尊厳と忍耐とを思い出す。特に，伴侶を失った小柄な老人と彼に対する父の穏やかな心とをよく思い出す。私の父は監督の責任だけでなく，友としての責任も立派に果たした。しかしこの体の小さな老人は家族にとってはやっかい者のように思われていた。彼は孤独であったため，よく私の父に会いに来た。夜の10時であろうと，朝の5時半であろうと，彼は一向に頓着しなかった。父はいつも彼を快く家に迎え入れ，何か食べる物を出し，それから彼を家まで送ったものであった。

また私は，彼が亡くなった時，父宛てに一通の手紙を残していたのを思い出す。「私の友，ペリー監督」と書き起こしたその手紙には，生前自分に関心を示してくれたことに対する最後の感謝の言葉が書かれていた。その手紙を読む父のほおに涙のつたわるのを見た。私が福音の奉仕のもたらす報いを知ったのは，この時が初めてだと思う。

監督の皆さんに申し上げる。主の豊かな祝福が常に皆さんにあるように。天父の王国において与えられる奉仕に伴うこの妙なる報いの一時が，大いなる尊い召しにある皆さんを支えるものとなるよう，イエス・キリストのみ名によってへりくだって祈るものである。アーメン。



大管長会，1889—98。ウィルフォード・ウッドラフ大管長（中央），ジョージ・Q・キャノン第一副管長（左），ジョセフ・F・スミス第二副管長（右）（ユタ州歴史協会提共）



行動の呼びかけ

扶助協会中央管理会会長
バーバラ・B・スミス

思いやりと愛をもって援助を施す素晴らしい機会を受け入れる

愛する兄弟姉妹の皆様，福祉活動に関する大管長会の勧告をじっくりと考えてみますに，私たちはみな，大管長会より，行動の呼びかけを受けているように思います。1976年4月の総大会の福祉部会で，キンボール大管長は次の主の言葉を引用なさいました。

「わたしを主よ，主よ，と呼びながら，なぜわたしの言うことを行わないのか。」（ルカ6：46）

今年の2月2日に開かれた教会の中央福祉活動委員会の集会で，マリオン・G・ロムニー副管長は次のようにおっしゃいました。

「幼稚園児から大祭司ならびに扶助協会の姉妹に至るまで，すべての教会員にわかりやすく，正確に，また気持ちを鼓舞するように福祉の原則と手続きを教え，彼らが個人の生活でも，家族と教会の責任においても，それをできる限り実施するように促してほしい。」

全くその通りだと思います。大管長会は私たちに，教会の福祉活動を行ない，実施し，成し遂げるよう求めていらっしゃるのです。私たちはこの分野における扶助協会の姉妹たちの大切な役割について再評価してきました。そして，教会の女性には，神権者と心と力を合わせて，この大切な活動を助け，教え，実施し，推し進める大きな責任があることを感じました。

あるワード部にこの責任をよく理解していたと思われる扶助協会の会長がいました。彼女は週例ワード部福祉活動委員会で，ひとりの年老いた未亡人が御主人の亡くなった後，不便な生活を強いられていると報告しました。彼女の健康はすぐれず，脚が弱くなって，動くことも自分の身の回りの世話もむずかしくなっていました。彼女は非常に孤独であり，また荒れ放題の庭を気にしていました。その上，彼女の食事は全く粗末でした。このように報告した後，その会長は，訪問教師とワード部の他の姉妹たちに慈善奉仕の割当てを与えたことを話しました。彼女たちは未亡人の家の庭をきれいにし，毎日栄養に富んだ食事を3回準備し，彼女の許可を得て必要な家事を行なったのでした。またホームティーチャーも，特別な祝福を受けるかどうか彼女に尋ねてみることにしました。さらに彼らは庭をいつもきれいに手入れし，そのほかに助けることがないかどうか気をつけました。

数週間後，祝福と愛ある助けを受けた彼女は，勇気を得，自立の望みを持ったのでした。

この話から，ワード部の会員の必要を満たすために，ワード部福祉活動委員会は何をすることができるかがわかります。

ステーキ部と地方部の扶助協会会長会は，ワード部と支部の会長会が福祉に関する務めを十分に理解し，それを効果的に実施できるよう，教える事柄を計画する必要があります。特に，ワード部扶助協会会長に，次の事柄をどのように行なえばよいかを教えるようにします。

1. 必要と援助手段を判断し，調整する監督を助ける。
2. 家庭を訪れ，監督の指示に従って家庭の状態を把握する。
3. 扶助協会内の援助手段を用いて慈善奉仕を行なう。
4. 訪問教師に，彼女たちのできる援助を伝える。
5. すべての事柄に関して厳密に秘密を守り，また他の人々にも同様にするよう勧める。
6. 監督の倉庫の保管品目あるいは商店から購入しなければならない品目をよく知る。また，何を購入し，どのように使うかを被援助家族の姉妹に助言する。
7. 地域社会の援助手段に通じ，それを有効に利用する。
8. 会長会の福祉の義務について副会長と話し合う。
9. 監督の指示の下に，扶助協会に割り当てられたすべての福祉活動の相互調整を図る。

予言者ジョセフ・スミスは，「貧しい人，未亡人，孤児を世話し，あらゆる慈善を図る」（*History of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*「末日聖徒イエス・キリスト教会歴史」4：567）ことが扶助協会の目的であると語っています。扶助協会会長が先に述べた務めを果たす時，この扶助協会の第一の目的は果たされることでしょう。

また私たちがよく奉仕をする時に，1946年10月の福祉集会でハロルド・Bリー長老の言われた，神権者の期待に添うことができるのです。

「私は次のように考えたい。一家の

主婦である女性は……家族の中で知性と活気に富んだ一員であってほしい。福祉プログラムにおける扶助協会の立場もこれと全く同じであると思う。…私たちが望んでいることは，姉妹たちが福祉プログラムの計画にも知性に富んだ一員として参加できるようにということである。その期待とそれを行なう場が与えられなければ，私たちは，ほかでは得られないような共同一致を達成することができないであろう。」（*Relief Society Magazine*「扶助協会誌」1946年12月号，p.814）

タナー副管長は，1976年6月に，この協力の原則について次のように語っていらっしゃいます。

「扶助協会には，それが組織された時に教会の大管長より具体的な責任が課せられていた。扶助協会会長会は，夫と協力して家族の事柄を処理する妻のように，メルケゼデク神権者のパートナーと考えるべきである。」（*Church News*「チャーチ・ニューズ」1976年6月5日，p.3）

福祉活動について，ステーキ部のメルケゼデク神権指導者と扶助協会指導者はこの協力体制の模範を示し，ワード部役員の訓練計画の相互調整を図ります。そしてワード部の指導者は，ワード部福祉活動関係者の訓練を行ない，プログラムを実施します。

この関係をよく理解できるようにするため，私の友だちの体験を紹介したいと思います。彼はこのような話をして下さいました。「家内と私は家の前庭に石を入れることにしました。そこで私は近くを見てまわり，石を手に入れることのできる場所を捜しました。

私がトラックで出かけようとすると，家内が私を呼びとめて，『私も一緒に行きますわ。あなたのお手伝いをしたいの』と言いました。

私たちは石のある場所に着きました。しかし石は山の上にありました。それで私は『あれを降ろすのは大変な仕事だなあ』とつぶやきました。

すると家内が，『私が山に登って岩を転がしますわ。だからあなたはそれをトラックに積み込んで下さらないこと』と言いました。

それは良い考えだと思いました。私は家内が山に登るのを見守っていましたが，間もなく姿が見えなくなりました。すると上の方から大きな声が聞こえてきました。『あなた，石を転がすわよ。いいですか。まあ，この石はきれいだわ。重そうだけど，大丈夫かしら。』

そこで私は答えました。『君が転がしてよこすものは何でも運ぶよ。』

すると家内がまた叫びました。『この石を見て，本当の人間のようだわ。私，これが一番気に入ったわ。』

私は石が転がってくるのを待ち切れない気持ちでした。彼女はいつもそうですが，この度も，私に必要な助けのほかに，男では見逃しがちの夢を与えてくれたのです。」

私はすべての姉妹たち，特に扶助協会会長の皆さんにお願いします。福祉援助を与える時，是非神権者の助け手となって下さい。

私たちに課せられた福祉の務めを果たすようにという神の予言者の呼びかけに応えるよう，全世界の扶助協会の指導者の皆さんにお勧めします。協力の原則を覚え，助け手として神権者と力を合わせて働くことができますように。また，福祉活動の基本を効果的に教え，この活動のビジョンを大きく持ってこれを実行できますように。特に慈善奉仕にこれが応用できますように。マリオン・G・ロムニー副管長はかつて次のようにおっしゃいました。

「貧しい人に有効な扶助の手を差し伸べることは芸術である。献身的な扶助協会の姉妹たちが自らの完成を目指す芸術である。」（「扶助協会誌」1961年2月号，p.77）

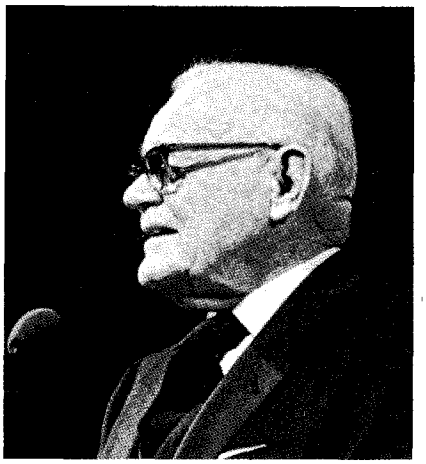
助けの必要な人々に思いやりと愛をもって援助を施すことは，私たちに与えられた素晴らしい機会であり，義務です。私は，すべての扶助協会の姉妹たちと指導者がこのことを認識して下さるように祈っています。主は次のようにおっしゃいました。

「互に愛し合うならば，それによって，あなたがたがわたしの弟子であることを，すべての者が認めるであろう。」（ヨハネ13：35）

イエス・キリストが教えられたこのような気持で人々に援助が与えられますよう，イエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。

扶助協会会長会。バーバラ・B・スミス会長（右），ジャナス・R・キャノン第一副会長（中央），マリアン・R・ボイヤー第二副会長（左）

教会福祉活動の目的



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

偉大な教会福祉プログラムで働く私たちの目的は，奉献の律法と管理の職を再び確立することである

愛する兄弟姉妹，私の話の間，共にみたまを受けることができるよう，一緒に祈っていただきたい。私は今朝のこれまでの説教に深く感動している。これから話す私の話もそれらの説教に準ずるものとなるように願っている。

また監督ならびに支部長の皆さんは，教会福祉活動を進める上で助けとなる多くの援助手段をよく理解し，それらを積極的に活用していただきたい。私は，主に捧げるすべての時間，労力，金銭をどのように取り扱えば，与える者と受ける者が共に聖められ，かつ苦しみが取り除かれるかを皆さんに理解していただきたいと思う。主の倉庫の果たす役割と生産事業がその倉庫を満たすのにどのように役立つかについてこれまで説明があった。

この集会において私たちはこれまで主の道にかなった運営方法を中心に考えてきた。従って私は，私たちがこの偉大なプログラムに携わる理由に焦点をあてて話をすすめたいと思う。教会福祉活動に従事するようになった当初から，私は，私たちがこの福祉活動で行なっていることは，協同制度の下で要求される奉献の律法と管理の職を再び確立するための準備であると確信してきた。私たちがこの活動の目標を常に覚えるなら，この偉大な業に対する証を失うことは決してないであろう。この業は新しいものではない。福音と同様にその歴史は古い。民が福音を受け入れ，それに添った生活をする時に，主は必ず協同制度を制定された。主がエノクの民の間にこの制度を制定されたことが，次のように記録されている。

「主はその土地を祝したまいたれば，民は山の上と高き所にて祝福を受け誠に栄えたり。

主，その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし，精神を一にし，義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」（モーセ7：17—18）

もし私たちが主の求められることを行なうなら，私たちもまた引き続き祝福を受け，義にかなった成長を遂げるであろう。予言者が，「教会の律法を包含する啓示」（教義と聖約42章前書き）として明記した啓示の中で，主は次のように語っておられる。

「見よ，汝ら貧しき者のことを思い起し，彼らに与えざるべからざる扶助のために，……己が財物を神に奉献せよ。

また汝らの財物を貧しき者に分ち与うれば汝らこれをわれに為すなり，汝らこれらの財物を，わが教会の監督とその副監督……の前に捧げよ。

これらの財物わが教会の監督の前に捧げられたる後，……折々持たざる者に施すために貯え置き，かくてすべて必要ある者は皆充分に給与せられてその足らざるに従いて受くる様にすべきなり。

この故に，すべての余りはこれをわが倉庫に貯え置きて，……貧しき人々および乏しき人々に給与し……」（教義と聖約42：30—34）

「またわが民を救わんがためにこれをなすなり。」（教義と聖約42：36）

予言者が「教会の律法」と定めたこの啓示の中で，主は協同制度の本質を明らかにしておられる。協同制度は，人々の間の不平等をなくすために設けられた主のプログラムである。そしてこの制度は，この地と地に満ちるすべてのものは主のものであり，私たちは主に責任を委ねられた管理人としてこの世の資産を所有するという概念を基としている。

「主なるわれは諸々の天を拡げ，…この地を築きたり。されば，その中にあるよろずのものはわがものなり。

あらゆるものはわがものなれば，わが聖徒らを扶養するはわが目的なり。

されどもその事たるや，必ずわが道に適いて行われざるべからず。」（教義と聖約104：14—16）

主の道にはふたつの基本原則がある。(1)奉献と，(2)管理の職である。

協同制度に加わるために，「破るべからざる誓約と証文」とをもって人は自分のすべての財産を教会に奉献した。すなわち，自己の全財産を教会に譲渡したのである。

そのように自己の財産を奉献した者は，一種の「貸与」証書をもって教会から管理の責任を与えられた。この管理を委託された資産は，「この民にその家族数と財政状態と乏しきと必要とに応じて，すべての人に平等にその配当を指定」（教義と聖約51：3）することを目的としているため，奉献した財産より多く受ける者も少なく受ける者もいる。

このようにして，すべての人に自己

の財産を所有し管理する権利が与えられた。実にこの制度の基本原則は資産の私有であった。

協同制度に参加した人々は絶対的な権利証書をもって各自の配当あるいは相続財産，すなわち管理を委託された資産を所有し，自由に譲渡，維持，売却，また交換することができた。教会はすべての資産を所有していたわけではない。予言者ジョセフ・スミスが言っているように，協同制度の下での生活は共同生活ではなかったからである。

協同制度の目的は，自己と家族の生計を各自の資産で賄うことにあった。協同制度にあっては，家族の欠乏と必要を満たした余剰分は，教会に奉献した。そしてこの余剰分は倉庫に納め，貧しい人々に供給された。

これらの神聖な原則は非常に簡潔であり，容易に理解できる。しかしこの理想を実現するためには，順序正しく踏み行なわなければならない概念が幾つかある。その主な概念として，次のものがあげられる。

1. 神を信じる信仰を持ち，主をこの世の主，協同制度の創始者として受け入れる。私たちはそのようにして，義と霊の成長を求めるのである。主は次のように述べておられる。「汝らもし，この世の物に於て平等ならざれば天の物を受くるに於ても平等なること能わざるなり。

汝らもし，日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば，わが命じて汝らに求むるところを行いてその備えを為さざるべからず。

また汝らが来りて汝らのために備えられたる冠を得て，多くの王国の統治者とせられんためなり。」（教義と聖約78：6—7，15）

2. 協同制度は人の自由意志によって実施され，神の教会にすべての財産を奉献することによってその意志を示す。そこにはいかなる強制もない。

3. 財産に関しては，教義と聖約で定められている次の教会の信条に添っていなければならない。「政府は各個人に対し良心の自由なる行使，財産の所有権とその管理，および生命の保護などを保証する如き法律を制定し，且つこれを犯さざることなく保持するにあらざれば，如何なる政府も平和に存立するを得ず。」（教義と聖約134：2）協同制度は財産の私有と個人の管理の原則に基づいて実施される。従って，財産を私有し，それを管理する協同制度では，神から与えられた自由意志が保たれた。こうして神は，協同制度に参加する人々に各自のなせる業と生産を報告する責任を課しておられるのである。主はこう言われた。

「そは，わが生くる者の為に造りて備えたるこの世の幸福を掌どる者として，すべての人をしてその責に任ぜしむるは主なるわれ必要とするところなればなり。」（教義と聖約104：13）

このことから，次のクラーク副管長の言葉が真理であることがわかる。

「協同制度は，共産主義的な社会体制ではなく教会および貧しい人々を援助するために必要以上の余剰分を奉献するという完全かつきわめて個人主義的なものであった。」（J・ルーベン・クラーク・ジュニア *"The United Order and Law of Consecration As Set Out in the Revelations of the Lord"*「主の啓示で定められた協同制度と奉献の律法」パンフレット，pp.26—27）

4. 協同制度は政治組織ではない。

5. 協同制度には義人が必要である。

6. 協同制度は貧しい人々を高め，富める人々を謙遜にする。協同制度にあって，両者は共に聖められる。貧しい人々は貧窮と屈辱の鎖から解かれ，自由の民として物質的にも霊的にも十分に高められる。一方，富める人々は，不承不承でなく，快くその余剰分を貧しい人々のために捧げることにより，モルモンが同胞に説いた「キリストの純粋な愛」（モロナイ7：47）を示すのである。このようにして，人々は「神の子らとなる」（モロナイ7：48）資格を得るのである。

私たちはこれらの概念を心に留めるなら，現行の福祉活動と協同制度および主がその実現を心に描いておられるシオンの理想の姿との関係を十分理解することができる。この制度が与えられた当時，人々は協同制度に従って生活する準備がまだ完全にできていなかったため，主は協同制度を廃止し，こう言われた。

「彼らはわが彼らに要求したるところにおとなしく従うことを覚らずしてあらゆる悪に満ち，彼らの中の貧しくして苦しめる者たちに聖徒たるにふさわしく物資を頒たず。

日の栄の王国の律法の要求する和合一致に従いて一致協力せず。

およそ日の栄の王国の律法の諸原則によらずんば，シオンを建てること能わず。これによりて建てずば，シオンをわれに受け入るることかなわざるなり。」（教義と聖約105：3—5）

主はさらに次のように言われた。

「わが長老たちは暫しの間シオンの贖いを猶豫することわがために必要なり。

そはわが民をして備えをなし，更に完き教えを受け，経験を持ち，その義務とわが彼らに求むることを更に完く覚らしめんがためなり。」（教義と聖約105：9—10）

この啓示によると，協同制度はシオンが贖われた後に完全に行なわれることになる（教義と聖約105：34参照）。従って，私たちがさらに完全な教えを受け，経験を重ねている間は，什分の一，断食献金，福祉計画，倉庫，およびその他の原則や活動など，現在教会で要求されているものの範囲内で，協同制度の原則に厳密に従った生活をしなければならないのである。私たちはこれらのプログラムを通して，協同制度の基本に従った生活をすべきである。

例えば，什分の一の律法は奉献の律法と管理の職を実施するという偉大な機会を私たちに与えている。什分の一の律法は協同制度が廃止された4年後に制定され，主は人々に「その剰余の財産をことごとく……監督の手に納め」るよう求められた。その後，人々は「毎年彼らの得る全利益の什分の一を納め」るよう命じられた（教義と聖約119：1，4）。現在の什分の一の律法は，管理の職に関しては協同制度の原則を最低の段階で実施しているにすぎない。つまり，自己とその家族の必要を満たすための財産を私有し管理する権利を人々に託しているのである。クラーク副管

長の言葉を再び引用しよう。

「協同制度の下に蓄財された剰余の代りに，今日私たちには断食献金，福祉資金，什分の一があり，それらはみな貧しい人々の世話や教会の活動および事業を行なうために使用される。

私たちは，かつて協同制度の下に監督の倉庫を持ち，倉庫には貧しい人々の必要と欠乏を満たすために集めた物資が保管されていた。現在，監督の倉庫は福祉計画の下に同じ目的で利用されている。

現在私たちは，貧しい人々のために準備されたプログラムを……福祉計画の下で教会全体にわたって行なっている。

このように，私たちは福祉計画を，協同制度の広範な基本に倣って実施しているのである。」(*Conference Report*「大会報告」1942年10月，pp. 57—58)

私たちが什分の一および断食の原則を正しく守り，福祉計画を十分に発展させ実施する時は，明らかに「協同制度の偉大なる基本原則を正に実行しようとしている」のである。(同，p. 57)ただひとつの限界があるとすれば，それは，各自の心の中にある。

以上の事柄に加えて，次の3つの点について祈りたい。

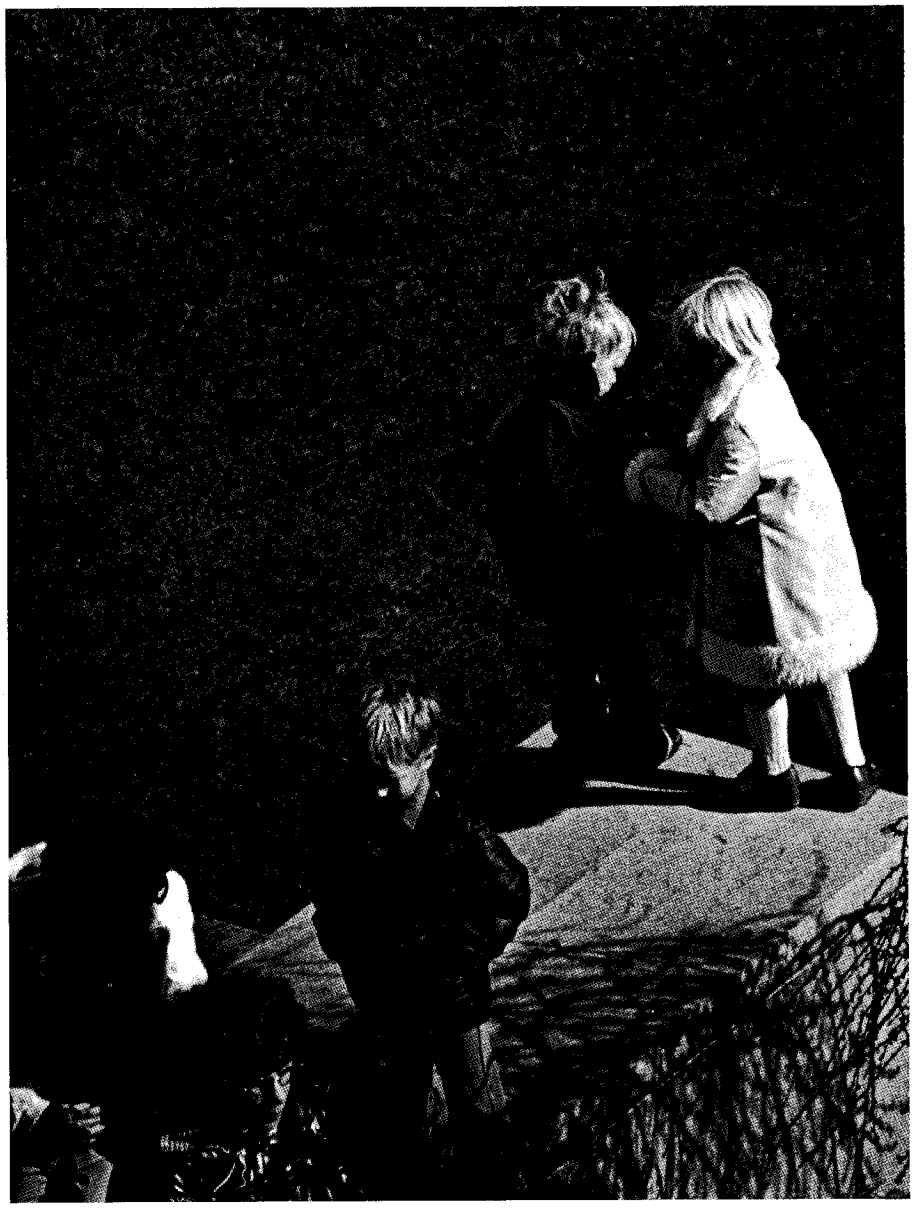
1. 主が，主と交わした奉献の誓約について私たちの理解を深めて下さるように。キンボール大管長は私たちに必要なものと望みを剰余と比較して検討するように勧めている。

「人々は永遠の幸福を願って，多くのお金，株，債券，有価証券，土地，クレジットカード，家具，自動車，その他この世の安易な生活を保証するもので身を固めるためにほとんどの時間を費やしている。私たちの務めは，与れられた豊富な資源を家族や定員会で用いて神の王国を築くことであるという事実を，見落としているのである。すなわち，伝道，系図，神殿活動を推し進め，子供を立派な主の僕に育て上げ，祝福をあらゆる方法で他の人々に分け与えることが務めなのである。しかしながら，私たちは自分の欲望のままにその祝福を誤用，モロナイの言うように，『生命のない物を自分の身に飾りながら，飢えている者，貧しい者，はだかでいる者，病んでいる者，また悩んでいる者たちがあなたたちの前を通り過ぎて行くとき憐まない』(モルモン8：39)のである。

主はこの末日に次のように言われた。『彼らは主の義を打建てんために主を求めずして，あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども，その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついにバビロンにて，すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。』(教義と聖約1：16)」(「聖徒の道」1977年8月号，p. 351)

2. この大会の説教を研究し，福祉計画，特に主の倉庫の設置をみたまの導きによって実施するように。

3. 什分の一，断食および福祉プログラムの原則を忠実に守り，シオンを贖うために自らを備えるように。最後まで協同制度に従った生活をすることが，私の祈りである。私たちの主イエス・キリストのみ名により，アーメン。



教会ニュース

七十人第一定員会会員

G・ホーマー・ダラム

1935年6月，バーミンガム南部のキダミンスターでＭＩＡ大会が開催された。英国諸島のすべての聖徒が，一堂に会するのはこれが初めてであった。この大会には，イングランドやスコットランド，ウェールズ，北アイルランドから大勢の聖徒が集まった。この大会の計画には何ヵ月もの期間を要した。しかも最初の企画から最終日のしめくくりまで，すべてを担当したのが，当時英国伝道部YMMIA会長であった宣教師のG・ホーマー・ダラム長老だった。

ダラム長老は伝道部中を巡って，この大会に対する聖徒の意欲を駆り立てた。その他の宣教師はキダミンスター市の家々を一軒一軒訪れた。それは求道者を捜すためではなく，大会に訪れる人の宿をお願いするためであった。3日間にわたる大会は，成功の内に幕を閉じた。それは特に，英国の聖徒たちが一堂に会し，互いに強め会う初めての機会だったからであろう。

当時は不況で，一晩の宿泊費が7シリング6ペンスもした。しかし，大会に出席し，「美しきシオンを築き」という讃美歌を歌った時には，7シリング6ペンスもそれほど高いと感じなかった。ダラム長老はその時のことを涙ながらにこう回想する。「聖徒たちがあれほど集まったのは初めてのことだったと思います。建物を震わすほどの合唱でした。あの素晴らしい経験でだれもが証を抱いたことでしょう。」

ダラム長老の伝道は，将来の生活を築く基となった。ヨーロッパ伝道部の部長であった使徒のジョセフ・F・メリル長老と旅をしていた時に，彼からこう言われた。「あなたは博士号を修得する必要がありますね。」

「でも，メリル長老，私にできるでしょうか。」

「問題はないでしょう」メリル長老はこう答えた。

実際，何の問題もなかった。ダラム長老は博士号を修得したばかりか，大

学で教え，管理面でも働き，(ユタ大学の副学部長として）その後アリゾナ州立大学の学長となった。1969年から76年の7年間は，ユタ高等教育機関の委員長および実行委員を務めた。

ダラム長老は1911年2月4日，ユタ州パロワンで生まれ，ソルトレーク・シティーで育った。父のジョージ・ヘンリー・ダラムは，マサチューセッツ州ボストンのニューイングランド音楽学校で5年間教鞭を執った後，ソルトレーク・シティーにやってきたのである。ダラム家は音楽一家である。G・ホーマー・ダラム長老は音楽の道に進まなかったが，大学院時代はトランペット，また後にはダンスバンドのピアノ演奏をして，生計を立てたほどである。音楽教育を受けたことは，伝道中にも大いに役に立った。

伝道は，ダラム長老の教会での活動や教育面でのすぐれた業績の先駆けとなっただけではない。それはまた，長老が生涯で最も重大なことと考えていることのスタートにもなったのである。というのは，ダラム長老は，伝道を通じて，当時ヨーロッパ伝道部を管理していた十二使徒評議員会のジョン・A・ウィッツォー長老の末娘リア・ユードラ・ウィッツォー姉妹と出会ったからである。ふたりは，ウィッツォー長老がユタに帰ってからも文通を続け，ダラム長老の伝道が終わると間もなく結婚した。彼らはふたりの娘と息子ひとりに，そして現在18人の孫に恵まれている。

ダラム長老は，20年以上に及ぶ「インプルーブメント・エラ」誌への寄稿，またジョン・テイラー，ウィルフォード・ウッドラフ，デビッド・O・マッケイ各大管長の書き物や説教のすぐれた編集によって，教会員に広く知られている。ダラム長老は，エミグレーション，マリコパ，テンペ，ボンネビル各ステーキ部の高等評議員，ソルトレークセントラルステーキ部のステーキ部長，日曜学校中央管理会会員，十二使徒会地区代表を歴任している。

教育に半生を捧げてきたダラム長老は，末日聖徒の若人に次のような励ましを与えている。「できる限りの教育を受け，そこから学びなさい。世の中は『プロの学生』を必要としているのではなく，プロの働き手を求めているのである。しかもどの学生にも，学園を去り，働かなければならない時がいずれ来る。

教育が個人に大きな力をもたらすことは疑う余地がない。同時に教育は社会にも計り知れない恵みをもたらしている。私たちは，世の中と教会のことをひたむきに考え，働くことのできるよく訓練された人を求めている。そのために十分な教育が必要かどうかは，個人の望みと，その人が進もうとしている方向によって決まる。この教会の誇ることのひとつは，教育の振興である。」

七十人第一定員会会員

ジェームズ・M・パラモア

「本当の喜びは福音に完全に従った生活をするところにあります」と，ジェームズ・M・パラモア長老は言う。そして大好きな聖句を引用した。「人は努めて善き業に従い，多くの事をその自由意志によりて為し，多くの正しき事を為し遂げよ。そは人自らの中に自由の意志ありて……」(教義と聖約58：27—28)

「私は街頭で人々が，福音に完全に従っていると言える宣教師を振り返って見る光景を目にしたことがあります。宣教師自身もそれを自覚していたことでしょう。キンボール大管長は福音に完全に従ったことによって，数多くの生命に関わる業を行なってきました。」

そして，パラモア長老は福音を実践する喜びについて次のように証している。「どのような召しでもそれを遂行するためには，福音に完全に従うことが必要とされます。それはみたまの賜であり，備えをなし，愛を示すならだれにでも与えられる賜であると，私は思います。」伝道をして以来50以上の召しを受けてきたパラモア長老は次のように語っている。「私はこう感じています。それぞれの召しは義しく，大切なもので，それを全力を尽くして行なうなら，常に平安と真の喜びがもたらされ，人格も霊性も高められます。大学を卒業してからも，教会は私にとって最も素晴らしい教育の場です。」

パラモア長老は，監督を解任され，ホームティーチャーに召されたときのことを語っている。担当家族の中に父親が会員でない家族があった。その父親がバプテスマを受けた時のことをこう回想している。「監督であることと同じように，大きな喜びでした。主が私たちに理解させようとしておられるのは，どのような職にあるかではなく，どのようにそれを行なうか，ということなんですね。」

パラモア長老は広範囲にわたって責任を果たしてきたが，その中にあって常に家族を支えてきた。1928年5月6日生れの彼が監督会に召された時，一番上の子供はわずか1歳半だった。そんなわけで子供たちは教会の社会奉仕活動を「人生の道しるべ」として成長してきたと言える。パラモア長老は，プロボサンセット第二ワード部とオレム第14ワード部で副監督として，また1959—63年にかけてはオレム第14ワード部の監督として働いた。その後，ブリガム・ヤング大学第3ステーキ部の高等評議員として働いた。また，フランス・ベルギー伝道部の部長に召されるまで，教会中央伝道委員会の会員としてその責任を果たした。夫人のヘレ

ン・ヘスリントン・パラモア姉妹は，伝道部に到着して6週間後に第6子のポールを出産した。パラモア長老はこう語っている。「姉妹は6人の子供の世話に追われていました。それでも子供たちと一緒に毎週大会に出席してくれました。言葉がわからないのに，姉妹は補助組織の監督をしたり，また依頼を受けた時に補助組織の司会ができるようにとフランス語を勉強したりしました。そして人々によい励みを与えてくれました。」

子供たちも宣教師を手伝って，印刷や事務，庭の手入れをしたという。パラモア一家はよく家族そろって歌を楽しんだ。特にパラモア長老と3歳の娘リサとのデュエットは，心温かいものを感じさせた。

伝道部長解任後は，オレム第29ワード部の執事定員会で教えた。その後，1972年に十二使徒会地区代表に召されるまで，ユタ州オレム・シャロン西ステーキ部のステーキ部長として働いた。そして七十人第一定員会会員に召されるまで，ユタ州ロイ地域担当の十二使徒会地区代表としてその責任を果たした。

パラモア長老はU.S.スチール社の技術部で8年近く働き，その後セミナリー教師，ユタ子供・青少年委員会の役員，伝道管理部，内務伝達部，十二使徒評議員会事務局，教会指導者訓練役員会において様々な仕事に携わってきた。「これら教会の責任のひとつひとつが祝福であり，人生における備えとなっています。私を訓練してくれた人，助けてくれた人に感謝しています。」パラモア長老はこう語っている。

また，この度の新しい召しは「あまりに大きくて」自分たち家族は圧倒されそうである，と語っている。パラモア姉妹は，夫がこの召しを受ける数週間前，それについての予感がしたが，「まさかと思って心に留めなかった」という。パラモア長老も以前同じような経験をしている。十二使徒評議員会の幹部書記に召される2週間前のこと，パラモア長老は，キンボール大管長の傍らに腰掛けている夢を見た。あまりに強烈であったため，目が覚めてしまった。しかし気にもとめなかった。するとその夜また同じ夢を見たのである。こうして，その夢は現実となった。「私は自分などとても向いていないと感じていました。現に十分な技術も備えていませんでしたので。ですからそのことを事前に知らせていただいたことを本当に感謝しています。」これまでの7年間，教会幹部の兄弟たちと毎週会うことによって，全力を尽くして仕えようという気持ちが強められたという。これこそ福音に完全に従うことである。

七十人第一定員会会員

リチャード・G・スコット

「私は先輩の兄弟たちに対する感謝の気持ちで一杯です。」新しく七十人第一定員会会員に召されたリチャード・G・スコット長老はこう語った。「私は先輩の兄弟たちを心から尊敬しています。これからもそうでしょう。彼らと一緒に働けることは光栄の至りです。」

スコット長老は，1928年11月7日，アイダホ州ポカテロで生まれた。七十

人第一定員会会員に召されるまで，コロンビア，メリーランド，バージニア地方のキャピトル，ポトマック，リッチモンド地域担当の十二使徒会地区代表として働いた。この地域は，彼が40年間にわたって「故郷」と呼んでいる所である。スコット長老とジニーン・ワトキンス・スコット夫人（米上院議員故アーサー・V・ワトキンスの娘）との間には5人の子供がいる。メアリー・リー22歳，ケネス14歳，リンダ13歳，ミッチェル9歳，マイケル6歳。現在スペインで伝道中のメアリー・リーは父親の新しい召しの知らせをすぐに聞くことはできなかったが，ワシントンD.C.にいる他の5人の子供は，支持の直後，電話でこの知らせを受けた。リンダはこの知らせを耳にするや，飛び上がって喜んだという。

スコット長老は，1950年にジョージ・ワシントン大学の機械工学科を卒業し，すぐにウルグアイで31ヵ月伝道に従事した。スコット長老は次のように語っている。「教授や友人たちは私に伝道に行かないように，伝道に出ることは技師として進む上で大きな障害になると忠告するのでした。しかし，伝道を終えると間もなく，私は海軍核プログラムの一員に選ばれました（この分野は最高機密で，テネシー州オークリッジにおいて，科学分野の先駆者が与える初めての最高の訓練であった。）私が派遣され指導にあたった会には，私に伝道を思い止まらせようとした教授がいましたが，彼はそのプログラムでは私よりもはるか下の方で働いていたのです。私が主のことをまず行なったことで，主が私を祝福して下さっていることを強く感じ，証を強めることができました。」

スコット長老は，12年間海軍核プログラムと港湾原子炉のために核燃料の考案，実験，生産を指導してきた。そして原子力を一般の企業でも幅広く用いることに成功した。

しかし，スコット長老の生活では，教会の仕事を常に第一としている。「私がもっと若い頃」と，スコット長老は話し始めた。「主とひそかにある約束を交わしました。主のみ業のために最善を尽くすという約束です。私は毎年その約束を果たしてきましたが，自分の全時間を主のために捧げられるという祝福が与えられるなどとは夢にも思いませんでした。これは言葉では言い表わすことのできないこの上ない祝福です。」

スコット長老はこれまで，七十人定員会会員，ワシントンD.C.ステーキ部書記，同ステーキ部長会会員を歴任している。また，1965—69年の4年間はコルドバに本部を置くアルゼンチン北伝道部の部長として働いた。その時のある経験は今でもスコット長老の目を輝かせる。

「伝道部長時代の素晴らしい経験のひとつですが，少年少女が立派な男性女性へと成長する様子を目のあたりにすることができました。彼らは無私の奉仕を通して，主から力をいただき，その力によって，隠された能力を開発し，才能を高め，自信を強めているのです。また，宣教師一人一人や会員の皆さんと深い友情の絆を結べるということも大きな祝福です。

このような経験に家族全員が感謝していることを，スコット長老はほほえみながらこう語った。「ある宣教師と最後の面接をした時，私は彼が伝道を通して一段と成長したことを話しました。すると彼は『伝道部長と知り合いになれたからです』と言ってくれました。」

隣人にとってよき宣教師であるスコット一家は，ワシントン神殿の献堂に先立って，非教会員や友人，隣人を週に2，3度自分の家に招き，「神殿集会」を開いた。この集会の後，その中の1組の夫婦は監督を訪れ，家庭集会を申し出た。それから5週間後に彼らはバプテスマを受けた。最近では，スコット姉妹がワシントンD.C.訪問者センターに案内したふたりの隣人が教会に加わった。

「私たちは主を愛しています。また主に対する証を世の人々に伝える神聖な特権があることを感謝しています。私たちの将来のために主の王国の建設に参加できることを感謝しています。」

初等協会中央管理会第二副会長

ドロシア・ロウ・クリスチャンセン・マードック

「私は指導者に従います」と，ドロシア・ロウ・クリスチャンセン・マードック姉妹は言う。4月2日，マードック姉妹は，初等協会中央管理会第二副会長として教会員の支持を受けた。

会長のナオミ・M・シャムウェイ姉妹はマードック姉妹を木曜日の中央管理会の集会から呼び出した。マードック姉妹は話に熱中していたため，事務所ではなく，エレベーターの方に向かっていることに全く気づかなかった。そして，キンボール大管長の事務所のある階で止まった時，初めて自分がどこにいるのかに気づいたと言う。その時シャムウェイ姉妹から，「キンボール大管長があなたと少しお話したいそうです」と言われた。

マードック姉妹は次のように語っている。「シャムウェイ姉妹は握手をすると，『ではまた後ほど』と言って行ってしまいました。目の前が明かるくなったような気がしました。キンボール大管長は事務所から出て来られると，力強い握手をしてくださいました。大管長が最初に言った言葉も私に大きな力を与えてくれました。それは私の両親のことでした。両親が物事を扱う時の穏やかで静かな方法また力強さと謙遜さが頭に浮かんできました。」（彼女の親は，故エレルイ・L・クリスチャンセンとレウェラ・リーズ・クリスチャンセンである）「大管長の部屋を出る時，私は主の助けがあったことを感じました。そして，キンボール大管長とシャムウェイ姉妹の信頼を裏切ることはできないと思いました。」

初等協会会長会。ナオミ・マックスフィールド・シャムウェイ会長（中央），コーリン・ブッシュマン・レモン第一副会長（左），ドロシア・ルー・クリスチャンセン・マードック第二副会長（右）

マードック姉妹は教会のあらゆる組織における教師や役員の責任を通して得た経験を，この召しに生かしている。ステーキ部扶助協会会長であったマードック姉妹は1967年に初等協会中央管理会会員に召されて以来，10年間に渡って，3，4，5歳向けのテキストの作成に携わってきた。また地区集会委員会として3，4年働き，明るい少女および開拓者のテキスト計画委員会の委員長を務めた。

初等教育課程を専攻したマードック姉妹は，1966年に図解の本「*Teach Me*（教えてほしいの）」を著わし，両親や教師の役に立つレッスンや詩，話を書いている。

マードック姉妹が目指しているもうひとつのことは，結婚と家庭カウンセリングである。初等協会会長会と家族の助けによって，彼女は再び学校に通い，1975年6月にカウンセリングの課程を終了し，ファイ・カパ・ファイ（学業優秀者で組織する会）の会員となる名誉を得，ユタ大学大学院の社会学から奨学金も受けた。マードック姉妹はＬＤＳ病院でカウンセラーとして働き始め，助産婦や婦人科の患者と共に，病院内のカウンセリングプログラムを作成した。そのプログラムは退院後も，患者が母親としての責任をよく果たせるよう助ける仕組みになっている。また外来患者の精神病治療などのために，個人的なカウンセリングや，結婚，家庭カウンセリングも行なっている。

夫のロバート・グレン・マードック兄弟と5人の子供たちは，姉妹のこの新しい召しに感激し，できる限り援助したいと語っている。

「私は初等協会が大好きです」とマードック姉妹は喜びの声を上げる。「本当に好きなんです。両親が子供に福音を教えるのを助ける，これほど素晴らしい召しがあるでしょうか。」

この説教は，1977年２月27日，ペルーのリマでマッコンキー長老が述べたものですが，スペンサー・W・キンボール大管長の要望により本大会特集号に掲載します。
なお，地域によっては９月号と重復するところがあります。御了承下さい。

イスラエルよ，シオンを築こう

十二使徒評議員会会員
ブルース・R・マッコンキー

私たちは，ひとつの基本的な回復の教義に関連して変化と調整の時代のただ中にいる。

ジョセフ・スミスの時代，教会員はイスラエルの集合とシオンの建設に関してひとつの事柄を行なうように指示された。そして今日，私たちは昔とは全く異なった事柄を行なうように勧告されている。

私たちは，時の絶頂における弟子たちと似ている。イエスは弟子たちに初め，イスラエルの家の失われた羊にだけ福音を宣べ伝えるように命じられた。弟子たちは，異邦人に救いのメッセージを携え行くことを禁じられたのである。その後，主はこの指示を180度転換し，全世界に出て行って，ユダヤ人にも異邦人にも，すべての人に福音を宣べ伝えるように命じられたのであった。

新約聖書の記事が示しているように，初期の聖徒たち――ペテロ，パウロ，ヤコブ，十二使徒，その他の指導者も含めて――が主の新しい命令を完全に理解するまでに，およそ４分の１世紀を要した。選ばれたイスラエルの民以外の人々も福音の祝福にあずかる権利があり，異邦人も同じように救いを望むことができるというのが，新たに授けられた命令である。

これと同じようなことが今日の教会にも見られる。1836年４月３日，カートランド神殿においてモーセがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現われて以来，すなわちその神の予言者によって，イスラエル人の集合と北の国より十支族を導き来る鍵が彼らに授けられて以来，私たちは自らの才能と資産と力を，神がその昔愛しておられた民の残りの者を回復するために用いてきたのである。

私たちの働きはかなりの成果を収めている。私たちは諸々の山の頂に主の聖なる家を建ててきた。そしてすべての国民は主の家に流れてきている。とく走る使者は，イスラエルの失われた羊を捜して国から国を駆け巡り，「主の山に登り，ヤコブの神の家へ行こう」と招いている。彼らが主の道を教わり，その道を歩んで，「律法はシオンから出，主の言葉はエルサレムから出る」大いなる日に備えることができるようにするためである（イザヤ2：3参照）。エフライムの家の多くは集合している。他の支族もやがて祝福を受けるために来て，「シオンに於てエフライムの子孫なる主の僕らの手により栄の冠を受け」（教義と聖約133：32）るであろう。

さて，再びイスラエルの羊の群れの中に集められた私たちが，主の民に関する永遠のドラマの中で与えられた役割を果たすことになっているとすれば，私たちは過去，現在，そして未来のイスラエルの集合に関する事柄を知っておく必要がある。同じような立場にあった新約聖書の時代の聖徒たちのように，４分の１世紀も悩み通して決意する必要はないが，シオンの建設のために私たちはどのような役割を果たすべきであろうか。

この末の日におけるイスラエルの集合とシオンの確立は，３段階に分けられる。第一段階はすでに終わり，私たちは今第２段階にいる。そして第３段階が行く手に待っている。これら３つの段階についてはすべて予言されている。もし神のみ言葉を正しく理解しなければ，パウロが言っているように，私たちは混乱に陥り，はっきりとした確信が持てなくなるであろう。一方，果たすべき役割を正しく心に描き，今日なすべきことを知るならば，私たちは王国を建設し，人々を人の子の再臨に備えさせるために，時間と才能と資産を最大限に活用することができるであろう。

イスラエルの集合とシオンの確立というこの大いなる末日のみ業は，次の３段階に分けられる。

第１段階―最初の示現，1830年４月６日の王国の設立，および1836年４月３日のモーセの現われから合衆国とカナダに教会が確立されるまでの約125年間。

第２段階―1950年代に始まった海外におけるステーキ部の設立から人の子の再臨まで。期間は不明。

第３段階―主の再臨から王国が完全に確立され，水が海を覆うように神の知識が地を覆うまで。またその後福千年が終わるまでの千年間。

私たちは回復の時代に住んでいる。ペテロはこの時代を，「更新の時」と述べている。過去にあったものがすべてもとの完全な状態に回復されて栄えを

受ける時代という意味である。そしてペテロは，「神が聖なる預言者たちの口をとおして，昔から預言しておられた万物」（使徒3：21）が回復されるはずであると言っている。ヤコブの家が末の日に集合することと，彼らがシオンの建設に果たす役割以上に，イスラエルの予言者たちが非常な熱意をもって予言してきたことはない。

多くのものはすでに回復された。しかし，まだ回復されていないものも多い。イスラエルの集合はすでに一部行なわれている。けれども，多くの点でイスラエルの集合の最も重要な部分は将来に残されている。また，シオンの基は据えられたが，約束の聖なる市はまだ建てられていない。私たちは，これまでこの神権時代に成し終えるように定められた幾つかの事柄を果たしてきた。そして今も，私たちの時代のために取っておかれた事柄を遂行している。しかし多くの事柄は将来，私たちの子供や孫，現在私たちが据えている基の上に建てる人々によって成し遂げられるだろう。

では現在，合衆国とカナダ以外の地に住む教会員はなぜアメリカ大陸のシオンに集合せず，自国に止まるように勧告されているのだろうか。私はその理由を彼らに説くため，上に述べた原則に照らして，ペルー・リマ地域大会で次のように述べた。

私たちは，この南米の教会で行なわれている非常に素晴らしいみ業を言葉ではとうてい言い尽くせないほどに感謝している。十二使徒会地区代表，ステーキ部長，監督，ならびにステーキ部，ワード部で責任を持って働いておられる方々に，心からの賛辞を呈したい。私たちは，ここに大いなる発展と成長の基礎が据えられたと感じている。南米諸国に教会が多大の影響を及ぼす日を，今から予見している。シオンのステーキ部がこの地に組織されたことは大きな喜びである。私たちは，これらのステーキ部が数，質ともに発展することを願っている。

私は今日，末日におけるイスラエルの集合とシオンの建設についてお話するつもりである。御存知のように，主は戒めを破って主を捨て去ったイスラエルを，地上の万国の中に散らされた。そして現在，主はそのイスラエルの失われた羊を呼び集め，彼らに末日のシオンを建設する責任を負わせておられる。

この末日におけるイスラエルの集合とシオンの建設は，今まさに進行中である。この大事業の序幕は，合衆国への集合と北米におけるシオンのステーキ部の建設によって，すでに完遂された。そして今，私たちは世界各国におけるイスラエルの集合と，地の果てにシオンのステーキ部を確立する仕事に従事している。これが，現在南米諸国で進められているみ業であり，私がこれからお話しようと思っていることである。

今から3千年の昔，主はひとりの予言者の口を通して私たちにひとつの教えを伝えられた。この古えの聖人は，聖霊に促されるままにこう語った。「きたるべき代のために，この事を書きしるしましょう。そうすれば新しく造られる民は，主をほめたたえるでしょう。」（詩篇102：18）

私たちはその民である。再び啓示を受けている民，神から新たに完全な福音を授けられた民，そのため，私たちは主の聖なるみ名をとこしえにほめたたえる。

私たちに伝えられた言葉は，主が「立ってシオンをあわれまれるでしょう。これはシオンを恵まれる時であり，定まった時が来たからです」，「主はシオンを築き，その栄えをもって現れ」（詩篇102：13—16）という知らせである。ここで，みたまの力に導かれるならば——これは私の切なる願いであるが——私は主がシオンを建設されるさまを，主がシオンをあわれまれるさまを，また私たちがシオン建設において期待されている役割をお話したいと思う。

霊感によって記された記録から明らかなように，シオンは築かれる。主が栄光をもって現われる時に，シオンは完成され，栄光はシオンのものとなる。その時，シオンはかつての姿を取り戻す。万物の回復が完了する福千年の間，その状態が続く。シオンはキリストの再臨後に完全な姿となる。

しかし一方で——現在がそうだが—主は私たちに来たるべきことの基礎を据える責任を課しておられる。私たちには，人の子の再臨に対して民に備えをさせる責任が与えられている。私たちはすべての国民，血族，国語の民，人々に福音を宣べ伝えるように召されている。栄光のうちに座して聖なる市（まち）を再び治める御方の再臨に備えて，シオンの基礎を置き，すべてのことを準備するように命じられている。私たちは，「シオンに来たれよ，喜びに入れ」（讃美歌103番）とあらゆる民に呼びかけるのである。

ではシオンとは何か。どこに築かれるのか。なぜシオンの壁を建てるのか。どこにシオンの門と堅固な塔を置くのか。シオンの門に住むのはだれか。シオンの住民にはどんな恵みが注がれるのか。

聖書はこう語っている。「主はヤコブのすべてのすまいにまさって，シオンのもろもろの門を愛される。神の都よ，あなたについて，もろもろの光栄ある事が語られる。……しかしシオンについては『この者も，かの者もその中に生れた』と言われる。いと高き者みずからシオンを堅く立てられるからである。」（詩篇87：2—3，5）

シオンは民の間に幾度も築かれてきた。アダムの時代から現在まで，主が御自身の民を持たれた時，また主のみ声を聞き，主の戒めを守る民がある時，そして聖徒たちが真心から主に仕えた時に，必ずシオンは存在した。

聖典のシオンに関する最初の記述は，エノクとその市についてである。卓越した信仰と力とを持つこの予言者は，父祖アダムがまだこの世に生きていた時代の人である。その時代は悪事と罪悪の世，反逆と邪悪の世，戦いと荒廃の世，水による地球の清めに向かいつつある時代であった。

しかし，エノクは忠実であった。彼は「主を見」，人が人と語るように主と「顔と顔を」相合わせて語った。主は彼を世に遣わして悔い改めを叫ばせ，「父と恩恵と真理に充てる子と，父と子を証する聖霊の御名によりて，バプ

テスマを施せよ」と命じられた。エノクは誓約し，真理に従う信者たちを集めたが，その民はみな信仰篤く，「主来たりてその民と共に住みたまいたれば，彼ら正義の中に住み」，上からの恵みを豊かに受けた。「主，その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし，精神を一にし，義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」（モーセ7：18）

心に銘記していただきたい。シオンとは民のことである。シオンは神の聖徒たちである。シオンはバプテスマを受けた人々，聖霊を受けた人々，戒めを守る人々のことであり，義人たちのことである。言い換えれば，啓示が告げるように，「これこそシオン，すなわち『心の清き者』なればなり。」（教義と聖約97：21）

主が主の民をシオンと呼ばれてから，聖典には，エノクが「一つの市を建て，それを聖なる市すなわちシオンと呼べり」，また，「神これをとり挙げて，自らの懐に受入れたまいしが故なり。これよりして『シオン逃げたり』と言う言葉世に出できたれり」（モーセ7：19，21，69）と記されている。

主の民が移され，天に取り上げられたのは，レンガやモルタルの家ではなく，石の壁でもなく，民であった。それは，地上の建物よりもずっと立派な住まいが天に用意してあったからである。また，これらの義しい聖徒たちが幕のかなたに去った後にも，改宗して正義を願った人々が，神によって造られ基礎の置かれたその市をあこがれ，「天の力により据えられてシオンに」（モーセ7：27）入った。

天に取り上げられたそのシオンは，主が再びシオンを伴って来られる福千年の時代にこの世に戻ってくるであろう。そしてシオンの民はやがて建てられる新エルサレムに合流するであろう。（モーセ7：62—63参照）

シオンに関するこれらの真理の多くが古代のイスラエルで知られ，教えられていたことは，イザヤ書や詩篇その他数々の記録から明らかである。イザヤは特に，回復の時代に築かれるシオンのステーキ部について述べた。

よく知られている通り，古代イスラエルの民は，主を捨てて偽りの神々を拝んだため，万国の民の間に散らされた。またこれも知られている通り，イスラエルの集合とは，真理を受け入れ，贖い主を再び正しく知り，良い羊飼いのまことの群れに戻ることである。モルモン経の言葉によれば，それは「神の真の教会と羊の群に再び帰（かえ）され」，「集められ」，方々の「約束の地に住む」ことである。（IIニーファイ9：2参照）また「かれらがその贖い主を知るようになる時には，再びその受け嗣ぎの地へ集められる」（IIニーファイ6：11）ことである。

イスラエルの集合によって，ふたつのことが成就される。ひとつは，そうしてキリストを自分の羊飼いとして選んだ人，バプテスマの水の中でキリストのみ名を受けた人，この世ではみたまを享受し，来たるべき世では永遠の生命を受け継ぎたいと願う人，そのような人々は，互いに強め合い，完全を目ざして助け合うために，集合する必要があるということである。

そしてふたつには，永遠に最高の報いを求める人々は，自分のためにも，また機会さえあれば真心から受け入れていたはずでありながら福音を知らないまま死んで行ったイスラエルの先祖たちのためにも，主の家の祝福を受けられる場所にいる必要があるということである。

この神権時代の初期においては，このことが北米の山の頂きにある主の家の山への集合を意味したことは明らかである。そこだけが，互いに強め合うことのできる，大勢の聖徒たちが集まった場所であったからである。そこにだけ，昇栄を受けるに必要な完全な儀式を行なう至高者の神殿があったからである。

しかしながら，すべてのことを知っておられる御方，イスラエルを散らし，今再びその愛する民を集めておられる御方の摂理によって，キリストの羊の群れが地の果てにまで広がる時代が今や来ている。教会はまだすべての国に建てられてはいないが，人の子の再臨までに，必ずやあらゆる国に教会が建てられるであろう。

モルモン経が告げる通り，末の時代には「神の聖徒ら」が「全世界」に広く住み，全世界の上に散らされている「小羊の教会の聖徒ら」と「主の誓約を受けて……世界の各所にちりぢりとなった民」が「義と大きな栄光にかがやく神の能力とを以て武装」するであろう。（Iニーファイ14：12，14参照）

私たちは新しい時代にいる。末日聖徒イエス・キリスト教会は急速に世界の教会となりつつある。聖徒たちの群れは今も，あるいは近い将来にも，どこに住もうと教会員を支え助けるだけの力を備えるのである。必要な場所に神殿が建てられている。時が来ると南米にも数多くの神殿が建てられるのを，私たちは今予見することができる。

シオンのステーキ部も地の果てにまで組織されつつある。これに関連して，次の真理を考えてみようではないか。シオンのステーキ部はシオンの一部である。シオンの一部を作らずに，シオンのステーキ部を作ることはできない。シオンは「心の清い者」である。私たちはバプテスマと従順とによって清い心を得る。ステーキ部は地理的な範囲を持つ。ステーキ部の設立は聖都の建設に似ている。地上のステーキ部はどれもみな，その地域に住むイスラエルの失われた羊たちの集合場所である。

ペルー人の集合の地は，ペルーのシオンのステーキ部，もしくは将来ステーキ部となる場所である。チリ人の集合の地はチリ，ボリビア人の集合の地はボリビア，韓国人の集合の地は韓国，東西南北，全世界を通じて集合の地はそのような場所である。各国に散らされたイスラエルはキリストの羊の群れに，各国に建てられるシオンのステーキ部に呼び集められている。

イザヤは，「後になれば，ヤコブは根をはり，イスラエルは芽を出して花咲き，その実を全世界に満たす」と予言している。そして主の約束はこうである。「イスラエルの人々よ……あなたがたは，ひとりびとり集められる。」（イザヤ27：6，12）

すなわち，イスラエルは一人一人，一家族一家族，地上の全地に築かれる

シオンのステーキ部に集められ，やがて全地が福音の実によって祝福されるのである。

そのため，教会の指導者たちはこう勧告する。シオンを築きなさい。神があなたを置かれたその国に，シオンを建てなさい。あなたをその市民とし，家族と友を与えられた，その地にシオンを築きなさい。シオンは南米のこの地にある。この地のシオンに住む聖徒たちは，これらの諸国に良い影響を及ぼすのである。

神は，み業の発展を促す政策を進める国を祝福されるであろう。

主のみ業のひとつに，末日のシオンの建設がある。主はその業を私たちに託された。シオンの基は，北米，南米，欧州，アジア，南太平洋その他，シオンのステーキ部のある各地にすでに据えられている。しかしシオンは，これらのどの地域においてもまだ完全ではない。シオンが完全になるのは，それが古えのシオンと合流する時である。その時，主は来られてその民と共に住まれるであろう。

教会の信仰箇条第10条には，「われらは，イスラエル人は，文字通りに四方より集合」することを信ず，とある。この集合は，イスラエルの失われた羊が教会に加わることで実現している。バプテスマの水によって洗われ，再び心の清い者となる力を得ることでこの集合が実現している。シオンとは「心の清い者」である。

信仰箇条にはまた，「われらは，……その十支族の元に立ちかえることを信ず」とある。これは将来のことである。主が約束に従ってシオンを再び建てられる時に，これが実現するであろう。

信仰箇条には，「シオン（新エルサレム）はこの（アメリカ）大陸に」建てられると言われている。これも将来のことである。主の民が，散らされた世界各国で力と影響力と能力を得てから起こることである。

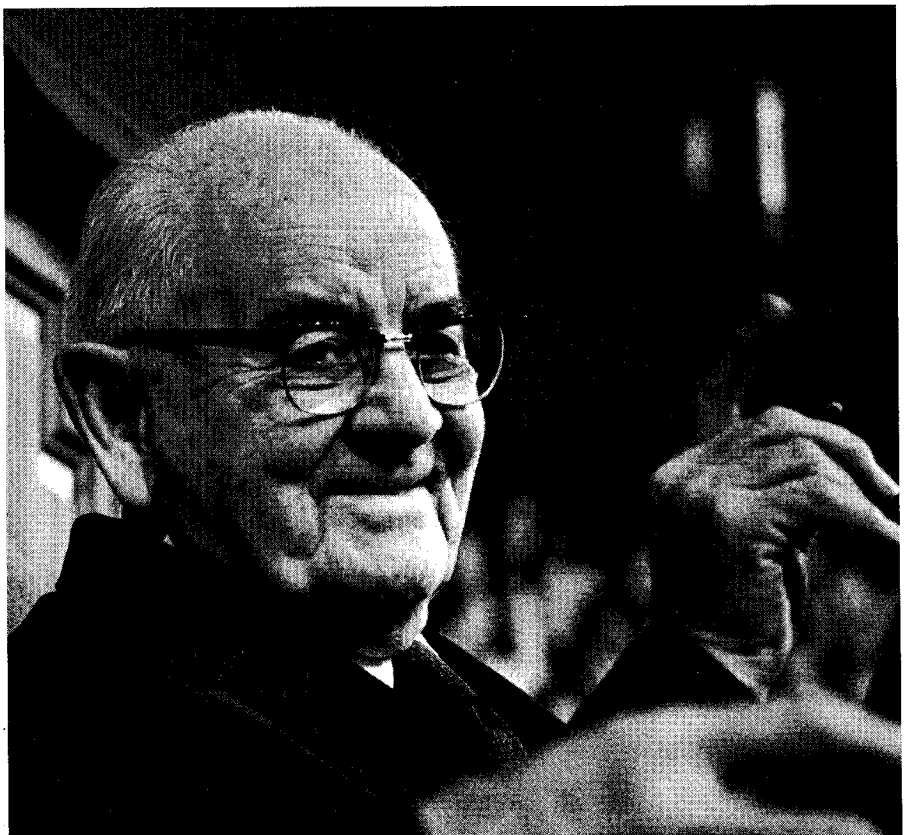
教会の信仰箇条には，「キリストは御自ら地上に王となりて治めたまい，地球は元にあらたまりて楽園の栄えを受くることを信ず」とある。これもまた将来の，私たちが心から願い待ちわびているその日の出来事である。（信仰箇条第10条参照）

私たちはだれでも，心の清い者になることによって，自分の生活にシオンを築くことができる。「心の清い人たちは，さいわいである，彼らは神を見るであろう」（マタイ5：8）という約束がある。そして，友人や隣人をイスラエルの羊の群れに集めることによってシオンの境界を広げることができるのである。

今話していることはみな，主の偉大な計画の一部である。主は初めから終わりまでを知っておられる。現在行なわれている事業は主が定められたものである。主は選民を地上の万国に散らされた。そして今，この私たちの時代に主は恵みによって諸天を開き，み前から聖なる天使たちを遣わし，天から自らの声で語り，聖霊を注ぎ，そのようにして，主は再び完全な永遠の福音を回復されたのである。主は私たちを闇からキリストの驚くべき光へと引き出し，新たにシオンを建てよと命じ，世に打ち勝てと命じ，私たちにすべての悪しきことを捨てよと命じられた。主は私たちを主の代表者，主の代理人となし，出て行ってイスラエルの失われた羊を捜し出す務めを与えられた。私たちがその羊をまことの教会に集めて神の聖徒とすることを，主は願っておられる。

これは実に重大な業である。これに匹敵する事業は世にひとつとしてない。主イエス・キリストの福音は，天においても地においても最も大いなるものである。私たちは現在受けている天からの栄えある真理を喜びとしている。私たちは慈悲と恵みの主をほめたたえる。私たちは，これらのことが真実であり，神にその源を置いていてることを知っている。

私は心に告げる聖霊の啓示によって，私たちが携わっているこの業が真実なものであることを知っている。主のみ手がその中にある。私たちの働きはやがて成功を収める。水が海を覆うように，神の知識が地を覆う日は来るのである。私たちはこの世で最も祝福された幸せな民である。神は私たちに知恵を授け，情熱と献身を恵み，私たちが福音に従って自分の命を救い，これらの栄えある救いの原則を神のほかの子らにも伝えるべく，主の用向きにいそしむ熱意と能力を恵まれた。これこそ，主のみ業であり，真実である。このことを，主イエス・キリストのみ名によって証申し上げる。アーメン。



新伝道部長紹介

日本仙台伝道部部長

リチャード・デゥー・ソング・クワック

リチャード・デゥー・ソング・クワック部長は，ネイ・ホング・クワックとスーン・ドック・サー・クワックを両親として，ハワイ，ホノルルに生まれ，今年55歳である。クワック部長は1941年4月5日にホノルルでバプテスマを受けた改宗者である。ミルドレッド・サチコ・キシモトと1957年8月5日にハワイ神殿で結婚し，現在4人の子供がいる。クワック伝道部長はブリガム・ヤング大学で学士号，修士号の課程を修め，現在ハワイで高校の教師をしている。これまで，日曜学校副会長，七十人定員会会長，副監督，大祭司グループリーダー，高等評議員，地方部長として責任を果たしてきた。

クワック姉妹は，セイユ・キシモトとチズコ・チナ・キシモトの娘としてハワイ，ヒロに生まれた。これまでの主な責任に，日曜学校書記補助，扶助協会家庭訪問教師，初等協会教師，初等協会副会長，そして初等協会会長がある。

日本神戸伝道部部長

ロバート・トーマス・スタウト

ロバート・トーマス・スタウト部長はウェンデル・フランクリン・スタウトとデール・トーマス・スタウトを両親として，アイダホ州ポカテロに生まれ，今年40歳である。ケイ・ロレイン・シェイファと1959年11月13日にハワイ神殿で結婚し，現在5人の子供がいる。スタウト伝道部長は，ブリガム・ヤング大学で学士号，修士号を得，さらにノースウエスト大学，ロイエル大学で博士号を修得した。これまで，セミナリー・インスティテュート地域指導主事であった。

スタウト伝道部長は，支部長，副監督，神殿職員，大祭司グループリーダーを歴任し，アイダホ州ワードアレーンステーキ部の高等評議員を務めていた。

スタウト姉妹は，S・グレン・シェイファとフェーン・ボイヤー・シェイファの娘としてアイダホ州ヘーガマンに生まれた。これまでステーキ宣教師，子供日曜学校主任，扶助協会副会長，地方部初等協会会長，ならびに初等協会とYWMIAの会長を務めてきた。

伝道部で働けることは素晴らしい特権

日本仙台伝道部部長
リチャード・D・S・クワック

愛する兄弟姉妹の皆さん，選ばれた民の住むこの美しい日本の地に再び戻ってくることができたことを心から感謝しています。初めて日本に来たのは1950年で，宣教師として3年間働きました。今回は，妻や4人の子供たちと共に，日本仙台伝道部の信仰深い，才能に恵まれた兄弟姉妹と交わることができますので，この特別な祝福に感謝しています。

6月29日に来日して以来，聖徒や宣教師の温かい愛と献身的な態度を目にしてきました。この伝道部で働けることは，素晴らしい特権です。

前伝道部長である，ウォルター・S・照屋伝道部長は，この地で偉大な業を成し，伝道部の堅固な土台を据えられました。そのことは，照屋伝道部長と助け手であるジョイス・照屋姉妹に対する会員や宣教師の尊敬と深い愛からも十分うかがわれます。照屋兄弟姉妹は古くから存じ上げていますが，おふたりの人生はまさに教会のために捧げられていると言っても過言ではありません。特に，ハワイでおふたりと知り合えたことは，私たちへの祝福でした。

『まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば，これらのものは，すべて添えて与えられるであろう。』このチャレンジは，文字通り真実です。私がまだ高校生の時でした。真実の教会はどれなのか知りたいと思いました。そして，救世軍，エホバの証人，ペンテコステ派，ローマカトリックなどの教えに興味を持ち，学校ではプロテスタントの宗教のクラスに出席しました。けれども，私の疑問に答えるものはひとつとしてなく，どれも納得できませんでした。

そんなある日，私は，陽気で明るいひとりのモルモンの青年からジョセフ・スミスについての話を聞きました。私の胸は高鳴りました。これこそ，長い間私が求めてきたものであると思いました。その後間もなく，私はその青年を通して宣教師に会い，教会の門をくぐったのです。それ以来，この教会は私の人生となりました。

教会を知ってから，私は，1941年4月5日にホノルルの日本伝道部でバプテスマを受けました。(この伝道部はもともと日本にあったが，日米両国の国交不安によりハワイへ移された。) その後，1950年にブリガム・ヤング大学を卒業し，続いて日本で宣教師として働くことになりました。このことは私にとって当たり前のように感じられました。

この教会は，今や世界の教会です。福音は急速に人々の間へと伝わっています。ジョセフ・スミスが予言したように，『……神の真理は大胆かつ気高く，悠然と出で立ち，あらゆる大陸を貫き，あらゆる地方に至り，あらゆる国に広まり，あらゆる者の耳に達し』ているのです。(「教会歴史」4：540)

神様は生きていらっしゃいます。イエスはキリストであり，世の救い主です。福音は回復され，スペンサー・W・キンボールは実に，今日神によって選ばれた予言者であります。すべてイエス・キリストのみ名によりて，謙遜に証申し上げます。アーメン。

「日本はアジアにおける教会の要である」

日本神戸伝道部部長
ロバート・トーマス・スタウト

愛する兄弟姉妹の皆さん，私たちは恵まれて，再び日本で奉仕する召しを受けました。時代はさかのぼりますが，日本の土を踏んだ最初のモルモンは，ホウズィア・スタウト長老で，1852年のことです。彼は中国へ向かう途中，横浜に寄港したのでした。彼は日本と，麗しい日本人に非常な感銘を受けました。日本人が特に義理と人情に篤いことをすぐさま感じ取りました。スタウト長老はブリガム・ヤングから，中国へ行くよう召しを与えられていたので，日本にはほんの数日間しか滞在できませんでした。スタウト長老とチャップマン・ダンカン長老，ジェームズ・ルイス長老の一行は数日後に横浜を出発しました。その後，1901年にヒーバー・J・グラント長老が公式の召しを受けて訪れるまで，日本に来たモルモンはいません。

1902年に十二使徒評議員会のチャールズ・W・ペンローズ長老は次のように語っています。

「私は，日本伝道部の開設が東洋への福音の伝道の要(かなめ)になると，心から信じている。福音の影響力は日本から他の東洋諸国に及ぶことだろう。氷は砕けた。道から障害が取り除かれ，他の東洋諸国に福音が広まることだろう。」(「大会報告」1902年4月6日)

ホウズィア・スタウト長老も全く同じ思いを抱いていました。

私はかつてポール・C・アンドラス伝道部長の下で北部極東伝道部の宣教師として働く特権にあずかりました。当時の有益な思い出をいつまでも天父に感謝し続けることでしょう。宣教師の時代，私は日本，韓国，沖縄でそれぞれ任期の3分の1ずつを過ごしました。その時に私は「日本はアジアにおける教会の要である」というペンローズ長老の言葉を実感することができ，心から感謝しています。

1972年に私たち家族は，日本でセミナリー・インスティテュートの仕事をする責任を受けました。また，近隣の国々をも助ける機会を得，「日本はアジアにおける教会の要である」という言葉が現実となっているのを目の当たりにして，非常な感動を覚えたものです。1975年8月に，予言者から，日本の地に神殿を建てるという発表がありましたが，このことはアジアの聖徒たちにとっては至極当然のことでした。

妻のケイと子供たち，ウェンディー・ケイ，リチャード，ティモシー，シンジー，ハイジはこの3年間，ハイジの生まれたこの日本の地へいつか帰りたいと願ってきました。

今年の3月24日に私たちは大管長会から電話をいただき，日本神戸伝道部への召しを受けました。このことは非常な光栄でしたが，同時に私たちは謙遜な思いに駆られました。

私たちはいつも，日本の報道を心待ちにすると共に，この地における教会の発展を非常に喜んでいます。神戸の伝道部長として，これから3年間，愛する日本の兄弟姉妹たちに心から充分に献身したいと考えています。

私たち夫婦には，北海道から沖縄まで日本の各地に大勢の親しい友だちがいます。ですから私たちは，この国を故郷のようにさえ感じています。私たちは神が生きていらっしゃることを知っています。私たちは救い主である神の御子を愛しています。主の生ける予言者スペンサー・W・キンボール大管長から召しを受けたことは，私たちにとって大きな喜びです。

主のみ業を全力を尽くして行なえるように祈っています。またスタウト家の者たちは，曾祖父の父にあたるホウズィア・スタウトの時代から125年後の今日に至るまで，いつも「日本はアジアにおける教会の要である」という言葉を心に留めてきました。イエス・キリストのみ名によって，アーメン。

(スタウト家の子供たち)
ウェンディー・ケイ16歳　リチャード14歳
ティモシー9歳　シンジー6歳　ハイジ3歳

8月30日午後7時30分より，東京第4ワード部にて，最近まで米国航空宇宙局長官をつとめられたジェームス・C・フレッチャー兄弟を迎え，ファイア・サイドが開かれました。宇宙事業の第一線で活躍してこられたフレッチャー兄弟のお話と証詞の一部を要約し，紹介します。なおご長男はフレッチャー長老として日本で伝道されたことがあります。

(前)米国航空宇宙局長官フレッチャー博士に宇宙プログラムについて聞く

過去20年間，宇宙プログラムで働く機会を得，幸福でした。ロケット打上げの仕事をしていたところ，1957年10月第一号衛星のスプートニックが打上げられ，以後，私も米国の宇宙計画に参加することになりました。1958年6月に，「宇宙エレクトロニクス社」を設立しました。

月に向けて打上げられた初期の宇宙衛星の中には，私の会社の機材も積込まれました。

1964年，十二使徒のリチャード・L・エバンズ長老から，ユタ大学の学長になるよう要請され，以来7年間，ソルト・レーク市で過ごしました。その間多くの教会幹部と交流させていただき大きな祝福でした。

1971年，米国大統領からワシントンに来て，米国航空宇宙局の長官になるよう要請されました。リチャード・L・エバンズ長老のご意見も伺い，その任を受けました。それ以来，宇宙プログラムの長として，興奮に満ちた人生を送ってきました。教会指導者の方々も，宇宙プログラムに，さらに関心をお寄せになったと思います。

1971年以来のアポロ15号，16号，17号，スカイラブ，アポロ・ソユーズなど，ほとんどすべての宇宙飛行士たちは，大管長会と会見しています。ソユーズのソ連飛行士レオノフ，クバソフ両氏も，ソルト・レーク市で，キンボール大管長と会談し，楽しいひとときを過ごしています。帰国後の手紙にも，「ソルト・レーク市での経験は，とても印象深いものだった」と書いています。

私の生活には，宇宙活動と教会活動が，お互いに関連しながら進んで行きました。ソ連，ユーゴスラビア，ドイツ，フランス，インド，日本などの宇宙関係者は，「モルモン」についてご存知と思います。乾杯の時，私がアルコール類を飲まないのを知っておられると思います。

天のお父様が，私にこのような経験をさせて下さったことに感謝しています。どのひとつをとって見ても，私が最も適任者だと思ったことはありません。もっとふさわしい方が担当された方が良いと感じています。会社社長，大学の学長，3代の大統領に仕えるなどの経験をしてきましたが，そこで私が感じたことは，世の中で高い地位にいると言われる人々と，それ以外の人々の間に，そんなに大きなちがいはないと言うことです。みんな長所も弱点も持っています。私が得たことは，どんな方々でも愛することができるようになったことと，どなたにでもモルモン教会の黄金の質問「もっとモルモンについてお知りになりたいですか」をすることができることです。

☆宇宙プログラムの意義は3つあると思います。

1. 宇宙探索

地球をとりまく天体の状態，地球との関係などを系統的，定期的に観察して調べます。そのためには，地球のまわりに宇宙観測船を打上げたり，ロケットを惑星のまわりに飛ばせたり，着陸させて調査します。

2. 衛星の有効利用

通信衛星，気象衛星，測地衛星を打上げて，私たちの生活環境を観察し，改善します。

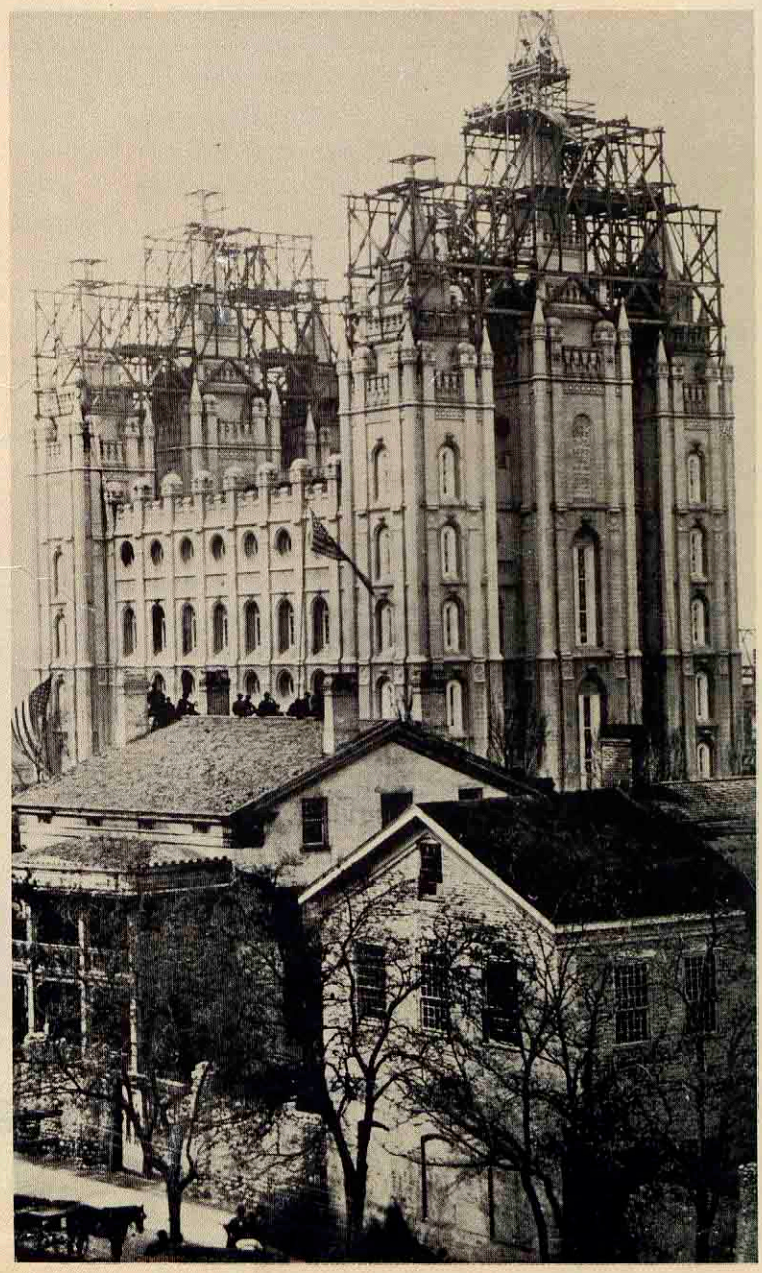
3. 技術革新

開発された技術を，宇宙以外の用途に活用することです。

☆宇宙飛行士の一人はモルモンですが，みなさん敬虔な方です。彼らが宇宙に行くと，とても霊的なものを感じるようです。

宇宙から地球を眺めると，神様がどのようにして地球を創造されたかを思い出し，厳粛なものを感じるようです。その気持を言葉で表現することは難しいと飛行士たちは言っています。

今晩このような機会にあずかり天父に深く感謝します。小さい頃から，神様への証詞を持っていました。主の祝福に感謝します。

聖 徒 の 道

1977年10月20日発行（毎月1回20日発行）　第21巻第10号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可